平成 31（2019）年度

中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年 間 報 告 書

2020 年 3 月

環境省 中部地方環境事務所

中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

平成 31（2019）年度　中部環境パートナーシップオフィス運営業務　年間報告書

目　次

業務概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1　業務実施計画の作成及び公表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

(1) 2019 年度の業務実施計画の作成 ･･････････････････････････････････ 7
(2) 運営会議での協議 ･･ 17
(3) ホームページへの掲載 ･･ 17

2　運営会議の設置・開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

(1) EPO 中部運営会議 ･･ 19
(2) 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議 ････････････････････････ 21

3　基本業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務 ･･････････････････････････････ 25
(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務 ････････････････････････ 32
(3) 施設の維持・管理 ･･ 43

4　協働取組の促進のための業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

(1) 協働コーディネーター育成事業の発展的展開 ････････････････････････ 51
(2) 地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化 ･･････ 69

5　中部地方 ESD 活動支援センター運営業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

(1) ESD 活動を支援するための情報共有等 ･･････････････････････････････ 77
(2) ESD 活動の支援等 ･･ 95
(3) ESD 活動のネットワーク形成に係る業務 ････････････････････････････ 95
(4) 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等 ･･････････････ 103

6　「同時解決事業」における地域支援事務局業務 ・・・・・・・・・・・・・・ 109

(1) 採択団体及び中部地方環境事務所との連携 ･･････････････････････････ 109
(2) 採択団体の伴走支援 ･･ 110
(3) 環境省及び全国支援事務局との連携 ････････････････････････････････ 112
(4) 加速化事業採択案件に対する照会等対応 ････････････････････････････ 117

7　EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理 ・・・・・・・・ 119

(1) EPO 中部関連の過去報告書の整理 ･･････････････････････････････････ 119
(2) アーカイブとしての活用・公開に向けて ････････････････････････････ 120

8　環境基本計画に沿った環境教育支援業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121

(1) 実施概要 ･･ 121
(2) 多様な主体との連携 / ワークショップの実施 ････････････････････････ 122
(3) 事後の変化 ･･ 150
(4) EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析 ･････････････････ 154
(5) 参考資料 ･･ 161

9　関係主体との連携及び協働に関する業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 163

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換 ･･････････････････････ 163
(2) 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化 ････････････ 172

１０ 外部資金を活用した事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175

(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト ･･････････････････････････ 175
(2) 地球環境基金 ･･ 184
(3) 愛知県コーディネート業務 ･･････････････････････････････････････ 185

１１ 今後に向けて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 187

(1) 課題の整理 ･･ 187
(2) 今後の展開 ･･ 188

付．その他　（※地域のニーズに対応するため実施した事項等）

業務概要

（ア）業務の目的

持続可能な社会を構築するためには、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であり、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要である。「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（以下「環境教育等促進法」という。）」第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第７条で定める国の方針により、環境省では、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

また、「我が国における持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム実施計画（以下「ESD国内実施計画」という。）」では、ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域ESD活動推進拠点（以下「地域ESD拠点」という。）の形成並びに地域が必要とする取組支援及び情報・経験の共有を可能とするネットワーク機能の体制として ESD 活動支援センター（全国・地方）を整備することとされており、「ESD推進ネットワークの構築に向けて」（平成28年３月ESD活動支援企画運営準備委員会　文部科学省　環境省）において、地方ESD活動支援センターの運営には、EPOを活用することとされている。

本業務は、環境教育等促進法の規定する国の役割及び ESD 国内実施計画の規定する ESD 推進ネットワーク構築の役割を果たすため、全国のEPO・地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）及びESD活動支援センター（全国・地方）のネットワークを活用しつつ、中部地域の特性・事情を踏まえて各種事業を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動等を活性化させること、及びESDを一層推進させることを目的に実施した。

併せて、環境教育等促進法に定義する協働取組として本業務を実施することにより、協働取組のあり方を示すことを副次的な目的として実施した。

（イ）業務の内容

中部環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 中部」という。）には、主に①持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援、②持続可能な社会の構築に向けたESD・SDGsの推進、③地域における中間支援機能の強化、④環境教育等促進法の普及・促進、⑤情報の提供・相談対応等、の５つの役割が地域において期待されている。

EPO 中部の第5期事業（2018年4月から2021年3月まで）においては、「動機づけ」と「見える化」の視点を重視して、①協働コーディネーター育成事業の発展的展開、②地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化を図ることとしており、このために「中部地方の協働・ESD・SDGs（持続可能な開発目標）の活動支援に資するツールとシステムの構築」及び「活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策の確立」を達成目標とする。

今年度は第5期事業の2年目となったことから、上記役割を踏まえた目標達成に向けて、第5期としての達成目標及びその方針を明確にした上で、必要な業務を実施した。

（ウ）実施業務

（１）業務実施計画等の作成

①平成31年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成

②達成目標・役割分担の設定

③運営会議での協議、HPへの掲載

（２）運営会議の設置・開催

①EPO 中部運営会議（8 名）

・開催準備及び取りまとめ

・会議の開催・運営(2 回)

②中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議（6 名）

・開催準備及び取りまとめ

・会議の開催・運営(2 回)

（３）基本業務

①情報の収集・蓄積・発信に関する業務（ホームページの更新及び維持管理、メールマガジンの作成及び発行、リーフレットの作成及び配布、インターフェイスなどを活用した会議の検討）

②相談対応及び対話の体制の構築に関する業務（照会・相談対応、対話の体制の構築）

③施設の維持・管理

（４）協働取組の促進のための業務

①協働コーディネーター育成事業の発展的展開

・協働コーディネーターの PR ツールの活用

・活動見える化プログラムの構築に向けた検証（CS：計 3 事例以上）

・地域循環共生圏づくり研究会の開催（長野 1 回、東海 2 回）

②持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化

・活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用（SNS の活用を含めた情報発信の方法等の検討）

・中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催（北陸・長野で計 2 回）

・地域循環共生圏及び協働取組促進のためのグループワーキング（1 回、15 名、講師 1 名、中部地方環境事務所）

（５）中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

①ESD 活動を支援するための情報共有等

・PR ツールの修正・公開

・専門家を含めたワーキンググループの開催（2 回以上、専門家 3 名、EPO 中部）

・ESD のための SDGs チェックリストの活用ワークショップの開催（東海 3 回）

②ESD 活動の支援等（中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の開催：別途計上）

③ESD のネットワーク形成に関する業務

・全国センター主催会議等への出席及び資料提供

〇企画運営委員会(2 回、半日、東京)

〇ESD 活動支援センター全国・地方連絡会（3 回、半日、東京、1 名旅費支給）

〇ESD 推進ネットワーク全国フォーラム(1 回、1 日、東京)

・ESD 推進のダイアログ（対話の場）の開催（北陸又は長野・東海で 3 回、ゲスト 2 名）

・ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催（1 回、50 名、ゲスト 2 名、名古屋）

④全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等

・全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

・地域 ESD 拠点登録支援等

・地域 ESD 拠点のニーズの把握（2 事業者以上）

（６）SDGs をツールとした同時解決事業における地域支援事務局業務

①採択団体及び中部地方環境事務所との連携

・採択団体との連絡・調整

・採択団体との連絡会開催（3 回、長野県飯山市）

②採択団体の伴走支援

③環境省及び全国支援事務局との連携

・月次報告の提出、照会等対応

・会議等への出席

〇情報共有・成果取りまとめ会議(2 回、各半日、東京)

〇成果共有会（1 回、1 日、東京、1 名分旅費支給）

④加速化事業採択案件に対する照会等対応

（７）EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理

・第 4 期までの集積事例の整理

・PR ツール（ウェブサイト含む）の検討

（８）環境基本計画に沿った環境教育支援業務

①多様な主体との協働

②ワークショップの実施

〇ワークショップの実施（2 回、富山県内、講師 1 名）

〇事後調査の実施

（９）関係主体との連携及び協働に関する業務

①中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

・定期的な打合せ（月 1 回以上）

・日々の業務報告の提出

・中部地方環境事務所が開催する会議（外部評価委員会を含む）への出席、資料作成等（1 回以上）

・EPO 中部行事の記者発表資料の作成（ 1 件以上）

・地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築採択団体の支援等

〇採択団体へのヒアリング（5 団体）

〇情報収集（今後の地域循環共生圏構築に発展可能性を有する組織 3 事例以上）

〇会議への出席（東京都、1 回、1 名分旅費支給）

②全国の EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用・連携

・GEOC 主催の全国 EPO 連絡会議（東京 1 回、中国地方（広島）1 回）への参加

・この他に業務の進行管理や連絡調整のために開催される会合等への参加

(10) 年間業務報告書等の作成

①年間報告書

②四半期報告書

(11) 外部資金を活用した事業

（エ）業務の実施概要（2020 年 3 月 13 日時点）

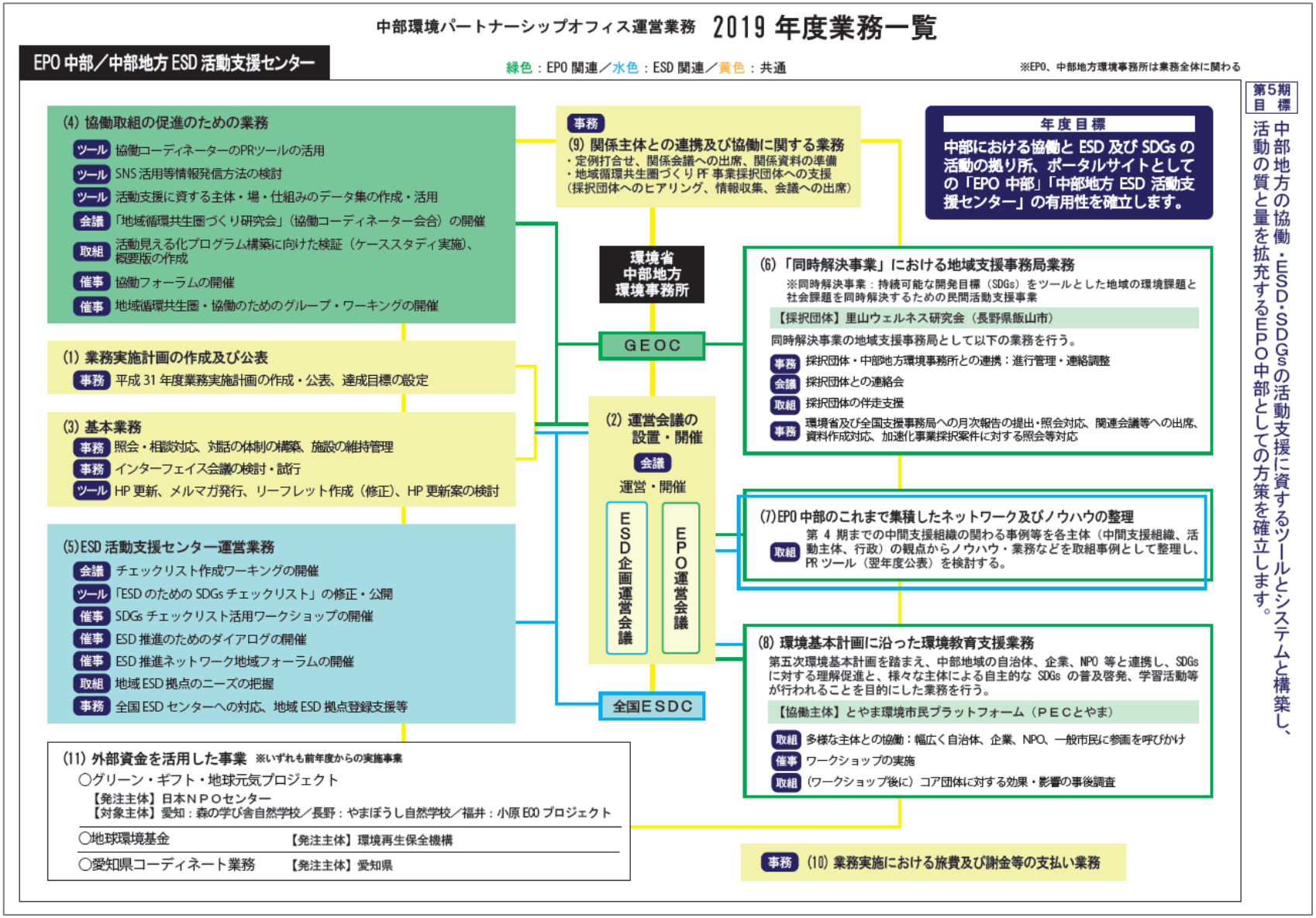
仕様書業務項目		業務内容		実施・開催等の進行状況		
1	業務実施計画作成	1-1	平成31年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成	作成→運営会議に諮問→ウェブに公開		
		1-2	達成目標・役割分担の設定	作成→運営会議に諮問→ウェブに公開		
		1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	第1回会議結果のHP掲載	第2回会議結果のHP掲載	
2	運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	第1回：6/19	第2回：3/6中止→メールで意見回収	
		2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	第1回：6/25	第2回：2/27	
3	基本業務	3-1	HP（EPO、ESD）の更新維持管理	適宜実施	アクセス数（ページビュー数）：EPO：810,836件／ESDC：11,521件	
		3-2	HPの更新案の検討	検討案を運営会議に諮問→具体の見積案確認		
		3-3	メールマガジンの作成・発行	適宜実施	毎月1回発行	
		3-4	リーフレットの作成・配布（印刷500部）	H30残部：400部→開館時間の修正→200部増刷→300部増刷		
		3-5	インターフェイス会議の検討	必要条件・機材等を調査→機材の準備→試行打合せ12/13実施		
		3-6	照会・相談対応	適宜実施	相談対応件数：計44件／電話・メールでの相談・照会236件	
		3-7	対話の体制の構築	適宜実施	来館利用件数：計147件（来館者数：269人）	
		3-8	施設の維持・管理	適宜実施	事業実施日数：計244日	
4	協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターPRツールの活用	適宜実施		
		4-2	SNS活用等情報発信方法の検討	Facebookページを5月末に立ち上げ→以後、随時投稿		
		4-3	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	リスト化→最新データの確認→公開リストの完成→公開		
		4-4	地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】（※運営委員参画）	第1回：8/23	第2回：11/22-23	第3回：2/7
		4-5	活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ：北陸/長野・東海で3事例以上】	①小浜市	②飯山事例の改訂版	③南砺市
		4-6	活動見える化プログラムの概要版の作成	上記ケーススタディ3事例のチャート完成		
		4-7	中間支援機能との連携強化フォーラムの開催【北陸・長野で各1回（計2回）（※長野：協働実施）】	第1回：8/7金沢	第2回：11/23飯山	
		4-8	地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	1/31実施		
5	中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催（専門家3名程度）【2回】	第1回：7/17	第2回10/23	
		5-2	PRツール（SDGsチェックリスト）の修正・公開	WG用ツールを作成→公開	活用→改善→（確認）→公開	
		5-3	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催（※協働コーディネーター活用）【東海地域で計3回】	第1回：5/28日進	第2回：8/29うどん屋	第3回：12/14西濃
		5-4	ESD推進のためのダイアログ（対話の場）の開催【北陸/長野・東海で計3回以上】（※Uエコパーク等と協働）	第1回：6/13福井	第2回：8/8金沢	第3回：11/16飯田
		5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】（※学生参加促進企画）	11/4開催		
		5-6	地域ESD拠点のニーズの把握【2事業者以上】	①豊橋ユネスコ協会	②JIEL	③ネクストステップ研究会
			地域ESD拠点登録支援等	新たに7団体が登録		
		5-7	全国ESDセンター企画運営委員会【2回程度】	第1回：7/8	第2回：中止→メール応答で実施	
			ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会【3回程度】	第1回：5/16	第2回：10/17	第3回：1/15
			全国ESDフォーラム【1回】	12/20-21		
		5-8	全国ESDセンター等との連携（情報提供、アンケート実施支援など）	適宜実施		

仕様書業務項目		業務内容	実施・開催等の進行状況		
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携：進行管理・連絡調整	適宜実施		
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	第1回：4/24	第2回：7/4	第3回：11/1
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書（結果分析）等の作成支援	GEOCフォーマットに則り適宜実施		
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	GEOCフォーマットに則り適宜実施	※月次報告（採択団体）：毎月作成支援	
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議への出席【2回】と資料作成対応	第1回：6/21	第2回：11/19	
		成果共有会への出席【1回】と資料作成対応	2/23開催		
	6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	適宜実施（照会0件）		
7 集積ノウハウ等の整理		第4期までの集積事例の整理	報告書データをリストと照合整理	イベントのタグ付けワード抽出	
		PRツール（ウェブサイト含む）の検討	タグ付け表の完成		
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	適宜実施		
	8-2	ワークショップの実施【2回】	第1回：8/26	第2回：11/28	
	8-3	コア団体への事後調査	ワークショップ終了後～2月まで調査：13事例確認		
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	適宜実施	打合せ：毎月1回実施	
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	外部評価委員会：1/30		
	9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	①11/4ESDフォーラムのリリース資料作成（10/2投げ込み） ②11/23協働フォーラムのチラシをローカルメディアに送付		
	9-4-1	プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング	①七尾：11/12、②富山：11/13、③小布施：11/24、④尾鷲：11/28、⑤根羽：11/29に実施		
	9-4-2	地域循環共生圏事例の情報収集、ヒアリング【3事例以上】	①南砺市：8/26実施	②垂井町：1/21実施	③上市町：2/7実施
	9-4-3	プラットフォーム構築事業関連会議への出席【1回】	12/19開催・ヒアリング結果とりまとめ会合に出席		
	9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	連絡会①：6/25-27	連絡会②：1/16	
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務			適宜実施		
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	【イベント開催】愛知：①5/11、長野：①6/8・②9/28、福井：①7/13・②9/7		
	11-2	地球環境基金	【説明会開催】10/15	【審査委員】寺田氏推薦	
	11-3	愛知県コーディネート業務 ：相談業務15件、コーディネート業務10件	【相談業務】17件実施、【コーディネート業務】10件実施済み		

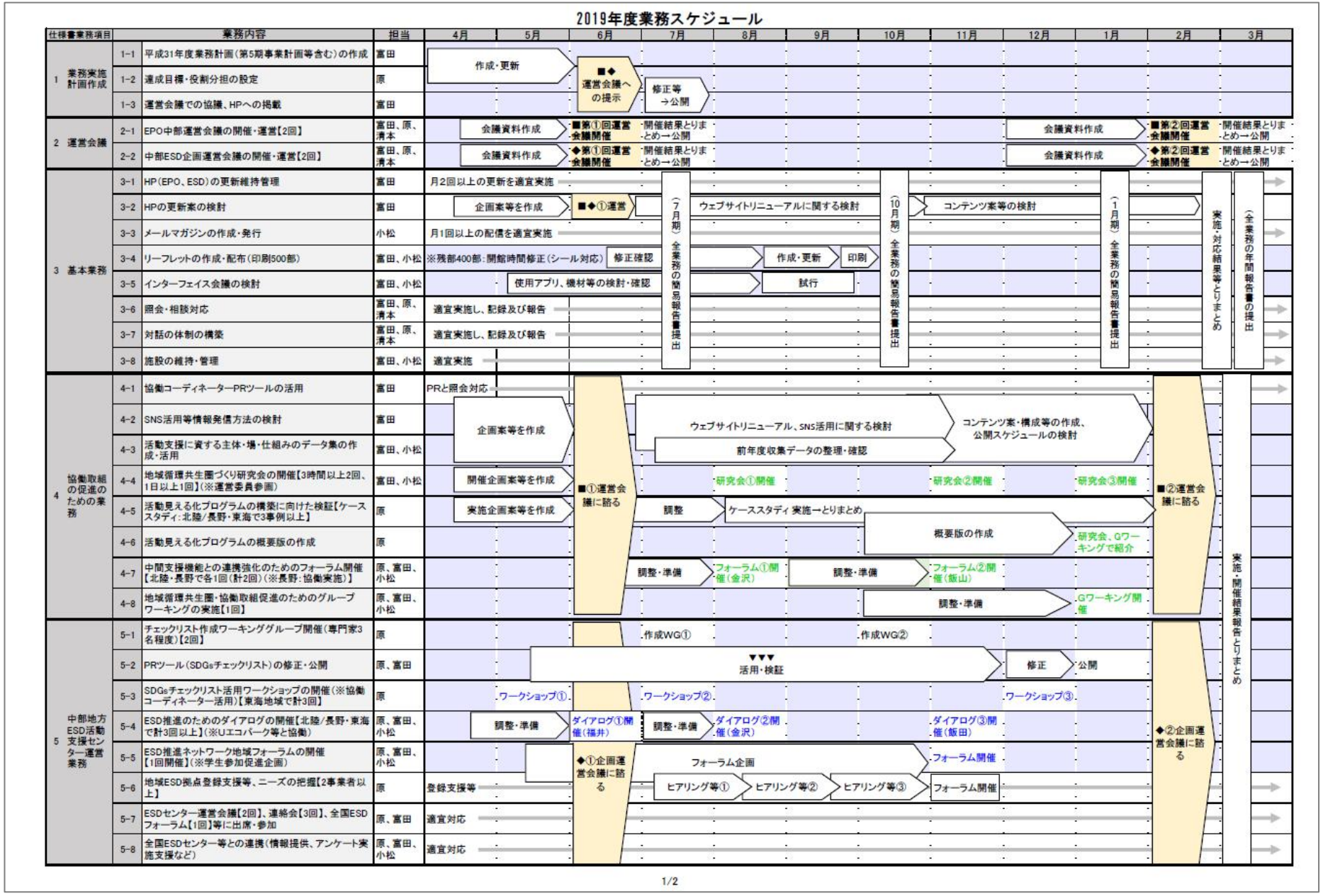
1 業務実施計画の作成及び公表

(1) 2019 年度の業務実施計画の作成

（ア）業務概要図



（イ）業務スケジュール


2019年度業務スケジュール
仕様書業務項目
業務内容
担当
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
1 業務実施計画作成
1-1 平成31年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成 富田
1-2 達成目標・役割分担の設定 原
1-3 運営会議での協議、HPへの掲載 富田
作成・更新
■◆運営会議への提示
修正等→公開
2 運営会議
2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【2回】 富田、原、清本
2-2 中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】 富田、原、清本
会議資料作成
■第①回運営会議開催
開催結果とりまとめ→公開
会議資料作成
◆第①回運営会議開催
開催結果とりまとめ→公開
会議資料作成
■第②回運営会議開催
開催結果とりまとめ→公開
会議資料作成
◆第②回運営会議開催
開催結果とりまとめ→公開
3 基本業務
3-1 HP（EPO、ESD）の更新維持管理 富田
3-2 HPの更新案の検討 富田
3-3 メールマガジンの作成・発行 小松
3-4 リーフレットの作成・配布（印刷500部） 富田、小松
3-5 インターフェイス会議の検討 富田、小松
3-6 照会・相談対応 富田、原、清本
3-7 対話の体制の構築 富田、原、清本
3-8 施設の維持・管理 富田、小松
月2回以上の更新を適宜実施
企画案等を作成
■◆①運営
ウェブサイトリニューアルに関する検討
コンテンツ案等の検討
月1回以上の配信を適宜実施
※残部400部：開館時間修正（シール対応）
修正確認
作成・更新
印刷
使用アプリ、機材等の検討・確認
試行
適宜実施し、記録及び報告
適宜実施し、記録及び報告
適宜実施
（7月期）全業務の簡易報告書提出
（10月期）全業務の簡易報告書提出
（1月期）全業務の簡易報告書提出
実施・対応結果等とりまとめ
（全業務の年間報告書の提出
4 協働取組の促進のための業務
4-1 協働コーディネーターPRツールの活用 富田
4-2 SNS活用等情報発信方法の検討 富田
4-3 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用 富田、小松
4-4 地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】（※運営委員参画） 富田、小松
4-5 活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ：北陸/長野・東海で3事例以上】 原
4-6 活動見える化プログラムの概要版の作成 原
4-7 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各1回（計2回）（※長野：協働実施）】 原、富田、小松
4-8 地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】 原、富田、小松
PRと照会対応
企画案等を作成
ウェブサイトリニューアル、SNS活用に関する検討
コンテンツ案・構成等の作成、公開スケジュールの検討
前年度収集データの整理・確認
開催企画案等を作成
研究会①開催
研究会②開催
研究会③開催
実施企画案等を作成
調整
ケーススタディ実施→とりまとめ
概要版の作成
研究会、Gワーキングで紹介
調整・準備
フォーラム①開催（金沢）
調整・準備
フォーラム②開催（飯山）
調整・準備
Gワーキング開催
■①運営会議に諮る
■②運営会議に諮る
実施・開催結果報告とりまとめ
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務
5-1 チェックリスト作成ワーキンググループ開催（専門家3名程度）【2回】 原
5-2 PRツール（SDGsチェックリスト）の修正・公開 原、富田
5-3 SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催（※協働コーディネーター活用）【東海地域で計3回】 原
5-4 ESD推進のためのダイアログの開催【北陸/長野・東海で計3回以上】（※Uエコパーク等と協働） 原、富田、小松
5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】（※学生参加促進企画） 原、富田、小松
5-6 地域ESD拠点登録支援等、ニーズの把握【2事業者以上】 原
5-7 ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加 原、富田
5-8 全国ESDセンター等との連携（情報提供、アンケート実施支援など） 原、富田、小松
作成WG①
作成WG②
▼▼▼
活用・検証
修正
公開
ワークショップ①
ワークショップ②
ワークショップ③
調整・準備
ダイアログ①開催（福井）
調整・準備
ダイアログ②開催（金沢）
ダイアログ③開催（飯田）
フォーラム企画
フォーラム開催
登録支援等
ヒアリング等①
ヒアリング等②
ヒアリング等③
フォーラム開催
適宜対応
適宜対応
◆①企画運営会議に諮る
◆②企画運営会議に諮る
1/2

2019年度業務スケジュール

仕様書業務項目		業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携：進行管理・連絡調整	富田	適宜実施											実施・開催結果報告とりまとめ
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	富田、原、清本	連絡会①			連絡会②				連絡会③				
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書（結果分析）等の作成支援	富田	適宜実施	EPO支援の提案		事業のアウトプット化に向けた支援		具体の企画検討		フォーラム②での事業PR	実施結果分析（見える化プログラム作成）		報告書作成支援	
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	富田	適宜実施											
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議【2回】、成果共有会【1回】への出席、資料作成対応	富田	適宜実施											
	6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	富田	適宜実施											
7 EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理			原、富田		実施企画案等を作成	■◆①運営会議に諮る	集積事例・データ等の整理・分析				4-2,4-3と併せてPRツール（次年度公表予定）の検討		次年度公表案の作成	■◆②運営会議に諮る	
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	清本、原	業務内容の確認	前年度の取組の確認、活用方法の検討										
	8-2	ワークショップの実施【2回】	清本、原		設定テーマ等について検討		調整等	WS①開催	調整等		WS②開催	実施結果とりまとめ			
	8-3	コア団体への事後調査	清本、原									事後調査の実施		調査結果とりまとめ	
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	清本、原、富田	適宜対応（原則月1回以上の打合せを実施）											
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	清本、原、富田	適宜対応											
	9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	富田	適宜対応											
	9-4-1	プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング	清本、富田								5団体へのヒアリング実施	ヒアリング結果とりまとめ			
	9-4-2	地域循環共生圏事例の情報収集、ヒアリング【3事例以上】	清本、富田					ヒアリングの実施①：南砺市					ヒアリングの実施②：垂井町	ヒアリングの実施③：上市町	
	9-4-3	プラットフォーム構築事業関連会議への出席【1回】	清本、富田									会議出席			
	9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	清本、富田	適宜対応											
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務			小松	適宜実施											
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	清本												
	11-2	地球環境基金：未定	清本												
	11-3	愛知県コーディネート業務：未定	清本、原												

（ウ）定量的な達成目標の設定

- 定量的な達成目標としてアウトプット評価一覧表を作成した。

仕様書業務項目	業務内容		アウトプット（*は暫定または予定）			アウトカム（*は暫定）		備考
			コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	アウトカム評価	評価判定	
1 業務実施計画作成	1-1	平成31年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成	計画作成			地域循環共生圏を意識した業務遂行計画として事業推進の基準が見える化された。	B	
	1-2	達成目標・役割分担の設定	目標・分担作成			それぞれの業務についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となった。	B	
	1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	計画のHP掲載			計画のWebページ掲載により透明性が確保された。	B	
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	*記録作成			運営委員より有用な意見をいただいた。 座長の協働ワークショップ参加、委員の業務への積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	*A	
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	*記録作成			運営委員より有用な意見をいただいた。 座長のフォーラム参加、SDGsチェックリスト作成、ダイアログ企画に参加いただくなど、業務に積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	*A	
3 基本業務	3-1	HP（EPO、ESD）の更新維持管理	*月2回以上更新	FB立ち上げ	月1万～4万件から月7万～10万件に増加	FB立ち上げによりPV数が増加したことでHPによるEPO、ESDCの認知の拡大と好感度の向上があったと考えられる。	*A	
	3-2	HPの更新案の検討	HP更新案作成			HP更新案について肯定的評価（予定）	*B	
	3-3	メールマガジンの作成・発行	月1回発行			順調に発行しており、否定的な意見は現れていない。	B	
	3-4	リーフレットの作成・配布（印刷500部）	*作成					
	3-5	インターフェイス会議の検討	試行実施、報告書作成		実施	課題として準備に手間がかかること、タイムラグを考慮する必要があること、など実用化に向けての知見を得た。	B	
	3-6	照会・相談対応	*記録簿作成		*32件（12月末現在。前年度同時期33件）	相談件数は前年度と同水準。そのうちSDGs普及啓発につながるなど展開効果の実例が複数あった。	*B	
	3-7	対話の体制の構築	*取材記録作成		*取材記録、記事16件	取材数と記事件数は増加し、連携協働体制ノウハウ蓄積が推進された。	*B	
	3-8	施設の維持・管理		*良好な空間を維持		職員が快適に作業できた。来訪者も快適に過ごせている。	*A	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターPRツールの活用						
	4-2	SNS活用等情報発信方法の検討	*報告書作成	FB立ち上げ		FB立ち上げにより今後の発信ツールが整備された。	A	
	4-3	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	*データ集作成					
	4-4	地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】（※運営委員参画）	*研究会開催記録作成		1回コ11人 2回コ7人、専1人 *3回コ10人、専1人（予定）	密度の高い議論を実施。協働コーディネーターの意識の向上が認められた。	*A	
	4-5	活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ：北陸/長野・東海で3事例以上】	4箇所6ケースのケーススタディの分析結果	分析表（フォーマット）の作成	ケーススタディ検討参加者計4人	ケーススタディは6ケースと予定を上回り、関係者から行政に説明するにあたり分析結果はわかりやすいとの評価をいただいた。経験が要求されるため分析はEPO中部が担当し、協働コーディネーターは結果を説明ツールとして活用することが現実的との結果が得られた。	B	
	4-6	活動見える化プログラムの概要版の作成	活動見える化プログラムの説明資料	4箇所（6ケース）の分析チャート		分析チャートについては、関係者から活動について地域循環共生圏とSDGsの意義が見える化されているとの評価をいただき、分析チャート1枚で表現できるプログラムとなった。	B	
	4-7	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各1回（計2回）（※長野：協働実施）】	記録作成（2回）Web上での掲載発信		1回30人 2回29人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	4-8	地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	*記録作成Web上での掲載発信		*21人			

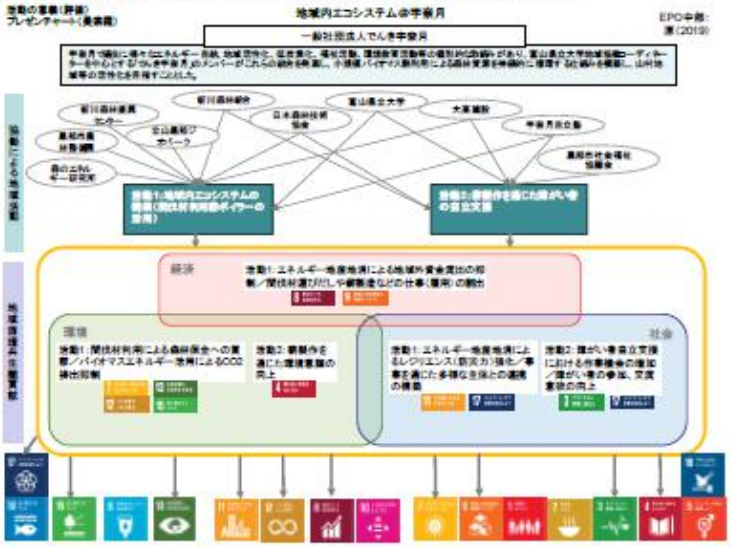
仕様書業務項目		業務内容	アウトプット（*は暫定または予定）			アウトカム（*は暫定）		備考
			コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	アウトカム評価	評価判定	
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催（専門家3名程度）【2回】	WG開催記録各回作成	チェックリスト基本段階版WSパッケージ作成、事業所活用版作成	開催2回、専門家出席各3名	有用なご意見やご提案をいただくことにより、チェックリストを活用したWSパッケージが作成された。	A	
	5-2	PRツール（SDGsチェックリスト）の修正・公開	初年度版Web掲載 *修正改善版、WSパッケージ、事業所活用版公開		*初年度版閲覧数〇件	Web閲覧数は多く、チェックリストは活用されていると推定される。また別の交流会でツールに対する高評価をいただくなど活用が拡大している。	*A	
	5-3	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催（※協働コーディネーター活用）【東海地域で計3回】	WS開催記録各回作成（3回）		1回41人 2回21人 3回23人 番外1：37人 番外2：10人 番外3：35人	全6回のWSを実施しツールの改善と効果の検証を行うことができた。 合計167人の参加が得られSDGsの普及が拡大した。アンケートからは参加者の認識向上の結果が得られた。協働コーディネーターからツールとワークショップパッケージに高評価をいただいた。	A	
	5-4	ESD推進のためのダイアログの開催【北陸/長野・東海で計3回以上】（※Uエコパーク等と協働）	開催記録作成（3回）Web上での掲載発信		1回24人専2人 2回54人専2人 3回36人専5人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催 【1回開催】（※学生参加促進企画）	記録作成Web上での掲載発信		52人専3人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	5-6	地域ESD拠点登録支援等、ニーズの把握【2事業者以上】	ヒヤリング報告作成		4か所	予定以上の3つの拠点にヒヤリングした結果、本音ベースの知見を得た。	A	
	5-7	ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加	各回会議に参加			全国の動向、世界の動き、国の施策、ESD拠点のアンケート結果など有用な情報を共有した。	B	
	5-8	全国ESDセンター等との連携（情報提供、アンケート実施支援など）	情報を共有		昨年度より2拠点増	拠点数は増加したものの設定されていない県がある。また拠点の意見として情報発信が物足らない、などの指摘があった。	*C	
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携：進行管理・連絡調整				事業者と緊密に連携し、適切な助言、分析支援等を行うことによりモデル事業が円滑に進行した。	*A	
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	記録作成		3回実施	連絡会における緊密な意見交換によりモデル事業が円滑に進行した。	*A	
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書（結果分析）等の作成支援	結果分析作成			ドキュメントの作成スケジュールを積極的に行うとともに、骨組みの提案をするなどの作成支援を実施した。 伴走支援により事業者及び関係者の理解が促進し、今後の事業展開における提案やアイデアが新しく出ている。	*A	
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	月次報告作成			月次報告の提出など全国支援事務局との情報共有を適切に実施	*B	
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議【2回】、成果共有会【1回】への出席、資料作成対応	会議資料等作成			成果とりまとめや会議の参加、資料の作成など、全国支援事務局事業への協力を適切に実施	*B	
	6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	照会に対応			具体的照会に対応したほか、成果物を配布するなど加速化事業事例の活用と認知の拡大に努めた。	*B	
7 EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理			報告書をリスト化。過去のイベント事例を整理。登壇者を抽出。			報告書をリスト化、過去のイベント事例を整理、登壇者を抽出することにより、今後の活動に資する知見を整理した。	B	

仕様書業務項目		業務内容		アウトプット（*は暫定または予定）			アウトカム（*は暫定）		備考
				コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	アウトカム評価	評価判定	
8	環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	*報告書作成			南砺市、GDP、青木建設などSDGsに取り組む多様な団体と協働、参加者のSDGs認識、活動に貢献した。	*A	
		8-2	ワークショップの実施【2回】	*開催記録作成		1回〇人専2人 2回41人専2人	*アンケートでは～などの結果が得られ、参加者の認知拡大、知見増加に効果があった。	*A	
		8-3	コア団体への事後調査	*事後調査報告書作成					
9	関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	月次報告を各月作成			定常的に密な連絡と情報共有を維持。円滑な運営に寄与。	A	
		9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	事務所開催会議に出席、対応			管内会議に出席、EPO内容のプレゼンを実施し、円滑な運営に寄与。	A	
		9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	記者発表実施（1回）		プレスリリース2回（うち1回はチラシのみ）	EPO中部の認知度の向上に寄与	B	
		9-4	プラットフォーム構築事業の採択団体との連携	情報交換記録作成、採択団体5件、可能性団体3件			関係団体の情報を把握	B	
		9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	GEOC主催会議各回に参加			GEOC事業に協力	B	
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務								
11	外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト						
		11-2	地球環境基金：未定						
		11-3	愛知県コーディネート業務：未定						

（エ）参画する各主体の役割分担の明確化

- 2019 年度開催のフォーラム、ダイアログ等主催イベントをはじめとする主なプロジェクトの個票を作成し、どのような主体と協働・連携するかなどの企画検討を行った。

令和元年度業務
主要プロジェクト評価個票№４－A
■EPO 中部　□ESD 活動支援センター

分類	４　協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	４－A 活動見える化プログラムの構築		
	表番号	業務内容（仕様：インプット）	
	4-5	活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ：北陸/長野・東海で３事例以上】	
	4-6	活動見える化プログラムの概要版の作成	
活動実績	下記事例について分析しつつ分析表を改善、活動見える化プログラムを構築した。 ケース１：同時解決事業・里山保全体験を通した障がい者雇用促（長野県飯山市） 　ケース１－１：初年度の成果（2019 年３月時点） 　ケース１－２：２年目の成果（2019 年 12 月時点） ケース２：高校と連携したアブラギリ（桐油）資源化活動（福井県小浜市） ケース３：南砺市エコビレッジによるまちづくり（富山県南砺市） 　ケース３－１：エコビレッジ推進事業としてのこれまでの取組み（～2019 年度） 　ケース３－２：SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業としてのこれからの取組み（2019 年度～） ケース４：地域内エコシステム@宇奈月（富山県黒部市） 分析結果の例（概要版）　地域内エコシステム@宇奈月（富山県黒部市）  		
主要アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など
	4 箇所 6 ケースのケーススタディの分析結果 活動見える化プログラムの説明資料	分析表（フォーマット）の作成	ケーススタディ検討参加者計４人
アウトカム	ケーススタディは６ケースと予定を上回り、関係者から行政に説明するにあたり分析結果はわかりやすいとの評価をいただいた。経験が要求されるため分析は EPO 中部が担当し、協働コーディネーターは結果を説明ツールとして活用することが現実的との結果が得られた。 分析チャートについては、関係者から活動について地域循環共生圏と SDGs の意義が見える化されているとの評価をいただき、分析チャート１枚で表現できるプログラムとなった。		自己評価　B
備考			

令和元年度業務
主要プロジェクト評価個票No.４－B
■EPO 中部　□ESD 活動支援センター

<table>
<tr><td>分類</td><td colspan="3">４　協働取組の促進のための業務</td></tr>
<tr><td rowspan="4">プロジェクト</td><td colspan="3">４－B　フォーラム、グループワーキングの開催</td></tr>
<tr><td>表番号</td><td colspan="2">業務内容（仕様：インプット）</td></tr>
<tr><td>4-7</td><td colspan="2">中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各１回（計２回）（※長野：協働実施）】</td></tr>
<tr><td>4-8</td><td colspan="2">地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【１回】</td></tr>
<tr><td>活動実績</td><td colspan="3">フォーラム１：地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 金沢
日時　2019 年 8 月 7 日（水）13：00～16：30
場所　金沢勤労者プラザ 4 階 406 研修室

フォーラム２：地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 飯山
信州の地域循環共生圏づくりと協働取組
日時　2019 年 11 月 23 日（土･祝）12：00～15：00
場所　なべくら高原森の家（長野県飯山市照岡 1571-15）

グループワーキング：環境省ＥＰＯ中部主催・地域循環共生圏づくりセミナー
地域循環共生圏づくりでローカルＳＤＧｓを考える
日時　2020 年 1 月 31 日(金)13:30～17:00
場所　環境省中部地方環境事務所　第１ 会議室

各回の開催チラシ

</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アウトプット</td><td>コンテンツ等、情報の発信</td><td>設備・システム・知見など</td><td>参加者（数）、対象者（数）など</td></tr>
<tr><td>開催記録作成（各回）
Web 上での掲載発信</td><td></td><td>フォーラム第１回 30 人
フォーラム第２回 29 人
グループワーキング 21 人</td></tr>
<tr><td>アウトカム</td><td colspan="2">合計 90 人の参加を得ることができ、協働のための交流が行われた。
アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。</td><td>自己評価　B</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

令和元年度業務
主要プロジェクト評価個票№５－A
□EPO 中部　■ESD 活動支援センター

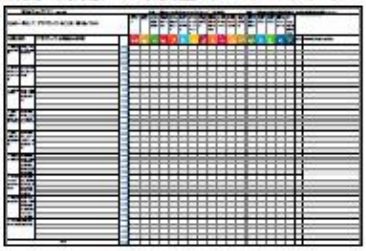
分類	５　中部地方 ESD 活動支援センター運営業務	
プロジェクト	５－A　SDGs チェックリストの作成と検証	
	表番号	業務内容（仕様：インプット）
	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催（専門家３名程度）【2 回】
	5-2	PR ツール（SDGs チェックリスト）の修正・公開
	5-3	SDGs チェックリスト活用ワークショップの開催(※協働コーディネーター活用)【東海地域で計３回】

活動実績

ワーキンググループ開催
専門家：中部大学准教授 古澤礼太、名古屋市立大学准教授 曽我幸代、中部大学准教授 伊藤佳世
WG１：日時　2019 年 7 月 17 日（水）16：00～17：30　場所　EPO 中部
WG２：日時　2019 年 10 月 23 日（水）16：00～17：30　場所　EPO 中部

SDGs チェックリスト活用ワークショップの開催（協働コーディネーター活用）
WS１：日時　2019 年 5 月 28 日（火）10：00～12：00
場所　日進市役所第 5 会議室（愛知県日進市）協働コーディネーター2 人参加
WS２：日時　2019 年 8 月 29 日（木）15：00～17：00
場所　大久手山本屋（愛知県名古屋市）協働コーディネーター3 人参加
WS３：日時　2019 年 12 月 14 日（土）16：00～18：00
場所　大垣市多目的交流イベントハウス 3 階（岐阜県大垣市）協働コーディネーター3 人参加
番外１：日時　2019 年 6 月 15 日（土）13：00～16：00
場所　ハートフルスクエア G　中研修室（岐阜県岐阜市）
番外２：日時　2019 年 8 月 31 日（土）
場所　一般社団法人日本体験学習研究所（JIEL）（愛知県名古屋市）
番外３：日時　2019 年 11 月 25 日（月）
場所　日進市役所第 5 会議室（愛知県日進市）

公開（予定）の改良型 SDGs チェックリスト、ワークシート、WS パッケージ（スライド表紙）



アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など
	WG 開催記録各回作成 初年度版 Web 掲載 修正改善版、WS パッケージ、事業所活用版公開 WS 開催記録各回作成（3 回）	チェックリスト基本段階版 WS パッケージ作成、事業所活用版作成	WG　開催 2 回、専門家出席各 3 名 WS　1 回 41 人　番外 1：37 人 2 回 21 人　番外 2：10 人 3 回 23 人　番外 3：35 人

アウトカム		
	WG では有用なご意見やご提案をいただくことにより、チェックリストを活用した WS パッケージが作成された。 Web 閲覧数は多く、チェックリストは活用されていると推定される。また別の交流会でツールに対する高評価をいただくなど活用が拡大している。 全 6 回の WS を実施しツールの改善と効果の検証を行うことができた。合計 167 人の参加が得られ SDGs の普及が拡大した。アンケートからは参加者の認識向上の結果が得られた。協働コーディネーターからツールとワークショップパッケージに高評価をいただいた。	自己評価　A
備考		

令和元年度業務
主要プロジェクト評価個票No.５－B
□EPO 中部　■ESD 活動支援センター

分類	５　中部地方 ESD 活動支援センター運営業務			
プロジェクト	５－B　ダイアログ、フォーラムの開催			
	表番号	業務内容（仕様：インプット）		
	5-4	ESD 推進のためのダイアログの開催【北陸/長野・東海で計３回以上】（※Ｕエコパーク等と協働）		
	5-5	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催 【1 回開催】（※学生参加促進企画）		
活動実績	ダイアログ１：ESD 推進のためのダイアログ北信越ユネスコスクール交流会 in金沢 2019 日時　2019 年 8月8日（木）13:30～16:30　場所　金沢勤労者プラザ 101 研修室 ダイアログ２：企業や団体の SDGs 推進のための ESD～職員意識が組織・地域を変える～ 日時　2019 年 6 月 13 日（木）13：30～16：30　場所　福井県国際交流会館第２会議室 ダイアログ３：ユネスコエコパークを活かしたＥＳＤによる地域創生 日時　2019 年 11 月 16 日（土）13：30～16：30　場所　飯田市役所 C311-313 号会議室 フォーラム：ユースと社会人のための ESD 推進ネットワーク地域フォーラム ・世代間交流による SDGs 貢献のための人づくり 日時　2019 年 11 月 4 日(月･祝)13:30 ～16:30　場所　ウインクあいち 1103（愛知県名古屋市） 各回の開催チラシ 			
アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	
	開催記録作成（各回） Web 上での掲載発信		ダイアログ第 1 回 24 人 ダイアログ第 2 回 54 人 ダイアログ第 2 回 36 人 フォーラム 52 人	
アウトカム	合計 166 人の参加を得、ESD・SDGs の意義を普及させることができた。 アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。			自己評価　B
備考				

（オ）地域循環共生圏に関する反映

- 前項「参画する各主体の役割分担の明確化」では、地域循環共生圏をテーマにしたフォーラム・セミナーの開催、及び地域循環共生圏関連事業に採択された主体が登壇する企画を盛り込んだ。

(2)運営会議での協議

- 業務実施計画、業務スケジュール、アウトプット目標一覧表などは、各運営会議に諮った上で確定とした。

【中部環境パートナーシップオフィス運営会議】

	開催日	協議の実施
第 1 回会議	6 月 19 日	「2019 年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

【中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議】

	開催日	協議の実施
第 1 回会議	6 月 25 日	「2019 年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

(3)ホームページへの掲載

- 作成した 2019 年度の業務計画等については、EPO 中部ウェブサイト、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにそれぞれ掲載・公開した。

【EPO 中部ウェブサイト】

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2019.09.13　センター概要 事業報告

2019年度の中部地方ESD活動支援センターの業務計画について

中部地方ESD活動支援センター（及びEPO中部）の2019年度の業務計画をご紹介します。

【2019年度業務計画】

業務一覧、業務スケジュール、業務の目標アウトプット等をまとめた資料です。

※参考）第5期（2018年度～2020年度の3か年）の事業計画はコチラを参照してください。

2 運営会議の設置・開催

(1)EPO 中部運営会議

ア　第 1 回会議

① 日時

- 6 月 19 日（水）13：00～16：00

② 場所

- 中部地方環境事務所第 1 会議室

③ 出席者

（委　員）

氏名	所属	役職
加藤　義人	岐阜大学	客員教授
新　広昭	金沢星稜大学経済学部	教授
田辺　友也	認定 NPO 法人まちづくりスポット	専務理事
千頭　聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
中里　茂	のと共栄信用金庫	顧問
松井　真理子	四日市大学総合政策学部	教授
山室　秀俊	（NPO 法人）長野県 NPO センター	事務局長
萩ノ脇 裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長

※森山委員は、都合により御欠席

（事務局）　　福井理事長、清本事務局長、原、富田

（中部地方環境事務所）溝手係長、西田主査

④ 議事次第

１．ご挨拶　　環境省中部地方環境事務所
２．運営会議設置要綱（改訂／変更なし）の確認
３．EPO 中部の 2019 年度業務の説明
　(1)2019 年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標等）について
　(2)協働コーディネーター活用展開（地域循環共生圏づくり研究会）について
　(3)「活動見える化プログラム」構築（実施するケーススタディ）について
　(4)主催フォーラム等開催イベントについて
　(5)広報関係の展開（作成ツール、ウェブサイトリニューアル）について
　(6)その他業務について
４．意見交換
５．その他
６．閉会

⑤ 会議資料

資料１：運営会議設置要綱（改訂案）
資料２：2019 年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）
資料３：2019 年度業務の事務局展開案説明資料
参考資料１：仕様書概要
参考資料２：地域循環共生圏づくり研究会設置要綱案、協働コーディネーター活用状況
参考資料３：過去の EPO 中部関連報告書一覧リスト

イ　第 2 回会議

- 第 2 回 EPO 中部運営会を 3 月 6 日（金）13：30～16：30 での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に関わる政府方針等を鑑み、中部地方環境事務所と協議のうえ、書面会議を実施した。
- 委員には、会議資料の一部と意見記入票を送付し、意見を返信する旨の依頼を行った。委員からは 5 名の意見回答があった。

ウ　EPO 中部運営会議開催結果のウェブサイトへの掲載

（ア）第 1 回会議の議事概要

- 作成した第 1 回会議の議事概要を、各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトに公開した。
- また、委員の肩書き変更に伴い、設置要綱の改訂版をウェブサイトに掲載した。

（イ）第 2 回会議中止に伴い配布・回収した意見記入票

- 委員から送付のあった意見記入票を一覧表にとりまとめ、ウェブサイトに公開した。

【EPO 中部ウェブサイト】

運営会議

運営会議の設置

EPO中部は、多様なステークホルダーが構成する運営会議を年２回開催し、事業の検討、協議、評価を行っています。

また、運営会議委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施できるスキームを持っています。

■第5期運営会議委員■（氏名五十音順、敬称略）
●加藤　義人氏（岐阜大学客員教授）
●新　広昭氏（金沢星稜大学経済学部教授）
●田辺　友也氏（NPO法人まちづくりスポット専務理事）
●千頭　聡氏（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）〈座長〉
●中里　茂氏（のと共栄信用金庫顧問）
●松井　真理子氏（四日市大学総合政策学部教授）
●森山　奈美氏（いしかわ地域づくり協会コーディネーター）
●山室　秀俊氏（NPO法人長野県NPOセンター事務局長）
●萩ノ脇　裕司氏（中部地方環境事務所環境対策課長）

規約

第5期（2018～2020年度）運営会議設置要綱

平成29年度 運営会議設置要領

平成29年度 運営会議委員名簿

(2) 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議

ア　第 1 回会議

① 日時

- 6 月 25 日（火）13：30～16：30

② 場所

- 中部地方環境事務所第 1 会議室

③ 出席者

（委　員）

氏名	所属	役職
伊藤　恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤　隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアム（金沢大学）	ESD コーディネーター（准教授）
杉浦　真理子	株式会社アクト	代表取締役
戸成　司朗	一般社団法人中部 SDGs 推進センター	代表理事
彦坂　永利子	愛知県教育委員会　生涯学習課	課長補佐
古澤　礼太	中部 ESD 拠点協議会（中部大学国際 ESD センター）	事務局長（准教授）
水谷　瑞希	信州 ESD コンソーシアム（信州大学教育学部）	助教
萩ノ脇　裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長

（事務局）　　福井理事長、清本事務局長、原、富田

（中部地方環境事務所）溝手係長

④ 議事次第

1．ご挨拶　　環境省中部地方環境事務所
2．企画運営会議設置要綱（改訂）の確認
3．中部地方 ESD 活動支援センターの活動戦略方針（案）の説明
4．中部地方 ESD 活動支援センターの 2019 年度業務の説明
　(1) 2019 年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標等）について
　(2) SDGs チェックリストの作成（検証・改善）と作成ＷＧについて
　(3) 主催イベントの企画案について
　(4) その他業務について
5．意見交換

６．その他
７．閉会

⑤ 会議資料

資料１：企画運営会議設置要綱（改訂案）
資料２：中部地方 ESD 活動支援センターの活動戦略方針（案）
資料３：2019 年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）
資料４：2019 年度業務（事務局展開案）の説明資料
参考資料１：仕様書概要
参考資料２：2019 年度第１回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会の会議資料

イ　第 2 回会議

① 日時

- 2 月 27 日（木）13：30～16：30

② 場所

- ウインクあいち　1008 会議室

③ 出席者

（委　員）

氏名	所属	役職
伊藤　恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤　隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアム(金沢大学)	ESD コーディネーター(准教授)
杉浦　真理子	株式会社アクト	代表取締役
彦坂 永利子	愛知県教育委員会　生涯学習課	課長補佐
萩ノ脇 裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長

※　古澤委員、戸成委員は、「SDGs あいちシンポジウム 2020」登壇のため、水谷委員は都合により御欠席

（事務局）　福井理事長、清本事務局長、原、富田
（中部地方環境事務所）溝手係長、西田主査

④ 議事次第

１．ご挨拶　　環境省中部地方環境事務所
２．地域循環共生圏について　　環境省中部地方環境事務所
３．中部地方 ESD 活動支援センターの 2019 年度業務の報告
　(1)主催イベントの開催について
　(2)SDGs チェックリストの作成・公開と作成ＷＧによる検証について
　(3)その他業務について
４．2020 年度業務の事務局展開案の説明と意見交換
　　(1)事務局説明
　　(2)意見交換
５．その他
６．閉会

⑤ 会議資料

資料１：2019 年度業務報告資料
資料２：今年度改善・作成したチェックリスト及びワークショップ用ツール
資料３：地域 ESD 拠点（3 団体）へのヒアリング結果
資料４：次年度イベントの検討資料

参考資料１：ESD 活動支援センター全国連絡会関連資料
参考資料２：センターの活動方針
参考資料３：地域循環共生圏について

ウ　中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議開催結果のウェブサイトへの掲載

（ア）第 1 回会議の議事概要

- 作成した第 1 回会議の議事概要を、各委員に確認した上で中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトに公開した。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2019.08.05　企画運営会議

2019年度第1回・ 中部地方ESDセンター活動支援センター企画運営会議を開催

日　時：2019年6月25日（火）13：30～16：30

会　場：中部地方環境事務所・第1会議室

参加者：委員7名、中部地方環境事務所1名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）4名

計12名

2019年度第1回目の企画運営会議を開催しました。
センターの活動方針と今年度業務内容とその事務局案などを報告し、今年度、どういった業務展開に取り組むべきかについて、委員の皆さんにご議論いただきました。
SDGsチェックリストの作成、ESDダイアログやESDフォーラムの開催など、多様な視点からの示唆をいただいたことで、本年度のセンター業務としての方向性を整理することができました。

【議事録】第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

（イ）第 2 回会議の議事概要

- 作成した第 2 回会議の議事概要を、各委員に確認した上で中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトに公開した。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2020.03.12　企画運営会議

2019年度第２回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催

日　時：2020年2月27日（木）13：30～16：30

会　場：ウインクあいち　1008会議室

参加者：委員5名、中部地方環境事務所2名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）4名

計11名

2019年度第2回目の企画運営会議を開催しました。
今年度実施したセンター業務の報告とともに、次年度展開に向けたご意見を、委員の皆さんからいただきました。
完成したSDGsチェックリストなどのツールを活用して、センターがESDの「E」の拠点としてどのように展開していくべきか、どのようなESD支援や交流の場づくりができるか、たくさんのアイデアや示唆をいただきました。

【議事録】第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

3 基本業務

(1)情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア　ホームページの更新及び維持管理

（ア）更新・維持管理状況

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

※　両ウェブサイトとも「3 月」の数値は 3 月 13 日時点で集計を行ったものである。

【EPO 中部（http://www.epo-chubu.jp）更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ				
		EPO アクション	みんなのアクション	スタッフあれこれ	EPO 中部とは(運営会議等)	その他
4 月	6	1	4	1	0	0
5 月	10	3	6	1	0	0
6 月	7	3	3	1	0	0
7 月	18	11	5	1	1	0
8 月	13	4	8	1	0	0
9 月	18	8	8	1	1	0
10 月	11	4	5	1	0	1
11 月	11	3	7	1	0	0
12 月	11	6	4	1	0	0
1 月	8	2	5	1	0	0
2 月	9	2	6	1	0	0
3 月	4	3	0	0	1	0
計	126	50	61	11	3	1

【中部地方 ESD 活動支援センター（https://chubu.esdcenter.jp）更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センターからのお知らせ	企画運営会議	取材レポート	事業報告	イベント情報	中部の地域 ESD 拠点	その他
4 月	4	2	0	1	0	1	0	0
5 月	5	2	0	0	0	2	1	0
6 月	9	1	0	2	3	3	0	0
7 月	3	1	0	0	0	2	0	0
8 月	11	3	1	1	2	2	2	0
9 月	13	3	0	2	2	2	2	2
10 月	3	0	0	1	0	2	0	0
11 月	8	2	0	1	2	1	2	0
12 月	8	3	0	2	1	0	2	0
1 月	5	1	0	0	0	1	3	0
2 月	5	1	0	1	0	1	2	0
3 月	7	2	1	1	0	1	1	1
計	81	21	2	12	10	18	15	3

（イ）ウェブサイトのアクセス数

- EPO 中部、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトのアクセス数は下記の通りである。
- 5 月末に EPO・ESD センター兼用の Facebook ページを開設した。
- EPO ウェブサイトはアクセス数（ページビュー数）が大幅に増加した。

【下表の各項目について】

- 訪問者数：サイトに 1 回以上アクセスを行ったユーザー／閲覧した人の数（1 人が 2 回アクセスした場合は 1 人として集計）
- 訪問件数：訪問者がサイトにアクセスをした回数（1 人が 2 回アクセスした場合は 2 件として集計）
- ページビュー数：閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均：ここでは訪問者 1 人あたりが閲覧したページビュー数を算定

【EPO 中部ウェブサイト】

	訪問者数（ユニーク数）（単位：人）	訪問件数（単位：件）	ページビュー数（ページ）		2018 年度ページビュー数 ※1	2017 年度ページビュー数 ※1
				平均（ページ/人）		
4 月	3,994	7,852	**59,319**	14.85	**19,311**	**32,869**
5 月	2,539	4,464	**30,280**	11.93	**18,382**	**37,951**
6 月	2,744	4,769	**29,150**	10.62	**20,060**	**27,827**
7 月	3,321	5,539	**34,314**	10.33	**18,763**	**19,752**
8 月	3,486	5,534	**38,479**	11.04	**17,688**	**25,807**
9 月	2,721	6,713	**72,087**	26.49	**14,795**	**34,714**
10 月	3,706	8,727	**75,127**	20.27	**16,176**	**24,051**
11 月	4,187	9,702	**102,551**	24.49	**16,289**	**18,034**
12 月	4,873	11,592	**182,209**	37.39	**31,808**	**23,287**
1 月	4,790	10,976	**107,374**	22.42	**39,694**	**31,568**
2 月	3,653	10,686	**61,384**	16.80	**21,378**	**35,860**
3 月※2	2,054	3,339	**18,562**	9.04	**44,972**	**23,308**
計	42,068	89,893	**810,836**	17.97	**279,316**	**335,028**

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

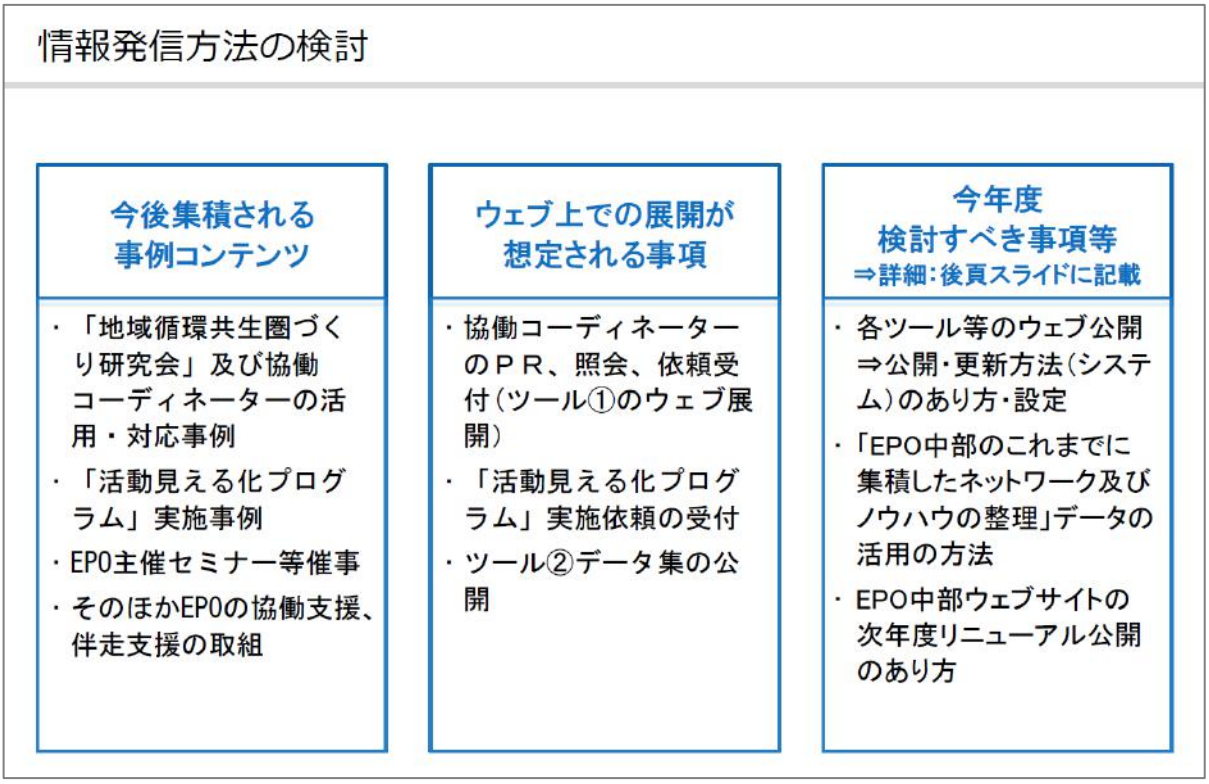
	訪問者数（ユニーク数）（単位：人）	訪問件数（単位：件）	ページビュー数（ページ）		2018 年度ページビュー数 ※1	2017 年度ページビュー数 ※1
				平均（ページ/人）		
4 月	156	249	**618**	3.96	**595**	**未開設**
5 月	249	358	**828**	3.41	**857**	**未開設**
6 月	236	358	**955**	4.05	**1,301**	**未開設**
7 月	249	348	**832**	3.34	**795**	**684**
8 月	219	347	**1,111**	5.07	**1,144**	**298**
9 月	204	346	**1,232**	6.04	**818**	**295**
10 月	361	522	**1,192**	3.30	**904**	**366**
11 月	293	404	**1,064**	3.63	**1,085**	**325**
12 月	222	343	**1,139**	5.13	**879**	**287**
1 月	250	348	**841**	3.36	**841**	**362**
2 月	360	453	**1,181**	3.28	**641**	**1,343**
3 月※2	91	154	**528**	5.80	**752**	**897**
計	2,890	4,230	**11,521**	4.20	**10,612**	**4,857**

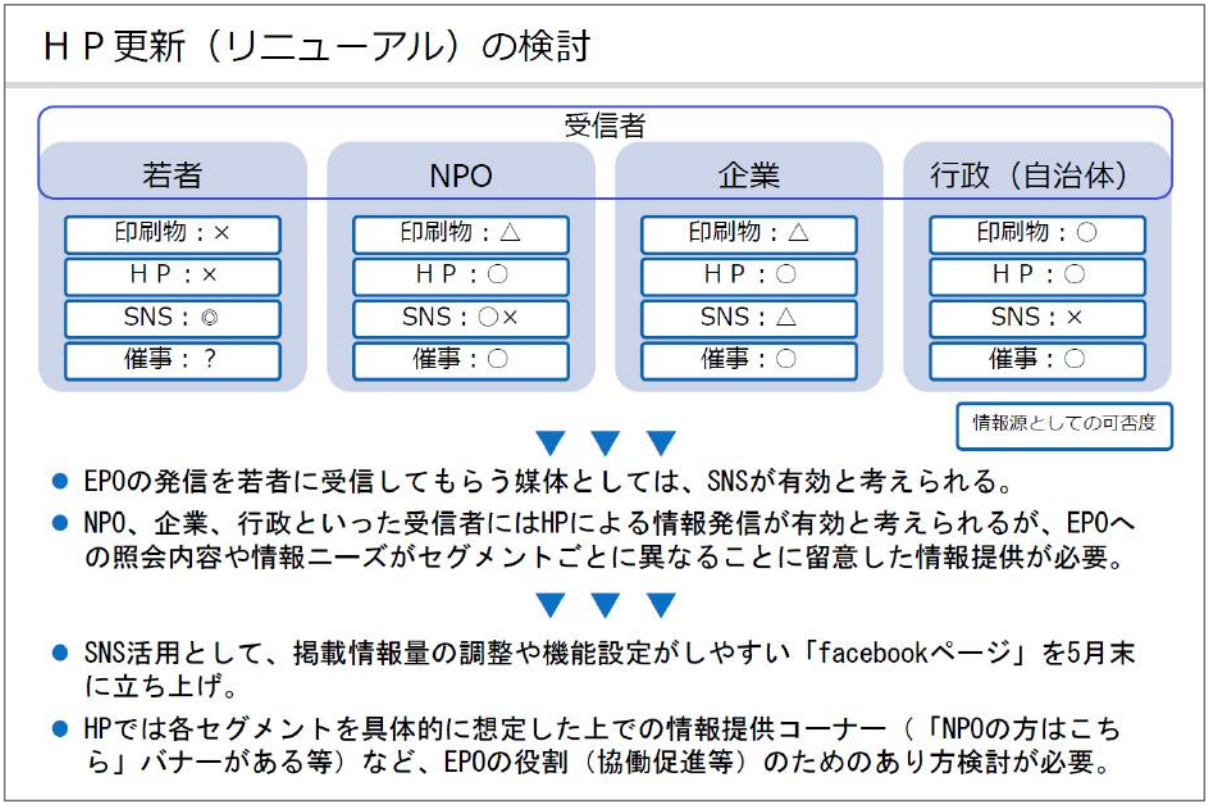
※1：2018・2017 年度ページビュー数：各年度業務報告書より（データはページビュー数のみ）
※2：両ウェブサイトとも 2019 年度の「3 月」の数値は 3 月 13 日時点で集計（2020 年 3 月 1 日～12 日までのデータを集計）したものである。

（ウ）ホームページ更新案の検討

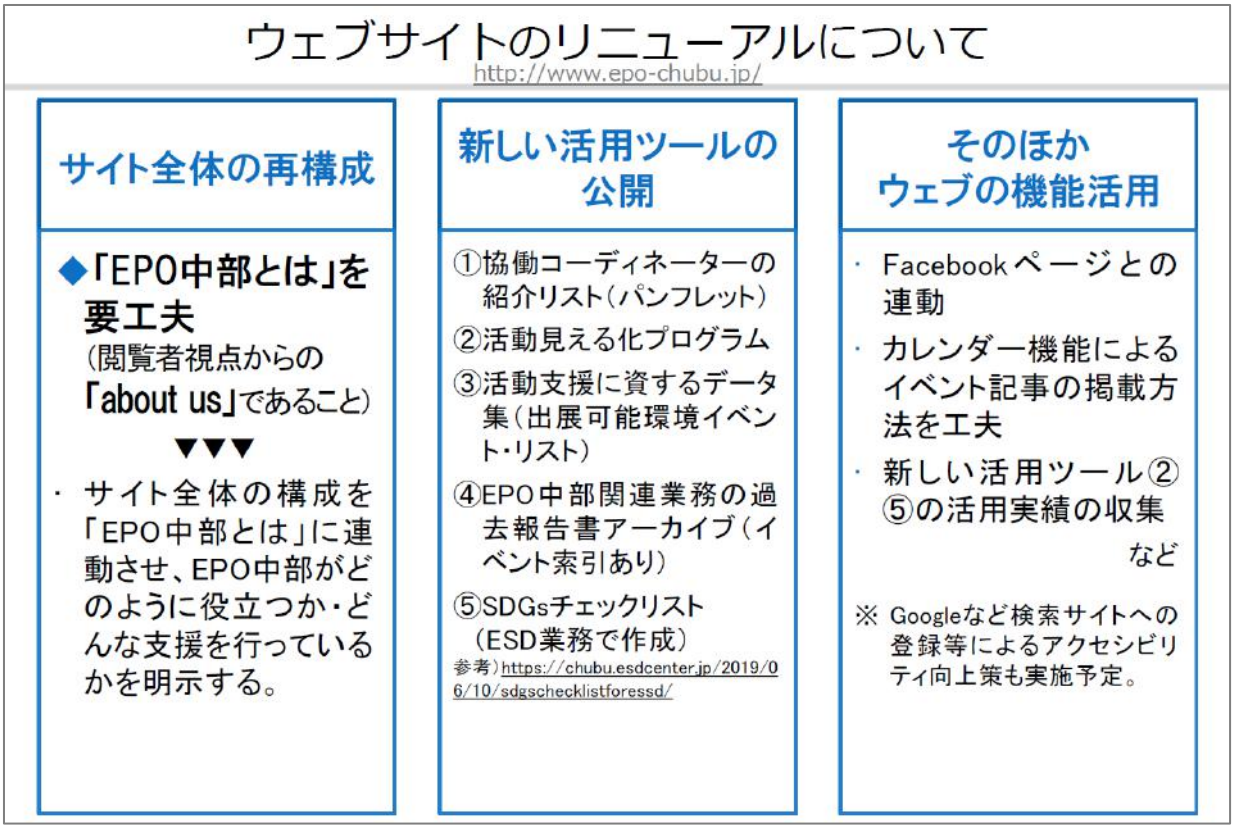
- EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの検討に向けて、EPO 中部運営会議の第 1 回会議に要検討事項を整理した資料を提示し、第 2 回会議でリニューアル案を提示した。
- また、2019 年 5 月末に、EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター兼用の Facebook ページを開設し、主催イベントの情報提供、関係主体のイベント情報のシェア等による広報展開を開始した。

【第 1 回 EPO 中部運営会議の提示資料】





【第 2 回 EPO 中部運営会議（書面会議）資料として提示】



イ　メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第 2 火曜日に、メールマガジンを次の通り発行し、12 月には臨時号の配信も行った。
- 「冒頭部」の記事数は、中部地方環境事務所職員によるコラム記事を含めた、環境省及び中部地方環境事務所関連のトピック記事（目次前に掲載した記事）の数となっている。
- 発行メールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイト上に専用ページを設置した。

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数		
					冒頭部（事務所コラム含む）	イベント情報	募集情報
4 月	118 号	4/9	771 部	27	3	14	10
5 月	119 号	5/14	770 部	25	1	13	11
6 月	120 号	6/11	770 部	31	2	19	10
7 月	121 号	7/9	768 部	34	4	23	7
8 月	122 号	8/13	768 部	29	2	18	9
9 月	123 号	9/10	771 部	36	2	18	16
10 月	124 号	10/8	773 部	40	6	24	10
11 月	125 号	11/12	774 部	30	3	19	8
12 月	126 号	12/10	771 部	29	4	19	6
	臨時	12/16	771 部	1	－	－	1
1 月	127 号	1/14	772 部	35	3	21	11
2 月	128 号	2/11	773 部	30	3	18	9
3 月	129 号	3/10	774 部	14	2	※	12
計				282	27	167	88

※　3 月発行・129 号は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが中止となっており、「イベント情報」の掲載を見合わせた。

ウ　情報の収集・蓄積等

- 環境保全、協働の推進、ESD の推進等に資する情報を収集し、整理・蓄積を行った。（※送付されてきた広報依頼・配架依頼の資料等も含む。）
- 収集した情報（資料）については、下表の通りである。（※いずれの表も「3 月」の数値は 3 月 13 日時点で集計を行ったものである。）

【収集した資料の内容別分類】

	収集件数・計	啓発・パンフレットなど					報告書･書籍･白書など		その他	ネット検索した資料類
		森林･生物	環境教育･ESD	環境全般	ボランティア･NPO	その他パンフ	国･県･市町村	その他報告書等		
4 月	48	0	10	7	11	7	1	6	6	137
5 月	44	1	11	12	2	6	1	6	5	115
6 月	33	3	8	5	0	8	2	0	7	48
7 月	32	5	4	6	9	5	0	0	3	147
8 月	26	0	3	15	1	4	0	2	1	116
9 月	32	2	3	14	5	3	0	2	3	188
10 月	28	0	8	10	3	5	0	2	0	193
11 月	39	2	10	9	10	8	0	0	0	198
12 月	32	3	2	14	3	5	2	0	3	192
1 月	18	0	1	8	3	3	1	0	2	91
2 月	22	1	5	6	3	2	2	2	1	83
3 月	17	1	2	4	2	2	1	2	3	47
計	371	18	67	110	52	58	10	22	34	1,555

【収集した資料の発行元の分類】

	収集件数・計	行政	NPO	企業	その他
4 月	48	14	24	3	7
5 月	44	13	17	1	13
6 月	33	11	12	6	4
7 月	32	12	13	2	5
8 月	26	4	14	4	4
9 月	32	11	16	4	1
10 月	28	10	11	2	4
11 月	39	8	26	1	4
12 月	32	12	15	0	5
1 月	18	4	8	1	5
2 月	22	12	6	0	4
3 月	17	11	3	0	3
計	371	122	165	24	59

【入手後の対応】

	収集件数	配架	メルマガ掲載	ファイリング	在庫	その他
4 月	48	40	1	3	2	2
5 月	44	38	0	6	0	0
6 月	33	31	0	2	0	0
7 月	32	24	0	8	0	0
8 月	26	23	0	3	0	0
9 月	32	23	0	7	0	2
10 月	28	21	1	5	1	0
11 月	39	35	6	4	0	0

	収集件数	配架	メルマガ掲載	ファイリング	在庫	その他
12 月	32	27	2	5	0	0
1 月	18	15	0	3	0	0
2 月	22	17	0	4	0	1
3 月	17	14	0	3	0	0
計	371	308	10	53	3	5

エ　リーフレットの作成及び配布

- 2019 年度から EPO 施設の開館時間が変更になったことをうけて、前年度業務で作成したリーフレットの残部に訂正シールを貼り付け、対応した。
- その前年度・在庫 500 部を 9 月までにほぼ配布し終えたため、開館時間を修正した原稿で 200 部増刷した。その後、年度内に全在庫をほぼ配布し終えた（今年度の間に計・約 700 部を配布）。
- 更に 3 月、2020 年度の開館日・時間等に変更したリーフレットを 300 部増刷した。

オ　インターフェースなどを活用した会議の検討

（ア）インターフェース会議の実施に関する調査

- 遠隔会議実施の検討資料として、次のインターフェース会議設営方法等に関わる資料を作成し、中部地方環境事務所へ提示した。
- 協議の結果、中部地方環境事務所と EPO とを結んだ遠隔会議を試験的に実施することになった。

【インターフェース会議の概要】

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">ウェブ会議</th><th>テレビ会議</th></tr>
<tr><td>専用機器</td><td colspan="2">不要</td><td>必要</td></tr>
<tr><td>費用</td><td colspan="2">安価／無料あり
・一般的に普及しているインターネット回線に接続するPC等の端末で可能</td><td>高価
・専用機器が非常に高額
・保守費用も発生
・テレビ会議専用会議室の利用も通常より高額</td></tr>
<tr><td>条件等</td><td colspan="2">・ネット回線・端末があればどこでも可能（相手側も同様）</td><td>・専用機器の設置・設定された会議室、或いはテレビ会議専用会議室でのみ可能（相手側も同様）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">機能性</td><td>無料アプリ等</td><td>有料ツール</td><td rowspan="2">必要かつ十分
安定的に実施可能
※ウェブ会議のようなファイルデータの共有等はできない。</td></tr>
<tr><td>基本的に 1 対 1 の対話を前提。複数拠点の接続で音声・映像の断絶・凍結等発生するケースが多々あり。</td><td>法人向けの専門サービスにより多拠点を接続しても安定した品質の維持を前提。</td></tr>
<tr><td>サポート</td><td>なし</td><td>あり</td><td>あり</td></tr>
<tr><td>予算感</td><td>ー</td><td>1 万円程度～</td><td>20 万円程度～
テレビ会議システム導入会議室を使用した場合：システム使用料一式 12 万円＋オペレーター（4h）3.5 万円＋ほか設置費、会議室使用料　※TKP 貸会議室より</td></tr>
<tr><td>メリット</td><td colspan="2">低コスト、気軽な使用、アプリケーション共有、モバイル対応</td><td>高い安定性、高品位動画・音声、堅牢性、ウィルスフリー</td></tr>
<tr><td>デメリット</td><td colspan="2">マシン性能に依存、大人数に対応が難しい、安定性に欠ける</td><td>汎用性に欠ける、高額、アプリケーション共有が難しい</td></tr>
<tr><td>そのほか</td><td colspan="2">四国 EPO にヒアリングした際、複数名が同時多発的に話す側には、集音マイクの設置をアドバイスされた。広い会議室では、個々人用イヤホンマイク、または集音型マイクスピーカーの配置方法にも留意する必要がある。</td><td></td></tr>
</table>

出典：
https://www.liveon.ne.jp/cafe/point/Difference-between-video-conference-and-web-conference.html
https://www.liveon.ne.jp/cafe/point/Free-web-conferencing-systems-are-at-risk.html
https://boxil.jp/mag/a3773/

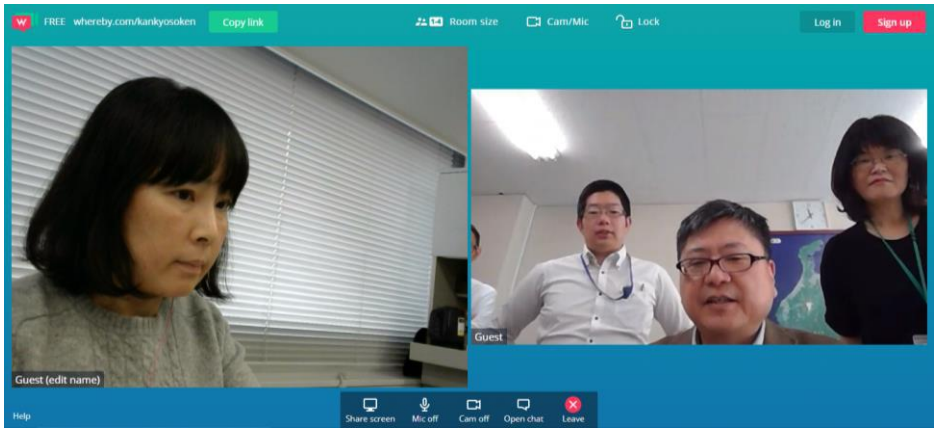
【ウェブ会議での必要機材について】

<table>
<tr><th></th><th>会議室（多人数）側</th><th>個人側</th></tr>
<tr><td>PC</td><td>ネット接続 1 台</td><td>ネット接続 1 台</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ウェブカメラ</td><td>広角レンズのカメラ</td><td>一般的なウェブカメラ</td></tr>
<tr><td colspan="2">FullHD 対応、高速な USB 接続規格に対応（PC側も対応必要）</td></tr>
<tr><td>ヘッドセット</td><td>不要</td><td>※周囲の環境騒音が気になる場合のみ必要</td></tr>
<tr><td>マイク
スピーカー</td><td>マイクとスピーカーが一体化した製品
※会議室の広さ、出席者数で最適な機材が決まってくる。
※ノイズキャンセラー機能、エコーキャンセラー機能を搭載したものが良い。
※ダブルトーク（複数拠点でお互いに発話した状態）時の音響処理技術が組み込まれた製品でないと音声の途切れ、ボリュームダウン等が発生する。</td><td>ウェブカメラの機能でOK</td></tr>
</table>

出典：https://www.meetingplaza.com/feature/need.html

（イ）遠隔会議の試行

- 11 月 20 日に、中部地方環境事務所と EPO とを結んだ遠隔会議を試験的に実施した。
- 使用機材等：インターネット回線を使用したウェブ会議用ツール、カメラ
- 使用アプリ：Whereby（ウェアバイ）；旧 appear.in（アピアイン）https://whereby.com/
- 中部地方環境事務所内からはウェブカメラ付きノート PC、EPO 中部内からはディスクトップ PC（外付けウェブカメラを USB 接続）で接続。



Whereby 接続画像（左：EPO 中部内、右：中部地方環境事務所内）

中部地方環境事務所内での接続中の様子

（ウ）実施した結果及び課題について

- 接続方法やツール、機器の取り扱いは簡便で、問題なく会話等することができた。
- 課題として、相手側の話し声が聞こえてくるまでに一定のタイムラグが必要とされること（ネット回線の環境・条件等によってタイムラグが長短するものと考えられる）、複数名が一斉に話した場合にはマイクが声を拾い上げできない事もあり、複数名がいる会議室とつなぐ場合には高性能な集音マイクが必要になることがあげられる。
- また、個々人の話し方によっては相手側が聞き取りにくくなるケースもあり、ウェブ会議の際には出席者（話し手）側に話し方などへの留意を求める必要がある。

(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

ア　照会・相談対応

- 相談者との面談や資料・情報収集、マッチング作業、照会先との連絡・調整などを要した照会・相談は、下記の通りである。
- 照会・相談対応については、中部地方環境事務所のフォーマットに則り、記入票を作成し、定期的に提出を行った。

※　ここではイベントの広報依頼等といった一過性の相談事項は除いた照会・相談対応を行ったものを整理している。

【相談方法・相談主体別の相談件数】

	相談件数・計	相談方法				相談主体の分類					
		電話	メール	来所	その他	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	地方自治体・行政_首長部局	公益法人_NGO_NPO等	企業等	その他
継続	4	2		2		1		1		2	
4 月	6	4	1	1				2	4		
5 月	3	2	1			1	1		1		
6 月	2			2		1		1			
7 月	4	1		3		2			1	1	
8 月	1				1	1					
9 月	5	2	1	1	1	2			1	1	1
10 月	2	1		1				1		1	
11 月	3		1	1	1				1	1	1
12 月	6	1	2		3			1	3	1	1
1 月	5	2	2	1				2		2	1
2 月	1	1				1					
3 月	2	1			1	2					
計	44	17	8	12	7	11	1	8	11	9	4

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	相談件数・計	EPO による支援内容分類						
		政府の ESD 関連施策問い合わせ	教材・ツールの紹介	講師等人材紹介	研修・事業の企画運営	後援名義使用	交流機会	その他
継続	4			2	1			1
4 月	6		1	5				
5 月	3				3			
6 月	2		1			1		
7 月	4				1		2	1
8 月	1			1				
9 月	5		1		2	1		1
10 月	2			2				
11 月	3			1	1			1
12 月	6			3	2			1
1 月	5		2	1	1			1
2 月	1				1			
3 月	2			1	1			
計	44	0	5	16	13	2	2	6

※いずれの表も「3 月」の数値は 3 月 13 日時点で集計を行ったものである。

【その他の相談・照会、施設利用等の件数】（3 月 13 日までの年間合計数）

来館件数・計	相談・問合せのための来館	会議・打合せによる EPO 施設利用の来館	その他の来館（情報収集等）	メール・電話による相談・問合せ
147 件	15 件	44 件	88 件	236 件

※相談・照会、施設利用の内容や月別件数については、次項「(3)施設の維持・管理」を参照。

【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
※前年度に相談があった案件への継続対応（4件）	2018 12/21	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	・5 月に津市内の学校関係者が集まる総会があり、会議後にユネスコスクールについて講演してくださる講師を派遣してもらうことは可能か。ユネスコスクール登録が 1 校しかないため、ユネスコスクールが増えていくことを目的とした講演内容を希望。	・12/21電話で問合せ。可能であると回答。また、外部の講師を招聘した場合の謝金の相場を聞かれ、環境省の規定額を例としてお伝えした。 ・3/26電話でやり取り。ESDやSDGsの基本的内容から原が講師として講演することで了解。以後詳細はメールにて調整。 ・4/15日時の調整。6/6の16:00よりを予定。 ・4/16 再調整。5/20 の 16:00 に変更	5/20 津市中央公民館にて、協会総会後に記念講演として実施。参加者 30 名。
	2019 1/24	企業等	・環境保全活動に取り組んでいる市民活動団体等を紹介してほしい。 ・岐阜県委託業務で環境学習体験ツアーを企画する際に、環境学習の講師を務める NPO もしくは有識者等を紹介してほしい。	・1/24電話で依頼があり、詳細をうかがうため、同日に打合せを設定した。 ・NPO・有識者の紹介は可能であり、具体的にテーマ等が決定した際に、どのような団体・人を知りたいか照会連絡がほしいと伝えた。岐阜県の二人の協働コーディネーターや、ぎふNPOセンターなどがあることを紹介した。 ・1/30に再度、相談したいとの連絡あり、2/6再度連絡があり、来館。具体的に日程、テーマ、講師及び関連資料（参加者への配布資料とバスの中で鑑賞する動画資料）等について相談された。 ・2/6環境省による「プラスチック問題への取組」の話についての可否を、中部地方環境事務所へ確認。2/7揖斐川流域での里山の循環の話について、協働コーディネーター・河合氏に連絡。 ・2/7-8両ツアー講師候補ともお引き受け可能であるとのことを日本旅行へ連絡。河合氏とは直接遣り取りを行っていただくことになった。 ・2/13河合氏から、日本旅行さんと直接連絡を取り、調整中との報告をいただいた。 ・4/11メールにて業務着手の連絡があり、環境省担当者の連絡先をお伝えした。 ・4/22プラスチック問題についてのガイド役・中部地方環境事務所担当者と日本旅行担当者がEPOで打合せを行い、詳細について確認した。 ・5/28電話にて完成したツアーチラシの送付と広報協力依頼があった。	3/6に日本旅行から「平成31年度清流の国ぎふ上下流交流ツアー業務委託事業」プロポーザルで最優秀提案者選定の報告をいただいた。
	2019 3/12	企業等	・水をテーマにした社会貢献活動をしたい。所在地域周辺でパートナーシップを組める NPO 団体をさがしている。	・3/12電話で照会あり。GEOCに照会したところ、EPO中部を紹介され、電話をされた。明日以降、こちらからご連絡差し上げると回答。 ・3/13電話で概要を伺い、その後、事業者担当者から直接連絡があり、来館日の日時設定を行った。 ・3/18来所して具体的にどのような活動、どのようなNPO団体等と連携するかうかがった。はじめから活動等に本格的に参加する形でなく、ネットワーク団体主催イベント等に参加して、連携できる団体とつながりを持つ、または協働コーディネーターを活用して地域貢献活動をコーディネートしていただく方法などを紹介した。一度、具体的にどのような方向性で展開するか社内で確認・検討していただくことになった。 ・3/25メールにて協働コーディネーターとの面談を希望する連絡があり、愛知・岐阜4名のコーディネーターに相談・面談の可否について確認連絡を行った。その後4名とも快諾いただき、日程調整を行った。 ・3/29個別に面談日時を設定。	・4/10 御礼のメールにて、社内で面談結果について検討すると共に、以後は協働コーディネーターと直接連絡をとり、進めていきたいとのコメントをいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				・4/9協働コーディネーター4名との個別面談をEPOにて実施。（※EPOは同席せず当事者同士で面談していただいた。）以後は協働コーディネーターに直接連絡して取組を進めていくことで問題はないことをお伝えした。	
	2019 3/26	地方自治体・行政_首長部局	・COP10の10周年記念イベントの請負業者選定委員を EPO から招聘したい。	・3/26連絡あり。4月に入ってから説明に来館いただけるとのこと。4月初旬に再度連絡いただくことになった。 ・5/7に電話があり、担当者が決定した旨の連絡と共に、関連資料が整理されたため、説明打合せをしたいとのこと。 ・5/9来館して「あいち・なごや生物多様性EXPO（仮）」と今後のスケジュールについて説明いただく。6月上旬以降に選定委員会としての連絡等各種調整を進めていただくことになった。 ・6/3電話で正式な事業認定があったことの連絡があり、事業者選定基準等の説明のための日時設定を依頼された。 ・6/7選定基準等の説明打合せを設定した。	
1	4/9	公益法人_NGO_NPO 等	・主催会合にて、地域の役に立ちたいと考えている人材を対象にした SDGs の説明を行う講師を依頼したい。	・4/9電話にて依頼があり、4/15にEPOへ来所して詳細を説明していただけることになった。 ・4/15来所して、会合の企画内容等を説明。講師役を引き受けて、SDGsをテーマにした講演とディスカッションと共に、中部地方ESD活動支援センターのPRを行うことになった。5/13に企画設定ヒアリングを行った。 ・8/1に来所、当日打合せを実施。	
2	4/10	公益法人_NGO_NPO 等	・学生対象の研修会で SDGs の取組紹介ができる企業を紹介してほしい。	・4/10前年度1/18開催ESDダイアログ登壇・ひだまりほーむ(株)鷲見製材が「SDGs宣言」をしていることを紹介。依頼連絡をしても良いかEPOから確認。 ・4/11(株)鷲見製材から快諾の返信があり、田辺氏に先方の連絡先をメールでお伝えした。 ・4/12田辺氏から追加でSDGsに取り組む企業のコーディネートの取り組みを紹介できる講師の紹介依頼があったため、協働コーディネーター・堺氏を紹介した。また、田辺氏から登壇催事についての詳細資料をメールで送付いただいた。	・5/19EPO 運営会議の場において、田辺氏から鷲見製材の方に登壇いただくことになった旨の報告をいただいた。
3	4/15	公益法人_NGO_NPO 等	コープあいちの交流会で3R の話題提供していただく講師を紹介してほしい。	・内容イメージや詳細について直接の担当者をお話した方がよい、と回答。担当者から電話をいただくこととなった。 ・コープ愛知の大串氏より電話、6月12日の交流会で環境分科会の話題提供の依頼。原が出向くことで対応を予定。組合員の打合せ後近々に連絡をとることで了承。 ・内容について協議、プラスチックのリサイクルを中心に話してほしいとの依頼あり。環境省中部事務所資源循環課河邉様の協力をいただきスライドを準備し先方に送付、調整を依頼（5月7日）。 ・5/29先方が来所。話題提供の内容にSDGsを盛り込むこととする。また意見交換方法について協議。当日は朝から原が現地入りする。	午前中の食育に関する全体講演の後分科会に分かれ環境分科会に「プラスチック問題」に関する話題提供と意見交換会のファシリテーターを務めた。参加者は組合員 25 名を含む 35 名。
4	4/18	地方自治体・行政_首長部局	日進市役所の職員向け（各課より庁内 ESD 委員会へ参加メンバー）に ESD の講演を行ってほしい。	・日程調整の結果5月28日午前中に開催することに決定。原が講師として出向く。 ・中部ESD活動支援センターのESD/SDGsチェックリストの検証ワークショップとして位置づけることを快諾いただく。 ・チェックリストは事前に配布、下書きを記入いただくということで準備を進める。	EPO 中部・協働コーディネーター参加の元、検証 WS として実施。参加者 30 名。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
5	4/19	地方自治体・行政_首長部局	日進市開設の ESD 関連施設に配架するため ESD 関係資料・パンフレット等がほしい。	・4/19メールにて依頼があり、4/24にサンプルを市へ持参し、先方担当者へお渡しした。 ・4/25電話でサンプルの資料全てを30部ずついただきたいとのこと。 ・5/7発送の手配を行った。	・5/8 に御礼の電話があった。
6	4/12	公益法人_NGO_NPO 等	6/15 の推進員研修会での講師をお願いしたい。	・SDGsをテーマとした研修をワークショップ型で行ってほしいとの依頼あり。 ・原が講師として出向くことで対応。 ・地球温暖化とSDGsをテーマに環境コミュニケーションに焦点を当て話題提供するとともにチェックリストも活用したワークショップを実施。検証WSと同じアンケートを実施回収し補足データを収集した。	
7	5/17	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	・金沢のJC、大学生、高校生による SDGs をテーマにしたWGキャンプを EPO と連携して開催したい。	・中部地方環境事務所を介して、詳細を5/17に電話連絡いただく。同日、イベントの連携・支援をお引き受けする形でどのように進めていくか、電話で確認、打合せを行った。 ・8/8-9にキャンプ実施が決定となり、二日目の行程にEPOも出席予定となった。	
8	5/27	公益法人_NGO_NPO 等	学生 15 名程度の人材育成プログラムの連携について、SDGs、地域循環共生圏の関係セミナーを紹介してほしい。来年のプロジェクトの連携先を探したい。	・セミナー情報については、名古屋環境大学、中部地方環境事務所にあたるとSDGs関係セミナーがあるかもしれないとアドバイス。 ・人材育成プログラムの規格コンセプトなども含めて6月3日に来所、相談することで対応。 ・6/3来館し、面談して対応。学生による参加が可能な環境活動、西濃地域でSDGsに取り組む企業、環境イベント等開催時における旅行業関係法との抵触範囲、旅行会社との連携の方法について相談され、当方で認知している範囲でお答えした。 ・対談している中でNPOを対象にしたSDGsセミナー開催案が浮上し、相談者の関係者等に参加ニーズをうかがっていただくことになった。 ・6/5メールがあり、河合氏所属先NPO内では実施したいとの反応があったとの報告をいただいた。 ・6/27企画書を送付して実施のスケジュール調整を依頼	・7 月末に地域 ESD 拠点に登録申請し、8 月の正式に登録された
9	5/31	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	「地球温暖化や環境保全」をテーマにした訪問ゼミの実施を相談したい。	・6/3先方へ愛知県地球温暖化防止活動推進センターによる対応が可能であることと、場所としてEPO利用が可能であることをメールで連絡。了解いただき、依頼者とセンター側担当者で直接日程調整をしていただくことになった。 ・6/12センター担当者から、高校側生徒との日程調整を行い、7/23にEPOで訪問ゼミを実施することになったとの連絡をいただいた。 ・先方の都合により、8/16に日程変更になった。 ・8/16EPOで愛知県温暖化防止活動推進センター担当者によるゼミを実施した。	
10	6/4	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	SDGs について生徒に説明・紹介するため情報を収集したい。	・6/3メールにて揖斐川事業関連の資料等をいただきたいとの連絡があった。 ・6/4来所して、揖斐川事業関連のパンフレット等のほか、SDGs関連の資料のほか、全国ユース環境活動発表大会を紹介し、ぜひ応募いただくよう薦めた。	・翌日 6/5 に御礼メールをいただき、先方へ全国ユース環境活動発表大会の概要がわかる URL を送付した。
11	6/17	地方自治体・行政_首長部局	SDGs をテーマにしたフォーラムの後援依頼をしたい。	・6/17に電話があり、「錦二丁目地区SDGsネットワークフォーラム」の開催にあたり、EPO中部の後援をいただきたいため、その説明に来館したいとの連絡があった。日程調整を行った結果、6/17当日に来館されることになった。 ・来館された際、SDGsがテーマであるため、EPO中部とESDセンター（全国・中部）の後援も行うことが適していること、全国に広報ができること、EPOとESDセンター併記での後援が可能であることをお伝	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				えした。先方もそのように進めたいとの回答があった。また、企業によるSDGsの取組・相談等について、意見・情報交換を行った。 ・9/10全国ESDセンターへの後援申請。 ・9/17チラシの送付があり、企業へのチラシ送付など広報協力をメール、電話で依頼された。 ・9/25チラシ掲載連絡先の誤植について電話連絡があり、訂正を依頼された。	
12	7/1	公益法人_NGO_NPO等	横須賀高校（定時制）の総合学習に講師を派遣してほしい	・温暖化や大気などをテーマとした総合学習への講師派遣依頼に原が対応。9/18夜に実施予定。事前に現地で打合せを行う。 ・8/30、横須賀高校の金子先生が来所。授業内容について打合せ。3限、4限を使い、前半は座学、後半はX博士によるクイズとゲームで構成することとした。 ・9/18、予定通り授業実施。36名の定時制生徒が受講。	
13	7/5	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	訪問ゼミの依頼。	・7/5に電話があり、「海の豊かさ」「海のごみ問題」の話を聞きに、EPOを訪問したいとのこと。「プラスチック問題」の話題提供を行うことになり、7/913:30-14:30に来館することになった。 ・7/9訪問ゼミを実施。ウェブサイトに記事を掲載した。	7/19付けでお礼の手紙を受け取った。
14	7/9	企業等	自治体の施策・計画等へのSDGsの導入の方法、事例について知りたい。	・7/9にメールにて相談依頼があり、7/10に来館して詳細をヒアリングすることになった。 ・7/10来館に対応。先進的な自治体として、SDGs未来都市を中心に紹介し、SDGsの活用方法について提案等行い、自治体側が研修等必要になった場合には、ESDセンター（EPO）を活用いただくよう伝えてほしいとPRを行った。また、関連資料を提供した。（相談者のお子さん向けに子ども向けの環境学習資料類も提供した。）	・7/10終了後、御礼メールをいただいた。
15	7/18	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	学校の授業の一環で、フィールドワークとして訪問したい。海洋汚染（プラスチック問題）について話を聞きたい。	・7/18電話にて訪問の趣旨、聞きたい話のテーマについて連絡と依頼があった。同日中にプラスチック問題について話をするとして、8/5（月）の訪問を受け付けた。 ・8/5訪問があり、1時間強ほど、プラスチック問題、海洋汚染について話をした。 ・講義の間、CSOラーニング生も同席。後日、ウェブに掲載する記事を作成してもらい、掲載した。	
16	8/7	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	愛知県環境コーディネート事業を通じて、総合的な環境学習の3回のうち一回の授業をしてほしいのとこと。	・9/18に他の2回の講師2人とともに現地で打ち合わせ。最後の回として復習を兼ねてSDGsを最後に関連付けるWS型出前講座を学年全体で体育館で実施することとした。 ・11/15に体育館を下見し、詳細を打合せ。2時限を使い、前半を〇?クイズ、後半を地球にやさしくするポスター作りとして構成。 ・11/21実施。およそ100名の児童（3クラス）が参加。	各児童が感想文を書き、講師にお手紙として送付あり。SDGsが地球と関係する重要な目標であることの理解を促進。
17	9/2	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	2020年4月に中学校の遠足でESDセンターを訪問したい。	・9/2 2年生全学年100人のうち30人程度で訪問したい（他の生徒はJICA等他の施設を訪問）、2時間程度しっかり勉強したいとのこと。せまいのでぎっしりの座学になるが対応したいと返答。詳細はメールでやりとりしたいので、送ってもらえるよう当方のアドレスを伝達。 faxで以来文書を受け取り。4月22日（水）で日程をフィックス。 ・2/19電話連絡があり、スケジュール等を確認。年度末に下見をしたい(3月24日予定）。 ・2/27電話連絡あり。コロナウイルスの影響により秋に延期。年度明けに相談したいとのこと。	
18	9/9	初等・中等教育関係機関・	9月末に学園祭があり、環境問題について企画を立てている。今	・9/1116:30生徒数名と来所することで調整。 ・当日小野先生と女子生徒3人が来所。環境問題に関する情報提供を行う。また学園祭に向けた出展	10/10小野先生よりお礼のメールを受領。同時に企画に助

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
		ネットワーク_社会教育施設等	週、生徒数名と共にEPOを訪問し、資料収集と話をうかがいたい。	企画についてブレーンストーミングを実施。	言した文化祭の結果報告をいただく。EPO中部に取材に来たことを含め全校に紹介した模様。
19	9/5	公益法人_NGO_NPO等	タイムカプセル開封記念イベントin東山動植物園への後援申請とイベントへの参加を依頼された。	・9/5メールにて昨年同様に後援申請する旨の連絡と、当日の参加を依頼された。イベント開催日11/16が当センター主催ESDダイアログの開催日であるため、イベントにはインターンの学生が取材を兼ねて参加できるよう調整する旨を回答した。 ・しかしその後、学生に参加の可否を確認したが、所用により参加できないことが確定した。 ・9/10全国センターから後援申請受理の通達があった。	
20	9/19	その他	ESD学びの場づくりガイドブックを入手したいとの依頼があった。	・9/18に環境省から残部数の確認と共に、名古屋市在住の市民から入手希望の問合せがあったためEPO中部を案内するとの連絡があった。 ・9/19ご本人から電話があり、ガイドブックの本編5冊と概要版10冊を入手したいとのこと。概要版がまだEPOに到着していなかったため、週明けに再度確認・連絡をいただいてから、来館していただくよう案内した。 ・9/24概要版がEPO中部に到着。 ・9/25ご本人から電話があり、概要版の到着をお伝えしたところ、その当日のうちに来館されて、本編・概要版を提供した。	
21	9/30	企業	「ジャパンSDGsアワード」への応募のために、社の重点として打ち出す方法・内容に悩んでおり、相談にのっていただきたい。	電話で意見として以下を助言 ・自社が県産材を使って取り組んだことをベースに、様々な協働やネットワークが形成されていることが、多くの目標に貢献していることをわかるようにしたらどうか。 ・普通の企業がまじめに社会市民として取り組むことが重要であると表現するとよいのではないか。	
22	10/23	企業等	中部社で行う12のの販売店連合会長を含む50名に20分のCOOL CHOICEの講演をしてほしい。	講演者として原が対応する。目的は省エネ型買い換えキャンペーンに販売店が協力するよう各連合の会長に意識してもらうということを確認。このためSDGsとパリ協定から入り、販売業務が世界に貢献するというストーリーで話を組み立てる。日時は11月19日13:45～。堀田近くの会場にて実施。	
23	10/2	地方自治体・行政_首長部局	春に行ったSDGsの講演WSの内容で違う職員を対象にもう一度行ってほしい	講演者として原が対応する。SDGsチェックリストの改訂版とパッケージ改良版のテストを兼ねて11/25午前中に実施することとした。	11/25実施。アンケートを回収。CL検証の一助とする。
24	11/19	企業等	11/19の講演を、愛知連合に対して実施してほしい	講演者として原が対応する。11/19と同じ内容とする。	
25	11/26	公益法人_NGO_NPO等	ガスのCO2換算について計算式と根拠の確認をしたい	日本LPガス協会の資料を出典にするとよいことをメールにて助言。	
26	11/25	その他	福井県年縞博物館を拠点にしたインターン大学生受け入れのための企画について相談したい。	・11/15に来館されてご挨拶をした。 ・11/25にメールがあり、再度来館し、インターン受け入れ企画について相談したい旨の連絡があった。 ・12/4に来館し、インターン企画についての詳細や年縞博物館の名古屋圏でのイベント企画の方法などについて情報交換を行った。EPOは、運営会議の大学の先生などに同インターンの企画紹介などが可能であり、春までに企画が固まれば、次年度の第1回目の運営会議で先生方に企画を紹介できる	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				旨をお知らせし、またEPOのウェブサイト等で広報協力できることをお伝えした。	
27	12/1	公益法人_NGO_NPO等	愛知県と共催で行う推進員と行政の交流フォーラム（名古屋、豊橋の2回）でSDGsとCOOL CHOICEの関連した企画の相談に乗ってほしい。	・企画委相談に対応SDGsとCOOL CHOICEの関連したディスカッションの内容について企画。 ・原が講師とファシリとして対応することで了解。	
28	12/9	企業等	愛知県ユネスコスクール活動事例集（冊子）の関係団体紹介ページに、昨年度に引き続き今年度版にも中部地方ESD活動支援センターを掲載したいため、原稿確認を依頼したい。	・12/9メールで依頼があった。 ・同日中に、添付されていた原稿を確認し、SDGsチェックリスト、ワークシートの作成・配布を行っている一文を追加・修正して、先方へ返信した。	
29	12/16	公益法人_NGO_NPO等	SDGsチェックリストWSを豊田市で横展開したい	・具体的な話があればいつでも相談してほしいとメールで連絡。 ・先方より「豊田市内には1万社、中小零細企業があり、豊田市のSDGsを進めていくにあたり、いい球だと感じた。横展開できる機会があれば、主体的に動きたい」との返信あり。	
30	12/13	地方自治体・行政_首長部局	あいちeco ティーチャー 交流会への講師派遣について、依頼したい。	・原が講師として対応。 ・12/19に打ち合わせ。3月8日午前中に45分の枠で環境コミュニケーションとESD に関する講義を行うこととする。 ・2/27新型コロナウイルスにより中止の連絡あり	
31	12/24	その他	3/9開催の学習会にSDGsをテーマに講師を派遣してほしい	・原が講師として対応することで了解。	
32	12/26	公益法人_NGO_NPO等	4/18or19の気候変動ワークショップの話題提供をしてほしい	・原が話題提供者として対応することで了解。 ・テーマについて具体的に示してもらうよう依頼 ・日程を4/18で調整いただくよう依頼	
33	1/6	地方自治体・行政_首長部局	学区連絡協議会の来年度に学区の50周年記念に、地域の住民を対象とした環境勉強会でSDGsのWS開催ができないか	1/6メールで以下を返信 ・チェックリストをはじめとするツールパッケージの展開そ考えているので協働できたらよい。 ・1/31のワークショップに参加するとのことなので、その時に詳しい話を聞きたい。	
34	1/10	その他	環境フェア（3月に大垣で開催）のブースで、一般市民向けのSDGs/ESDの資料を紹介したいと考えているが、20部程度いただくことは可能か	・1/10に、先方から具体的に要望のあった環境省発行の資料(※1)にSDGs/ESDの関連資料等を加えて送付。 ・国連広報センター発行の資料URL(※2)を紹介し印刷したものを併せて送付。 (※1) ・概要版「～SDGs達成に向けた～持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくりガイドブック」 ・「持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド」 (※2) ・「ゴー・ゴールズ!」 ・「持続可能な社会のために ナマケモノにもできるアクション・ガイド」	・1/14、資料受取と御礼の電話あり。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
35	1/21	地方自治体・行政_首長部局	(1)昨年5月に入手した資料(2点)の追加送付を要望。(2)窓口案内用にESD/SDGs関連の参考資料があれば入手したい(生徒/親子/一般/職員用)。	●『ESDが大切にしていること ESD BOOK』、『SUSTAINABLE BOOK 未来を創るための本』について在庫僅かのため送付は難しいこと、附属シールは在庫があり送付が可能である旨回答。 ●以下の資料を送付〔( )内の数字は数量〕 『ESDが大切にしていること ESD BOOK 』シール(20)、『こども環境白書2019』環境省(10)、“子どもeco検定”公式テキスト『地球教室 2019【基礎編】【応用・研究編】』朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会(各10)、『持続可能な未来のための地域循環共生圏 令和元年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』環境省(10)、『～SDGs達成に向けた～持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくり ガイドブック』【概要版リーフレット】【ガイド】環境省(各10)、『すべての企業が持続的に発展するために 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド』【リーフレット】【ガイド】【資料編】環境省(各10)、『やさしい 未来に…』EPO中部(10)、『地域版ESD環境教育プログラムガイドブック』・『ESD環境教育モデルプログラムガイドブック』環境省(各5)、『ユネスコスクールで目指すSDGs 持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development』文部科学省/日本ユネスコ国内委員会(10)、『学びから行動へ! 持続可能な社会を支える「行動する人づくり」～愛知県環境学習等行動計画2030～』(リーフレット)愛知県環境活動推進課(10)、『協働授業づくりハンドブック』【～教員・保育者の皆さんへ～】【～事業者・NPO・高等教育機関・行政等の皆さんへ～】愛知県環境活動推進課(各10) ●国連広報センター発行の資料のURLを紹介し印刷したものを併せて送付;「ゴー・ゴールズ!」「持続可能な社会のために ナマケモノにもできるアクション・ガイド」	・1/24、資料受取と御礼の電話あり。
36	1/21	企業等	CSOラーニング制度の受け入れ団体となる名古屋近郊に所在するNPOの紹介。	・「なごや環境大学」を紹介。 ・同ガイドブックに該当する団体が多数掲載されており、適当する団体の主催する講座内容から団体の活動内容等も推察できることをお答えした。	
37	1/31	企業等	・3/11開催「環境ダイアログ」への出席メンバーとしてNPO等地域活動者1-2名を推薦・紹介してほしいとの連絡があった。	・1/31にメールで依頼があり、該当者がありしだい連絡する旨を返信した。 ・候補となりそうな方との調整を行った上で、2/13に愛知県地球温暖化防止活動推進員1名を参加者として推薦した。以後は両者間で直接連絡等やり取りを行っていただくことになった。また、昨年度紹介した中部大学からも参加者が得られたことの報告をいただいた。 ・推薦した方へのご案内メールがCCでEPOにも送信いただいた。 ・3/2新型コロナ感染拡大防止のため中止の連絡あり。	
38	2/19	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	新年度入学1年生の対象のESD展開相談と講師の紹介要請。	・ESDカレンダー活用を提案。 ・1年生(環境)2年生(社会)3年生(経済)と段階的に発展させることについて総合学習で取組む企画に賛同。 ・1年生当初のSDGsキックオフ授業という位置づけ授業講師を外部から呼ぶについては愛知県環境コーディネート事業の活用を提案。 ・豊田市環境政策課と接触があることについて拡大し、エコットやエコライフセンターを活用することを助言。 ・2/20メールで連絡あり。愛知県の環境学習コーディネート事業に申し込むとのこと	
39	3/2	初等・中等教育関係機関・	2020年10/8に中学校の校外学習でESDセンターを訪問したい。	・4/22に当初予定していた(コロナウイルス影響で中止)訪問の日程調整 ・10/8に受け入れることで回答	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
		ネットワーク_社会教育施設等			
40	3/8	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	新1年生に対する総合学習のESD講師をお願したい。希望時期4/30	・原が講師として対応する。 ・愛知県環境学習コーディネート事業のマッチング ・3/31EPO中部に相談者来訪打合せ	

イ　対話の体制の構築

（ア）会議等の招聘・委嘱

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが招聘された会議等は次の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。また、セミナー・フォーラム等開催の機会に、関係自治体を訪問し、意見交換等を行った。

【会議・セミナー等への招聘・委員委嘱等】

	県区分	主体		名称	開催日	職名	参画者
1	愛知	自治体	名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会	4/17	委員	顧問　児玉剛則
2	三重	ユネスコ協会	津ユネスコ協会	総会後の講演（ESD/SDGs/ユネスコスクール）	5/20	講師	ESD責任者　原理史
3	愛知	自治体	日進市環境課	日進市職員ESD基礎研修	5/28	講師	ESD責任者　原理史
4	愛知	自治体	愛知県	ユネスコスクール支援会議	①6/5 ②12/20	委員	ESD責任者　原理史
5	愛知	生活協同組合	コープあいち	組合員交流会環境分科会話題提供	6/12	講師	ESD責任者　原理史
6	岐阜	一般財団	岐阜県公衆衛生検査センター	岐阜県地球温暖化防止活動推進員研修会	6/15	講師	ESD責任者　原理史
7	愛知	自治体	名古屋市	あいち・なごや生物多様性EXPO（仮称）運営業務委託事業者評価委員	7/26	委員	顧問　児玉剛則
8	愛知	株式会社	アイサク	安全大会における省エネ活動推進の意義についての話題提供	7/30	講師	ESD責任者　原理史
9	長野	大学	信州大学	信州ESDコンソーシアム　令和元年度通常総会	8/24	構成員	ESD責任者　原理史
10	愛知	一般社団	日本体験学習研究所	未来を創る人の「輪」プロジェクト講座第3回	8/31	講師	ESD責任者　原理史
11	愛知	高校	横須賀高校	地球温暖化問題に関する講義とWS	9/18	講師	ESD責任者　原理史
12	愛知	企業	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	中部パナソニック連合会	11/19	講師	ESD責任者　原理史
13	愛知	自治体	日進市環境課	日進市職員ESD研修	11/25	講師	ESD責任者　原理史
14	愛知	企業	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	愛知パナソニックショップ連合会　新年会議	1/9	講師	ESD責任者　原理史
15	愛知	自治体、一般社団	愛知県、環境創造研究センター	地球温暖化防止活動推進員と行政の交流フォーラム	1/14、1/23	講師、ファシリ	ESD責任者　原理史
16	愛知	自治体	愛知県環境活動推進課	あいちeco ティーチャー　交流会	3/8	講師	ESD責任者　原理史
17	愛知	任意団体	日進消費生活研究グループ	定例学習会	3/9	講師	ESD責任者　原理史

※　16, 17：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

【そのほか意見交換や業務説明等の実施】

県	日付	主体	担当部署等	実施内容
愛知	5/28	日進市	市民生活部	意見交換、情報交換
長野	5/23	長野県	林務部信州の木活用課、林務課	同時解決事業についての説明、今後の協力依頼
福井	6/13	福井県	安全環境部	意見交換、情報交換
長野	7/3	飯山市	市長、副市長、経済部農林課、民生部保健福祉課、総務部企画財政課	同時解決事業、地域循環共生圏についての説明、今後の協力依頼
愛知	7/9	なごや環境大学	なごや環境大学実行委員会事務局	「環境白書から実践へ」特別公開講座
愛知	7/18	中部ESD拠点協議会	中部大学国際ESD・SDGsセンター	サステナ政策塾第2回参加
愛知	7/7	コミュニティ政策学会	第18回　学会大会（犬山）事務局	シンポジウム参加

県	日付	主体	担当部署等	実施内容
中部	7/24	中部地方環境事務所	環境対策課	第16回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
石川	8/9	金沢青年会議所	（金沢大学・河内氏）	SDGsキャンプでEPOの紹介
長野	8/28	飯田市	企画課林補佐、環境課福澤係長、教育委員会、信州大学水谷先生	意見交換、ダイアログ企画
愛知	8/30	中部ESD拠点協議会	中部大学国際ESD・SDGsセンター	サステナ政策塾第3回参加
長野	11/16	飯田市	市長、総合政策部企画課	意見交換、情報交換
長野	11/29	根羽村森林組合	総務課	地域ESD拠点登録に関する情報提供

（イ）EPO 中部によるイベントの後援等

① 後援依頼

※　中部地方 ESD 活動支援センターによる後援については、申請手続を ESD 活動支援センター（全国センター）が一括して行っているため、「5(4)ア.全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携」の項目で整理した。

申請主体（行事主催者）：錦二丁目まちづくり協議会
申請行事：錦二丁目地区 SDGs ネットワークフォーラム
行事開催日：10 月 23 日
＊依頼者は名古屋市環境局環境企画課施策推進係で、中部地方 ESD 活動支援センター（ESD 活動支援センター）による後援も可能であることを紹介したところ、後日、センターへの申請が行われ、受理された。

申請主体（行事主催者）：愛知県地球温暖化防止活動推進センター
申請行事：SDGs・気候変動対策 交流フォーラム
行事開催日：名古屋会場 1 月 14 日／豊橋会場： 1 月 23 日

② 協力依頼

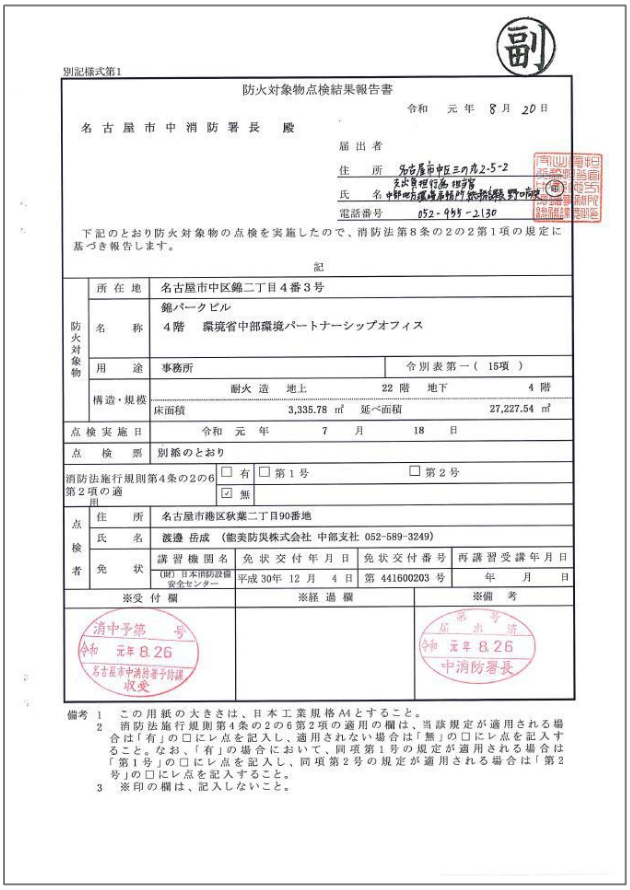
申請主体（行事主催者）：NPO 法人泉京・垂井
申請行事：山川里海 情報交流会&グリーン連合シンポジウム
行事開催日：2 月 8 日

(3)施設の維持・管理

ア　オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、昨年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 7 月 18 日に実施されたビル内一斉の防火・防災点検検査にも対応の上、消防署への書類提出対応等も行った。
- 定期的に（週 2 回程度）、防火・防災に関わる身のまわりのチェックを実施している。
- いずれの関係書類も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。
- 11 月 29 日に実施された入居ビル主催の全館防災訓練にも参加した。

【防火・防災点検結果報告書】



副

別記様式第1

防火対象物点検結果報告書

令和　元年　8月　20日

名古屋市中消防署長　殿

届出者

住　所　名古屋市中区三の丸2-5-2

氏　名　支出負担行為担当官 中部地方環境事務所総務課長 野口尚史　㊞

電話番号　052-955-2130

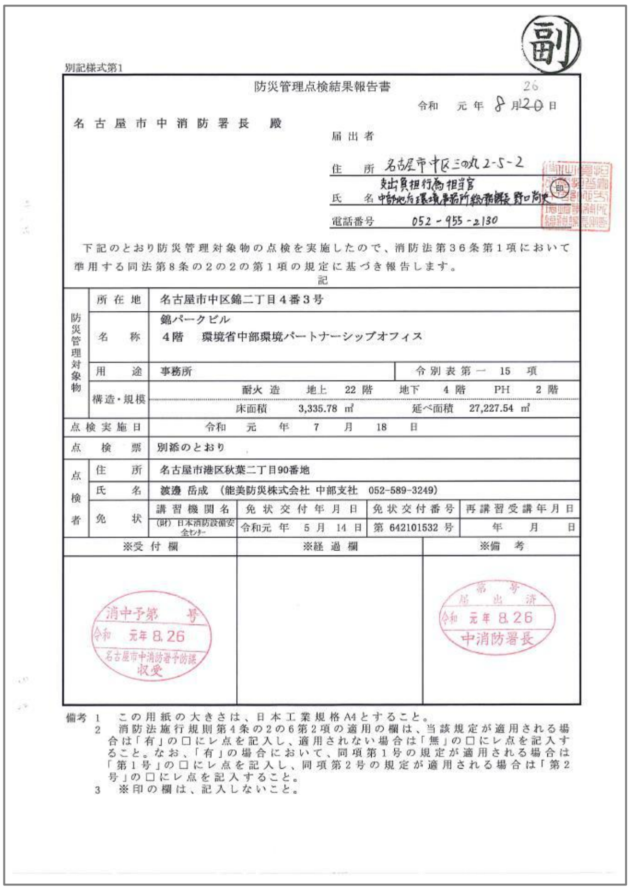
下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記

防火対象物	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号
	名称	錦パークビル 4階　環境省中部環境パートナーシップオフィス
	用途	事務所　　令別表第一（15項）
	構造・規模	耐火造　地上 22階　地下 4階 床面積 3,335.78 ㎡　延べ面積 27,227.54 ㎡
点検実施日		令和　元年　7月　18日
点検票		別添のとおり
消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用		□ 有　□ 第1号　□ 第2号 ☑ 無
点検者	住所	名古屋市港区秋葉二丁目90番地
	氏名	渡邉 岳成　（能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249）
	免状	講習機関名：(財) 日本消防設備安全センター 免状交付年月日：平成30年 12月 4日 免状交付番号：第 441600203 号 再講習受講年月日：年　月　日

※受付欄	※経過欄	※備考
消中予第　号 令和 元年 8.26 名古屋市中消防署予防課 収受		第　号 届出済 令和 元年 8.26 中消防署長

備考　1　この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2　消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。
3　※印の欄は、記入しないこと。



副

別記様式第1

防災管理点検結果報告書

26

令和　元年　8月20日

名古屋市中消防署長　殿

届出者

住　所　名古屋市中区三の丸2-5-2

氏　名　支出負担行為担当官 中部地方環境事務所総務課長 野口尚史　㊞

電話番号　052-955-2130

下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2の第1項の規定に基づき報告します。

記

防災管理対象物	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号
	名称	錦パークビル 4階　環境省中部環境パートナーシップオフィス
	用途	事務所　　令別表第一 15 項
	構造・規模	耐火造　地上 22階　地下 4階　PH 2階 床面積 3,335.78 ㎡　延べ面積 27,227.54 ㎡
点検実施日		令和　元年　7月　18日
点検票		別添のとおり
点検者	住所	名古屋市港区秋葉二丁目90番地
	氏名	渡邉 岳成　（能美防災株式会社 中部支社　052-589-3249）
	免状	講習機関名：(財) 日本消防設備安全センター 免状交付年月日：令和元年 5月 14日 免状交付番号：第 642101532 号 再講習受講年月日：年　月　日

※受付欄	※経過欄	※備考
消中予第　号 令和 元年 8.26 名古屋市中消防署予防課 収受		第　号 届出済 令和 元年 8.26 中消防署長

備考　1　この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2　消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。
3　※印の欄は、記入しないこと。

イ　施設・設備の維持管理

- 当施設の2019年度の来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は次の通りであった。

※　いずれも「3月」の数値は3月13日時点で集計を行った。

【施設の運用状況・使用状況等（2019年度）】

	業務実施日数・計（日）	開館日数・計（日）	来館者数・計（人）		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数（件）		スタッフ体制・計	
				日平均（人/日）		日平均（人/日）		日平均（件/日）		日平均（人/日）
4月	20	20	22	1.1	10	0.5	32	1.6	60	3.0
5月	19	19	21	1.1	13	0.7	22	1.2	61	2.7
6月	22	19	25	1.3	17	0.9	33	1.7	68	2.8
7月	24	22	34	1.5	14	0.6	22	1.0	80	3.0
8月	18	18	37	2.1	17	0.9	12	0.7	68	2.6
9月	22	19	28	1.5	13	0.7	20	1.1	75	3.4
10月	21	21	23	1.1	14	0.7	13	0.6	79	3.3
11月	25	21	27	1.3	15	0.7	15	0.8	88	2.6
12月	24	20	19	1.0	17	0.9	16	0.8	72	2.9
1月	19	19	11	0.6	8	0.4	25	1.3	57	2.5
2月	20	18	16	0.9	5	0.3	21	1.2	50	2.4
3月	10	10	6	0.6	4	0.4	5	0.5	26	2.6
計	244	226	269	1.2	147	0.7	236	1.0	784	3.5

【参考：前年度・2018 年度実績】

	業務実施日数・計（日）	開館日数・計（日）	来館者数・計（人）		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数（件）		スタッフ体制・計	
				日平均（人/日）		日平均（人/日）		日平均（件/日）		日平均（人/日）
4 月	20	20	30	1.5	18	0.9	9	0.5	53	2.7
5 月	22	20	33	1.7	20	1.0	14	0.7	52	2.6
6 月	23	20	31	1.6	10	0.5	9	0.5	71	3.6
7 月	22	20	18	0.9	10	0.5	6	0.3	61	3.1
8 月	25	18	13	0.7	9	0.5	5	0.3	51	2.8
9 月	19	18	24	1.3	10	0.6	5	0.3	57	3.2
10 月	27	21	31	1.5	17	0.8	6	0.3	63	3.0
11 月	31	20	9	0.5	7	0.4	7	0.4	58	2.9
12 月	21	19	52	2.7	22	1.2	7	0.4	62	3.3
1 月	21	19	17	0.9	9	0.5	15	0.8	64	3.4
2 月	23	19	18	0.9	10	0.5	18	0.9	54	2.8
3 月	25	14	15	1.1	8	0.6	13	0.9	43	3.1
計	279	228	291	1.3	150	0.7	114	0.5	689	3.0

【来館内容】

◎相談・問合せのための来館

4 月	1 件	・地域 ESD 拠点の団体が SDGs をテーマにしたセミナーでの講師を依頼するため来館
5 月	1 件	・コープあいち話題提供打合せ
6 月	5 件	・NPO がプロジェクトの連携先について相談のため来館 ・三重県の高校の先生が来訪されて情報収集と意見交換 ・中間支援組織が開催講座の説明と広報協力依頼のため来所 ・企業財団が事業説明（広報協力依頼）のため来館 ・自治体が SDGs をテーマにしたフォーラムの EPO 中部による後援依頼の相談・説明のため来館
7 月	1 件	・コンサルタント会社が自治体による施策への SDGs 導入方法についての相談
8 月	1 件	・ESD 拠点団体と SDGs の講座について打合せ
9 月	2 件	・高校の文化祭発表のための情報提供 ・ESD 学びの場づくりガイドブック（本編・概要版）の入手
10 月	1 件	・企業からの COOL CHOICE の講演依頼の相談
11 月	1 件	・企業から事業連携についての相談
12 月	1 件	・博物館でのインターン学生受け入れの企画、広報についての相談
1 月	1 件	・企業財団の学生インターン制度についてのヒアリングと名古屋近郊 NPO の紹介
2 月	0 件	
3 月	0 件	
計	**15 件**	

◎会議・打合せによる EPO 施設の利用のための来館

4 月	8 件	・中部地方環境事務所との定例打合せ（2 件） ・愛知・岐阜を拠点にする企業が水資源をテーマにした地域活動団体との連携方法についてと協働コーディネーター4 名に相談する個別面談を実施（4 件） ・岐阜県環境学習ツアーでのプラスチック問題ガイドの打合せ（中部地方環境事務所、旅行会社） ・同時解決・連絡会①
5 月	6 件	・COP10 記念イベント業者選定委員に関する説明打合せ ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・地域 ESD 拠点 JIEL との登壇セミナーに関する打合せ ・環境創研顧問による打合せ利用 ・セミナー開催企画に関する打合せ利用 ・ナッジ WG の開催利用
6 月	3 件	・中部地方環境事務所との定例打合せ

		・本省民活室、中部地方環境事務所との打合せ ・市民協働のあり方について（話合い・情報提供）
7 月	4 件	・高校生の勉強会（プラスチックごみ問題など） ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・SDGs ツール作成 WG 第 1 回ミーティング ・高校生の勉強会（地球温暖化など）
8 月	5 件	・中学生の訪問ゼミ（テーマ：海洋汚染） ・環境学習事業について自治体・講師等の打合せ ・愛知県地球温暖化防止活動推進センターによる高校生の訪問ゼミ利用 ・地域循環共生圏づくり研究会の第 1 回会議の開催 ・愛知県コーディネート業務打合せ
9 月	4 件	・中部地方環境事務所との定例打合せ ・温暖化防止活動に関わる団体による会議利用 ・CSO ラーニング生による定例会 ・CSO 事務局財団担当者との打合せ
10 月	3 件	・中部地方環境事務所との定例打合せ ・SDGs チェックリスト作成ＷＧ ・団体による企画委員会
11 月	3 件	・温暖化センター事務局長の会議 ・愛知県センターCOOL CHOICE 普及啓発ナッジ活用研究の WG 打ち合わせ ・自治体との打合せ
12 月	2 件	・EPO ウェブサイトのリニューアル方法に関する打合せ ・社史編纂打合せ利用
1 月	2 件	・座長打合せ（EPO 運営会議） ・自治体の環境審議会打合せ
2 月	1 件	・第 3 回地域循環共生圏づくり研究会
3 月	3 件	・第 2 回情報交換会（域循環共生圏づくりプラットフォーム事業成果報告会）のウェブ会合（2 件） ・地域循環共生圏ブロック会議（web）
計	**44 件**	

◎その他の来館

4 月	1 件	・「環境デーなごや」と関連した取組についてのヒアリング
5 月	6 件	・ESD ダイアログ登壇者の企業が、商工会議所関係会議で使用する SDGs ガイドブックを貰い受けに立ち寄り ・PC、ネットワーク、データバックアップについて確認打合せ ・CSO ラーニング制度応募者の学生との面接 ・SDGs 関連の資料収集 ・青年会議所が SDGs ガイドブック等関係資料・パンフレットの受け取り ・資料配架依頼
6 月	9 件	・情報収集（2 件） ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（2 件） ・新スタッフの面接 ・PC に関して相談するため契約業者の専門家が来館（2 件） ・新しいスタッフの面接、業務引き継ぎ ・情報誌配架依頼
7 月	9 件	・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（4 件） ・情報収集（4 件） ・オフィスの防火・防災点検
8 月	11 件	・CSO ラーニング生の研修（7 件） ・情報収集（4 件）
9 月	7 件	・CSO ラーニング生の研修（6 件） ・情報収集
10 月	10 件	・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（7 件） ・情報収集（2 件） ・スタッフ面接
11 月	11 件	・EPO 関東との情報交換 ・情報収集（2 件） ・今後の広報協力依頼、インターン募集の大学等呼びかけ先の紹介依頼 ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（4 件） ・企業による社史ヒアリングで使用

		・自治体から環境学習講座（チラシ）の配架依頼 ・NPO 法人より、月刊誌の配架依頼
12 月	14 件	・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（8 件） ・情報収集（2 件） ・SDGs に関する資料集め ・資料受取（2 件） ・NPO 法人より、月刊誌の配架依頼″
1 月	5 件	・CSO ラーニング生の研修(2 件) ・情報収集 ・地域循環共生圏づくり事例ヒアリング ・NPO 法人からイベントチラシ配架依頼
2 月	4 件	・地域循環共生圏づくり事例ヒアリング ・情報収集 ・NPO 法人から情報誌の配架依頼 ・「生物多様性」に関わる NPO 活動の参考になる情報を収集
3 月	1 件	・情報収集
計	**88 件**	

【メール・電話による相談・問合せ内容】

4 月	32 件	・県教育委員会からユネスコスクール支援会議出席に関する電話連絡 ・NPO からイベントのチラシ配架依頼のメール ・愛知県から環境学習コーディネート業務に関する問合せの電話（2 件） ・ＥＰＯの施設についての問合せ ・企業設立財団から環境インターン募集の広報依頼 ・相談企業から協働コーディネーターとの面談に関する連絡 ・メルマガの登録情報変更の問合せメール ・地域 ESD 拠点から SDGs をテーマにした講師依頼の電話 ・愛知県から環境学習コーディネート業務に関する問合せ電話（3 件） ・NPO から SDGs の取組紹介ができる企業照会の依頼電話 ・相談依頼企業から EPO での協働コーディネーター面談設定に対する御礼メール ・SDGs の取組紹介ができる企業照会に関する詳細のメール連絡 ・旅行会社から環境学習ツアーの講師との調整についてメール連絡 ・観光農園運営に関係している企業からの EPO 照会についてメール報告 ・旅行会社と中部地方環境事務所によるミーティングスペース利用予約の電話連絡 ・旅行会社から依頼対応に対する御礼のメール連絡 ・NPO から SDGs に取り組むコーディネーター照会を依頼する電話連絡 ・NPO へ紹介した協働コーディネーターから快諾と御礼のメール連絡 ・三重県のユネスコ協会総会時の講演（講師依頼あり）の日時決定の電話連絡 ・愛知県の生協関係者から講師依頼の電話問合せ ・生協関係者（セミナー主催者）から詳細確認の電話連絡 ・三重県のユネスコ協会から総会での講演講師について確認のための電話 ・愛知県から愛知県環境学習コーディネート業務に関する電話連絡 ・水銀廃棄物（蛍光灯）の扱いについての問合せ電話 ・企業財団から環境インターン制度の面接等に関するメール連絡 ・自治体から ESD 関連パンフレット送付の依頼メール ・白山自然保護官事務所から写真展開催の広報協力の依頼メール ・ユネスコスクール協会事務局からの登壇講演に関する連絡メール ・公益財団から海外研修に関する周知協力依頼
5 月	22 件	・自治体のイベント運営事業者選定に関わる依頼事項の電話連絡 ・自治体から ESD 関連資料・パンフレット送付に対する御礼・確認の電話連絡 ・企業（ESD ダイアログ登壇者）から SDGs ガイドブックの問合せ電話 ・大学から SDGs 関連の講演会について広報依頼 ・一般の方から騒音の測定方法についての問合せ ・NPO からイベントの広報協力依頼 ・大学から金沢の JC・大学生・高校生による SDGs キャンプイベントの開催協力の依頼の電話連絡 ・動物愛護法についての問合せ ・企業から SDGs ガイドブックについての問合せ電話 ・プラスチック問題に対するアイデア提言をしたいとの電話連絡 ・Green Gift(長野イベント）についての問合せ ・団体から冊子配架依頼 ・SDGs と地域循環共生圏をテーマにしたセミナー等についての問合せ電話

		・生協関係者からセミナーについての電話連絡（2 件） ・旅行会社から以前に相談対応した県事業の環境学習ツアーのパンフレット送付の電話連絡 ・CSO ラーニングキックオフ開催についてメール連絡 ・グリーンギフト関連イベントの開催広報の依頼メール ・環境アセスメントについて問合せ ・国立公園・国定公園の隣接地の木が伐採され太陽光パネルが設置されたことに関する苦情 ・高校からゼミ研究活動訪問のお願いについてメール連絡 ・NPO から活動に関する参加募集広報依頼のメール連絡
6 月	33 件	・産業廃棄物の処分の許可証についての電話問合せ ・高校から情報収集と訪問についてメール問合せ ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価委員についての電話連絡 ・高校からゼミ研究活動訪問についてメール連絡 ・ゴミ袋の配布（ボランティア清掃）についての電話問合せ ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価の評価基準等の説明打合せの日程調整の電話連絡 ・前日来館した三重県の高校の先生から御礼メール ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価に関する連絡 ・大学より SDGs パートナーシップ構築に関するイベント支援についての電話連絡 ・先日相談対応した NPO から SDGs ワークショップの開催ニーズについての前向きなメール連絡 ・イベント広報依頼 ・ESD ダイアログ①福井についての問合せ電話 ・企業財団から事業説明のための来館のアポイントメント電話 ・6/13ESD ダイアログ登壇者からの電話・メールの資料確認連絡（4 件） ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価に関する連絡 ・6/13ESD ダイアログ登壇者からの電話・メールの資料確認連絡 ・生協関係者からセミナーについての電話連絡 ・自治体からイベント周知依頼 ・団体からイベントへの補助金について電話連絡 ・自治体からの電話連絡 ・温暖化防止活動推進センターが高校 2 校へのガイダンスに EPO 使用を電話・メールで依頼 ・10/12ESD ネットワークフォーラム登壇者からの日程調整結果のメール連絡 ・8/8ESD ダイアログ②金沢に関する事務局メール連絡 ・ペットボトル問題に対して意見を述べたいとの電話連絡 ・中部地方環境事務所の連絡先を知りたいとの電話 ・依頼者自治体からコーディネート業務に関連して電話連絡 ・自治体から 8/8 開催イベント周知についての電話照会 ・依頼者自治体からコーディネート業務に関連して電話連絡 ・団体からイベント活動のお知らせメール ・大学関係協議会からセミナーの広報協力依頼メール
7 月	22 件	・CSO ラーニング制度について主宰財団からの問合せ ・講師依頼のあった生協関係者から電話連絡 ・自治体の HP 上における中部地方 ESD 活動支援センターのリンク掲載の可否について電話照会 ・COP10 記念イベント事業者選定委員に関する自治体から電話連絡自治体から電話連絡 ・関東 ESD 活動支援センターから問い合わせ ・一般市民から近辺の花が枯れてきたことについて電話による問合せ ・NPO 団体からグリーンギフトに関する電話連絡 ・高校生の打合せスペース利用について電話照会 ・高校生から訪問ゼミの依頼の電話 ・団体から環境保護基金について広報依頼メール ・企業から SDGs についての相談メール ・基金募集広報の依頼メール ・一般の方から国道沿いの樹木の管理について電話問合せ ・団体から 8/8ESD ダイアログの電話問合せ ・高校のフィールドワークで海洋汚染の話を聞きに EPO を訪問したいとの電話依頼 ・企業から事業について Web への情報掲載依頼 ・8/29SDGs 検証ワークショップについて関係者から電話連絡 ・企業から助成金について Web への情報掲載依頼 ・地球環境基金について機構からの電話・メール連絡(2 件) ・NPO から広報資料の配架について電話照会 ・自治体から同時解決事業について問合せの電話
8 月	12 件	・ESD 拠点団体と SDGs の講座の打合せについての電話連絡 ・団体から助成金広報依頼メール

		・団体から後援名義申請の手続き方法と申請書類（フォーマット）の入手方法について電話照会 ・環境学習コーディネート事業について団体から電話連絡 ・NPO からのイベント広報依頼メール ・団体から助成金広報依頼メール ・行政より EPO の打合せ利用申請の電話 ・企業から助成金の広報依頼メール ・行政よりイベント広報依頼メール ・行政より EPO の打合せ利用についての（キャンセルの）電話 ・行政から環境学習コーディネート事業について電話 ・団体からイベントについて広報依頼の電話・メール
9 月	20 件	・中学校から校外学習による ESD センター訪問についての電話問合せ ・NPO からイベントの広報協力依頼のメール ・自治体から環境政策に関する電話問合せ ・高校から ESD センターへの訪問・講義の依頼電話 ・自治体からイベント後援申請についての確認のメール・電話連絡 ・CSO ラーニング生定例会についての電話連絡 ・自治体からイベント広報協力依頼の電話・メール ・団体からイベント広報協力依頼のメール（2 件） ・地球温暖化に関する問い合わせ ・団体からイベント広報協力依頼のメール ・ESD 学びの場づくりガイドブックの入手についての電話問合せ ・団体から助成金説明会の広報協力依頼のメール ・イベントの後援申請、広報協力依頼のあった自治体から連絡先等訂正の電話連絡 ・ESD 学びの場づくりガイドブックの概要版の有無についての問合せ電話 ・10/23 錦二丁目地区 SDGs フォーラム欠席連絡 ・11/23 フォーラムちらし送付依頼 ・企業から「ジャパン SDGs アワード」の応募について電話及びメールによる相談(2 件) ・粗大ごみの出し方について問合せ電話
10 月	13 件	・環境教育コンクールの作品募集広報の協力依頼メール ・四国 EPO から岐阜県職員、名古屋市内 NPO への相談対応依頼の確認メール ・地球環境基金説明会について申込確認の電話 ・運営会議委員からユネスコスクール交流会の広報協力依頼メール ・メルマガ配信（購読）希望のメール ・ESD 学びの場づくりガイドブック資料等の取り寄せ依頼の電話 ・飯山市の台風 19 号被害状況の報告メール（3 件） ・振動・電磁波等の影響に対する対応方法についての電話 ・環境省からのオリンピック関連 CO2 削減取組の PR 依頼のメール ・環境省の電話番号について問合せの電話 ・環境省からの企業対象コンテストの PR 依頼のメール
11 月	15 件	・愛知県の気候変動アンケートの広報協力依頼の電話 ・象牙の廃棄方法についての問合せ電話 ・団体から助成金募集の広報協力依頼メール ・企業からセミナーの相談についての電話 ・企業から訪問希望についての電話 ・協働政策ガイドブック提供に対する御礼メール ・自治体関連団体からイベントの広報協力依頼の電話とメール ・マンション内の居住環境に関する相談の電話 ・愛知県環境局から届いた文書についての問合せ電話 ・自治体からコーディネート事業についての電話 ・相談依頼のための来館のアポイントのメール ・自治体から環境学習講座の広報依頼の電話 ・団体からイベント広報協力についての問合せ電話 ・SDGs チェックリストの送付依頼の電話 ・イベントの広報依頼
12 月	16 件	・運営会議委員の連絡先についての問合せメール（勉強会への登壇依頼） ・イベントの広報依頼メール ・愛知県のユネスコスクール活動事例集の原稿確認依頼のメール ・11/4 開催 ESD フォーラムについての事務手続きについて登壇者から問合せ電話 ・ESD の資料についての問合せ電話 ・イベント申込先について問合せ電話 ・助成金の広報依頼メール ・SDGs 資料の提供依頼メール（2 件）

		・資料提供、来館の御礼メール ・NPO からのイベントの広報協力依頼メール ・ESD 拠点からのイベントの広報協力依頼メール（2 件） ・ESD 拠点からワークショップ（講師）の実施依頼メール ・相談対応済企業から年末のご挨拶 ・自治体から見える化チャート作成の問合せ連絡
1 月	25 件	・主催イベント申込について問合せ（電話：2 件／メール 1 件） ・自治体から講演・ワークショップ依頼 ・主催イベント申込確認について御礼 ・企業から意見交換・施設見学会参加者の募集について相談の電話 ・団体からイベント広報依頼のメール ・環境カウンセラーから ESD・SDGs 啓発資料について問合せの電話 ・環境カウンセラーから資料受取と御礼の電話 ・SDGs チェックリストについて問合せ電話 ・地域循環共生圏に関わる助成制度等についての問合せ電話 ・団体から講座広報依頼のメール ・自治体から ESD/SDGs 関連資料について問合せ電話 ・自治体から主催イベント申込についての連絡メール ・自治体から資料受取と御礼の電話 ・自治体から Web ページのリンク先掲載について報告の電話 ・自治体から主催イベントについて問合せ電話 ・ESD 拠点からイベント広報依頼のメール ・金融機関からイベント開催の案内メール ・EPO の打合せ利用の申込電話 ・団体から地域 ESD 拠点登録について問合せ電話 ・主催イベントについて申込の電話 ・団体からイベント告知依頼のメール ・国から配架資料について問合せの電話 ・企業から意見交換会への参加者推薦依頼のメール
2 月	21 件	・企業から意見交換会への参加者推薦の再依頼メール ・団体からプロジェクト公募の周知依頼メール ・団体からシンポジウム周知依頼メール ・自然保護管事務所からイベント及び募集情報について周知依頼メール(2 件) ・ESD 拠点関連イベント案内メール ・中学校から来館（勉強会）についての問合せの電話（4 件） ・中学校から講師紹介依頼の電話 ・ごみ袋・分別方法の全国統一について要望の電話 ・自治体から主催イベントについて電話 ・中学校から講師依頼、学習計画等の相談の電話 ・広報協力したイベント中止のお知らせメール ・イベント中止のお知らせメール（5 件） ・中学校から勉強会について延期の電話
3 月	5 件	・中学校から勉強会について日程打診の電話 ・団体からイベント中止の連絡に関する電話 ・ビル防災センターから新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる注意喚起 ・施設の会議利用の電話連絡（2 件）
計	**236 件**	

ウ　オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。

4 協働取組の促進のための業務

(1)協働コーディネーター育成事業の発展的展開

ア　協働コーディネーターの PR ツールの活用

（ア）PR ツールの改訂

- 昨年度（2018 年度）に作成した協働コーディネーターPR ツールについて、今年度作成の改訂版では、協働コーディネーターを紹介するためのリストを掲載し、4 名の協働コーディネーターの活動事例を追加した。（昨年度版では 8 名の事例を掲載しており、今年度の追加で計 12 事例が掲載されたことになる。）
- また、「活動見える化プログラム」の掲載事例等を今年度構築した内容のプログラムと、実施したケーススタディ 3 事例に更新した。

【改訂 PR ツールの表紙】

（イ）PR ツールの活用

- 昨年度作成した PR ツールについては、協働コーディネーターに配布し、自己 PR 資料として活用いただいているほか、本年度の 8 月及び 11 開催の協働フォーラムにおいて、参加者へ配布した。
- 今年度作成した PR ツールについては、1 月開催の地域循圏共生圏づくりワークショップセミナーで参加者に配布したほか、協働コーディネーターへの配布、ウェブサイトへの掲載、公開を行った。

【改訂 PR ツールの変更・追加等したページ】

2 EPO中部・協働コーディネーター

■ EPO中部・協働コーディネーターの皆さん

第5期（2018～2020年度）のEPO中部では、2020年1月現在、下記の協働コーディネーターがEPO中部の活動に協力いただきながら、各地で活躍されています。

各コーディネーターに相談したいことなどがございましたら、EPO中部へご連絡ください。

■ 地域循環共生圏づくり研究会の開催

EPO中部・協働コーディネーターの皆さんが集まる場として2018年度に「協働コーディネーター連絡会」を、2019年度は「地域循環共生圏づくり研究会」をそれぞれ3回開催し、協働取組や地域循環教師県づくりに関わる研究、事例の共有などを行いました。

2020年度からは協働コーディネーターに加えて、地域循環共生圏づくりに取り組む地域や主体も含めたネットワークを形成し、地域循環共生圏や協働に関する事例研究などに取り組みます。

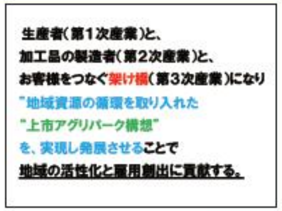
協働コーディネーター連絡会での様子

地域	名前	所属先等	コーディネーターからひと言（各自の活動内容や相談対応が可能な分野など）
富山県	茶木　勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役	SDGsを標榜し、ローカル（富山）であらゆるセクター間のパートナーシップが構築され、地方創生ひいては誰一人困らない持続可能な社会が具体的・効果的に実現されるよう、日々様々な取組・調整を行っています。
	堺　勇人	環境市民プラットホームとやま 副事務局長	SDGsを標榜し、ローカル（富山）であらゆるセクター間のパートナーシップが構築され、地方創生ひいては誰一人困らない持続可能な社会が具体的・効果的に実現されるよう、日々様々な取組・調整を行っています。
石川県	中里　茂	環境カウンセラー	協働での事業を進めるうえで課題となる一つが資金調達の問題であり、一方環境問題等における金融機関の果たす役割は重要であることから、知識や経験を踏まえて『金融機関との協働取組の創出』についてコーディネートしています。
福井県	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会	地域、行政、研究機関が連携した希少野生動植物保全活動のコーディネート、里地里山の保全再生を協働・連携により進めていくための政策・計画の提案及び地域活動団体の運営支援を行っています。
	中嶌 阿児	NPO法人WACおばま 理事 NPO法人若狭くらしに水舎 代表理事	「中間支援型」と「起業型」の2つタイプのNPOを運営。主に里山の再生をテーマとして、地域の休眠資源の利活用やコミュニティの在り方、団体・学校・行政などとの協働連携を行っています。
長野県	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局長 佐久市市民協働サポートセンター センター長	「100年先も住みたい、訪れたい長野」を市民、行政、NPOなどの多様な方々と協働で創るお手伝いをします。SDGs、ESD推進の入り口の相談から対応しています。どんなテーマからでもまずは気軽にお声がけください。
	山田　勇	特定非営利活動法人えんのわ 特定非営利活動法人わおん	主に子どもたちを対象とした体験活動の企画運営。特に森をフィールドにした自然体験活動が専門です。また、カフェのように気軽に行ける森づくり「森カフェ・プロジェクト」は、未就園の親子を対象に展開しています。
愛知県	蒲　和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長	市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働で運営する環境学習のプラットフォームです。講座やゼミナールなどの運営の他、環境活動・情報の発信、ネットワークを活かして、団体、企業などの活動支援、橋渡しを行います。
	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム コミュニティ・ユース・バンク momo 副代表	環境活動の支援と実践を行っています。日ごろは、日常的な市民や事業者のエコライフの相談窓口やエコライフ啓発セミナーの開催、企業と環境保全団体のマッチング活動に取り組んでいます。また、イベント等でエコブースを運営したり、東海三県のNPO等への資金融資や伴走支援を行っています。
岐阜県	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会 理事長	小中学校での生物多様性や流域のつながりなどに関する環境教育を支援する活動を行っています。また、生物多様性や地域資源を活用した地域づくりなど、地域の持続や再生に向けた活動の応援も行っています。
	河合 良太	NPO法人泉京・垂井 理事 NPO法人地域の未来・志援センター 地域コーディネーター	（2020年4月に静岡県へ転居。左記の所属先には2020年3月まで在席。）
三重県	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表	持続可能な地域のための「場づくり、人づくり、つなぎ役」をやっています。SDGsどう取り組んだらいいの？地域の課題をみんなで考えたい、ESDやSDGsを推進する人を育てたい、そんな時一声おかけください。

敬称略、所属先・肩書きは2020年2月現在

EPO中部コーディネーター
茶木 勝 氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役）

上市アグリパーク構想の取組と地域資源活用事例



富山県上市町は自然豊かで農業が盛んな中山間地域です。株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズは、上市町で農作物の生産者とその加工品の製造者をつなぐ架け橋となり、地域資源の循環を目指す「上市アグリパーク構想」の実現による地域の活性化と雇用創出を目指している会社です。

私は7、8年前に東京からUターンで移住した際、地域の雇用創造協議会に携わることになりました。この協議会で、地域資源を活用しつつ雇用を創出しようと検討を重ね、その検討結果を行政にもきちんと説明して町（行政）の支援が得られるよう事業計画表を作成しました。その中では時間軸とともに計画の進め方や、各々の計画によって地域にどのような影響があるかなどを整理し、表にしました。計画の中で、観光（エコツーリズム）の項目ではガイドを養成しておもてなしの街を実現すること、特産品の項目では地域資源を活用したドレッシングやピクルス等を生産すること、街中活性化の項目では地域の女性達が昔に勉強したことや趣味を活かし、収入と生きがいを得られるよう「女性プチ起業塾」を開校することなどを盛り込みました。それら計画を一覧表にしたことで必要な施策もわかりやすくなり、その後のそれぞれの取組をスムーズに進めることができました。さらに、特産品の販売方法が不明確だったことから、私自身がティー・ツリー・コミュニケーションズを立ち上げ、特産品やツアーの販売などを手掛けることになりました。

ティー・ツリー・コミュニケーションズでは、高校生と一緒に商品開発にも取り組みました。富山県立中央農業高校の生徒達が無農薬栽培のウコンの生産に成功したのですが、このウコンを粉末にしただけでは売れないため、富山の薬文化を商品化した「メグスリノキの九宝茶」にブレンドすることを提案し、卒業する生徒達のご家族にも飲んでいただく事などを実施しました。また、地元の富山信用金庫がキャンペーンの景品として採用頂きポスターやチラシ配布などで広く告知されたり、北陸銀行が窓口のお客様に粗品として配ったことから、新聞等のメディアでも紹介いただくなど話題になりました。

そのほかにも、森林組合の協力を得て、地域でこれまで活用されてこなかったクロモジ・スギ・ヒノキからエッセンシャルオイルの精製を行ったり、地元の山菜を使ったドレッシングや、猪肉のカレー、地元食材を用いたジェラートなど、地域の人達と協力して地域の資源を活用した特産品の開発、生産、販売を展開してきました。

今では農家や精油施設、酪農家、養鶏場など、様々な関係者が自社の運営する「つるぎの味蔵（指定管理）」を中心に連携する形ができています。このつながりによって、上市町の農業・食・観光・教育・産業の共栄圏をつくる「上市アグリパーク」を構想しています。地域の様々な団体、人々をつなぎつつ、地域資源の活用に加えて再エネや空き家問題、2次交通の活用などにも取り組み、持続可能な地域づくりを実現できればと考えています。

EPO中部コーディネーター
中嶌 阿児 氏（NPO法人WACおばま理事、NPO法人若狭くらしに水舎代表理事）

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

NPO法人WACおばまは、福井県小浜市の上根来(かみねごり)という無住化した集落で、元住民の地域活動を支援し、トレッキングコースの整備や空家の活用、豪雪地帯の地域性を活かした雪室（ゆきむろ）づくりなどに取り組んでいます。上根来は元住民が頻繁に通い、集落の清掃や家や墓の守りを行っていることから、再び人が住むことは難しくても人が通う地域になるよう、「上根来里山再生プロジェクト」を展開しています。

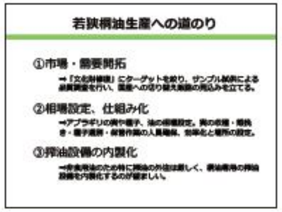
その上根来にはアブラギリ(ニホンアブラギリ)の群生地があります。アブラギリは種子から「桐油」を採取できる植物で、微毒性があり食用に適さず、昔は塗料に用いられました。若狭地方では江戸時代から盛んに栽培されてきましたが、昭和半ば頃、石油に需要を奪われ、栽培地は針葉樹や梅林などに転換され、産業として途絶えました。しかし、アブラギリは繁殖力・成長力が強く、今では一部残ったものが野生化、群生化し、国内外来種とも呼べる若狭地方一帯に広がる環境問題になっています。

WACおばまが上根来でアブラギリの活用について考えていた同じ時期、地元の若狭東高校もこの植物に着目していました。若狭東高校は環境学習の一環で、間伐材を使った机・イスを手作りしており、使用するニス(撥水剤：市販の多くは石油由来の有機化合物の外国製品)を、天然かつ地元素材で作れないかと調べた結果、アブラギリの桐油に辿りつきました。

2011年度からWACおばまがサポートする形で若狭東高校との共同研究がはじまり、上根来は研究用のアブラギリの実の回収、高校の実習場になりました。高校では、搾油の研究、桐油の撥水実験、幹を使ったキノコの原木栽培、葉寿司の商品開発などを行いました。WACおばまも研究に必要な機材・道具の調達、専門家の招聘などの支援のほか、研究成果の発表や地域住民への認知を目的にアブラギリをテーマにしたシンポジウムを開催してきました。しかし、最終的に桐油の製品化については、高校が生産や販売の事業化まで行うには限界があり、WACおばまも中間支援の立場で事業化を手がけることは難しかったことから、2017年度から小水力発電や木質バイオマス（薪の生産）に取り組んできたNPO法人若狭くらしに水舎が主体となり、製品事業化に着手することになりました。

現在では、若狭で生産された桐油が日本の「文化財修復指定材料」に使用されることを目指して、小浜市行政との協働体制も整いつつあります。文化財分野においては、このような修復材料を海外製品に依存してきたことが近年問題視され、国産化の流れが起きているからです。若狭東高校は搾油条件を数値化して徹底的に記録するなど、桐油の品質保証につながる研究へ精度を高めています。2018年度には本格的な製造工程による試作や、市販品（輸入品）との比較を含めた成分分析にも取り組みました。2019年の春からは、試作品を文化庁及び文化財修復業者に提供して、品質調査を行っています。

もしもこの取り組みが形になれば、地域経済のみならず、環境分野、文化財分野においても好循環を生み出すことができることから、手がけてきた高校生たちの功績は大きく、評価されるべきものです。そして、彼らの活動と教育が、今後も地域で持続的に支援される体制をつくっていきたいと考えています。



EPO中部コーディネーター

蒲 和宏 氏（「なごや環境大学」実行委員会事務局長）

「なごや環境大学」の取組

なごや環境大学が開学したのは2005年です。その当時、渡り鳥の中継地である藤前干潟を埋立処分場にする計画がありましたが、地域の貴重な自然を守ろうとする市民の声によって中止されました。名古屋市は1999年に「ごみ非常事態宣言」を出し、その後、市民と協力して40%のごみ減量を達成しました。市民がごみ問題を他人事ではなく自分ごととして理解・認知した画期的な出来事であり、これが契機となって非常事態宣言から6年後になごや環境大学が発足しました。

非常事態宣言で培った協働の精神で、平時から環境意識を高めて地球環境を守っていこうと、市民／市民団体・企業・教育機関・行政などで構成される実行委員会が、なごや環境大学の運営を行っています。財源は名古屋市の負担金が9割以上で、その他は広告収入などとなっています。名古屋の街じゅうをキャンパスにして、2018年度までに2,000以上の講座やイベントが開催されており、延べ26万人以上が参加しています。

なごや環境大学の事業は、主催講座、共育講座、エコゼミ、ネットワークづくり・人の輪づくりなどです。講座内容を紹介するガイドブックを春・秋の年2回発行しており、図書館・区役所・生涯学習センターなどに配布して、講座の参加者の募集を行っています。ガイドブックの発行部数は13,000部で、広告掲載により、企業等からの広告収入も得られています。

講座には、エネルギー、気候変動、自然共生、資源循環、健康安全、まちづくりなど様々なジャンルのものがあり、ガイドブックに掲載されることにより、広くPRされます。なごや環境大学が主催する講座もあります。年2回開催している「愛岐の里山たんけん隊」はリピーターの多い講座で、名古屋市の埋立処分場・愛岐処分場（岐阜県多治見市）に隣接し、荒廃していた里山で、地元の人たちが田んぼや畑を復旧させており、講座開催時には、名古屋の子どもたちが訪れて田植えや収穫したお米で五平餅づくりなどを行っています。そのほか、共育講座では印刷会社の工場見学やリスの調査・観察会、子どもを対象にした防災教室など、市民団体や企業などが企画・主催する講座が多彩に開催されています。また、共育講座（年2回募集）では、市民／市民団体による講座に対し、1コマ3万円の補助（上限10万円・半期）も実施しています。共育ゼミナール（毎年11月に募集）では、特定の事柄を調査研究する団体やグループに対し、年間最大15万円の支援も行っています。2019年はごみ非常事態宣言から20年目の節目にあたることから、20周年記念イベントを開催したところ、約6,000人の参加がありました。

なごや環境大学は、第４期（2017～2026）のビジョン・重点目標として7項目を掲げており、今後も、SDGsの目標17にあたる市民との「パートナーシップ」を軸に、SDGsの達成を目指して取組を続けていきます。

なごや環境大学の目的

「環境首都なごや」そして、
「持続可能な地球社会」を支える

「人づくり・人の輪づくり」を進め

行動する市民、協働する市民として
「共に育つ」

なごや環境大学は何をしているの？

なごや環境大学ガイドブック

- 共育講座・ゼミナール、環境大学の主催講座などを掲載
- 年2回発行
（3月、9月／各12,000部）
- 市内の区役所、図書館、生涯学習センター、観光案内所をはじめ、市内の各種施設などで配布

主催事業の紹介

ごみ非常事態宣言20周年記念イベント

第４期ビジョン 重点目標（2017～2026）

- だれもが安心して暮らし続けられるまち「なごや」を実現するための知識や情報を提供します。
- 「なごや環境大学」が持つノウハウを活かし、様々な分野で活躍する人たちの交流の場をつくります。
- 様々な分野で活躍している人たちに、社会実験など行動する機会や場を提供します。
- 未来のなごやを担う若者と活動の充実を図ります。
- 様々な手法で事業の評価を行い、次の行動に結びつけます。
- 新たな資金を得ながら、これまでにない活動を行っていきます。
- 「なごや環境大学」への共感や信頼を得て信頼を高めます。

EPO中部コーディネーター

河合 良太 氏（NPO法人泉京・垂井理事、NPO法人地域の未来・志援センター地域コーディネーター）

揖斐川流域における流域フェアトレードの仕組みづくり

垂井町は岐阜県美濃地域の西側にあり、NPO法人泉京・垂井は、垂井町を含めた揖斐川流域の地域で、循環型社会を目指した地域づくりに取り組んでいます。泉京・垂井のビジョンは、「住民が愛着を持ち、豊かに暮らし続けられる町」をつくることです。これは「住民の主体性を育み、持続可能な社会をつくる」ことを意味し、私たちはこれを「穏豊（おんぽう）」と呼んでいます。「穏豊」は穏やかなことが豊かなことを意味する我々の造語です。経済一辺倒の社会、環境・人に負担をかける社会ではなく、循環型で持続可能な社会を「穏豊社会」と呼び、その実現に向けて取り組んでいます。

揖斐川流域にある岐阜県揖斐川町旧春日村はお茶の生産地ですが、地域の高齢化が進んだ結果、お茶の生産・流通の仕組みが成り立たなくなり、お茶が安く買い取られるようになりました。しかし、地域住民が茶園を立ち上げ、買い取った地元の無農薬のお茶を茶菓子と併せて製品化するなどの工夫をしたところ、生産者の顔が見える丁寧な販売方法が功を奏し、適正な価格でお茶が買い取られるようになりました。茶園の方は「これがフェアトレードだよね」と話しています。

フェアトレードは、途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みです。ただ生産者に対価を支払うのみではなく、経済・社会・環境の3つの基準を満たすことにより、フェアトレードとして認定されます。そして、日本国内にも途上国と先進国の関係のように、都市と地方（田舎）、或いは流域の上流と下流において、構造的な問題があると気付いた私たちは、「流域のフェアトレード」の仕組みづくりに取り組みはじめました。目標は、流域内のフェアトレード、住民の主体的参加、地域と世界の視点による持続可能な社会、タウンプロモーション、地域への移住促進です。

泉京・垂井が事務局を務め、フェアトレードと地産地消の啓発を目的に開催している「フェアトレードデイ垂井」は、フェアトレードを「世界の人と自然が健康的に共存するための“ものづくり”と“流通”の仕組み」と定義しています。2018年度までに8回開催し、人口27,500人の地域に8,000人の来場者がある地域にとってインパクトのあるイベントになっています。

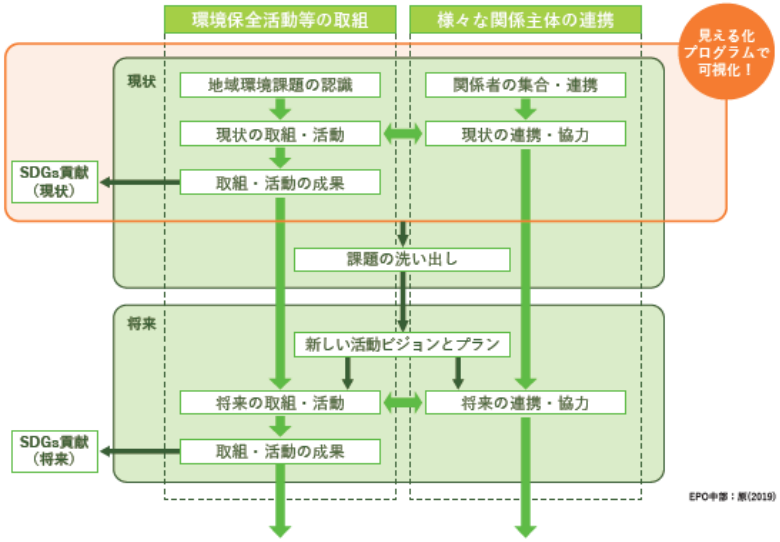
現在、世界には約2,000の都市、日本では6地域が「フェアトレードタウン」に認定されています。フェアトレードタウンになるには議会の議決や首長による宣言が必要で、行政・企業・住民が一体となって取り組む必要があります。垂井町でもフェアトレードを応援しようと、地域住民や商工会などが協力して勉強会や啓発活動、マップの作成などを行っており、協働による地域のフェアトレードタウン推進に取り組んでいます。

3 EPO中部が構築・地域の協働取組を可視化する「活動見える化プログラム」

いろいろな地域で問題解決のため行われている協働取組は、多くのステークホルダーが関係しており、活動が多岐に渡っています。そのため活動の成果や意義を、全体的に説明することが難しいことも少なくありません。また実施していた取組が思わぬところに貢献していたり、まったく別の分野に関係していることに気が付かないこともあります。特に現在注目されている地域循環共生圏やSDGsを念頭に置いた取組は、地域における持続可能性の社会の構築に不可欠で、実践している協働取組がどのように貢献しているかを認識することが重要です。

EPO中部では協働取組の支援のため、「活動見える化プログラム」を構築しています。これは多元的な地域の活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法です。このプログラムによる分析を通じて、対象となる活動がどのような経緯で行われてきたか、現在どのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているか、など「可視化」することで活動当事者は内容を改めて認識することができます。その結果として、協働の取組を発展させ、関係者の今後の取組に活かしていただければと考えています。

■ 環境保全活動等の協働取組、変革のプロセスに役立てる



複雑な協働取組の現場を「見える化」します

■「活動見える化プログラム」分析手法の概要

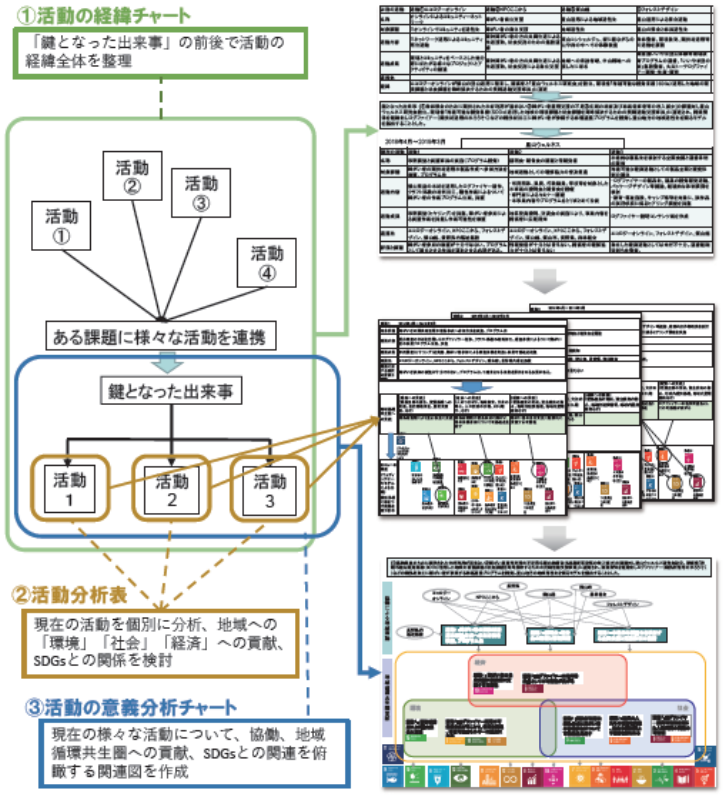
このプログラムでは次のような分析を行います。

①多元的な現在の活動を過去の取組が何かのきっかけで統合されたものと考え、その「鍵となった出来事」の前後で活動の経緯全体を整理します（活動の経緯チャート）。

②現在の活動を個別に分析し、地域への「環境」「社会」「経済」への貢献の状況を整理し、SDGsとの関係を検討します（活動分析表）。

③現在の様々な活動について、協働、地域循環共生圏への貢献、SDGsとの関連を俯瞰して見られる関連図にまとめます（活動の意義分析チャート）。

見える化プログラム分析概念図（事例：里山ウェルネス2019年3月時点）



★ EPO中部では、今後も実証研究を行いながらプログラムを改善していきます。

※以下のチャート図はｐ59～に拡大した図を掲載。

■ 地域の協働の取組を「見える化」しました

協働取組の見える化について、実際に環境にかかわる事例をケーススタディとして取り上げ、結果をフィードバックして反映、改良しながらプログラムの構築を行っています。

適用事例をご紹介！

事例１　同時解決事業・里山保全体験を通した障がい者雇用促進

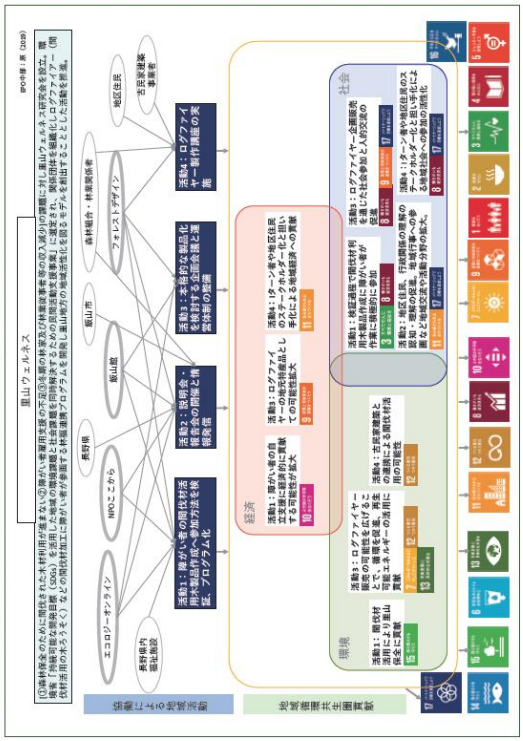
環境省の「SDGsを活用した同時解決事業」中部採択事業として「里山ウェルネス」が実施しています（本誌ｐ2参照）。間伐材を活用した木ろうそく「ログファイヤー」の製作に障がい者が関わる林福連携を通じて地域を活性化する活動に取り組んでいます。

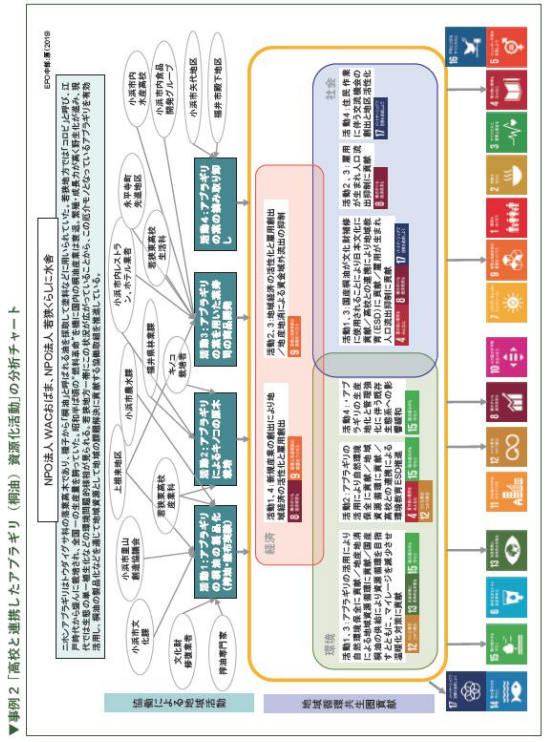
事例２　高校と連携したアブラギリ（桐油）資源化活動

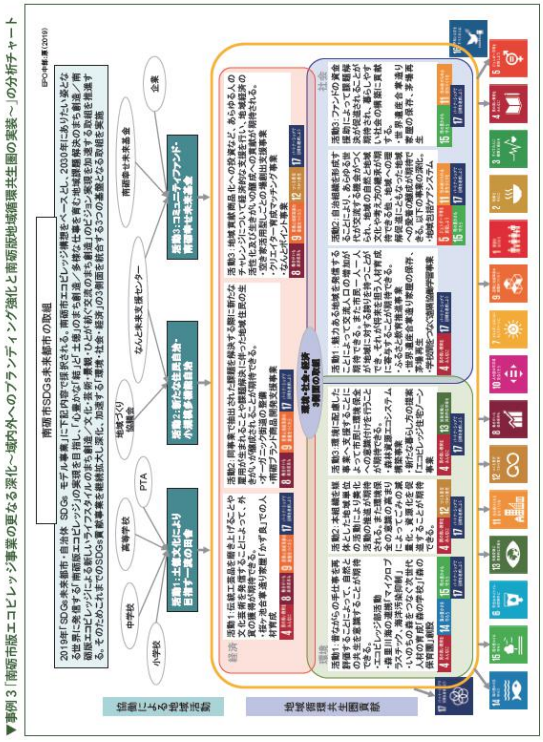
かつて桐油生産のために植えられたアブラギリが里山の厄介者になっていたものを、再度の桐油生産復活や、アブラギリ材によるキノコ栽培など、その活用を図っている取組です。分析には協働コーディネーターの中嶌さんに協力していただきました。

事例３　「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化 ～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

行政の基盤的施策を対象とした分析事例で南砺市エコビレッジ推進課にご協力いただきました。南砺市の「エコビレッジ事業」を地域循環共生圏として深化させるための「土徳文化により目指す一流の田舎」、「新たな住民自治・小規模多機能自治」、「コミュニティファンド・南砺幸せ未来基金」の3つの基盤施策について分析しました。



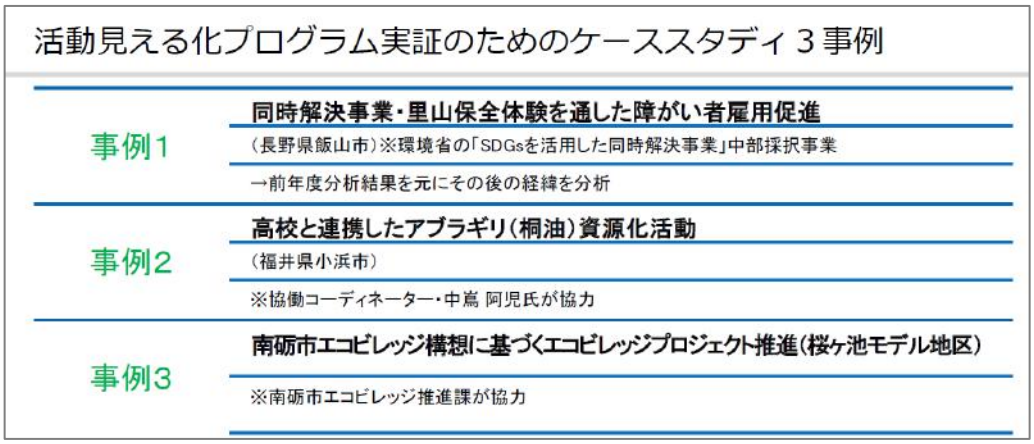




イ　活動見える化プログラムの構築に向けた検証

（ア）ケーススタディの実施

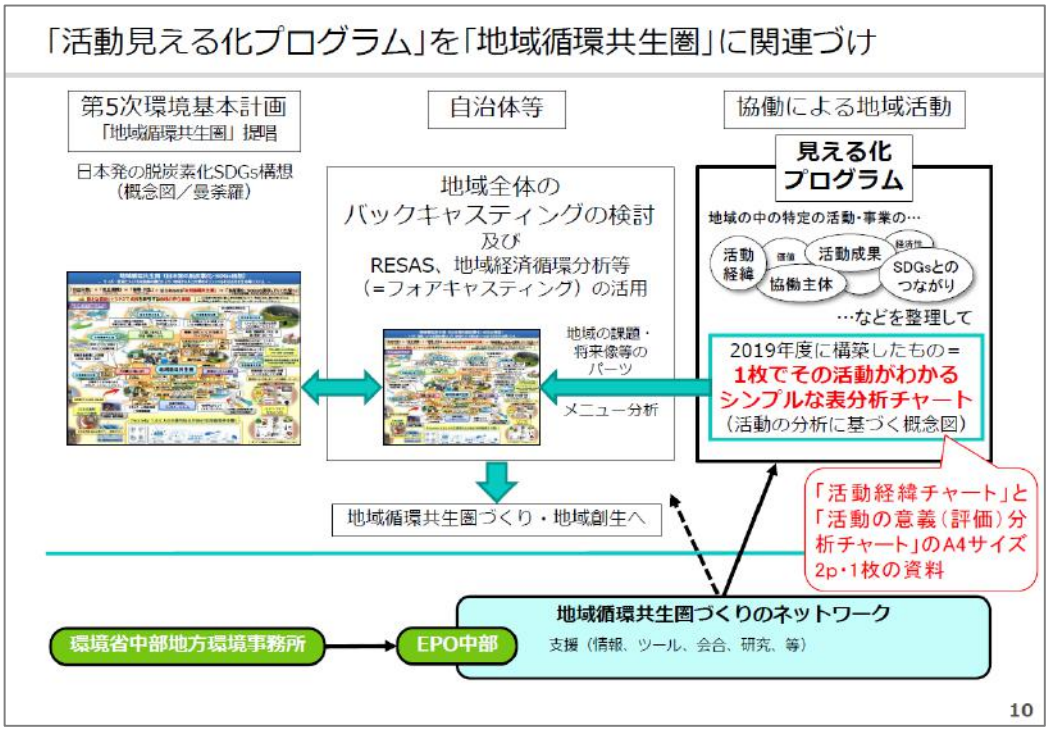
- 協働・ESD・SDGs に関連する活動効果や活動における SDGs 要素を可視化する活動見える化に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディ（協働コーディネーター参画による活動支援プログラム）を実施し、要素・材料の抽出と整理を行った。
- ケーススタディとして下記 3 事例を中部地方環境事務所の担当官と協議のうえ選定した。



（イ）概要版（簡易版）の作成

① 再構築した活動見える化プログラム

- 昨年度構築した活動見える化プログラムについて、今年度はわかりやすく、説明資料として使用しやすいスライド 2 枚の簡易版の分析チャート図を次の通り作成し、地域循環共生圏づくりと SDGs との関連性を明示するツールとして再構築した。
- また、実際にケーススタディ 3 事例で分析チャートを作成した。



② 作成したケーススタディによるチャート図（ケーススタディ 3 事例）

活動の経緯チャート

里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中での体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやま里の家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			

鍵となった出来事：[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした。

2018年4月～2019年3月

里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3
名称	事例調査と実証事業の実施（プログラム開発）	説明会・報告会の開催と情報発信	本格的な製品化を検討する企画会議と運営体制の整備
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法を検証、プログラム化	地域活動としての理解協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイヤー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業によるついて障がい者の作業プログラム立案、実証	・市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催 ・専門家によるセミナー開催 ・本事業内容やプログラムをとりまとめて公表	・ログファイヤーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討 ・教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を実施
活動成果	事例調査（ヒヤリング）を実施、障がい者参加による実証作業を実施し作業可能性を検証	地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知	ログファイヤー説明コンテンツ案を作成
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館
評価と課題	障がい者参加の検証が十分ではない。プログラムとして確立させる作業を深化させる必要がある。	情報発信が十分とは言えない。関係者の理解協力が十分とは言えない	自立した経済活動としては未だ不十分。運営組織体制も未整備。

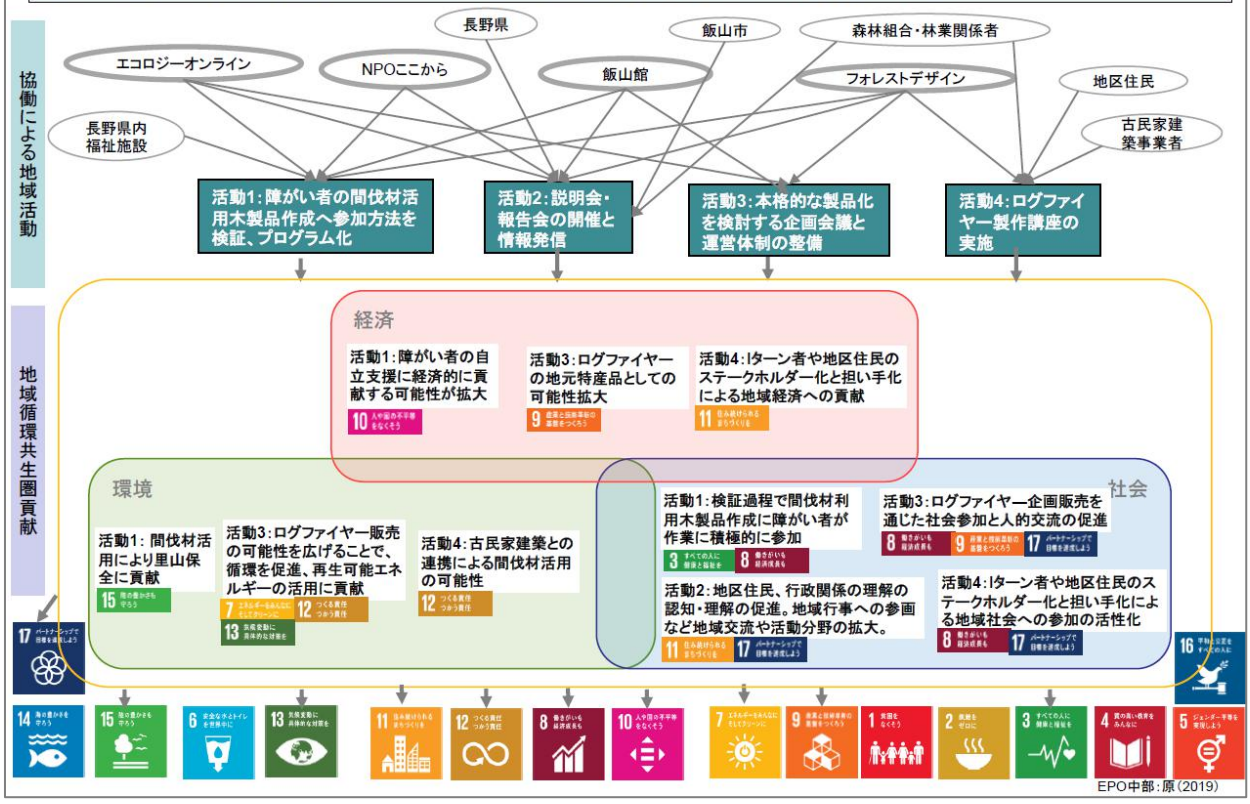
活動の意義（評価）
分析チャート

里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

2018年4月～2019年12月

里山ウェルネス

[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



EPO中部：原（2019）

活動の経緯チャート

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

NPO法人WACおばま

以前の活動	活動①財源：学校予算　予算	活動②財源WAC,民間助成　予算	活動③財源:水舎　予算	活動④財源：山村活性化事業　予算
名称	若狭東高校の環境学習	上根来里山再生プロジェクト	桐油の生産事業化	小浜市里山事業ネットワーク
対象課題	環境・社会教育	里山再生、地域創生	経済性・持続性の確保	情報共有、意識啓発
	間伐材利用の環境学習の一環から、天然性ニス（撥水剤）としてアブラギリ（桐油）の研究を始める。	無住化した集落「上根来」で元住民団体と協働で取り組む里山再生活動。地域に群生しているアブラギリに注目。	生産事業化に向けた主体者として、NPO法人若狭くらしに水舎が桐油事業を引き継ぐ。	小浜市の将来的な里山ビジョン「小浜市里山創造計画」を策定。行動基本計画の中にアブラギリの活用が明言された。
活動内容	アブラギリの実を収穫して搾油の実験、桐油の塗布実験。幹を利用したキノコの原木栽培実験。葉を利用した葉寿司の商品開発。	若狭東高校の研究活動支援。地権者の了解を経て実の収穫作業など実習場として地域を提供。実験設備・道具の提供。啓発活動の補助。	桐油の市場調査、成分分析、大量生産を想定した生産工程の確認。市場調査に使用する製品サンプルを製作。	協議会が発足され、不定期ではあるが会議にてアブラギリの取り組み状況を共有。また生産事業化にかかる試験的な取り組みに対する支援を行っている。
活動成果	実験によりアブラギリの有効利用の可能性が実証された。	上根来地区を中心とする研究環境が確立した。	事業化に向けた課題を整理し、解決手段を実証した。	行政及び、多様な事業者・市民による共有ネットワークが確立した。
連携先	若狭東高校	NPO法人WACおばま	NPO法人若狭くらしに水舎	小浜市里山創造協議会
経緯	若狭東高校で行われていた間伐材利用の環境学習において、作成した机や椅子に使う天然性ニスを探していた。結果、この地方で古くは栽培されいまは厄介者となってていたアブラギリに着目し、その活用の検討を始めた。一方無住化した集落「上根来」コミュニティー（近隣にまとまって定住し転居前の地域社会を維持している）と接触していた「WACおばま」は地域再生お企図しており、当地に自生するアブラギリの活用を若狭東高校と協働して推進する体制を構築した。			

鍵となった出来事：ニホンアブラギリはトウダイグサ科の落葉高木であり、種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コロビ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題的様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化などを通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。

NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎

現在の活動	活動1財源：　予算	活動2財源：　予算	活動3財源：　予算	活動4財源：　予算
名称	アブラギリの桐油の製品化（搾油・塗布実験）	アブラギリによるキノコの原木栽培	アブラギリの葉を用いた葉寿司の商品開発	アブラギリの葉の摘み取り卸し
対象課題	アブラギリの桐油を地域発の商品とする。	アブラギリを原木として地域のキノコ栽培を促進する。	アブラギリの葉を用いた葉寿司を地域発の商品とする。	アブラギリの葉の生産地化
活動内容	上根来地区の里山再生プロジェクトと連携した若狭東高校のアブラギリからの桐油の搾油を発展させ、文化財修復用の国産桐油の商品化研究を実施。	アブラギリを原木とするキノコの育成を検証。	先進地の永平寺町で生産されているアブラギリの葉を用いた鱒鮨を参考に、福井県特産のへしこの葉寿司を開発、商品化した。	福井市殿下地区で「葉寿司」を生産販売している業者に対して、若狭地方からアブラギリの葉を卸して買い取ってもらう。
活動成果	品質調査に使う標準サンプルを制作。市販品比較用データ等を得る。提供サンプルの試用に対し、概ね良好な反応が集まってきている。	アブラギリを原木とするキノコの発生状況は予想以上。キノコ栽培への活用展開の可能性を確認。	商品化レベルまできていると、レストラン業者が評価。国際里山会議にて「里山弁当」として提供。へしことアブラギリとして海と山の出会いの食品ブランド化の可能性。	小浜市矢代の地区住民がアブラギリの葉を摘み取り、福井市殿下地区の業者へ送る仕組みを試験的に実施。
連携先	若狭東高校産業科 上根来地区 搾油専門家 小浜市里山創造協議会 小浜市農水課 小浜市文化課 文化財修復業者	若狭東高校産業科 上根来地区 福井県林業課 小浜市内レストラン業者 キノコ栽培者	若狭東高校生活科 上根来地区 永平寺町先進地区 小浜市内水産高校 小浜市内ホテル業者 小浜市内食品開発グループ	小浜市矢代地区　福井市殿下地区
評価と課題	①市場・需要開拓、②相場設定・生産の組織化、③搾油設備の内製化、等が今後の課題	キノコ栽培の希望者にはノウハウを提供できるが、生産者の確保が課題	ブランド化して販売システムを整備することが課題	作業効率や生産販売で取り扱うスケールとの調整が課題

EPO中部：原（2019）

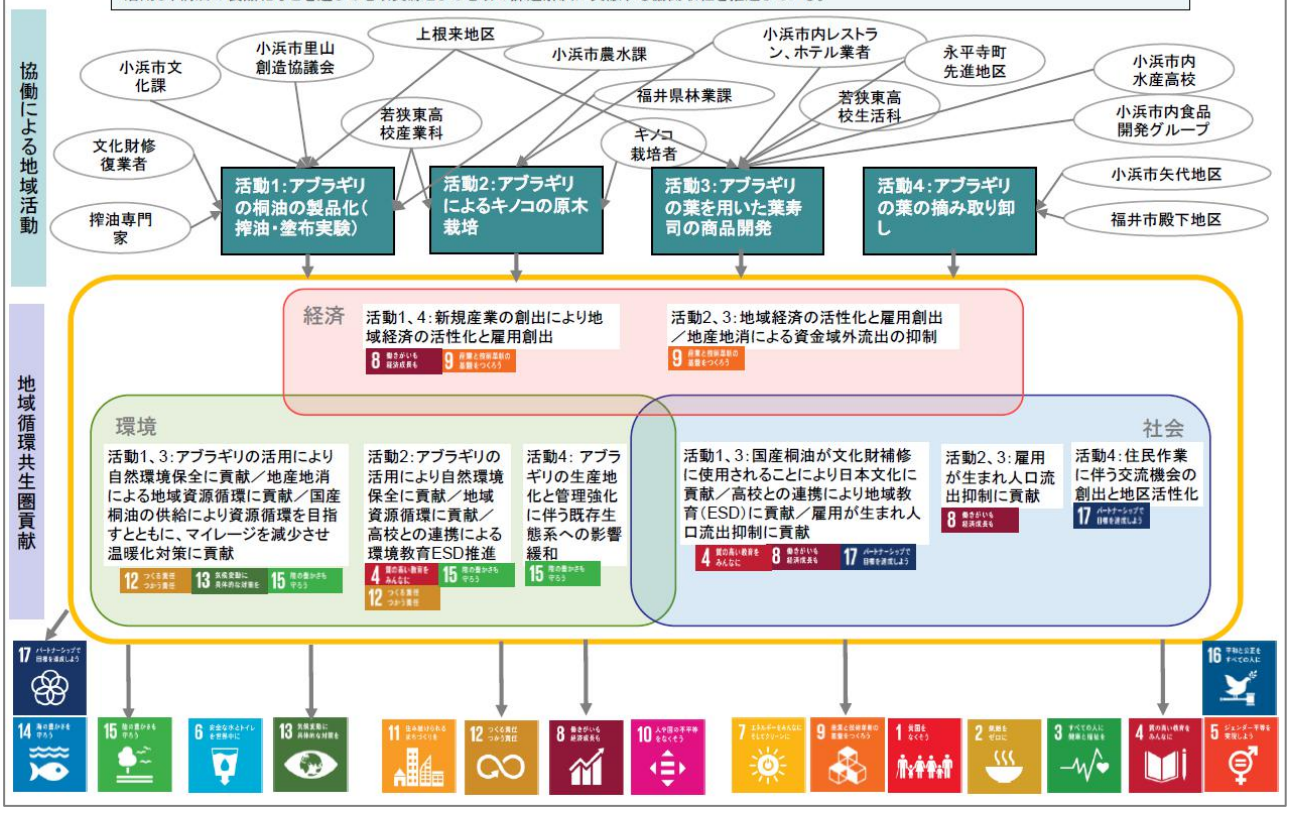
活動の意義（評価）
分析チャート（2019）

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

EPO中部：
原（2019）

NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎

ニホンアブラギリはトウダイグサ科の落葉高木であり、種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コロビ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題的様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化などを通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。



活動の経緯チャート

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進（桜ヶ池モデル地区）

南砺市エコビレッジ推進課

活動№	活動①	活動②
名称	南砺市エコビレッジ構想策定	モデル地区としての「桜ヶ池エコビレッジ宣言」
対象課題	「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考え、思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要	エコビレッジ構想を具体的に推進するためにモデル地区が必要。 モデル地区の関係者の心構えと協力が必要。
活動内容	2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。	エコビレッジ構想の中で、ポテンシャルの高い「桜が池地区」をモデル対象地区として選定、関係者と合意形成を図る。
活動成果	南砺市の意図する「「便利」＋「思いやり（自然、人、地域、未来）」による50年後の未来へと繋がる選択」の指針を示すとともに「桜が池地区」を重点モデル地区とした。	エコビレッジを実現する際の「心構え」として、今後、孫子の代にわたる取り組みを進める際に、立ち戻れる拠り所として、「桜ヶ池エコビレッジ宣言」を志民会議の総意として定めた。
連携先		
経緯	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要と考え、その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。	

カギとなった出来事：南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築 【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案

南砺市エコビレッジ推進課

活動№	活動1	活動2	活動3
名称	森林利活用による再生可能エネルギー利用推進	「発酵バイオマス農業」の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働（桜ヶ池クアガーデン等）による資源循環枠組みの構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期の暖房を行い一年を通した温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を実証。発酵ガスのCO2ににより作物が活性化され、腐りにくく、食味の良い作物を収穫。	ゲストハウスの運営、囲炉裏体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営 城端絹、福光麻布、福野縞、養蚕などの資料展示・情報発信 「かず良塾」、発酵食や報恩講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバースビレッジなどライフスタイル提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ケ丘クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバースプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題			

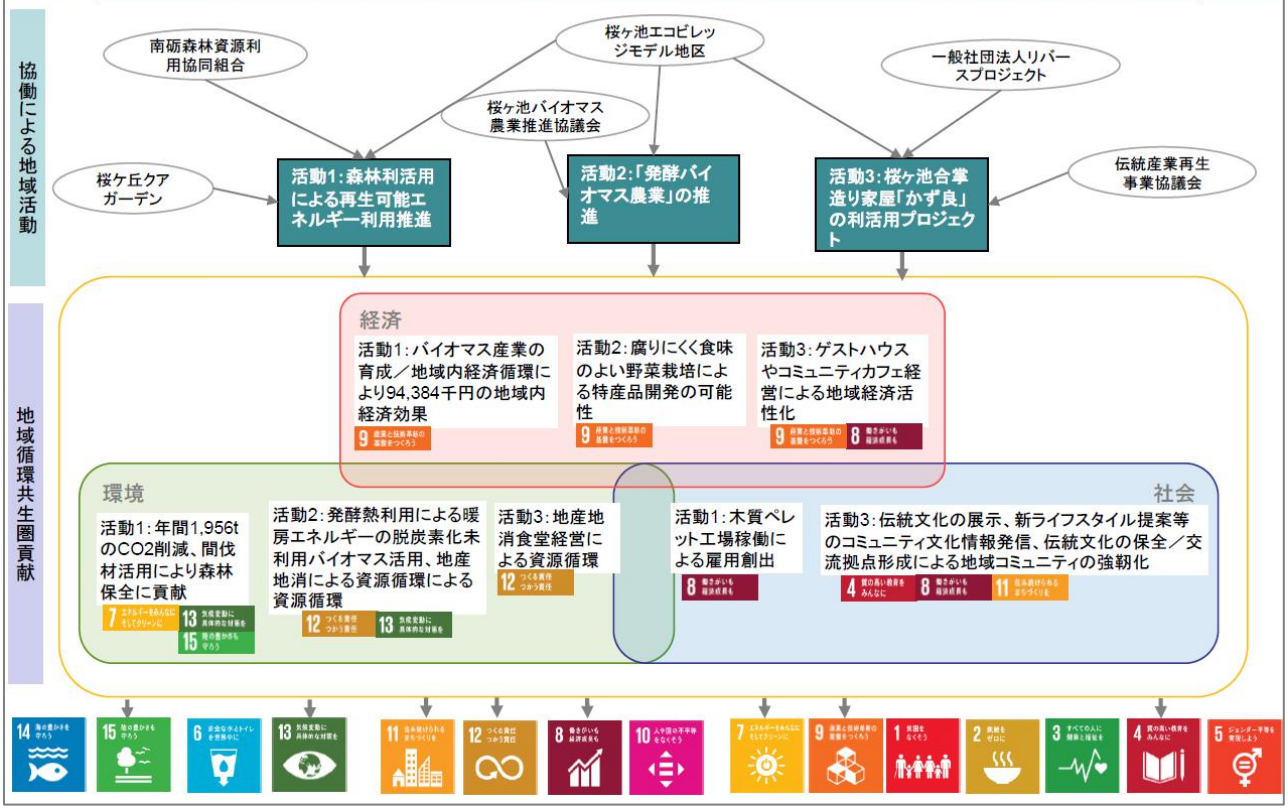
活動の意義（評価）
分析チャート（～2019）

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進（桜ヶ池モデル地区）

EPO中部：原（2019）

南砺市エコビレッジ推進課

南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案



（ウ）ケーススタディの事例主体によるチャート図の活用

- 事例 1（同時解決事業・里山保全体験を通した障がい者雇用促進）では、市の担当者が庁内説明に活用しており、説明しやすくなり助かったとの報告があった。また、同時解決事業の採択団体は事業紹介用ツールの中で見える化プログラムのチャートを掲載するなど活用している。
- 事例 2・3（高校と連携したアブラギリ（桐油）資源化活動・南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進）では、取組内容と地域循環共生圏・SDGs との関連性を 1 枚の資料で明示できるとして、関係者や住民への説明資料として活用している。
- そのほか、地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業への応募を検討していた団体からは、多々ある関連の取組の中から何を地域循環共生圏づくりとしてアピールすべきか、「見える化プログラム」で整理したいといった活用ニーズが聞かれた。

ウ　地域循環共生圏づくり研究会の開催

（ア）第 1 回研究会

① 日時

- 8 月 23 日（金）13：30～16：30

② 場所

- EPO 中部（愛知県名古屋市）

③ 出席者

- 計 16 名

（協働コーディネーター）11 名　　（敬称略）

地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会　事務局長
三重	川北 輝	特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター　副代表理事
富山	堺 勇人	環境市民プラットホームとやま　副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会　代表
富山	中川 透	ウッドスタジオ株式会社　代表取締役
石川	中里 茂	環境カウンセラー
福井	中嶌 阿児	NPO法人 WACおばま　理事、NPO法人 若狭くらしに水舎理事
岐阜	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会　理事長
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局（越前市農政課）
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん

（オブザーバー）環境省中部地方環境事務所環境対策課　西田　清紀主査

（事務局担当）　EPO 中部　清本三郎、原　理史、富田夏子、小松朋美

④ 主な議事

1. EPO 中部・協働コーディネーターの要件（研究会の設置要綱）について
2. 活動見える化プログラムについて
3. 地域循環共生圏に関わる情報提供
4. その他ディスカッション
5. 次回研究会について

⑤ 会議資料

- 資料 0　議題全体説明資料
- 資料 1　地域循環共生圏づくり研究会設置要綱（事務局案）
- 資料 2　「活動見える化プログラム」資料
- 資料 3　「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」説明資料・採択団体紹介資料
- 資料 4　EPO 中部・協働コーディネーターの活用展開（実績・予定）
- 資料 5　EPO 中部関連報告書リスト

（イ）第 2 回研究会

① 日時

- 11 月 22 日（金）13：00～16：10
- 11 月 23 日（土）09：15～10：45

（※11 月 23 日（土）12：00～15：00 は協働フォーラムに参加）

② 場所

- なべくら高原森の家・こもれび（長野県飯山市）

③ 出席者

- 計 14 名

（協働コーディネーター）8 名　　（敬称略）

地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会　事務局長
岐阜	河合 良太	泉京・垂井　理事、地域の未来・志援センター　地域コーディネーター
富山	堺 勇人	環境市民プラットホームとやま　副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会　代表
福井	中嶌 阿児	NPO法人 WACおばま　理事、NPO法人 若狭くらしに水舎　理事
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局（越前市農政課）
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん

（オブザーバー）環境省中部地方環境事務所環境対策課　西田　清紀主査

（事務局担当）　EPO 中部　福井弘道、清本三郎、原理史、富田夏子、小松朋美

④ 主な議事

一日目	
13:00	集合・開会・事務連絡
13:15	ご挨拶（中部地方環境事務所） 【アイスブレイク】全員の近況、活動状況の報告・共有（15分）
13:30	【話題提供】地域循環共生圏の概説と関連動向（中部地方環境事務所）（30分）
14:00	【地域循環共生圏①】（60分） ・アンケートで地域循環共生圏づくり取組事例を「知っている」と回答した内容を紹介いただく
15:00	休憩（10分）
15:10	【地域循環共生圏②】（60分） ・上記①での事例について課題や懸念材料、将来性や評価できる点、必要な支援などをフリーディスカッション（原がキーワード抽出） ・EPOとの連携（行事等開催）の可能性（地域循環共生圏づくり、ESD、SDGsをテーマに）
16:10	一日目　終了
二日目	
09:15	【取組状況の共有】（60分） ・協働コーディネーターによる取組発表；蒲氏、河合氏（10分×2） ・昨年度の取組発表者のその後の活動状況・現状等の報告・紹介、質疑応答等（40分）
10:15	【情報共有】協働コーディネーター・アンケート結果と今後の展開案について（15分）
10:30	2/6第3回研究会（及び1/31地域循環共生圏ワーキング）そのほか事務連絡
10:45	終了

（ウ）第 3 回研究会

① 日時

- 2 月 7 日（金）13：30～16：30

② 場所

- EPO 中部（愛知県名古屋市）

③ 出席者

- 計 16 名

（協働コーディネーター）11 名　　（敬称略）

地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会　事務局長
岐阜	河合 良太	泉京・垂井　理事、地域の未来・志援センター　地域コーディネーター
富山	堺 勇人	環境市民プラットホームとやま　副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
富山	茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ　代表取締役
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会　代表
石川	中里 茂	環境カウンセラー
福井	中嶌 阿児	NPO法人 WACおばま　理事、NPO法人 若狭くらしに水舎　代表理事
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局（越前市農政課）
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん
長野	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県NPOセンター　事務局長、 佐久市市民協働サポートセンター　センター長

（オブザーバー）　EPO 中部運営会議 座長（日本福祉大学 教授）　千頭聡
環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査　西田清紀

（事務局担当）　EPO 中部　清本三郎、原理史、富田夏子

④ 主な議事

時間	実 施 内 容
13:30	集合・開会 ご挨拶（千頭先生、中部地方環境事務所）
13:40	【アイスブレイク】全員の近況、活動状況の報告・共有（20 分）
14:00	【報告（話題提供）】 ①1/31 開催・地域循環共生圏づくりセミナーに関する報告（30 分） 開催の概要・結果の説明：事務局 ファシリテーター参加したコーディネーターからの報告（参加者の意識・認識、支援の必要性など）
14:30	【情報提供】（40 分） ②地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業について 新規事業の概要と募集要項について：中部地方環境事務所 2019 年度採択団体の取組状況について：EPO 中部
15:10	休憩（10 分）
15:20	【ディスカッション】（50 分） ③（上記②）地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に関する意見交換 PF 事業に関わる質疑応答、補足等 ④（上記①、第 2 回研究会の結果をもとに）地域循環共生圏活動者ネットワーク展開について ネットワークで議論・共有したいこと（勉強会等の内容・開催方法、情報提供、活動・事業段階に応じた支援など） 企業、経済団体、金融機関等との連携（経済・ビジネス性の確保に対する支援など） 「地域循環共生圏」「協働」「ESD」をテーマにしたフォーラム等の地域開催・共同開催　ほか
16:15	事務局連絡（15 分／時間調整枠）
16:30	終了・解散

（エ）協働コーディネーターへの意見聴取

- 第 1 回、第 2 回研究会実施後、補足的に意見を聴取する目的で、協働コーディネーターを対象にした意見記入票の配布、回収を行った。

① 第 1 回研究会開催後に 13 名から回収された意見（一部抜粋）

（敬称略）

No.	設問	坂本 竜児		寺田 卓二		蒲 和宏		山田 勇	
1	今後も「EPO中部・協働コーディネーター」の会合への参加の可否についてお答えください。	1.今後も参加可能である	他地域の取組は勉強になる。コーディネーターとしての知見が増えれば、自身の活動の幅が広がる	1.今後も参加可能である	今後、SDGsと地域循環共生圏づくりがメインになることが前提とされるなら、自身の所属する団体が目指すものと一致するので、今後ともできる限り協働していけたらと考えるため。	1.今後も参加可能である	選択した回答の具体的な理由 来年度は現職務を退きますが、協働コーディネーターとして関わった貴重な経験を活かすため、引き続き参加していきたい。	1.今後も参加可能である	いろんな方の活動事例や、環境政策に関する情報を伺うことができるため
2	「地域循環共生圏づくり研究会」は今後も継続すべきと考えますか。	1.継続するべきである	地域の事例をピックアップすることで、地域の自信につながったり、他地域の人が目を向けるきっかけになる。関係者の成長、活動のブラッシュアップの機会になる。	3.どちらともいえない	地域循環共生圏づくりの中で、今後プラットフォームづくりが推進されていくとのことであるが、その中でこの研究会がどのような役割を果たすのか、また、参加する協働コーディネーターにどのような権限（立場）が与えられるのかが不明な中でどちらが良いか選択できない。	1.継続するべきである	選択した回答の具体的な理由 「地域循環共生圏づくりプラットホーム」に選定されなかった地域や、検討されていない地域への「見えるかプログラム」を活用した支援を行うために、継続すべきと考えています。	3.どちらともいえない	会の名称については検討する必要があるかと思いますが、この集まり自体は続けていただけるとありがたいです。
3	「EPO中部・協働コーディネーター」（及びご自身個人）が、SDGsの活用や地域循環共生圏づくりの支援に取り組むことに対して、どのように感じていますか。	1.特に問題なし・違和感なし		1.特に問題なし・違和感なし	むしろこの姿勢を崩さないでほしいと思っています。	2.問題あり・違和感あり	支援が必要な地域に対し、「EPO中部・協働コーディネーター」とはどのような職能を持った者なのか、理解していただかないと受け入れてもらえないと思います。備考にあるように環境省による事業・業務の一環となることが前提条件です。	1.特に問題なし・違和感なし	EPO中部の活動にご協力できることがあるのであれば、関わっていくことに対して特に問題はありません。
4	「EPO中部・協働コーディネーター」の会合（もしくは地域循環共生圏づくり研究会）は、ネットワーク、会議体のどちらが良いと考えますか。	1.ネットワークでよい	ネットワーク型の活動で、必要に応じてミニシンポジウムや円卓会議のようなことを行ったほうがいい。	4.そのほか	設問2ともかかわりますが、何を求められるかでネットワークなのか会議体なのかは決まるように思います。今までのような情報交換の場であるならば、ネットワークでよいともいますが、何かを決めたり、提言していくような場になるのならば、会議体である必要があると思います。	3.どちらでも構わない	会合方式はいろいろあって良いと思います。事例によって使い分ければ良い。	4.そのほか	会として、何を目指していくのかが重要で、その目的に合わせた組織の在り方が良いと思います。 個人的には3年目からの参加であるため、初期の目的がいまいち良くわからないまま現在に至っています。初期の目的にこだわらないということであれば、今のメンバー・事務局の想いをゆっくりすり合わせる時間が必要ではないかと思います。 個人的にはまずは、ネットワークでつながり、このメンバーで「これを何とかしたい！」という明確な目的が出てきた際に、組織の在り方を再検討しても良いのではないかと思います。
5	今までに「EPO中部・協働コーディネーター」で良かったと思えるような場面・できごとなどはありましたか。	－		1.あった	他県の取組状況がわかり、自分たちの活動の参考になった。また、このネットワークを通して他県から講師をお招きしたり、訪問させていただいたりできた。	1.あった	良かった場面やできごとはありませんでしたが、自分にとって他の協働コーディネーターを知ることができ、交流のネットワークができたことが良かった。	1.あった	会議の場でみなさんと情報交換をできたとき。現場では今のところ、特にありません。名刺があるともっと地域で活用しやすいかと思います。
6	「地域循環共生圏づくり研究会」で得られた情報や、EPO（環境省）からのメール等での提供情報で役に立った内容がありましたら、具体的にどんな情報がどのように役立ったか記入してください。	－	昨年のコーディネーターの冊子は、自分の取組を紹介するための良い資料となった。 他にも、EPOの置いてある資料等は参考にしている。	－	SDGsに対する情報、環境省の姿勢などを聞き、自団体の取組に生かすことができた。	－	「グッドライフアワード」の募集を知ることができた。残念ながら今回は準備が間に合いませんでしたが、次回は応募したいと考えています。	－	SDGsに関する取り組みや、地域循環共生圏についてもこちらに関わるまで、あまり意識していなかったので、それを意識的に情報収集できるようになったことは大きいです。
7	今後の会合（地域循環共生圏づくり研究会）の開催・運営や、EPO（環境省）からの情報提供などに対し、ご意見、要望、アイデアなどがありましたら、ご記入ください。	－	地域循環共生圏づくりは、食や農、山村に偏るイメージがある。都市との交流や都市側の取組を増やしたい。	－	前の指定管理者の時から感じていたことは、会議の時間に比べ情報量が多く、十分な意見交換ができないことが多かった。今日は、こんなことを決めたという形になりにくい。そのため一泊の研究会を提案した。今年実現できるのを楽しみにしている。ただ、そのような機会はなかなか持てないので、ネットワーク上お会議や事前情報の提供強化を考える必要があると思います。	－	会合の開催にあたり、会議資料を事前に送付いただき目を通しておくことで、限られた時間で有意義な議論ができると思います。	－	短い時間の中で、議題がいくつもあり、意見だしはできても、決定ができていない会議になっていますので、組織の在り方について、ワークショップなども交えながら、ゆっくり話し合い、みんなで決定していくことが必要かと思います。
8	ご自身の関係または周辺で、「地域循環共生圏づくり」に近い取組や「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」への次回応募を検討してみたいと考える取組や団体などがありますか。	1.ある：自身が関係する取組で	都度、紹介します。	3.知らない	あるのかもしれませんが、その視点で調べたことはない。	3.知らない		3.知らない	
9	EPO中部が構築中の「活動見える化プログラム」をこれまでに活用したことがありますか。	3.活用したことはない		3.活用したことはない		3.活用したことはない		3.活用したことはない	
10	EPO中部が構築中の「活動見える化プログラム」は、どのようなものであれば活用度がより向上すると思いますか。	－	団体自身では難しいので、EPO中部にかわる評価主体が必要	－	活動を他人に紹介することが必要な時（プレゼンや資金獲得、報告書作成）などに役立つのではないかと思います。ただ、今のままでは一般の方用には、まだ、わかりにくいように思います。	－	見えるかプログラムを大変苦労されてまとめられおり、活用していけると良いと思います。活動に加わった団体さんには、整理され分かりやすい資料になっていると思いますが、文字が多く複雑です。省けるところは思い切って省くなど見やすくすると良いと思います。例えば、シート①とシート②・③では活動、活動内容及び活動成果が縦並びで整理されていますが、シート②・③では横並びになっていて混乱してしまいます。並びを統一すると良いと思います。また、できるだけ重複している文字は省いてシートをつくるとスッキリすると思います。	－	社会にどれだけ貢献できているかの評価指標があると、自分たちの活動の見直しの際に役に立つと思います。そのためには他団体・他事業との比較がしやすいような表になると良いかもしれません。

② 第 2 回研究会後に 7 名から回収された意見

記入意見
＜協働コーディネーターとしてよかったこと、今後の参考になったこと＞ ① 地域循環共生圏の考え方を研究会の事例発表でよく理解できた。 ② 地域循環共生圏＝地域SDGsとすると理解が深まる。 ③ 交流することが次のアイディアの力になる。 ④ 現在進めている森林プロジェクト（地域の森を再生し、地域で利益があがり、循環していく仕組）のアイディアがなかなかみえてこない状況の中、今回の参加でヒントをもらえた（大きくなくても小さな区域でまわるシステムなど…）。
泊まりはゆっくり情報交換できた。いつもは決められたお話をかしこまって聞き、コメントするだけだったが、世間話をはさみながらいろいろと意見交換できた。 コーディネートは、たこつぼに入ったら役立たなくなるので、このような事例を学び、ディスカッションする機会は重要だ。 中部地域の協働取組を加速するためには、現地に出向き、協働取組をはだで感じ、ディスカッションし、自分ごととして地域（活動長）にアドバイスをすると、自分の取組の中にもヒントがうかぶ。 引き続き、現地を学ぶ機会を設けてもらいたいです。
＜協働コーディネーター研究会について＞ ・多様な世代、地域取組をされている方々とつながることができ、情報交換ができたことがよい。ここがなければつながれなかった人も多いと思う。 ・既存のシンポジウムや研究会では、その場・その日限りでそれ以上の発展はあまりないと感じるが、この研究会では、研究会以外の場でもつながりが継続していると感じる（興味のある活動に個人的に行ったりなど。当団体もなごや環境大学の共育講座に申請予定）。 ・時間をかけて交流することで、本来では聞けないような資金や行政・企業とのつきあい方、失敗談などを聞けた。このような事の共有は、協働を推進するときには、とても重要な情報であり、自分の活動に役になった。
＜協働コーディネーター研究会について＞ 試行錯誤の普段の取組なので、こうやってそれぞれの方々がそれぞれの場所でやっておられることを共有する、その想いの部分も共有できることが何より勇気を得るきっかけとなります。そのことを改めて実感した会でした。
＜今回の研修会から今後の活動に生かせると思ったこと＞ 1. 富山県の堺さんの取組は、今後、自分たちがESD・SDGsの取組を進めるうえで参考となった。特に、地域団体や地域の企業向けに、地域団体としてSDGs導入のコンサルティングを行っていくノウハウを共有していきたい。 2. 坂本さんの取組の中から、FIT後の市民の太陽光発電の生かし方については、近くでもあるので、是非、機会を作って四日市市内で講座を開催したい。 3. 地域循環共生圏づくり事業について、必要な要素についての理解が進んだ。 **＜EPO中部と一緒にできたらいいこと＞** 上記「1」とからんで、今後、地域のSDGsを地域で進めるためのコンサルティング技術・思考について、一緒に研究したい。
・年に数回協働コーディネーターが集まって意見交換を行う事で、地域の事例やアドバイスをもらえる点は、各自の取組において活用できる事が多く、有意義だと思った。今後、里山保全や環境を柱とした事業の立ち上げを予定しているので、コーディネーターのスキルアップや事業の進め方にとても役立った。
各地の事例を直接うかがい、気になったことをその場で質問できるため、理解が深まるとともに、現場に戻ってから、自分も頑張ろうというモチベーションのアップにつながっています。 森林整備と森林資源の活用については、特に参考になりました。販路をまず確保して計画をすすめる大切さとその時にネットワークがいきることを学びました。 夜の交流でも、事業をすすめるだけではなく、自分の稼ぎも考えていかなければならないというコーディネーターの悩みも共有でき、他の方の事例をうかがうことができ、もっと行政にも積極的にアプローチしていかなければと思います。 みなさん市町村だけでなく、県や国とも一緒に活動されていて、もっと視野を拡げなければと刺激を受けています。 森カフェコーディネーター養成講座は、来年度以降、地元以外での開催をすすめていきたいと考えていますので、ぜひEPOのみなさまにもご協力いただけるとありがたいです。

（オ）研究会における協議・意見聴取の結果

① 今年度の全体的な協議等の流れについて

	時期	協議内容等	備考
第１回研究会	8/23	• EPO中部・協働コーディネーターの要件（研究会の設置要綱）についての検討（結果的に十分な検討には至らず会議が終了。） • 「協働コーディネーター」照会対応事例、協働コーディネーターで良かった点等を報告・共有	11名出席
記名式アンケートの実施		● EPO中部・協働コーディネーターの主な目的を地域循環共生圏づくり・SDGs支援であると設定のうえ、EPO（環境省）による報酬は確保・担保されない（別途EPO業務協力等は除く）ことなどを前提に、今後の参加の可否を問うアンケートを実施。 ➢ 1名が今後の参加を辞退、2名から回答なし。 ● 研究会の方向性（ネットワークか会議体か）をたずねた設問に対し、コーディネーター13名の回答は様々であった。 ▼▼▼ **次年度は、協働コーディネーターを含めた地域循環共生圏づくり活動者の「ネットワーク」として展開することを決定** ▼▼▼ アンケート結果を共有	16名全員に送付 ↓ 13名からアンケート回答、継続表明あり
第２回研究会	11/22～/23	**地域循環共生圏づくりをテーマにしたディスカッションの場として開催** • 地域循環共生圏づくりの事例の共有 • 地域環境活動を地域循環共生圏づくりへシフトさせる上で重要な要素、地域・取組主体側にとっての懸案・課題となっている要素の抽出	8名出席

	時期	協議内容等	備考
地域循環共生圏づくりセミナー（主に自治体対象の）	1/31 中部地方環境事務所	**地域循環共生圏づくりワーキングにおいて** ① 話題提供：環境課題を地域経済・活力の創出に活用・転換する「地域循環図」による地域の未来像の描き方について（バックキャスティングについて）の講演 ② 情報提供：RESAS、地域経済循環分析による地域の現状把握について（フォアキャスティングに活用可能な材料として）の勉強会 ③ 上記①②をもとに具体的なワーキング（グループワーク）を実施し、協働コーディネーターがファシリテーターとして参加 ▼▼▼	ファシリテーターとして4名参加
第３回研究会	2/7 EPO中部	● 上記の「地域循環共生圏づくりワーキング」の結果や、参加した自治体職員の支援ニーズ・意識（レベル）等について報告して共有 ▼▼▼ ディスカッション ● 地域循環共生圏づくり活動者が求める支援、ネットワークの展開のあり方（勉強会等の内容、情報提供等）について ● コーディネーター紹介用リスト（協働パンフレットへの掲載）について	11名参加

▼▼▼

EPO中部による地域循環共生圏づくり活動者ネットワークの次年度展開へ

② 研究会のあり方について（第１回研究会・アンケート結果等より）

- 第１回研究会での協議事項と、協働コーディネーターへのアンケート結果をもとに、研究会のあり方を検討し、ネットワークとして展開することが決定した。

アンケートを踏まえた事務局の方針（案）

1. EPO中部・協働コーディネーターは「地域循環共生圏づくりの活動者」として位置付け、 EPO中部は地域循環共生圏づくりの取組主体に対する支援・連携等を役割とする。

2. 「研究会」については、2/7開催・第3回研究会で一旦終了とし、EPO中部・協働コーディネーター及び地域循環共生圏づくりの取組主体で構成される「ネットワーク」とする。主に環境分野の最新動向、地域ニーズ、県域を越えた推奨的な取組の情報交換を目的とし、議論（提言、決める）の必要がある場合のみ会議体として運営し、事前情報共有を意識し限られた時間で有意義な議論を行えるようにする。

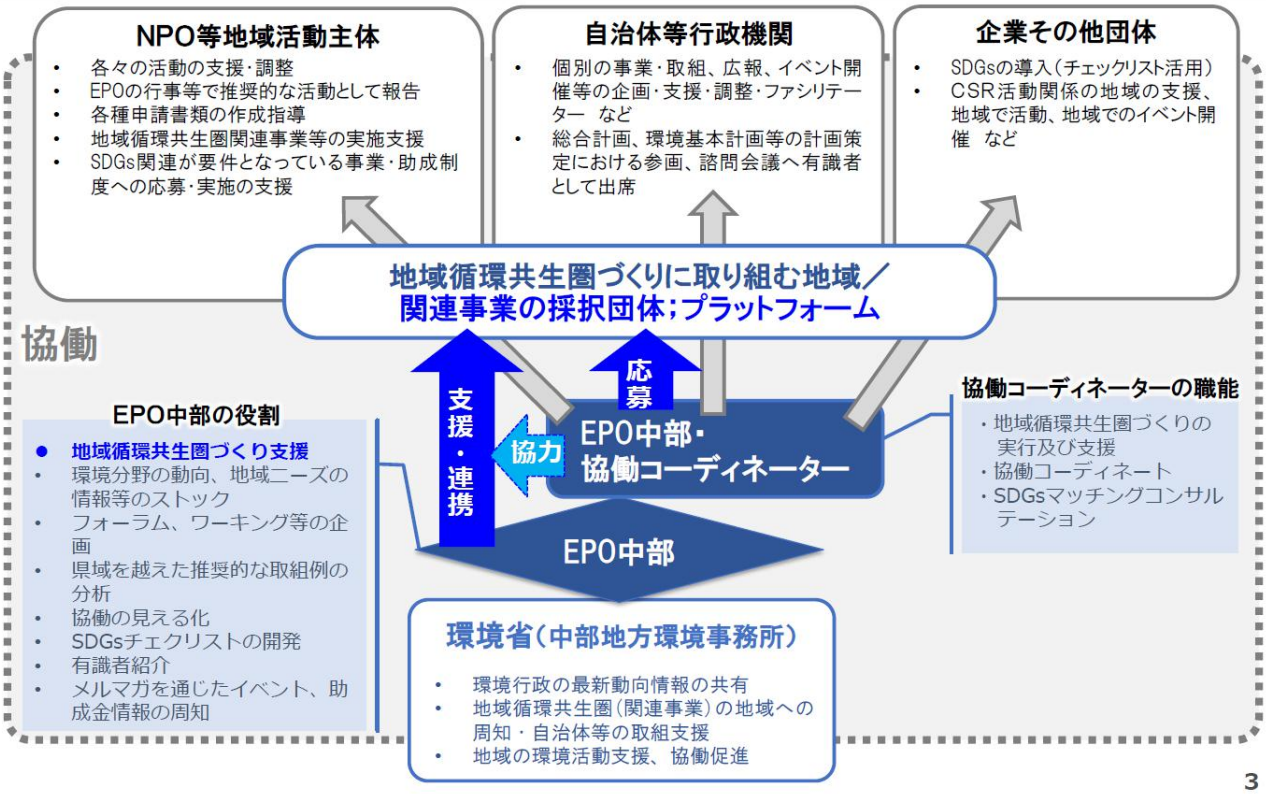
3. 2020年度からEPO中部は、地域循環共生圏／SDGsをテーマにしたワーキング、フォーラム、ミニシンポジウム等を開催する。上記2の「ネットワーク」構成主体にも参画・参加を呼びかけ地域の協働事例等をピックアップし、小規模な活動報告を兼ねたものとする。また、行事の結果については、参加者やネットワーク構成主体に適宜フィードバックし他地域の取組が分かるようにする。なお、イベント、助成金などの情報はEPO中部のメールマガジンで都度共有している。

4. 2019年度は、1/31に上記3のプレ・セミナーとして「地域循環共生圏づくりワーキング」を開催する。EPO中部・協働コーディネーターにファシリテーター参加を呼びかけた上で、2/7開催・第３回研究会でワーキングの結果を報告・共有し、今後のネットワーク及びEPO中部・協働コーディネーターを展開する。

5. 「活動見える化プログラム」はEPO中部の活用ツールとして位置付け、今年度簡素化に既に取り組み、推奨事例を見える化している。今後、事例や手法を蓄積し、ウェブサイトで公開する。プラットフォーム事業の採択の後押しとなるような活用をしていく。

2

EPO中部・協働コーディネーターネットワーク＜新＞運用イメージ



3

③ 地域循環共生圏づくりにおける取組地域の課題等について（第 2 回研究会のディスカッションの結果より）

- 第 2 回研究会では、地域循環共生圏に地域が取り組む上で課題となる事項や取組に必要な要素等を抽出するディスカッションを実施した。
- その結果、下記の事項があげられた。

■ お金になる仕組みにする必要がある。
  - ➢ 企業による参画や、ビジネスに対する認識のある人材が必要である。

■ 事業それぞれに「適切なエリア」が存在することにも目を向ける必要がある。
  - ➢ 例えば上流⇔下流。資源を売る→誰に売る？足りないものはどこから入手（購入）する？
  - ➢ 都市に売る・他地域から購入する。…ビジネス圏域としてのエリア設定の考え方も重要になる。

■ まずは小さなマネージメントで実施する・スタートさせる。
  - ➢ 小さな取組であれば完結・結実もさせやすい。
  - ➢ つまりは事例として一つの「成果」が得られやすい。成果を「見せる」「共有する」ことができる。

■ ステークホルダー（プラットフォーム）の中に経営のプロ、或いはその資質を持った人材が必要。
  - ➢ 従来の『活動』の現場の認識（「いいものを安く」「環境保全」等々のみ）ではなく、持続可能な『事業』として展開していくためにはビジネス、マネージメントの資質や感覚も重要になる。

■ そのほか
  - ■ 地域資源や取組の付加価値の掘り起こしが重要。
  - ■ 体験の共有（データのみでなく視察等でメリットを実感させる）も重要。

④ 地域循環共生圏ネットワーク（中部ブロック）による展開について（第 3 回研究会のディスカッションの結果より）

- 次年度以降は研究会を地域循環共生圏づくり活動者ネットワークとして位置づけ、展開するにあたり、第 3 回研究会ではネットワーク展開のアイデアを抽出するディスカッションを実施した。

■ 地域のビジョン（ローカル SDGs）の設定では、SDGs の本質の理解が重要となる。
  - ➢ ビジョンの達成では 169 ターゲットを意識することも大切である。
  - ➢ SDGs の地方データ（現状評価データ等）が必要とされている。
  - ➢ 自治体（組織）は横串協働への誘導も重要となる。
  - ➢ SDGs 推進を地域で展開していくためのプログラム（ツール）が必要とされている。

■ 地域における SDGs 推進において、企業、行政、市民など対象別の戦略（プログラム、ツール）が求められている。
  - ➢ 例）企業：本業・事業活動における利益にふれる／行政：分野・部署の垣根の取り払いを目指す／市民：SDGs を身近なものにする　など。

エ　協働コーディネーターとの連携取組

- 2019 年度に協働コーディネーターと連携・協力して実施した取組は、次の通りである。

	EPO の取組への協力内容	協力した協働コーディネーター
1	8 月・11 月に富山県内で「SDGs 実践セミナー」の開催（2 回開催）の共催協力（テーマ：地域循環共生圏／同時解決）	堺勇人氏（環境市民プラットホームとやま）
2	8 月に石川県金沢市で開催した EPO 主催フォーラムに登壇して協働取組の事例紹介	中嶌阿児氏（NPO 法人 WAC おばま NPO 法人） 茶木勝氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ）
3	11 月の第 2 回研究会で協働取組の事例紹介	河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター） 蒲和宏氏（「なごや環境大学」実行委員会事務局長）
4	11 月に長野県飯山市で開催した EPO 主催フォーラムで里山活用プロジェクト「森カフェ」開催協力	山田勇氏（NPO わおん） →ほかのコーディネーターによる里山をテーマにした活動で「森カフェ」連携展開などあり

	EPO の取組への協力内容		協力した協働コーディネーター
5	「地域循環共生圏づくり取組事例ヒアリング」業務で対象事例の活動者としてヒアリングに協力		茶木勝氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ） 河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター）
6	1 月開催「地域循環共生圏づくりセミナー」でファシリテーター協力		坂本竜児氏（NPO エコデザイン市民社会フォーラム） 河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター） 三田村佳政氏（水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局） 山室秀俊氏（長野県 NPO センター 事務局長）
7	（※ESD センター業務）「SDGs チェックリスト」活用ワークショップにファシリテーター協力	日進市職員対象WS	坂本竜児氏（NPO エコデザイン市民社会フォーラム） 蒲和宏（「なごや環境大学」実行委員会事務局長）
		味噌煮込みうどん大久手山本屋WS	坂本竜児氏（NPO エコデザイン市民社会フォーラム） 蒲和宏氏（「なごや環境大学」実行委員会事務局長） 河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター）
		西濃環境 NPO ネットワークWS（河合氏：共催協力）	坂本竜児氏（NPO エコデザイン市民社会フォーラム） 中嶌阿児氏（NPO 法人 WAC おばま NPO 法人） 河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター）

(2) 地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化

ア 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用

（ア）出展可能な環境イベントのリスト作成と公開

- 前年度に収集した自治体主催の「環境」をテーマにした出展可能イベントのデータについて、公開を前提にした情報確認とリスト化の整理を次表の通り、行った。
- また、作成したデータ集（リスト）については、EPO 中部ウェブサイトに公開した。

調査時点→	2019年12月	2019年3月	前回からの増減
富山県	11	12	-1
石川県	8	5	3
福井県	12	8	4
長野県	26	15	11
愛知県	69	61	8
岐阜県	32	26	6
三重県	20	11	9
計	178	138	40

【EPO 中部ウェブサイトでの公開】

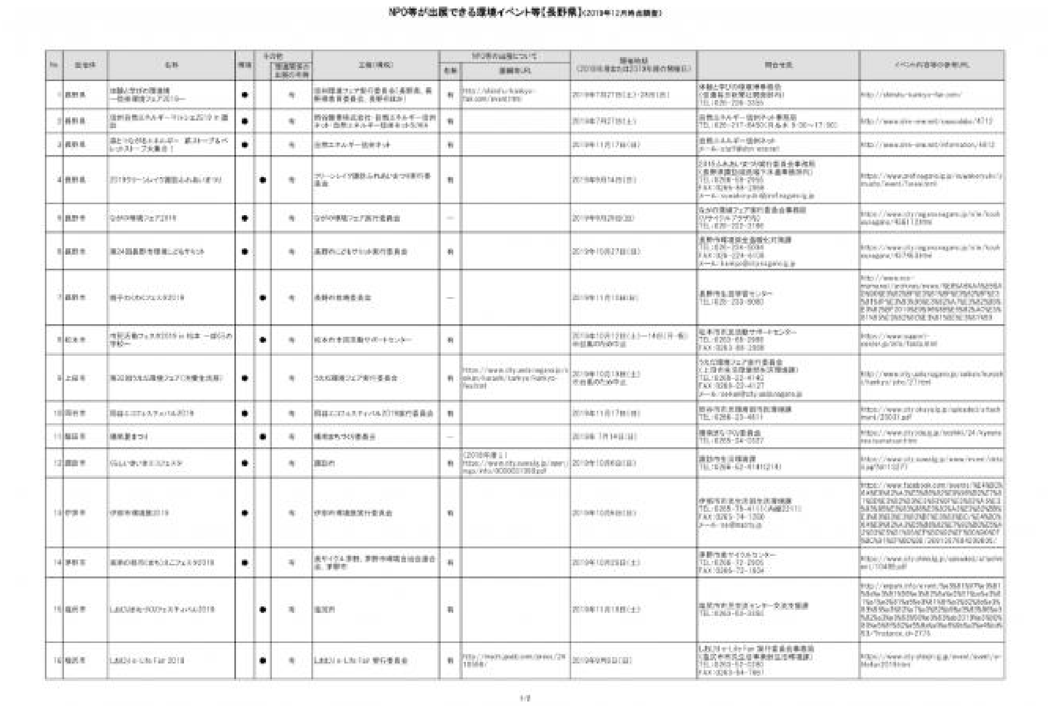
中部7県における《NPO等が出展できる環境イベント等一覧》をご活用ください

EPO中部では、中部7県〔富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県〕における**《NPO等が出展できる環境イベント等一覧》**を作成しました。
団体の活動PRの場を検討される際などにお役立てください。

- **富山県内のイベント** [PDF/89KB]
- **石川県内のイベント** [PDF/87KB]
- **福井県内のイベント** [PDF/267KB]

- 長野県内のイベント [PDF/139KB]
- 愛知県内のイベント [PDF/373KB]
- 岐阜県内のイベント [PDF/135KB]
- 三重県内のイベント [PDF/115KB]

▼リストのサンプル例（長野県のリスト）



【リスト掲載イベントについて】

リストは、2019年12月時点にEPO中部が検索を行い、下記3項目に該当しているイベントを抽出・整理したものです。

●中部7県の県市町村等の自治体が主催等に関連している。

●イベントのテーマが環境に関連している（環境関連のコーナーなどがある）。

●NPO・NGO等の地域団体によるブース出展が可能になっている。

※リスト掲載のURLは、検索時点に閲覧可能だったウェブサイト・ページです。

※各イベントの詳細は、リストに掲載のそれぞれの「問合せ先」におたずねください。

※イベントの追加、訂正・削除については、office@epo-chubu.jp へお知らせ願います。

（イ）ＳＮＳの活用

- EPO 中部･中部地方 ESD 活動支援センター兼用の Facebook ページを 2019 年 5 月末に開設した。（https://www.facebook.com/EPOchubu/）
- 主に主催イベント情報や新規発行物等の案内・お知らせなど情報提供のための投稿を行っている。

イ　中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催

（ア）第１回フォーラム

① 日時

- ８月７日（水）13：00～16：30

② 場所

- 金沢勤労者プラザ ４階 406 研修室（石川県金沢市）

③ 参加者数

- 30 名

④ プログラム

1. 講演：「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖
   新 広昭 氏（金沢星稜大学経済学部 教授）
2. EPO 中部・協働コーディネーターによる地域環境活動事例の紹介
   事例１：上市アグリパーク構想の取り組みと地域資源活用事例
   茶木 勝 氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役）
   事例２：厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組
   中嶌 阿児 氏（NPO 法人 WAC おばま 理事、NPO 法人若狭くらしに水舎 理事）
3. 高校生の環境活動の紹介
   事例１：トキ保護の普及・啓発活動
   石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊
   事例２：能登の棚田における環境保護活動
   石川県立七尾東雲高等学校 能登ちゃべちゃべ隊
   事例３：伝統と文化を紡ぐ養蚕復活プロジェクト
   石川県立津幡高等学校 園芸部
4. グループディスカッション
   高校生から見たら大人の活動はどう見える？ 大人は高校生の活動をどう導く？

5. パネルディスカッション（35 分）
若い力を地域環境活動に活かすには

⑤ 配布資料

- 資料 1　プログラム
- 資料 2　「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖
- 資料 3　上市アグリパーク構想の取り組みと地域資源活用事例
- 資料 4　厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組
- 資料 5　高校生の活動事例ごとのグループディスカッション【模造紙作成イメージ】
- 資料 6　参加者アンケート

（イ）第 2 回フォーラム

① 日時

- 11 月 23 日（土・祝）12：00～15：00

② 場所

- なべくら高原森の家（長野県飯山市）

③ 参加者数

- 29 名

④ プログラム

1. 開会挨拶
   西田 清紀 氏（環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査）
2. 講演「多様な協働による事業創造に向けて」
   島岡 未来子 氏（早稲田大学政治経済学術院 教授）
3. 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に選定された長野県内団体
   1）長野県根羽村：流域は一つ「運命共同体」（矢作川流域）
   2）一般社団法人スマート・テロワール協会：
   北信スマートテロワール～美しく・個性的で・豊穣な地域自給圏を目指して（北信地域）
4. 協働事例の紹介
   1）飯山林福連携事業と「飯山ログファイヤー」の紹介　里山ウェルネス研究会
   2）協働による里山活用プロジェクト「森カフェ」の紹介
   山田 勇 氏（NPO わおん／EPO 中部・協働コーディネーター）
5. 「森カフェ」で交流会&なべくら高原森の家による「木のクラフト」ワーク
6. 閉会

⑤ 配布資料

- 資料 1　プログラム
- 資料 2　多様な協働による事業創造に向けて
- 資料 3　流域は一つ『運命共同体』　長野県根羽村
- 資料 4　北信スマートテロワール～美しく・個性的で・豊穣な地域自給圏を目指して
- 資料 5　飯山林福連携事業と「飯山ログファイヤー」参考資料
- 資料 6　協働による里山活用プロジェクト「森カフェ」参考資料
- 資料 7　参加者アンケート

（ウ）フォーラム登壇者等からの事後報告

- 第２回フォーラムの登壇者・協力者等から、フォーラムに登壇等したことの影響として次の事項が報告されている。

同時解決事業の採択団体； 里山ウェルネス研究会	・メンバーから、フォーラムの講演（早稲田大学・島岡未来子先生「多様な協働による事業創造に向けて」）の事業創造における「デザイン思考」「リーンローンチパッド」の話が、今後、地域でソーシャルビジネス・プラットフォームを立ち上げに向けて動こうとしている今の自分たちに必要な情報をいただけたとの感想をいただいた。 ・協働コーディネーターによる里山活用プロジェクト「森カフェ」で、事業のキーアイテム（ログファイヤー）を活用した講座開催の取組が進行中。
共生圏PF事業の採択団体； スマートテロワール協会	・フォーラムをきっかけに、里山ウェルネス研究会とスマートテロワール協会のSH（信州大学）が、学生による里山（木こり）体験や間伐材を活用した新しいプロジェクトの立ち上げを協議することになった。
「森カフェ」開催協力； NPO わおん・山田氏 （協働コーディネーター） その他参加した 協働コーディネーター	・フォーラムでの「森カフェ」体験をきっかけにして、他の協働コーディネーター主催の里山づくりイベントで、森カフェを開催することになった。 ・PF事業の採択団体・根羽村（フォーラム登壇者）の取組テーマが「流域（取組エリアが矢作川流域）」と「森林」であることから、事例として参考にしたいと複数のコーディネーターがアンケートで回答。

ウ　地域循環共生圏及び協働取組促進のためのグループワーキング

① 日時

- １月 31 日（金）13：30～17：00

② 場所

- 環境省中部地方環境事務所 第１会議室（愛知県名古屋市）

③ 出席者

- 33 名

④ プログラム

1. 開会の挨拶
2. EPO 中部の紹介
3. 講演「環境省の最新動向～SDGs と地域循環共生圏～」
   西田 清紀 氏（環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査）
4. 情報提供「地域経済循環分析について」
   山崎 清 氏（株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第４事業部 事業部長）
5. 情報提供「地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）の紹介」
   江口 健介 氏（地球環境パートナーシッププラザ）
6. ワークショップ「持続可能性のための地元担い手ワーキング」
   〔ファシリテーター〕EPO 中部・協働コーディネーター
   坂本 竜児 氏（NPO エコデザイン市民社会フォーラム）
   河合 良太 氏（NPO 泉京・垂井 理事）
   山室 秀俊 氏（長野県 NPO センター 事務局長）
   三田村 佳政 氏（水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局）
   清本 三郎（EPO 中部）
   〔進行〕原　理史（EPO 中部）
7. 閉会

⑤ 配布資料

- 資料１　プログラム
- 資料２　EPO 中部による「協働」による地域循環共生圏づくり支援
- 資料３　環境省の最新動向～SDGs と地域循環共生圏～

- 資料 4　地域経済循環分析について
- 資料 5　EPO と GEOC
- 資料 6　ワークショップ「持続可能性のための地元担い手ワーキング」
- 資料 7　協働による地域活動・地域循環共生圏のための通信簿
- 資料 8　地域経済循環分析ツール
- 資料 9　参加者アンケート
- 資料 10 協働による地域循環共生圏づくり EPO 中部・協働コーディネーターの紹介
- 資料 11 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレット

エ　フォーラム等の参加者アンケート結果

- フォーラム及びセミナーの参加者を対象にしたアンケートでは、いずれも肯定的な回答が多く、参加者は開催内容・結果を好意的に評価していることがうかがえる。
- 参加者同士の交流についても、「充分にできた」と「まあまあできた」が多く、参加者同士の交流にもつながっていたことがうかがえる。
- 役立つ情報について、飯山フォーラムと地域循環共生圏づくりセミナーは「あった」の回答が多いが、金沢フォーラムは「どちらともいえない」が多く、特に取組発表を行った高校生達にとっては、やや難しい内容となっていた可能性がある。
- また、いずれのフォーラム・セミナーの参加者も、「もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられた内容だった」と答えた回答者が多く、参加者のモチベーション向上につながったことがうかがえる。

	●今回の催事はいかがでしたか					●ディスカッション等でほかの参加者と充分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	充分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
190807協働フォーラム金沢(n=21)	11	10	0	0	0	5	9	3	1	3
191123協働フォーラム飯山(n=18)	15	3	0	0	0	6	7	1	0	4
200131地域循環共生圏セミナー(n=20)	12	4	2	0	2	9	8	1	1	1

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか					●協働に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答		もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
190807協働フォーラム金沢(n=21)	9	1	10	1		14	6	0	1	0
191123協働フォーラム飯山(n=18)	17	0	1	0		17	1	0	0	0
200131地域循環共生圏セミナー(n=20)	17	0	2	1		15	3	1	0	1

【役立つ情報や事例（自由記入）】

190807 協働 フォーラム 金沢	• 自身のやっている活動に考え方（ロジック）を活かしたい。 • 今回の全ての情報～事例が最良最適であります。石川県内ネットワークシステムの確立が必要である。 • 高校生の意見を聴くことができました。 • インターネットなどを使用した広報活動の案 • 活動の事業化をどう考えるか参考になった。 • ・地域協働による地域イノベーション・持続可能な社会を作っていく！→環境における要素がいろいろ分かった！ • 実際に行われてる事例や活動を行う上でのアドバイスをいただき、とても参考になりました。高校生との活動事例もありよかったです。
191123 協働 フォーラム 飯山	• アイデアのつなげ方が参考になりました。 • 小布施町の取組 • 自分の中に断片的に行動・思考していた取組がいくつもあった。 • 島岡先生の話（デザイン思考、リーン・ローンチパッド） • 島岡先生の話、勝亦先生の話が興味があり、今、実践しようとしている話がマッチしました。 • 森林資源の活用の方法やビジネスモデルなどのアイディアを知ることができた。 • すべての講演でこれからの新たな取組の参考になった。 • スマートテロワール • 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の事例発表があり、具体的なことがよく分かった。 • 地域循環共生圏の具体事例を知ることができてよかった。特に、根羽村の流域での取組は参考になりました。 • デザイン思考 • 根羽村の事例：流域というくくりが地域循環共生圏にフィットすることは発見でした。 • 久しぶりに環境のテーマのものに参加しました。 • 北信スマートテロワール、小布施を舞台にいろんな活動をしていること（ものづくり、再生エネルギー等）がとても参考になりました。 • リーダーシップの考え方がわかりやすく、まとまっていたので、活用していきたいです。 • ログファイヤ―、島岡先生のお話
200131 地域 循環共生圏 セミナー	• EPO 中部における「情報提供・広報等」のサポートを頂けるということ、地域経済循環 • SDGs と地域循環共生圏、地域経済循環分析について、ワークショップ • SDGs 取組事例、参加者との情報交換 • それぞれ視点が異なることを再認識しました。 • 気候変動と防災の話をもっと聞きたいと思った。 • 行政の政策形式、市民との交流に役立てそうです。SDGs を意識して仕事をしていこうと思います。 • 行政以外の方の考え方を聞けてよかった。 • 講師発表がよかった。 • 循環分析等資料。居住地は違っても、同じような課題が出た。 • 情報分析や先進都市の取組、地域循環共生圏シートの作成 • 他自治体の課題や考え方が参考になりました。 • 地域のプレイヤー、高齢の方にご活躍いただく新しい視点をいただきました。 • 地域経済循環分析 • 地域循環共生圏、経済循環分析 • 都市側の課題や強みを知ることができ、連携につながっていくと思う。

【参加者の感想等（自由記入）】

190807 協働 フォーラム 金沢	• アブラギリの活用についての話は大変興味深かった。 • 今まで地域資源の活用とか考えたこともなかったですし、他人事だったと思います。自分の住んでいる地域のために一生懸命活動されている方のお話を聞けて勉強になりました。私も自分のできることがないか考えていきたいと思います。 • 地元、環境グループ～SDGｓのグループなど石川県内 NPO 関連に事前に PR すべきである。この様なセミナー内容であるならば 100 人以上の紹介が出来ると考えます。情報ネット

	ワーク化が不十分である。今回参加グループ～個人事業などSDGｓ活動を行っている方々の情報開示化を行い、より以上の基点構築化を図るべきである。〈地域協働化が不足である〉→〈地域イノベーション不足である〉 • 自分たちだけでは出ないような意見を得られ、より良い活動に活かそうと思う。また、インターネットを使用するなどのすぐに実行できる案も出てきたのですぐに試行したいと思う。 • 今日の活動を通じて初めて分かったことや不思議に思うことが多数ありました。トキ・米・養蚕における環境などがどういったところで利用されてより良いものになるのかという構成が今回の講習会において、非常に大事なことだったと思いました。このことをまた、今後の活動に生かせるように日々努力していきたいと思います！ • 今回の環境フォーラムを通じて大人たちが僕たちの知らない間で地道に活動しているんだなと思いました。最初の新広昭さんの発表、「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖では、“持続可能（sustainable)な社会（開発）”を21世紀社会のキーワードとして話してくれました。 • とても参考になりました。 • 本日のこのフォーラムを石川県内のNPO団体にも周知したら良かった。 • 他校との交流と情報や事例が良かったです！ • このような機会がない限り考えないような話をたくさん聞けて楽しかったです。難しい話もあったけど楽しかったです。 • 講演は難しくてあまり理解を深めることができなかった。でも津幡高校の取組を知れてよかったです。 • 色んな意見を聞けてすごく楽しかったです。同じ班にいた竹内さんと出村先生の対話も面白くて、色んな事に気づけました。 • 途中参加でしたが、生徒の顔がイキイキしていて最初から参加して色々とディスカッションを見たかったなーというのが本音です。ありがとうございました。
191123 協働 フォーラム 飯山	• 経営的な視点での話や、地域循環共生圏づくりの具体的事例を知ることができた。今後、森林資源を活用した里山保全事業に取り組んでいきたい。 • 自然のよい雰囲気・空間で話を聞くと、頭に入ってくるのでよかった（会議室よりもよい）。 • 島岡先生の講演、今後の活動を進める参考になった。根羽村、スマートテロワールの取組は、流れはわかったが、何かうまくいきすぎていて、きっとある苦労話、もっとうまくいかなかったことを聞きたい。 • スマートテロワールの洗練さ、デザイン性の高さ、その統一感を今後市民レベルが共有できるかが気になる。 • 地域循環共生圏は、ひとつの自治体あるいは地域で取り組む活動だと思っていたが、流域という発想はおもしろく興味深く聴かせていただいた。
200131 地域 循環共生圏 セミナー	• SDGsの内容がよくわかりました。これから大いに活動したいと思います。 • あらためて地元について、良いところ・悪いところを見つめ直したいと思いました。 • ワークショップは、特定の地域ではない議論で少しふわっとしましたが、人口規模や社会状況が異なる地域間の議論は非常に面白かったです。 • 協働の難しさや課題と達成された先にある効果について知ることができました。さらに深めていきたいです。 • 限られた時間の中で、シートを作り議論をする、とてもよい経験になりました。 • 個々人の意見には興味が多くあった。 • 今後の起業・創業において、①地域経済循環、②SDGs を理念として落とし込むのがよいと再認識しました。 • 情報量が多すぎて頭がパンパンです。もう少しゆっくり話をしてほしかった。グループワークは先駆的な試みでした。もっと個人の行動につながるとよいかなと思いました。 • 地域循環共生圏づくりという新しいキーワードが新鮮でした。もっと勉強していく必要性を感じました。 • 地域内を循環させ自立することを目指しており、そのために次世代の育成が重要と考えている。 • 難しい内容かと思いましたが楽しくできたワークショップでした。

5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1)ESD 活動を支援するための情報共有等

ア PR ツールの修正・公開

（ア）ワーキング用シートの作成・公開

- 中部地方 ESD 活動支援センターの取組成果及び中部の ESD/SDGs 活動の周知を目的とした PR ツール「ESD のための SDGs チェックリスト」（前年度に作成）を改善、活用すると共に地域の ESD 活動実践者等の活動の可視化に資する業務を実施した。
- PR ツールは 500 部を増刷し、SDGs チェックリスト検証ワークショップ等での配布を行った。
- また、SDGs チェックリスト検証ワークショップ等で活用していたワーキング用シートを中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトに公開し、ダウンロードして自由に活用いただけるようにした。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトへの掲載】

（イ）改善・改訂した SDGs チェックリスト

- 昨年度作成した「ESD のための SDGs チェックリスト」を実際にワークショップ等で活用しつつ、使い勝手等を検証し、改善検討を行った。
- 改善を反映して今年度新規に作成したチェックリストは次の通り、「基本段階版」と「事業所活用版」の 2 種類である。
- 作成したチェックリストは、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに公開・掲載した。

【基本段階版】

SDGsチェックリスト ver.1.20

監修： SDGsツール作成ワーキンググループ 2019年度　　発行： 環境省中部地方環境事務所 中部地方ESD活動支援センター

社会の一員として、すでに行っていることを、振り返ってみる				貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に保健と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなに、クリー	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろ	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさも守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成し	SDGs目標との関連チェック！	
分類と例示		すでに行っている取組みの内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計	SDGs目標を選んだ理由
1. 飲食の提供や管理	食堂、キッチン等の運営管理																					
2. 低・脱炭素エネルギー利用	省エネの実践、再エネ利用																					
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫																					
4. 通勤（通学）、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコカー採用、エコドライブ																					
5. 調達（購入）と廃棄物処理	効率的調達、グリーン購入、地産地消、3R																					
6. 施設とその周辺	環境配慮建築、持続可能性や多様性に配慮した施設や																					
7. 多様なメンバーの公平な参加	教育の推進、役割の公平性、多様な関係者の人権の																					
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの																					
9. その他の仕事（事業）などを通じた貢献																						
合計																						

【事業所活用版】

SDGsチェックリスト（事業所活用版）

○SDGs目標との関連チェック：①最も関係するSDGs目標（3点×最大1）、②ある程度関係するSDGs目標（2点×最大2）、③少し関係するSDGs目標（1点×最大5）

○取り組み内容が関係するSDGs目標を選んだ理由：複数のSDGsが関係する場合は、それぞれその理由を右端の欄にご記入ください。

				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	SDGs目標の相互関連チェック	
			目標	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなに、クリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさも守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう		
			備考（含まれる関連テーマ）		農業	大気								防災	フェアトレード							
	取組み分野	具体例	取組み内容																		合計	SDGs目標を選んだ理由(SDGs番号)
製品・サービス・社会貢献	①持続可能な経済成長と社会的課題の解決	商品・サービスの品質と安全性確保、持続可能で強靭な社会インフラの開発・維持、イノベーションによる持続可能な経済成長、など。																				
	②社会参画と発展への貢献	経営理念に沿った社会貢献活動・CSRの推進、地域社会の幅広い分野・立場の人々との交流を通じた相互信頼の獲得、従業員のボランティア活動支援、など																				
	③消費者・顧客との信頼関係、公正な情報開示	商品・サービスの適切な情報提供、消費者・顧客への誠実対応、責任ある生産と消費、フェアトレード、など。																				
	④環境問題への取り組み	サプライチェーンを含む企業活動を通した低炭素社会の構築、循環型社会の形成、生物多様性の保全、など																				
製造・調達・企業経営	⑤働き方の改革、職場環境の充実、人権の尊重、人材育成	多様な人材（外国人含む）の就労推進、差別や不合理な格差のない雇用管理、ワーク・ライフ・バランスの推進、など。																				
	⑥ 危機管理の徹底	組織的な危機管理体制の整備、サイバーセキュリティの確保、災害発生時に備えた体制の構築、軍事産業への負加担、平和構築など。																				
	⑦公正な事業慣行とガバナンス	透明性の高い経営体制、企業倫理の徹底、持続可能なサプライチェーンの構築、など。																				
合計																						

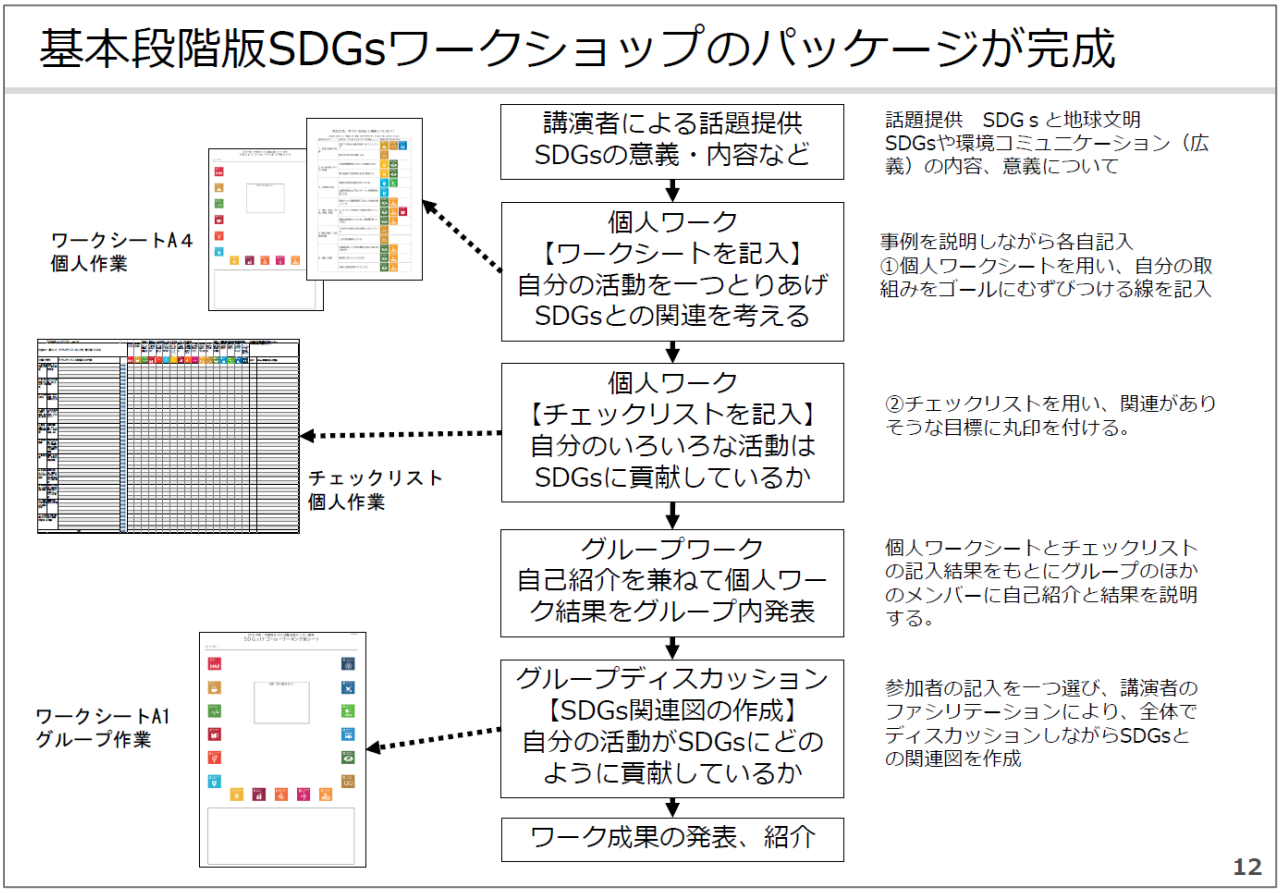
貴社がSDGs達成に特に貢献している分野

貴社がSDGs達成に向けてさらなる取り組みや他団体との連携が期待される分野

監修：「ESD/SDGsポイント」チェックリスト（仮称）作成WG
発行：環境省中部地方環境事務所
中部地方ESD活動支援センター（環境省・文部科学省）

（ウ）ワークショップ用パッケージの作成

- チェックリストについては、ワークショップ等での活用を念頭に、SDGs17 ゴール別の「取組例」を例示する資料と、SDGs について説明する「スライド」を作成し、SDGs ワークショップを実施するためのパッケージ・ツール一式として ESD センターウェブサイトで公開した。



【ワークショップ用パッケージ・ツール；取組例資料】

あなたは、すでに SDGs に貢献している？！

＜社会の一員として、「職場」や「事業」などですでに行っていることを、振り返ってみる＞

考える入り口	例えば、こんなことをしている場合。。。。。。	関係する SDGs の例
1．飲食の提供や管理	食堂では地元の食材を使うようにしている。	2 12 14
	割りばしをやめて、おき箸にした。	12
	子ども食堂をやっている。	1 4 17
2. 低・脱炭素エネルギー利用	太陽光発電を取入れることを検討する。	7 13
	冷蔵庫を省エネ型に取り替えた。照明を LED にした。	13 11
	電力自由化で低炭素の会社に見直した。	7 13
3．水利用と排水	植栽の水まきは雨水を使っている。	6 15
	洗面所は節水コマをつけトイレを最新節水型にした。	6
4．通勤（通学）、搬送、輸送、配達	配達ルートは最短時間になるよう毎週点検している。	13 11
	エコドライブを徹底する職員教育をしている。	13 11 4
	通勤は自転車でしている。駐輪場が新しくできた。	13 11
5．調達（購入）と廃棄物処理	できるだけ地元の材料を買うようにしている。	12
	ごみ分別を徹底している。	12
	プラスチック使用を抑制している。	12 14

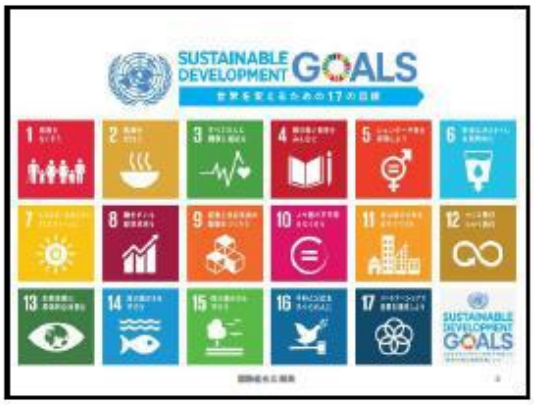
＜社会の一員として、「職場」や「事業」などですでに行っていることを、振り返ってみる＞

考える入り口	例えば、こんなことをしている場合。。。。。。	関係するSDGsの例
6. 施設とその周辺	日差しを遮る遮光ガラスにした。	13 11
	夏は緑のカーテンを設置している。	15 13
	街路樹の管理を受け持っている。	15 11
	外国人用に英語の看板とメニューを作った。	16
7. 多様なメンバーの公平な参加	男性の育休を推奨している。	5 10
	部長も課長も女性。	5 8 10
	障がい者の職場受け入れをしている。	3 8 10
	ベトナムの留学生をアルバイトで雇っている。	10 8 16
8. 社会参加と交流	夏祭りの花火大会に協力したり参加したりしている。	17
	町内や商店街の一斉清掃に参加している。	11 17
	学校の運動会に格安でお弁当を出している。	4 2 17
	視察や旅行で現地の人との交流会を行った。	16 17
9. その他の仕事（事業）などを通じた貢献	Web や広告に「地域から SDGs に貢献する〇〇活動！」と具体的取組みを紹介する。	9 4
	自分のセクションや活動内容は〇〇を通じて SDGs に貢献している。	????

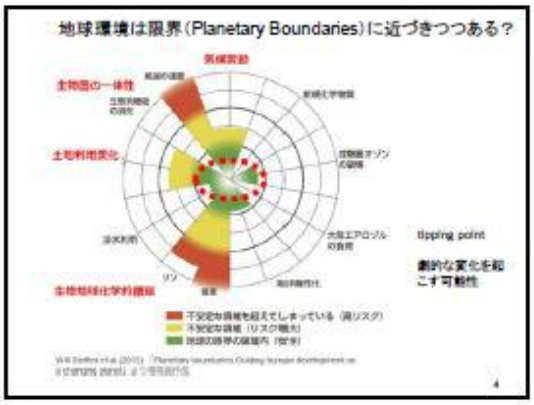
【ワークショップ用パッケージ・ツール；説明用スライド】

1

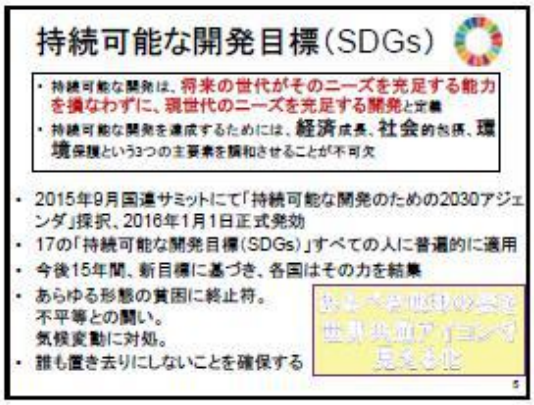
2



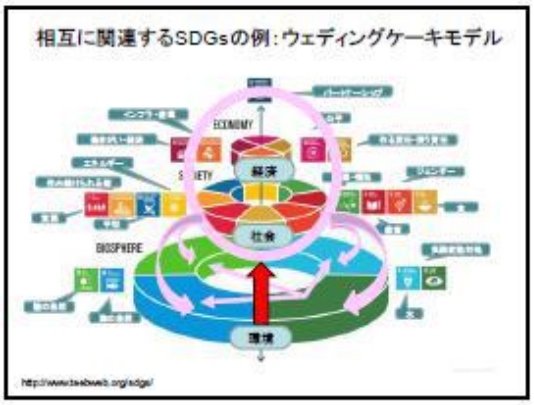
3



4



5



6

1

企業行動憲章2017

2017年11月8日 一般社団法人 日本経済団体連合会

経団連では、Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱として企業行動憲章を改定

企業は、国の内外において次の10原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たす。

（持続可能な経済成長と社会的課題の解決）
（公正な事業慣行）
（公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話）
（人権の尊重）
（消費者・顧客との信頼関係）
（働き方の改革、職場環境の充実）
（環境問題への取り組み）
（社会参画と発展への貢献）
（危機管理の徹底）
（経営トップの役割と本憲章の徹底）

グローバルスタンダードに

7

うちの事業、関係あるの？

あなたの事業活動に大いに関係あります！！！

8

あなたの活動もSDGsにつながっている

9

例）うどん屋さんのSDGsの取組み

地元のメーカーとの取引を続けることで、地元メーカーと協働し、地域資源の活用と地域経済、雇用を可能にし、持続可能な地域づくりにつなげる

フードマイレージ（地元産食材８割の使用）によりCO2の排出を抑えている

10

例）うどん屋さんのSDGsの取組み

富裕層や観光客をターゲットにした付加価値のある発展途上国用の「うどんメニュー」を提供することで地域経済の活性化につなげる

発酵食品である味噌煮込みうどんが販売されることで、栄養を取ることができ、健康的な食事をとることができる

11

例）うどん屋さんのSDGsの取組み

味噌が持つ新たな価値を創出するために、発酵食品と業態のコラボレーションによる健康を重視した商品を提供できる

お互いの強みを活かした商品を開発することで、地域にとって価値をもつ商品を提供し、経済を生み出し、地域産業の活性化につなげる

12

13

WS11. まずは活動を一つ取り上げ考える

・自分の職場や事業で活動を一つ取り上げSDGsにどのように関係するか考えてみよう。
・隣の人に書いた結果の内容を紹介してみよう。

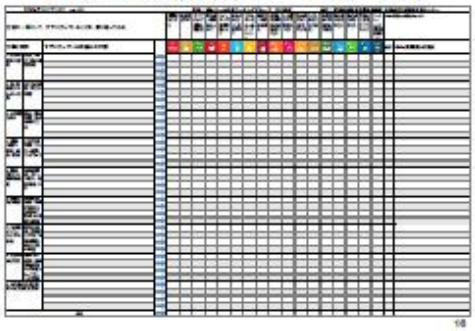
14

WS12. SDGsチェックリストを使ってもう少し詳しく考えてみよう。

・自分の職場や事業でSDGsに関係する取組みを洗い出してみよう。

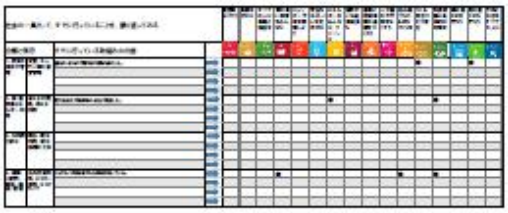
15

書いてみよう！SDGsチェックリスト



16

書いてみよう！SDGsチェックリスト



17

例えばこんな風に考えてみる

あなたは、すでにSDGsに貢献している？！
<社会の一員として、「職場」や「事業」などですでに行っていることを、振り返ってみる>

振り返りの入口
1. 飲食の提供や管理
2. 低・脱炭素エネルギー利用
3. 水利用と排水
4. 通勤（通学）、搬送、輸送、配達
5. 購入（購入）と廃棄物処理
6. 施設とその周辺
7. 多様なメンバーの公平な参加
8. 社会参加と交流
9. その他の仕事（事業）などを通じた貢献

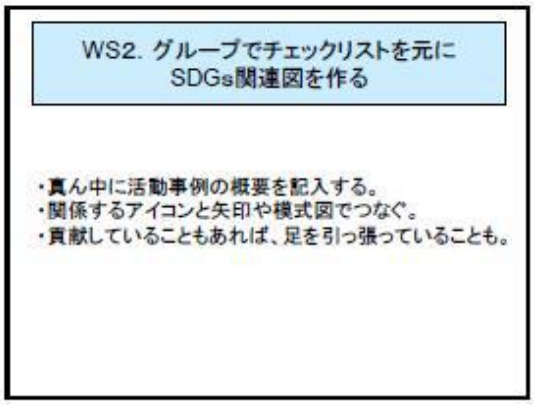
18

19

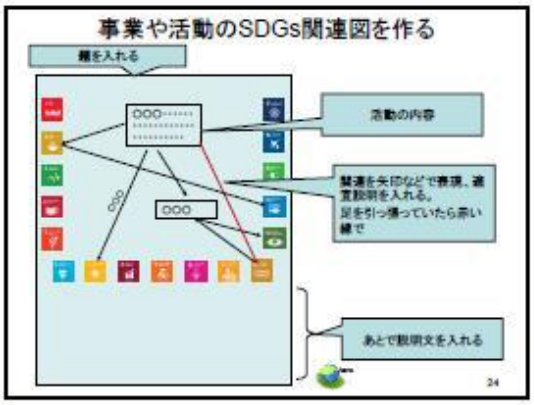
20

21

22



23



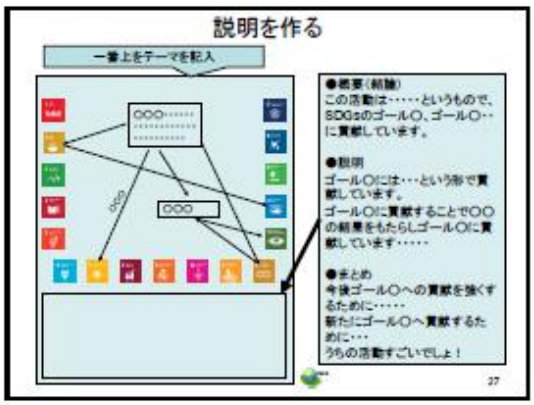
24

25

WS3. SDGs関連図を踏まえて説明文を作る

・「概要」、「説明」、「まとめ」の順に説明文を作ってみる
・テーマを一番上に記入する

26



27

WS4. 結果を話してみよう

・結果を皆さんに説明してみよう

28

最後に

- あなたはすでにSDGsに取組んでいます。
- あなたにとっての身近なSDGsの取組みは地球文明の持続可能性に貢献します。
- すでにSDGsに貢献している取組みは、その良さを多方面に伸ばしましょう。
- もしSDGsの足を引っ張っていることがあれば、なるべく減らす努力をしましょう。

29

29

5

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに公開】

2020.03.16　SDGsチェックリスト

新バージョン完成！「SDGsチェックリスト」をご活用ください

SDGsチェックリストとは、中部地方ESD活動支援センターが作成した、事業や活動を17のゴールに関連付ける、気づきのためのチェックリスト型ツールです。

●SDGsチェックリスト（基本段階版）
事業や活動をリスト化してチェックし、SDGsとの関連を考えます。

チェックリスト活用のため、こんなツールを用意しました。（使い方は工夫次第！）

●取組とSDGsの関係を考える事例シート

●個々の取組とSDGsの関係を考えるワークシート

●SDGsワークショップパッケージスライド

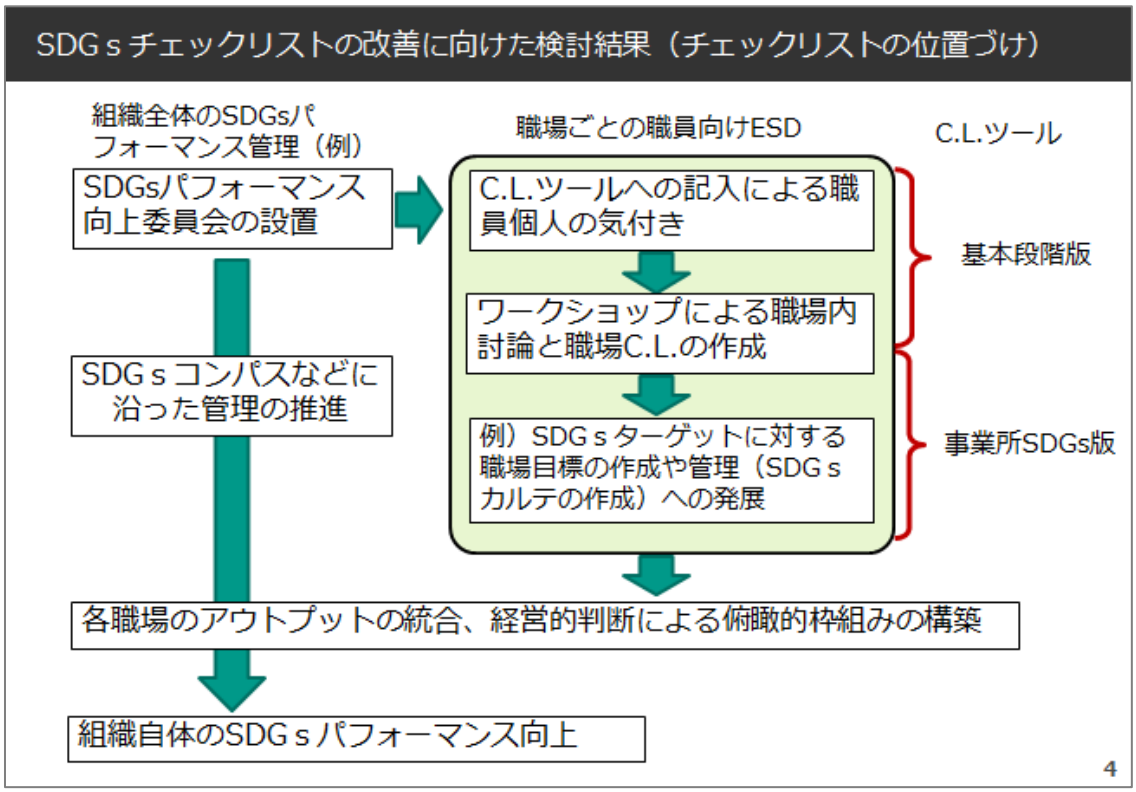
また、さらなるSDGs取組のため「事業所SDGs版」を用意しました。

●事業所SDGs版チェックリスト

●参考：SDGsチェックリスト活用ガイド

イ　専門家を含めた作成ワーキンググループ

- SDGs チェックリスト等の改善・改訂にあたっては、専門家を含めたワーキンググループを 2 回開催し、検証結果を確認しながら改善すべき点等について検討を行った。



（ア）第 1 回ワーキング

① 日時

- 7 月 17 日（水）16：00～17：30

② 場所

- EPO 中部

③ 出席者

（SDGs ツール作成ワーキンググループ委員）

氏名	所属	役職
古澤　礼太	中部大学 国際 ESD センター	准教授
曽我　幸代	名古屋市立大学 人文社会学部	准教授
伊藤　佳世	中部大学 経営情報学部	准教授

（ファシリテーター）中部地方 ESD 活動支援センター　責任者　原　理史
（事務局担当）　EPO 中部　清本三郎、富田夏子
（オブザーバー）　環境省中部地方環境事務所　溝手康人企画係長、西田清紀主査

④ 議事次第

1. 挨拶、趣旨説明
2. 今年度計画説明（基本段階版の検証、事業所活用版の作成）
3. 検証計画と実施状況の説明
4. ディスカッション
   下記論点を踏まえてブレーンストーミング
   ・検証の解釈と方法の改善
   ・チェックリスト改善点
   ・使い方のパッケージング
5. まとめ、第 2 回開催日程調整

⑤ 会議資料

- 資料 1：チェックリストの作成（検証・改善）と作成 WG について
- 資料 2：事業所活用版
- 資料 3：基本段階版（昨年度制作分）
- 参考資料 1：「あなたの会社が出来ることは?」（伊藤委員提供）
- 参考資料 2：「中小企業のための SDGs 入門ワークショップ」（伊藤委員提供）

（イ）第 2 回ワーキング

① 日時

- 10 月 23 日（水）16：00～17：30

② 場所

- EPO 中部

③ 出席者

（SDGs ツール作成ワーキンググループ委員）

氏名	所属	役職
古澤　礼太	中部大学 国際 ESD センター	准教授
曽我　幸代	名古屋市立大学 人文社会学部	准教授
伊藤　佳世	中部大学 経営情報学部	准教授

（ファシリテーター）中部地方 ESD 活動支援センター　責任者　原　理史
（事務局担当）　EPO 中部　清本三郎、富田夏子

④ 議事次第

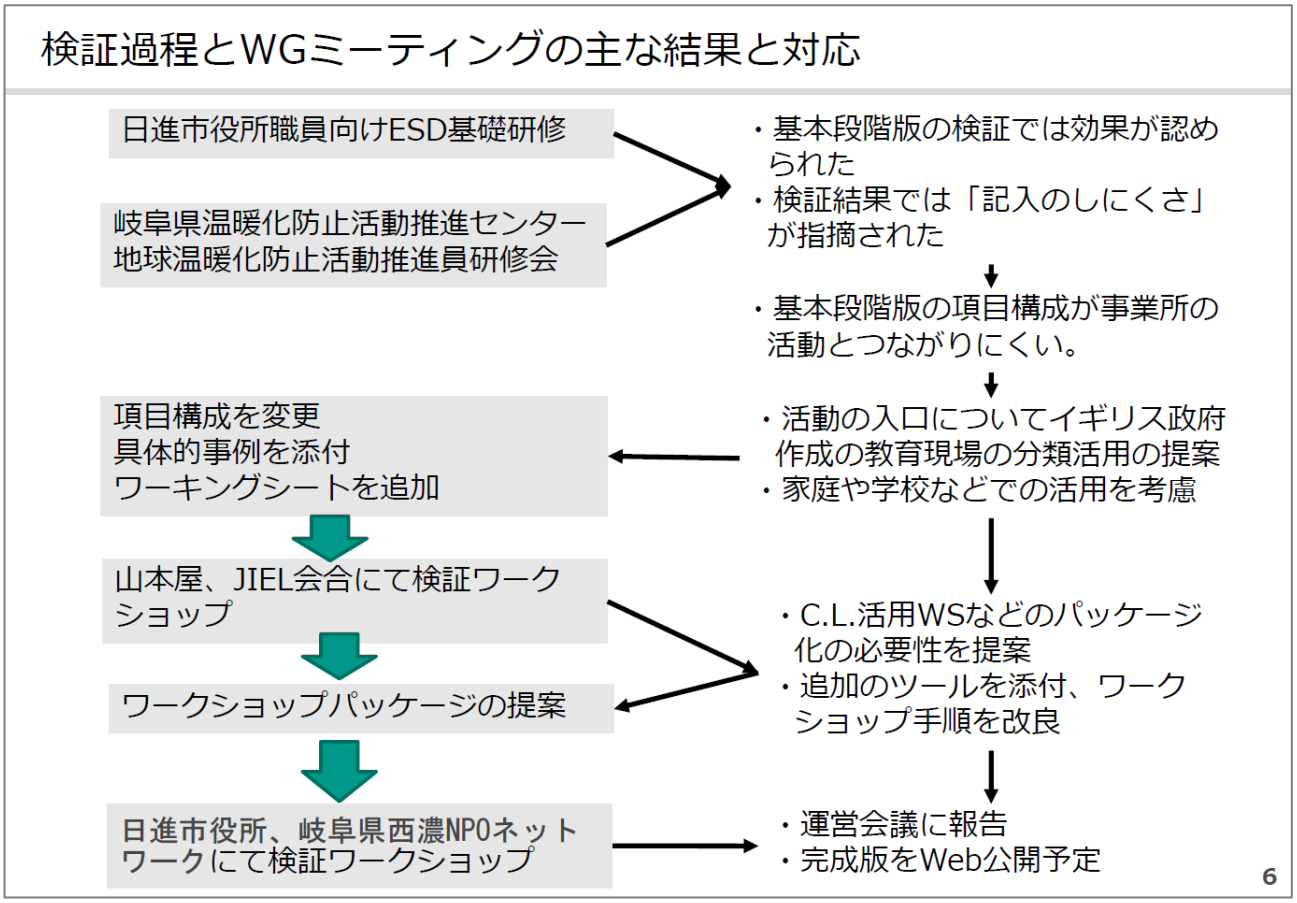
1. 第 1 回の振り返り
2. 第 1 回を受けた基本段階版の修正と検証
3. 事業所活用版と今後の取り扱い
4. まとめ

⑤ 会議資料

- 資料 1：第 1 回ミーティング議事概要
- 資料 2：第 2 回ミーティング説明資料
- 資料 3：基本段階版 SDGs チェックリスト Vr.1.10 及び事例シート
- 資料 4：基本段階版 SDGs ワークショップパッケージスライド資料
- 資料 5：事業所活用版 SDGs チェックリスト（現在案）

ウ　ESD のための SDGs チェックリストの活用（ワークショップの開催）

- 作成ワーキンググループによる SDGs チェックリストの検証にあたり、SDGs チェックリストを実際に使用したワークショップを実施している。
- また、検証ワークショップでは、EPO 中部・協働コーディネーターがファシリテーター、観察者として参加し、一般参加者の反応やグループワークでの様子（使い勝手の難易度）などに関するレポートを提出している。



（ア）第 1 回ワークショップ

① 日時

- 5 月 28 日（火）10：00～12：00

② 場所

- 日進市役所 南庁舎 2 階 第 5 会議室（愛知県日進市）

③ 出席者

- 41 名（うち日進市役所職員 34 名）

④ プログラム

10：00～　挨　　拶（5 分）

10：05～　講　　演（50 分）

「ESD を推進して日進市の環境まちづくりを!」

原　理史 氏（中部地方 ESD 活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所）

10：55～　ワークショップ～「ESD のための SDGs ポイントチェックリスト」を用いて～（55 分）

（1）個人ワーク　（2）グループワーク　（3）発表　（4）まとめ

11：50～　日進市環境課による諸連絡（10 分）

12：00　終了

⑤ 配布資料

- 資料 1：ESD を推進して日進市の環境まちづくりを!
- 資料 2：ESD のための SDGs ポイントチェックリスト

（イ）第 2 回ワークショップ

① 日時

- 8 月 29 日（木）15：00～17：00

② 場所

- 大久手山本屋（愛知県名古屋市）

③ 出席者

- 21 名

④ プログラム

15：00～　挨　　拶（5 分）

15：05～　講　　演（60 分）

「SDGs とは何か」

原　理史（中部地方 ESD 活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所）

16：05～　ワークショップ

～SDGs チェックリストを用いて社員の一員としてすでに行っていることを振り返る～（55 分）

（1）個人ワーク　（2）グループワーク　（3）発表

17：00　終了

⑤ 配布資料

- 資料 1　あなたは、すでに SDGs に貢献している？！
- 資料 2　SDGs チェックリスト

（ウ）第 3 回ワークショップ

① 日時

- 12 月 14 日（土）16：00～18：00

② 場所

- 大垣市多目的交流イベントハウス（岐阜県大垣市）

③ 参加者数

- 23 名

④ プログラム

1. 趣旨説明（5 分）
2. 挨　拶　　（5 分）
3. 協働コーディネーター紹介（5 分）
4. 話題提供（30 分）　「SDGs とは何か～企業・団体にとってその意味を考える」
   原　理史 氏（中部地方 ESD 活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所）
5. ワークショップ 1 ～自分の活動はどのように SDGs に貢献しているか～
   個人ワーク（15 分）
   ワークショップ 2 ～SDGs に貢献していることを人に伝える（SDGs の PR に役立てよう！）～
   グループワーク・発表（50 分）

⑤ 配布資料

- 資料 1　あなたの取組と SDGs のつながりを考えよう！
- 資料 2　SDGs17 ゴール・ワーキング用シート
- 資料 3　SDGs チェックリスト
- 資料 4　あなたは、すでに SDGs に貢献している？！
- 資料 5　アンケート

（エ）その他の SDGs チェックリスト活用

- 前項の検証ワークショップのほか、様々な機会で「SDGs チェックリスト基本段階版」を用いた体験ワークショップを行っており、そこでのアンケート結果等も検証材料とした。

6 月 15 日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施（12:45～15:45JR 岐阜駅ハートフルスクエア G 中研修室）
8 月 31 日	日本体験学習研究所(JIEL)★　講演に合わせて実施 （名古屋市内 13:15～14:15　60 分）
11 月 4 日	ESD ネットワーク地域フォーラム（※次項参照） …後半グループワーキングでワーキング用シートを活用
11 月 25 日	日進市役所職員向け ESD 基礎研修にて実施 （日進市役所第 5 会議室 10:00～12:00　120 分） （第 1 回とは別メンバー）

【その他主体からのチェックリスト、ワークシートの活用・提供依頼等】

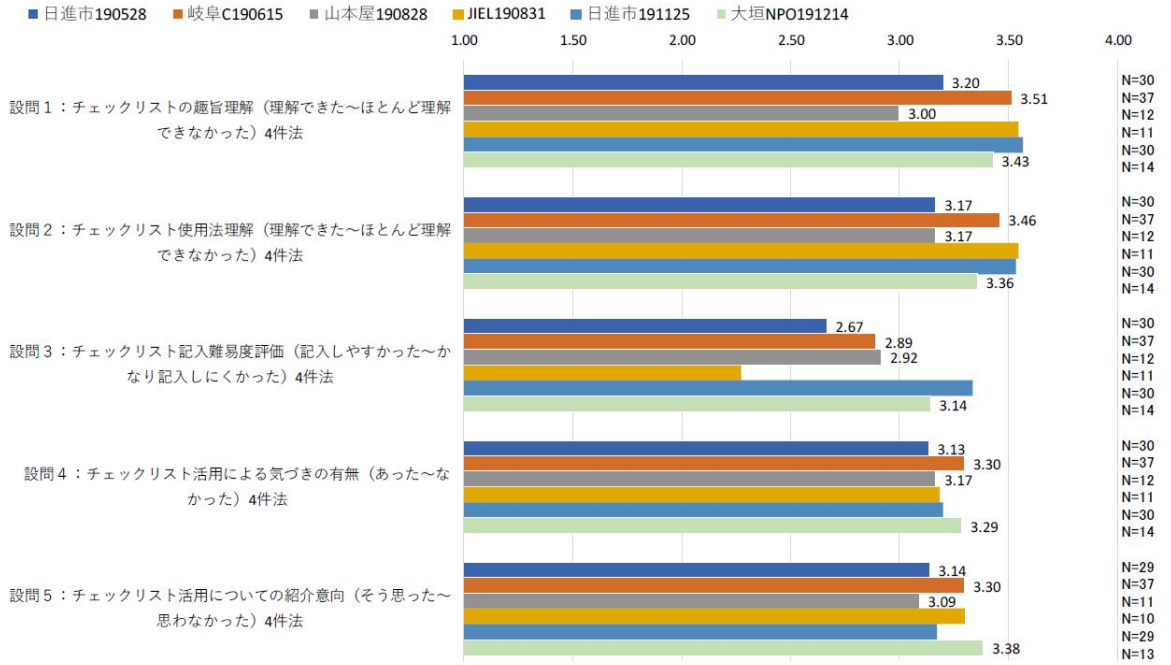
- 金融機関系シンクタンクの方から…SDGs のセミナー登壇の際に配布した（事後報告）
- 11/4 開催フォーラム登壇の高校生の引率教師から…授業でのワーキング用シートの使用要望があり提供
- ほかチェックリストをセミナーで配布して良いかの問合せあり

（オ）活用ワークショップの結果

検証アンケートの比較

初心者でも理解や書きやすさは肯定的（山本屋）。教育専門家は書きにくさを指摘（JIEL）。
ワークショップ手順を改良して書きにくさを改善（日進市2回目、大垣NPO）

意識水準　　4件法を点数化した平均値



10

検証の主な成果

改善型チェックリストを用いたワークショップの効果

○様々な対象について新しい気づきが見られ、ESD効果は大きい
・あまり知らない一般の人（初心者）にも効果があることが確認された
・専門家などSDGsやWSに懐疑的、批判的な参加者については効果に限界がある
○注目される気づき
・SDGsは関係ないと思っていたが実は関係があること
・業務が複数のSDGsに関連していること
・これまで気づいていなかった関連性があること
○パッケージとして使うことで取扱いがしやすくなると考えられる

課題と対応の方向

○課題
・ネガティブイメージを形成する可能性もある
・無理やり紐づけているという意識に抵抗が発生する場合がある
・トレードオフの場合が発生する
・内容がわかりにくい（SDGsそのものの理解？説明？）
○対応の方向
・SDGsが一種の理念であることを提示した方がよいか？
・負の影響についてしっかり説明する
・トレードオフの場合について説明をする

11

（カ）ワークショップ実施主体等への事後調査

<table>
<tr><td colspan="2">調査方法</td><td>電話ヒアリング</td><td>調査日</td><td>2020 年 2 月 26 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象イベント</td><td colspan="3">SDGs チェックリスト WS①日進市　実施日 5 月 28 日
（番外実施：11 月 25 日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象者</td><td colspan="3">日進市環境課　片岡係長</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査結果</td><td>自身の職務（活動）にどのような効果・影響を受けたか</td><td colspan="3">・SDGs アイコンによる持続可能性の意識化の効果があったと思っている。
・SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが大事だと感じた。
・環境課としても今後 SDGs を意識した仕事の仕方を続けていきたい。</td></tr>
<tr><td>地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか</td><td colspan="3">・課内でワークショップの内容について話をしている。
・市役所庁内に環境課から発信する「環境瓦版」というメール配信があるが、ここにもワークショップの開催を取り上げて配信した。
・庁内の ESD 推進会議の報告には 2 回のワークショップの報告を掲載する予定である。
・次年度の基礎研修として、別の職員に本ワークショップの実施をお願いできればと考えている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">調査方法</td><td>電話ヒアリング</td><td>調査日</td><td>2020 年 2 月 26 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象イベント</td><td colspan="3">SDGs チェックリスト WS②山本屋　実施日 8 月 29 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象者</td><td colspan="3">有限会社山本屋　青木専務</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査結果</td><td>自身の職務（活動）にどのような効果・影響を受けたか</td><td colspan="3">・すでに活動してきたことではあるが、SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが改めて大事だと感じた。今後も SDGs を意識した営業を続けていきたい。</td></tr>
<tr><td>地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか</td><td colspan="3">・ワークショップの開催結果の情報発信については SNS での発信や麺類生活衛生協同組合の会合での発表などを行っている。
・店内で SDGs の話を麺うち職人さんとしている。職人気質の彼らは「上からそんなことを言われているが、ずっとやってきたことじゃないか」と改めて自分の周りを配慮した仕事の大切さを認識しているようである。
・月一回の近くのうどん屋さんなどの地元業界関係者の定例の会合でも SDGs の話題は出ている。例えば「捨てていた麺の切れ端を素揚げしてお通しに出すよう考えた」など、ワークショップに参加した年配者たちが、結構自分たちも関係していると思い始めている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">調査方法</td><td>電話ヒアリング</td><td>調査日</td><td>2020 年 2 月 26 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象イベント</td><td colspan="3">SDGs チェックリスト WS③西濃環境 NPO ネットワーク　実施日 12 月 14 日</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象者</td><td colspan="3">NPO 法人泉京・垂井　河合良太氏</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査結果</td><td>自身の職務（活動）にどのような効果・影響を受けたか</td><td colspan="3">・もともと SDGs の活動をしてきたこともあり、意識が大きく変わったということはないが、大所高所からの話だけでなく、ワークショップで身近な活動が SDGs に関わっているということを気づかされたと思う。
・SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが改めて大事だと感じた。今後も SDGs を意識した活動を続けていきたい。</td></tr>
<tr><td>地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか</td><td colspan="3">・ワークショップの開催結果については、知り合いや関係者に話す他、SNS でも掲載した。また活動報告書には掲載する予定である。
・西濃 NPO ネットワークとして関係者の SDGs 理解の共通基盤ができたと思う。
・関係者と話をしていて、上から言われるのではなく、自分の活動としての評価が重要との話を何人かから聞いている。
・NPO 法人泉京・垂井でも SDGs 講座や企業とのコラボイベントを展開、実施しており、定員いっぱいになるなど盛り上がりを感じている。</td></tr>
</table>

(2)ESD 活動の支援等

- 前項「2 運営会議の設置・開催」の章を参照。

(3)ESD 活動のネットワーク形成に係る業務

ア 「全国 ESD センター」開催会議・イベントへの出席

区分	回/開催日	対応状況
企画運営委員会	第 1 回 7 月 8 日	• 傍聴案内(一般、取材含む)が 6 月 25 日に全国センターから発信された。 • 5 月 16 日開催・全国 ESD センター連絡会において、8 地方センターを代表して四国センターが出席することになり、意見照会あった。(他センターの意見に同調するものと、特に中部センターとしての意見提示は行わなかった。)
	第 2 回 –	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりメール会議となった。)
連絡会	第 1 回 5 月 16 日	• 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施予定表等の資料を作成・提出した。
	第 2 回 10 月 17 日	• 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施一覧表等の資料を作成・提出した。
	第 3 回 1 月 15 日	• 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施一覧表等の資料を作成・提出した。
ESD 推進ネットワーク意見交換会	10 月 16 日	• 出席(オブザーバー参加)。
全国フォーラム	12 月 20 日 -21 日	• 出席。 • 分科会ではテーマ「体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成」に参加した。

イ ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催

（ア）第 1 回ダイアログ

① 日時

- 6 月 13 日（木）13：30～16：30

② 場所

- 福井県国際交流会館 2 階 第 2 会議室（福井県福井市）

③ 出席者

- 24 名

④ プログラム

開会・ご挨拶　萩ノ脇　裕司 氏（環境省中部地方環境事務所環境対策課 課長）

第 1 部　企業や団体が SDGs に取組む意義

話題提供 1：SDGs とは何か、世界と我が国の動向

西田　清紀 氏（環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査）

話題提供 2：確かな暮らしが営まれる美しい信州

～学びと自治の力で拓く新時代～

保科　千丈 氏（長野県企画振興部総合政策課 総合調整幹）

話題提供 3：企業ができる SDGs～名古屋青年会議所の取組～

青木　裕典 氏（有限会社山本屋 専務取締役／

公益社団法人名古屋青年会議所 SDGs 実践委員会）

話題提供 4：県内青年会議所としての取組
藤原　徳人 氏（公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区
2019 年度福井ブロック協議会 副会長）
第 2 部　ダイアログ「SDGs を意識させる ESD」
トークセッション登壇者：西田　清紀 氏
保科　千丈 氏
青木　裕典 氏
藤原　徳人 氏
ファシリテーター：原　理史 氏（中部地方 ESD 活動支援センター）

⑤ 会議資料

- 資料 1　プログラム
- 資料 2　SDGs の世界情勢（環境省）
- 資料 3　確かな暮らしが営まれる美しい信州～学びと自治の力で拓く新時代～
- 資料 4　企業ができる SDGs～名古屋青年会議所の取組～
- 資料 5　質問記入票
- 資料 6　参加者アンケート
- 資料 7　EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターリーフレット
- 資料 8　持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド
- 資料 9　ESD/SDGs パンフレット＆チェックリスト

（イ）第 2 回ダイアログ

① 日時

- 8 月 8 日（木）13：30～16：30

② 場所

- 金沢勤労者プラザ 101 研修室（石川県金沢市）

③ 参加者数

- 54 名

④ プログラム

開会挨拶　加藤　隆弘 氏（北信越ユネスコスクール交流会 in 金沢 2019 実行委員長）
ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向
鈴木 克徳 氏（ESD 活動支援センター 副センター長）
『金沢 SDGs IMAZINE KANAZAWA 2030』の推進について
笠間　彩 氏（金沢市都市政策局企画調整課 主査）
私が ESD で大切にしていること～5 年・6 年の 2 か年の総合の実践から～
尾島 良幸 氏（富山県舟橋村立舟橋小学校 教諭）
スモールグループによる討議・発表準備
各グループからの発表

⑤ 配布資料

- 資料 1　プログラム・ESD の取組資料・年次報告書
- 資料 2　ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向
- 資料 3　金沢 SDGs IMAZINE KANAZAWA 2030『私たちが目指す世界』（ハンドブック）
- 資料 4　私が ESD で大切にしていること～5 年・6 年の 2 か年の総合の実践から～
- 資料 5　参加者アンケート
- 資料 6　その他（「中部西ブロック・ユネスコ活動研究会 in 金沢」（開催案内）

（ウ）第 3 回ダイアログ

① 日時

- 11 月 16 日（土）13：30～16：30

② 場所

- 飯田市役所（本庁舎）C 棟 3 階・C311-313 号会議室（長野県飯田市）

③ 参加者数

- 36 名

④ プログラム

開会挨拶　牧野 光朗 氏（飯田市長）

講演「ユネスコエコパーク×ESD：人と自然が共生する持続可能な社会づくり」

水谷 瑞希 氏（信州大学教育学部助教）

講演「ESD による地域創生―ESD の持つ地域創生力―」

阿部 治 氏（立教大学教授、同 ESD 研究所長、ESD 活動支援センター長）

話題提供（国内 BR の取組紹介）

「ユネスコエコパークにおける只見愛の育成と ESD への期待」

齋藤 修一 氏（只見町ブナセンター長）

話題提供（飯田市の取組紹介）

「学校と地域が協働する ESD for SDGs」

村松 亮彦 氏（飯田市立上村小学校長）

田中 清一 氏（飯田市教育委員会事務局学校教育課教育指導主事）

話題提供（飯田市の取組紹介）

「高校生講座 カンボジア・スタディツアーの取組について」

片岡 博昭 氏（飯田市公民館学習支援係主査）

グループディスカッション「ユネスコエコパークの理念を活用した ESD 視点による地域づくり」

⑤ 配布資料

- 資料 1　プログラム
- 資料 2　ユネスコエコパーク×ESD：人と自然が共生する持続可能な社会づくり
- 資料 3　ユネスコエコパークにおける只見愛の育成と ESD への期待
- 資料 4　高校生講座 カンボジア・スタディツアーの取組み報告
- 資料 5　ユネスコエコパークの理念を活用した ESD 視点による地域づくり
- 資料 6　参加者アンケート

ウ　ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

（ア）開催概要

① 日時

- 11 月 4 日（月・祝）13：30～16：30

② 場所

- ウインクあいち 会議室 1103（愛知県名古屋市）

③ 参加者数

- 52 名

④ プログラム

※　司会：武田莉奈（CSO ラーニング制度インターン派遣大学生／p 165 参照）

開会の挨拶

講演「世代間協力で実現する SDGs」伊藤 恭彦 氏（名古屋市立大学 副学長）

企業による SDGs の取組紹介

「2030 年も元気な組織であるために～小さな会社が取り組む SDGs～」

鳥原 久資 氏（株式会社マルワ 代表取締役社長）

「カンガルー出勤で変わった社内環境」

寺田 有希実 氏（三承工業株式会社 ダイバーシティ推進室室長 女性活躍・働き方改革担当）

高校生による活動発表

「人力発電機の製作～若いエネルギーを電気エネルギーに～」

愛知県立刈谷工業高等学校 自動車部

「ボランティアから始まった環境保護活動」

名古屋経済大学高蔵高等学校 理科部

「命をつなぐ！ 弥富の手乗り文鳥よ再び!」

愛知県立佐屋高等学校 文鳥プロジェクトチーム

「未利用資源を活用した 6 次産業化への取組」

愛知県立渥美農業高等学校 農業機械部

グループワーク「高校生による ESD 活動の社会への発信連携を考える」

講評

⑤ 配布資料

- 資料 1　プログラム
- 資料 2　世代間協力で実現する SDGs
- 資料 3　「MARUWA CSR REPORT2018」、「ぷりんトーク」（2019 夏号・No.86）
- 資料 4　女性も輝く働きがいある会社づくり
- 資料 5　SDGs17 ゴール・ワーキング用シート（後半「グループワーク」時に使用）
- 資料 6　参加者アンケート

（イ）フォーラム登壇者等への事後調査

調査方法		電話ヒヤリング	調査期日	2020 年 3 月 4 日
調査対象イベント		ネットワーク地域フォーラム （世代間交流による SDGs 貢献のための人づくり		
調査対象者		愛知県立渥美農業高等学校　農業機械部　眞壁先生		
調査結果	自身の職務（活動）にどのような効果・影響を受けたか	・生徒が、フォーラムで発表したことにより、活動が参加者に認められ、自分たちがやっているミニトマトを材料としたパン作り（農業の 6 次産業化）や竹林の手入れから生まれた凧作り（竹林の管理保全）の活動に自信が持て、自己肯定感を実感することができた。 ・今後、活動を地域と連携して展開していくための、新たなエネルギーを得ることができた。		
	地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか	＜活動 1：ミニトマトを材料としたパン作り（農業の 6 次産業化）＞ ・パン屋さんと連携したミニトマトのパン作りから、その後、豊橋市内のホテルと連携し、ミニトマトを使った新たなメニュー開発に取り組んでいる。今後は、観光面においても寄与できるような展開を目指して活動をしていきたい。 ＜活動 2：竹林の手入れから生まれた凧作り（竹林の管理＞） ・地元、田原市の凧保存協会に竹林の管理と凧作りの活動を説明し、春の公式凧合戦に参加見込みとなった。今後は、地域の凧保存会と連携し、地域における竹林の保全活動を広めていきたい。		

エ　ダイアログ・フォーラムの参加者アンケート結果

- 4 つのダイアログ及びフォーラムの参加者を対象にしたアンケートでは、参加した感想で「良かった」と答えた回答者が多く、全般的に好意的に評価されている。
- しかし、参加者同士の交流については、飯田ダイアログで「あまり交流できなかった」の回答が多く、グループディスカッションで充分な時間を取るよう望む声や、ワーキングの内容量が多いため中途半端なディスカッションになったなどの意見が寄せられており、時間配分やワーキング内容について企画の際には留意が必要である。
- 役立つ情報や事例について、4 つの催事とも「あった」の回答が多い。また、いずれの催事でも、「もっと SDGs や ESD に協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられた内容だった」と答えた回答者が多く、参加者の今後の取組に対する刺激につながったことがうかがえる。

	●今回の催事はいかがでしたか					●ディスカッション等でほかの参加者と充分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	充分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
190613ESD ダイアログ福井 (n=9)	5	4	0	0	0	0	3	2	0	4
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	22	13	0	0	0	14	19	2	0	0
191116ESDダイアログ飯田 (n=17)	11	6	0	0	0	2	5	7	1	2
191104ESD推フォーラム名古屋 (n=42)	31	11	0	0	0	18	19	0	1	4

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか					●SDGsやESDに今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答		もっとSDGsやESDに積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	SDGsやESDに取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
190613ESD ダイアログ福井 (n=9)	7	0	1	1		8	1	0	0	0
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	33	0	2	0		30	3	0	0	2
191116ESDダイアログ飯田 (n=17)	14	1	2	0		11	5	0	0	1
191104ESD推フォーラム名古屋 (n=42)	31	2	9	0		31	4	0	6	1

【役立つ情報や事例（自由記入）】

190613 ESD ダイアログ福井	• 具体的な取組事例を知ることができた。 • SDGs とはどんな取組みか? • 自治体における SDGs については、特別なことを新たに実施するということではなく、既存の事業をまず当てはめてという長野県の事例が参考になった。 • 県内・県外の取組みが分かり、その中で自分がどのような関わりができるのか考えるいい機会となりました。 • “世界の道徳” • 協賛金のみで大きな事業もできるんだなと。

190808 ESD ダイアログ 金沢	• 3 つの講演は本当に学びになった。そして話し合いは内容が濃かった。 • ESD/SDGs について、より明確になった。子ども主体の学び方の大切さを感じた。グループでの話し合い事例発表 • ESD と SDGｓのかかわり。舟橋小学校の実践から目指す子供像が具体的に理解できた。 • ESD についての様々な考え方や方法を知ることができた。具体的に何かをするということも大切だが、今ある活動を ESD や SDGs の視点から見る意識も必要だと分かった。 • SDGｓの考えを入れた方が子どもも取り組みやすいかも…と思いました。10 年後の自分をイメージするというのは、いいアイデアだと思います。 • 各校の実践はもちろん ESD に関わる人々の情報（教育に直接関わってない方からの）が目新しく、勉強になりました。 • 教育現場の体験と ESD・SDGｓのつながりがみえてきた。 • 金沢市の取組。尾島先生の実践。 • 金沢市当局、尾島先生の発表がかなり良かったです。何らかの形で実践したいです。 • 経済教育、市民教育が大切であるという視点。 • 現在の活動で PR や発表をしなければいけなかったが、アドバイスをいただき、実践してみようと思った。尾島先生が子どもと楽しみながら活動されている報告を聞いて自分も楽しんで活動しようと思った。 • 子どもの思いを基に進めている舟橋小の実践 • 実践発表 • 若い先生方が学校の中で ESD 等を進める上で困難と出会っていることを理解できた。 • 舟橋小の取り組みにあったように子ども達が自分達で考えて行動できるように計画を立てていきたい。 • 小学校現場での実践例 • 先生方の構え。ESD/SDGs の関連性。 • 全て • 他県での取り組みや ESD/SDGｓの専門的知識 • 他地域の取組が分かってよかった。ＥＳＤの最新の動向が知れてよかった。 • 地域に関わる深い考えが聞けて良かった • 地域の未来を担っていくのは、自分たち‼という意識を子どもたちに持ってもらうのが大事という当事者意識を持つことへのプロセスをどのように企画し、実践していくのかが、各グループの発表から感じられた。 • 地域や企業がたくさん SDGｓに取り組んでいることが分かった。他校の良い取り組み（舟橋小の取り組みなど） • 地域や行政との連携について • 尾島先生の講演が良かった。 • 尾島先生の思い、教育観に触れ、とても素敵だと思いました。子どもの願いに寄り添い、主観的な学びを支える教師の役割に改めて気づきました。 • 尾島先生の実践から子どもが自ら課題を立てることの大切さと有効さを学びました。また、活動する中でうまくいかないことがあっても、解決のためにどうするか考えることで結果が出るということも学びました。 • 尾島先生の発表・講演 • 富山市で ESD が浸透しているのを実感した。先生方がとても意欲的なのが印象的だった。 • 本校の ESD 活動について生徒にもう一度 ESD（SDGｓ）の認識をすること。そうすることが地域を元気にすること、生徒の意欲づけにつながると思った。
191116 ESD ダイアログ 飯田	• ESD 単体で取り組まない。他とつながっている。 • 上村（小学校の事例） • 教育活動に携わる者として、今やっている事業が何を目指して、どんな効果が得られるのか、考える手段を知れた。 • 小学校教員だが、教育実践に生かせるものがあった。 • 只見の事例 • 只見の事例に ESD を進める上での重要なヒントがありました。地域を知る→地域のことを書く→地域のことを語る。そのプロセスを通じた地域を育む人をつくることの重要性を再認識。 • 只見町の事例から、「ユネスコエコパーク」の悩み。ESD と SDGs について。 • 只見町の取組（只見学） • 他の地域の取組など学びになった。

	• 本校でも SDGs を見える化（掲示物、子どもの係活動の目標との関連付け等）をしているので、今後もより充実していくよう取り組もうと思いました。 • 理論的な整理と、具体への当てはめ＋全体構造をみてその意義や展開について考えた点。
191104 ESD 推進 フォーラム 名古屋	• 「出来ることから始める」のではなく、「出来ていないことに挑戦しよう」という一文がとても良かった。 • PR の仕方など • 新しい時代を担う世代から学ぶことが多い一日でした。常に、他者の視線からの考えを学ぶ姿勢を忘れずにいたいと再認識した一日となりました。 • 川にゴミを捨てないようにしようと思った。 • カンガルー出勤の話 • 企業との連携や地域との協力は大切であると感じました。 • 企業の情報など • グループ発表と学生の事例 • 高校生だけでは活動が限定される所を企業や官と協力（コラボ）することにより、様々な問題を解決していく点が本校には不足しているので、今後の活動の中での大きなヒントとなりました。ありがとうございました。 • 高校生のアイデア、ユニークな取組、若者に期待できる。(株)マルワ、三承工業（株）の実践に勇気をもらいました。 • 高校生の取組 • 交流会が今後の参考になった。 • 今回の意見交換で他の人から頂いた意見で自分では考えられなかった SDGs の方向性を見つけることができた。 • 災害に役立つものでもあることが理解できた。 • 地元にすごい企業があることを知りました。まだまだいろいろな企業があるのではと思いました。 • 人力 • 人力で電気をつくる。 • 人力発電がすごい。 • 生徒も自分自身が SDGs の取組を行えていると実感できたと思います。 • 地域との活動をもっと活発にしたい。 • 地域連携 • 鳥を通じて地域とつながる。 • 発信の仕方など • 発電することは、とても大変なことだとわかりました。 • 幅広い年代の方々に PR するには、その年代に合わせた PR のやり方を考えること。 • ボランティアです。 • 弥富の鳥さんのことを知れた。 • 六次産業化、発信の仕方など

【参加者の感想等（自由記入）】

190613 ESD ダイアログ 福井	• JC 福井ブロックにおける推進を期待する。 • 国際的開発目標の指標でもってハイレベルのチャレンジ目標が設定できると思う。 • まずは理解してもらうことが大事なんだと感じました。
190808 ESD ダイアログ 金沢	• いろいろな方面、いろいろな立場からの多様な意見が聞けて良かった。 • お世話してくださった方どうもありがとうございました。今後も取り組んでいくためのパワーがいただけました。 • グルーピングを、行政と学校で分ける。さらに校種別にすると、互いに迷いや悩みを出し合えるメリットがあるのではないか。 • このまま推移すれば今後の地域、日本、世界が危うい。だから今、SDGｓ・ESD なんだということがわかりました。では具体的にどうしていけばいいのか、いろんな手立てを考えるためのヒントをいただいた意義のある研修でした。ありがとうございました。 • ユネスコスクールに登録されているということ、ESD・SDGs に取り組んでいることを自分の言葉でまず説明できるようになりたいと思いました。もっと深く学び、子どもたちのためにより良い教育を目指していきたいです。ありがとうございました。

	• ワークショップの運営についてもっと整理した方がいい。参加者の階層は固定化していないか？ • 一人一人違うゴールであっていい。子供たちが自分のこととして考えられるように、まず土台となる知る活動をしてきたいと思いました。知ることで子供たち自身から課題を見つけてほしい。 • 遠い所まで来たかいがありました。今後の学級づくり、授業づくりを見直し、改善・進化させていくよい機会になりました。また。、教師側の構えも子供を育てるためには非常に重要だと実感しました。 • 各地域（北陸）の活動のような問題点、課題が分かって良かったです。教員関係の私にとってはESDの研修会としていた方が良かったです。（ESDとSDGｓでは視点が違うため） • 今日来させていただいて分かった事は学校で他の先生方に周知できるように取り組んでいきたいと思います。 • 子供が課題意識をもち、自分事として本気で活動すること。活動を振り返って価値ある活動だと子供も思えること。そんな活動ができるよう学校で先生方に伝えたいと感じた。多くの方の意見や実践を聞くことができてよかった。 • 資料に通しのページをふっていただけると参照しやすくなると思います。 • 事前に抱えている課題や問題を集的し、その具体的な解決に向かって深めることが必要。 • 人とのかかわり、自然とのかかわり、地域とのかかわり…子どもたちの願いをかなえるための教育として、大切にしていかなければと思いました。 • 他の学校の様々な取り組みを知ったり、SDGs について今後どのように取り組んでいくとよいか少しわかった。遠くから来ている人がいるので終わりの時刻は守ってほしかった。 • 大変勉強になりました。将来を担う子どもたちがどう学んでいくべきかを考える良い機会だったと思います。是非また参加したいと思いました。 • 短い時間の中でたくさんのお話を聞けて刺激を受けました。資料は番号があると交流がもっとしやすいと思います。ありがとうございました。皆さんの思いはありますが、電車もあるので時間は守っていただきたいと思います。 • 中学校は多忙な中、SDGｓの活動を進めることは簡単ではありませんが、その中でも生徒の意欲を引き出し、自ら課題を考えて活動することは生徒にとっては有効であり、達成感のあるものだと思いました。できる限り計画を立てて、実践していきたいと思います。 • 熱意ある先生方とともに情報交換・共有をしながら、地域や学校での実践や取り組みへの思いにたくさん触れることができ大変学びの多い時間となりました。自校の生徒にとってどのような意義のある活動かを再度見直しながら、今後の社会や人のあり方についても学び(視野）を深めつつ過ごしていきたいなぁと思いました。講義＋ディスカッションという流れも、皆さんのお考えや熱量に触れることができ、刺激をいただきました。集まる所にはその場に同じ思いの方が集まるということもまた再認しつつ、心強く感じました。貴重な機会に参加をさせていただき感謝しております。ご準備等ありがとうございました。（広くご案内もありがとうございました。）P.S.今日は金沢市2030に向けての取り組みを拝聴できるのを楽しみに参りました。街づくりのための詳しい keyword を知ることができ、（＆資料もいただけて）嬉しかったです。ありがとうございました。 • 本校の子どもたちは、地元のことが大好きです。地元の発展について考える子を今後も育んでいきたいと思います。 • 話し合い、まとめる時間が短かった。
191116 ESD ダイアログ 飯田	• ESD、SDGs をお茶飲話で語れるような、やさしい言葉を共有することが大切と思いました。 • 今現在の活動、取り組んでいることを改めて整理して考え、ESD、SDGs との関連を意識づけする必要があると感じた。 • 時間が足りない。もっとじっくり話したかった。グループディスカッションは、もっと自由でも良いと思う。→しばられて、大事な話がとぎれる。 • 自分が今高等学校教育において必要なんじゃないかと思っているものが、まさにこれで、今日は様々なお話を聞けてとても興味深かった。 • 人材育成の視点をもっと根本から見つめて、学校・地域（←この表現があいまいさを助長しているような気がします。ここには保護者も含まれているし、ご近所の大人たちも含まれているはずですが、どこか他人事のように受け止められている感じがします。）の他、子どもたちの発達を見守る医師（特に乳幼児期の親に啓発できる小児科医）にも協力をあおげたら…と感じます。 • 背景が違う参加者が集まっているので、無理にワークをしなくても、テーマを決め意見交換などでよい気がします。せっかくなのでお互いの考えを出し合いたかった。

	• 人とのつながりができて、それが全てですね。 • 有意義な会をありがとうございました。宮崎県で唯一のユネスコスクールからの参加でしたので、他校や他地域の取組を見れて参考になりました。真似できることを早速取り組んでいきます。 • 学校の中で ESD がなかなか定着していかないことに担当として悩むところがありましたが、少しずつ見えてきた。また、学校の果たす役割や学校の独自性（特色）という部分も難しさを感じていましたが、「地域資源の見える化とつなぐ化」という部分が見えてきたように思います。グループ・ワークでは、公民館の活動について考えさせてもらいました。普段、学校となかなかつながれずにいるのも現状だと思いますので、公民館や市の考え方をお聞きでき、ありがたい機会となりました。エコパークの教材化等についても、もう少し話し合えるとよかったかなとも思いました。
191104 ESD 推進 フォーラム 名古屋	• ESD・SDGs の事を初めて知りました。 • ESD の発表や環境の取組も勉強できたので、とてもいい経験になりました。 • 今まであまり考えられなかった点から活動内容を見直すことができ、とても良い経験となりました。 • いろいろな高校生の活動がよくわかった。 • いろいろな人の意見を聞けてよかった。 • いろんな高校の取組を知れて良かった。 • いろんな話をきけてよかった。 • 各学校、いろいろな分野に取り組んでいてとても良いと思う。 • 環境破壊はずっと続いていると知っていましたが、環境を守る活動もたくさん行われていると初めて知りました。これからも環境を守るために貢献していきたいです。 • 今日は、最初はよくわからなかった内容だけど、最後はよくわかりました。 • 高校生が緊張しながら頑張って発表すること、考えること、とても素晴らしいと思いました。素晴らしい活力をありがとう。 • 高校生の方々の誠実な取組に好感がもてた。 • 大変有意義なフォーラムでした。ESD で若者が着実に成長していて頼もしく感じました。企業発表、グループワークもとても充実していました。どの人も活躍できました。 • 沢山の取組発表をきき、今日で色々なことを学ぶことができました。 • 他の学校がすごいなと思いました。 • 他の学校の活動、その他企業について知れてためになったと思いました。 • 他の学校の取組など、参考になる事が多くありました。 • ためになるイベントでした。 • 小さいことからはじめられると気付けました。 • とてもよかった。 • 普段関わることのできない様々な方々と話すことができて、良い刺激になりました。 • また参加したい。 • みんな詳しい内容ですばらしい。 • これだけ高校生が活動しているので、企業の発表は別の日にしてもらって、高校生中心で時間をとってすすめてもらったほうが充実したのでは。 • 次の予定が入ってしまい、途中で失礼いたします。最後まで参加できなくて残念でした。高校生、若い方達との交流ができず残念でした。 • 特にないです。ありがとうございました。 • 難しかったです。 • もっとグループワークの時間がほしいなと思いました。

(4)全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等

ア　全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

- 全国センターが実施する地域 ESD 拠点を対象にした年次アンケート（提出期限 4 月 12 日）について、提出期限時に回収状況を共有し、当センターへの訪問、連絡等のあった地域 ESD 拠点に対し、直接、アンケートへの協力依頼と提出督促のお願いを行った。
- 後援申請は次の通りとなっている。

【後援名義申請】

申請主体	申請日	申請行事		
		名称	開催日	開催場所
次世代エネルギーワークショップ推進委員会	8 月 9 日	2019 年度　次世代エネルギーワークショップ推進委員会	11 月 16 日～17 日	名古屋市立大学 滝子(山の畑)キャンパス
ESD コンソーシアム愛知	8 月 22 日	ユネスコスクール中部ブロックグッドプラクティスフォーラム	11 月 9 日	中部大学名古屋キャンパス
名古屋ユネスコ協会	9 月 2 日	第 6 回ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会"Today for Tomorrow	12 月 14 日	名古屋市立名東高等学校
錦二丁目まちづくり協議会	9 月 3 日	錦二丁目 SDGｓネットワークフォーラム	10 月 23 日	ホテル名古屋ガーデンパレス
国際自然保護連合日本委員会	9 月 4 日	COP10 おりがみプロジェクトタイムカプセル開封記念イベント in 東山動植物園	11 月 16 日	名古屋市東山動植物園お花畑および動物会館レクチャーホール
NPO 地域の未来・志援センター	11 月 28 日	山川里海 情報交流会 & グリーン連合シンポジウム	2 月 8 日	垂井町表佐地区まちづくりセンター
信州 ESD コンソーシアム	12 月 19 日	信州 ESD コンソーシアム成果発表＆交流会	2 月 1 日	信州大学国際科学イノベーションセンター（ＡＩＣＳ）
岐阜県ユネスコ協会	1 月 23 日	第 3 回 ESD パスポート体験発表会	3 月 1 日 ※開催中止	岐阜大学サテライトキャンパス

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止。

イ　地域 ESD 拠点登録支援等

- 今年度、計 8 団体が新たに地域 ESD 拠点に登録され、中部エリア全体として登録団体は計 17 団体になった。
- 各団体による登録申請手続きが行われた際には、団体からの問合せや全国 ESD センターからの登録照会などに対し、該当資料の送付、回答を行うなどの対応を行った。

【新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

中部 ESD 拠点（RCE Chubu）	2019 年 7 月登録
NPO 法人 地域の未来・志援センター	2019 年 8 月登録
根羽村森林組合	2019 年 12 月登録
NPO 法人大杉谷自然学校	2020 年 1 月登録
NPO 法人エコプランふくい	2020 年 2 月登録
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま	2020 年 2 月登録
勝山市	2020 年 2 月登録
富山ユネスコ協会	2020 年 3 月登録

ウ　地域 ESD 拠点のニーズの把握

（ア）地域 ESD 拠点へのヒアリング実施概要と結果

- 中部地域の地域 ESD 拠点 3 団体に対してヒアリングを行い、全国 ESD センターの実施するアンケート結果を踏まえ、地域が求めるニーズの把握を行った。

地域 ESD 拠点登録団体	実施日	ヒアリング項目
豊橋ユネスコ協会	7 月 16 日	● ESD 活動の経緯と現状 ● 拠点登録の経緯と効果 ● 他の拠点や団体との交流や連携 ● 今後の ESD 推進ネットワークのあり方
（一社）日本体験学習研究所	8 月 31 日	
（一社）ネクストステップ研究会	11 月 23 日	

【ヒアリング結果】

- 環境省の後ろ盾はブランド力があり ESD 活動の展開に有効。
- 既存の活動に加えた拠点登録についての新たなメリットは感じていない。
- 中央の情報など発信をもっとしてもらいたい。交流、人材派遣・紹介などに期待している。
- 子どもも大人も ESD の更なる展開が社会的に重要。

地域ESD拠点登録団体との連携、団体への支援について

地域ESD拠点とのネットワーク強化に向けて
現場ターゲット別のESD活動と支援の在り方（地域ESD拠点との連携の強化を見据えて）

〇ESDの拠点となりうる団体は？
　様々な活動団体のESD拠点機能化、登録は後回しでも機能を発揮してもらえればいい。
〇その活動団体の得意分野は何か？
　どんな対象に何をしているのか。
〇その得意分野にとってのニーズは何か？
　弱みは何か、何を支援すればよいか。
〇その団体が他の主体と連携することで何か生み出せるか？

（事務局イメージ）

案1：拠点メンバーをメイン対象者とした「身近なESD問題ワークショップ」

案2：最新情報のメール配信（全国センターからの配信、既存メルマガと重複しない情報）

案3：登録拠点と連携したESDダイアログ、SDGsセミナー等の開催

21

（イ）各団体のヒアリング結果

① 豊橋ユネスコ協会（愛知県豊橋市）

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　豊橋ユネスコ協会　1/2

日時：
2019年7月16日（火）
10：15～12：00
場所：
愛知大学豊橋キャンパス記念館2Ｆ
ヒヤリング対象：
会長　渡邉 正（愛知大学名誉教授）

参考：全国センターアンケート回答（H30コメント）
〇重視している取り組み
　戦争遺跡マップ、平和学習出前授業
〇拠点の課題、改善提案
　ESD拠点の理解、認知を高めるための広報活動
〇Web好事例
　メディアより草の根的な個別活動の方が有効
〇要望
　社会一般のESDの理解と普及が重要

ヒヤリング結果

〇ESD活動の経緯と現状について
　ESD名古屋会議時に教育長会会長であった豊橋市の主導で全小中学校がユネスコスクールに加盟した。当時戦争遺跡マップを用いた平和学習出前授業（年12回）を実施していた当協会が活動に協力。これを背景にESDを推進。近年は東三河ESD・ユネスコフォーラム＆ESD交流会を開催し、子ども対象のアクティブラーニングの実践拡大に向け人的・情報交流に努めている。
　ESDは「問題解決探求能力」の育成で、そのために「アクティブラーニング」が重要だが、最大の問題は教員のスキル、時間、余裕が足りないことと考えている。
　また協会の会員の勉強会を続けており、最近注目している大分県教委、大牟田市教委の事例は非常に重要。これらの上記の問題について、教委、学校、地域が一体となって取り組んでいる。

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　豊橋ユネスコ協会　2/2

ヒヤリング結果

○拠点登録の経緯と効果について
　ESD推進ネットワーク構築にあたり、環境省担当者のヒヤリングがあり、実践的な活動にメリットがあれば参加すると伝えた。制度構築に伴い登録。しかし枠組みのみで中身が伴っていると思えない。特に登録のメリットは感じていない。ネットワークの動きを静観中。

○他の拠点や団体との交流や連携について
　当協会は情報、人脈のパイプ作りの一環として拠点登録に期待している。

○今後のESD推進ネットワークのあり方について
　学校教育でのESDの推進には、学校外の地域の人的、情報的な連携等が必要だが、現場の敷居が高いと言われる。理由は双方にあり、学校現場は多忙で余裕がなく教員の視野も狭くなりがちなことと、連携主体（ボランティアなど）が自分のことばかりで学校の事情を十分配慮できないことである。
　学校教育ESD支援のために地域のコーディネーター、プロデューサーを配置することが有効と考えられるが人材の質が難しい。視野を広く持ち、ESDの本質を理解し、学校の要望に応えられる能力が必要となる。教員OBには過剰な期待は抱かないほうがよい。
　こうしたコーディネーター、プロデューサーを育成する、地域ESDプロディース研修会（仮！）の開催などで社会人OBを再教育することも考えられる。受講者の中から一人でも二人でも実践者が現れれば成功ではないか。

②（一社）日本体験学習研究所（愛知県名古屋市）

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　日本体験学習研究所　1/2

日時：
2019年８月31日（土）
12：15～13：00
場所：ライオンズマンション原102
HCC内
ヒヤリング対象：代表理事・所長
津村 俊充（南山大学名誉教授）

参考：全国センターアンケート回答（H30コメント）
○重視している取り組み
　人と人との関わり方、一人一人を大切にする体験学習の視点・スキルをESD実践者に体得してもらうこと
○拠点の課題、改善提案
　集客が最も課題。共通に案内できる実践者SNSコミュニティがあれば発信やコミュニケーションがとりやすい。

ヒヤリング結果

○ESD活動の経緯と現状について
　1990年代後半に津村代表（教育学の研究者）が環境省の事業の中でキープ協会で環境学習の仕事をしたことが発端となっている。ここでは体験の中から学ぶことがベースとなっており、2000年代からインタープリタートレーニングの研究と実践を積み重ねてきた。研究所は2006年設立。2015年一般社団化。2017年～モリコロ基金助成を受け「ESDスペシャリスト育成プロジェクト」（7回コース）を実施。これまで23人のスペシャリストを養成してきた。

○拠点登録の経緯と効果について
　キープ協会の仕事をしたときのつながりでESD活動支援センター長の阿部先生から話があったことがきっかけで登録。ESD拠点としてのメリットはこれからだと考えている。

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　日本体験学習研究所　2/2

ヒヤリング結果

○他の拠点や団体との交流や連携について
　特に人材の紹介などのネットワーク連携に期待している。

○今後のESD推進ネットワークのあり方について
　自然と人のつながり、人と人のつながりを大切にしている当研究所としては、人間関係の力を重視している。そのためのインタープリターのスキルアップ事業が重要と考えている。ESD推進ネットワークに対しては、これらの目的に合致した参加者の募集や講師などの人材の紹介等について連携を深めていきたい。
　来年度からは、特にESDの本旨に立ち戻り、力を注いでいきたいと考えている。

③（一社）ネクストステップ研究会（三重県四日市市）

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　ネクストステップ研究会　1/2

日時：
2019年11月23日
（土）
11：00～12：00
場所：
なべくら高原森の家
（地域循環共生圏づくり研究会開催後）
ヒヤリング対象：
代表　寺田 卓二

参考：全国センターアンケート回答（H30コメント）
○重視している取り組み
・ESDの推進では主に学校、SDGsの推進では、主に企業、地域
○拠点の課題、改善提案
・経済的基盤、定常的な収入が確保できていない。
・行政からの委託料講師等の全国調査の実施と引き上げ。
○好事例
・四日市内外でのESDの取組みが一歩ずつ進んでいる。
○全国・地方センターへの要望
・現在ESDはSDGs推進のための人材育成が具体的な目標になっていると思います。特に市民団体へのSDGs普及に向けたESDプログラムの開発を行ってほしい。

ヒヤリング結果

○ESD活動の経緯と現状について
　代表の寺田氏が行っていた四日市市の公害教育、環境教育を経てESDを推進しようとしていた中で、ESDの10年が終了するという事態になり懸念していた。そのタイミングでGAP対応のESD推進ネットワークが立ち上がり、拠点登録することで「本物」のバックボーンが得られ、非常にありがたかった。ESDはSDGsのために最も重要な教育と考えている。

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング　ネクストステップ研究会　2/2

ヒヤリング結果

○拠点登録の経緯と効果について
　ESD活動をする上で公的機関のとの接触が必要となるが、代表個人（以前は教職で教育委員会なども）のつながりでは限界があり、組織としてのバックが必要であった。そのような点で、特に一般社団に改組する前の任意団体のころは背後のESDネットワークが見える「信用」という点で効果を感じている。

○他の拠点や団体との交流や連携について
　交流情報の内容が物足らない。他の拠点やESDの全国情報をもっと出してほしい。そのための他団体との交流の機会や情報発信を増やしてほしい。

○今後のESD推進ネットワークのあり方について
　小中高では学習指導要領にESDに関連した内容が記載されたとはいうものの、まだまだ物足りない。現場の先生は忙しすぎてとてもそこまで目がいかないのが実情である。そのため上層部のESD理解が不可欠である。
　例えばこれら教育者を対象とした研究会もしくは研修会を開催し、SDGsの人材育成やESDプログラム活用の視点を持った教育者を育成していくことでネットワークが拡充・強化されるのではないか。

6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務

(1)採択団体及び中部地方環境事務所との連携

ア 採択団体等との連携、採択事業の進行管理及び連絡・調整

- 進捗状況確認表を次の通り作成し、事業の実施状況・予定などを採択団体、中部地方環境事務所、EPO の 3 者連絡会・協議会などの場で逐次確認、共有した。

仕様書項目			確認した実施予定内容			
(1)協議会の設置・開催		・関係者の役割の明確化、取組実施方法の協議等(4回程度開催)	第①回:5/22	第②回:7/4	第③回:12/9	第④回:1/24
		ⅰ)継続的体制の構築についての議論	協議会①で確認。NPOわおん(森カフェ)、地元銀行:チラシ配架協力。北信森林組合との連携可能性。※森林林業振興会を窓口にした全国販売が保留。※今後、民間との連携を増やしていきたい。			
		ⅱ)都市部からの関心・ニーズ等対外的窓口機能についての議論	JTB名古屋と4/24、JTB長野と6/14打合せ。②協議会で情報発信方法等を検討。志賀高原のホテル6社が8/22に視察。県産業フェアへの出展。同じ出展者(鉄工系)との連携の可能性。中高生が部活で環境学習で作業の可能性。			
(2)平成31年度事業計画の作成		事業計画の作成(別途様式あり)	初稿:4/24提出	完成:5/10締切	→→→以後も必要に応じて修正	
		公共性・公益性に結びつけた目標設定	協議会①でディスカッション→出てきたアイデアの中から実行可能なものを協議会②で検討。PRツール:他地域自治体・関係機関に成果を宣伝するものとして位置付け。			
		事業の過程の明確化;課題や当初目標と結果との差異の分析	事業計画、業務報告書等に盛り込む。 事業以後の目標として:ソーシャルビジネスのための「プラットフォーム」づくり 2年間の「成果」を③協議会でワーキング抽出。			
		手法や留意事項等の明確化	事業計画、業務報告書等に盛り込む。			
(3)事業計画に基づく事業の実施	ア 実証事業及びプログラムの確立	NPO所属者・利用者等を対象に一定期間を通した実証事業を実施	5月下旬に1回、7/4協議会②で実施済み。毎月1-2回(夏場、台風被害時除く)、ここからによる作業実施。→日時・人数・実施内容(製作本数等)の記録をとる。			
		実証事業後に参加した個人へのアンケート等の実施	実証実施後(2回実施)、感想等のヒアリング。 秋からの作業分についても実施予定。			
		(※必要に応じて)安全性や作業効率向上を目指した環境整備	治具の改善の記録(概要)を報告書に盛り込む。			
	イ 林業関係者等を中心としたログファイヤーの製作講座の実施(近隣施設を活用)(講座1回開催)		7/28主に地区住民を対象に実施済み。祭りの旗竿活用。参加者のIターン人材や古民家建築事業者をステークホルダー等に位置付け。			
	ウ 交流会及び報告会、セミナーの開催	地域住民を対象にクラフトづくりやログファイヤーの交流会を実施(1回)	7/28上記イと同時開催済み。以後も機会があれば都度実施予定。			
		幅広い対象に本事業の報告会と専門家によるセミナーを同時開催(1回/30人規模/半日)	1/24会場:なちゅらで開催(実施後、協議会④開催)			
	エ 活動のPR	活動のPRや製品化に向けた企画会議を実施	協議会①で着火・利用体験等を行った上で、アイデア出し→出てきたアイデアのうち実行可能性を協議会②で検討済み。→③協議会でアイデア実施状況の報告。未実施事項のその後			
		モニターを募集し、ログファイヤーの使用感、他製品の要望、林福連携に対する期待等のヒアリングを実施	【対象】上記イ製作講座参加者、キャンプ場(要アンケ回収督促)、ボーイスカウト(台風で保留)、11/23EPOフォーラム参加者にも実施など			
		多くの人にストーリーを語れるように、活動内容をとりまとめたPRツールを作成	③連絡会の協議結果をうけて、パワポ等で成果を明示する構成・内容に修正。他地域に本事業を普及するためのツールとする。「成果」は③協議会でもワーキング抽出する。⇒2/23全国報告会での活用			
		ログファイヤーの性能・安全性を確認する燃焼試験等を実施	含水率等の基準・規格等の明確化、品質維持→イ)製作講座時に燃焼実験を実施。撮影画像、メモ等を確認。			
(4)月次報告書及び進捗管理表(本紙)の提出			月次報告:毎月5日提出	本紙: 予定を記入したものを5/初提出/その後は逐次提出		
(5)連絡会、成果共有会への参加			連絡会①:4/24	連絡会②:7/4	連絡会③:11/1	連絡会④:12/9協議会③後に1時間程度
(6)支援事務局等との連携			適宜実施		成果共有会:2/23	
(7)報告書(業務完了報告書)の提出			2/17構成案提出	2/28初稿提出	完成・提出期限: 3/19(木)	
(8)旅費、謝金等の支払			適宜実施			

イ　採択団体との連絡会の開催

- 採択団体、中部地方環境事務所、EPO との 3 者による連絡会を次の通り開催し、進捗状況、取組内容・スケジュール等についての協議や確認を行った。

	開催日	主な協議内容
第 1 回 連絡会	4 月 24 日	１．2019 年度の事業計画の確認 ２．「業務実施状況確認表」による進め方の確認 ３．第１回協議会に向けて ・メンバーの確認（昨年度からの変更） ・第 1 回協議会での協議事項について確認（EPO として実施したいこと） ・EPO 主催「協働フォーラム」への協力のお願い ・第 1 回協議会の日程 ４．その他
	5 月 22 日 協議会後	・　次回協議会の開催に向けた打合せを実施。 ・　次回連絡会を協議会開催前に実施し、GEOC 等の同席が可能な連絡会・協議会として実施することなどを協議。
第 2 回 連絡会	7 月 4 日	１．2019 年度「業務実施状況確認表」で進捗状況の確認 ２．第１回協議会の振り返り ３．午後の第２回協議会についての確認 ・全体の流れ、役割分担、ＷＧの進め方等の確認 ・EPO 主催「協働フォーラム」開催の紹介 ４．そのほか関連する取組等の報告（地区推進協議会や地域の動き、新しい取組・団体、展開など） ５．GEOC による情報提供等 ６．その他 （１）第３回連絡会・第３回協議会に向けたスケジュール確認 （２）その他
第 3 回 連絡会	11 月 1 日	・業務の実施状況の確認 ・第 3 回協議会におけるディスカッションの内容の確認 ・「PR ツール」の構成案、「1/24 セミナー報告会」企画案の確認
	12 月 16 日 協議会後	・「PR ツール」の構成案（EPO 素案）の検討 ・「1/24 セミナー報告会」登壇者・プログラムの確認、参加者募集の広報展開等に関する確認
	1 月 24 日 報告会後	・2/23 開催全国ギャザリングの提出資料、ブース展示資料について確認 ・「PR ツール」（報告会プレゼン資料）の修正事項について確認

(2) 採択団体の伴走支援

- 採択事業が円滑に実施されるよう、目標の設定や助言、地域内外で活動する関係主体や拠点施設等の巻き込み等、必要な伴走支援を次の通り実施した。

実施日等	支援内容	作成資料等
4 月 24 日 第 1 回 連絡会	採択団体の事務局メンバーに対し、本年度の事業内容を確認し、協議会の開催スケジュール、アドバイザリーからの（中間評価での）指摘事項への対応などを協議し、必要な指摘・提言等を行った。	• 事業実施状況確認表（連絡会でヒアリングした内容を整理・反映し、関係者に送付して共有） • ログファイアーの性能・安全性を確認する燃焼試験等についての資料（業務の一つ燃焼試験で留意すべきことを整理し、団体側事務局へ送付） • 長野県内の出展可能な環境イベントリスト（事業 PR が可能なイベントのリストとして団体側へ提供）

実施日等	支援内容	作成資料等
		• 第１回協議会でのワーキング（ワークショップ）の内容説明資料
5 月 22 日 第 1 回 協議会	改めて同時解決及び SDGs について説明し、中間評価会議での指摘事項、EPO 中部が本事業の PR も兼ねて開催を計画しているイベントなどについても説明した上で、今後の展開、ログファイヤー活用に関するアイデアを抽出するワーキングを EPO 中部のファシリテーションにより実施した。	• ワーキング用シート（A0 サイズ） • 同時解決、SDGs、中間評価会議での指摘事項、EPO 中部主催イベントの説明資料
6 月中	7/4 開催・第 2 回連絡会、第 2 回協議会の実施のための調整、進め方の確認。 連絡会を飯山駅前の飯山市文化交流館なちゅらで開催することになり、会場の使用申請等を行った。	• 7/4 連絡会・協議会の日程調整表、及び両会議で必要な資料等の原案を作成。
7 月 4 日 第 2 回 連絡会	採択団体の事務局メンバーに対し、事業の進捗状況を確認し、第 2 回協議会の進め方、成果発表に向けたＰＲツールの内容について協議し、必要な指摘・提言等を行った。	• 事業実施状況確認表（連絡会でヒアリングした内容を整理・反映し、関係者に送付して共有） • 第 2 回協議会で実施するワーキングの説明用資料
7 月 4 日 第 2 回 協議会	第 1 回協議会で提示されたアイデアの振り返りとそれをいつまでにどのように進めるか整理するワーキングを進行した。また、福祉施設の人の作業現場を見て、福祉関係分野において、本事業で行うべきことを抽出するワーキングも実施した。	• ワーキング用シート（A0 サイズ） • （開催後）ワーキング結果をとりまとめた資料（簡単な時系列に整理したアイデア集）を作成し、事務局メンバーに提示
7 月 28 日 体験講習会 交流会	地域住民等を対象にしたログファイヤーの体験講習会、交流会に同席し、SDGs についての説明を行った。 また、ログファイヤーの燃焼実験を進行した。	• 講習会の様子、燃焼実験の結果等を撮影した画像を事務局メンバーに提供 • 製作したログファイヤーを EPO 内で解説を掲示して展示
8～9 月中	11/23 開催協働フォーラムで、同時解決事業の PR も盛り込んだ企画を検討し、関係者への調整を行った。 登壇する島岡未来子先生（早稲田大学教授）に、当日は採択団体のメンバーにアドバイスなどいただけるよう依頼をした。 また、飯山市による「後援」を取り付けた。 フォーラム開催案内チラシには本事業の説明も掲載し、チラシの配布とあわせて本事業の PR も行っていただくよう手配した。 11/1 実施の 3 者連絡会の開催準備として、飯山市文化交流館の使用申請を行った。	• フォーラム開催案内チラシ • 飯山市への後援申請書類
10 月	10 月 12-13 日の台風被害（飯山市街地浸水）発生による関係者の安否確認、事業の進捗への影響などの確認を行った。	―
11 月 1 日 第 3 回 連絡会	採択団体の事務局メンバーに対し、事業の進捗状況を確認し、第 3 回協議会の進め方、ＰＲツールの構成案、セミナー・報告会の企画案について協議し、必要な指摘・提言等を行った。	• 事業実施状況確認表（連絡会でヒアリングした内容を整理・反映し、関係者に送付して共有） • 第 3 回協議会で実施するディスカッションの内容案 • 本事業 1 年目までの活動の「見える化プログラム」チャート

実施日等	支援内容	作成資料等
11 月 23 日 EPO 主催 フォーラム	EPO 主催の協働フォーラムを飯山市で開催し、採択団体も事業ＰＲを行った。また、採択団体の現状、将来展望を念頭に置いた講演を行ったほか、交流会では地域循環共生圏づくりプラットフォーム取組団体やEPO 中部協働コーディネーターとの意見・情報交換を行う場づくりを行った。	• フォーラム資料として、2018 年度に採択団体が作成・発行したリーフレット、チラシを配布
12 月 16 日 第 3 回 協議会	第 2 回協議会の振り返りと「①今後の事業展開の可能性について」「②福祉施設の人たちによる作業の現場を見て得られたアイデアについて」「③飯山林福連携事業の（２年間の）“成果“とは？」の 3 題をテーマにしたワーキングの進行を行った。 協議会終了後に、「PR ツール」「セミナー・報告会」の企画案の確認、検討を行う事務局打合せを実施した。	• ワーキング用の資料、シート 3 種（A0 サイズ） • （開催後）ディスカッションの結果を整理したとりまとめ資料を作成し、事務局メンバーに提示 • 事務局打合せで提示した「PR ツール」の構成素案
1 月 24 日 セミナー・ 報告会	採択団体主催）セミナー・報告会に登壇、参加して SDGs 概論の講演を行った。	• セミナー登壇の際の SDGs 概論の講演資料
1 月 24 日 第 4 回 協議会	報告会終了後に開催した第 4 回協議会に出席し、2 年間の振り返り、今後の展開について提言を行った。	―
1 月	報告会終了後に事務局打合せを実施し、2/23 開催全国ギャザリングのプレゼン用資料について確認を行った。また、採択団体側のプレゼン用資料作成の確認、修正案の提示等を行った。	• 2/23 開催全国ギャザリングのプレゼン用資料とブース展示用資料
2 月 23 日 成果共有会	全国ギャザリングで事業の説明、PR、及び採択団体のプレゼンのフォロー等を行った。	―
3 月	採択団体の年間業務報告書の作成支援、内容確認等を行った。	―

(3) 環境省及び全国支援事務局との連携

ア　月次報告の提出、全国支援事務局からの照会対応

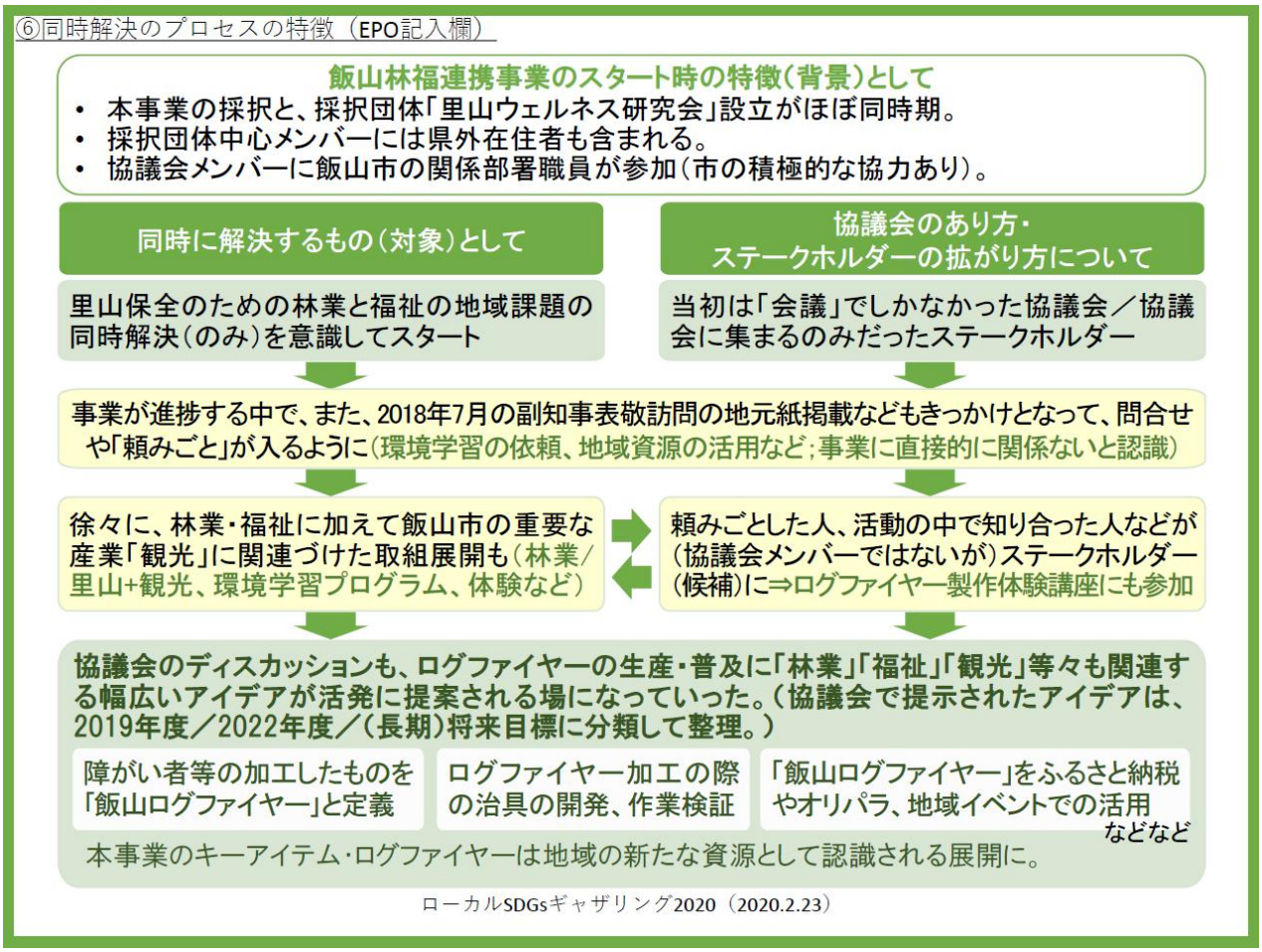
- 5 月に全国支援事務局（GEOC）へ、採択団体作成の「事業計画」を提出した。その後、全国支援事務局からの指摘事項に対し、修正方法の提案等、修正箇所の確認等を行った上で、5 月末までに修正計画を再提出した。
- 毎月 10 日の期日で、採択団体の月次報告と EPO による支援内容を記載した月次報告書を全国支援事務局へ提出した。
- そのほか全国支援事務局からの問合せや連絡調整等に随時、対応した。

イ　関連会議への出席、資料作成対応等

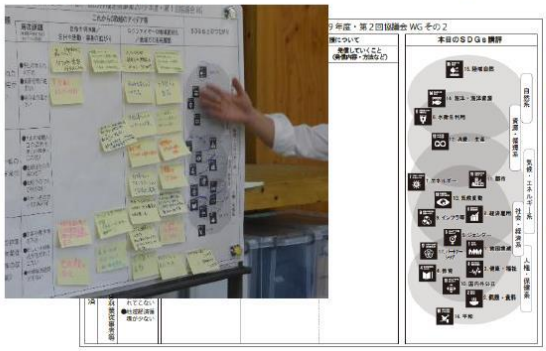
- 次の全国支援事務局主催の関連会議に出席し、必要な資料を作成・提出した。

開催日	名称	次第項目
6 月 21 日	第 1 回 同時解決事業形成会議	開会の挨拶（民間活動支援室　河野室長） 1. 成果の取りまとめにむけて -アドバイザリー委員会を踏まえた全国事務局の仮説 -全国委員・地方委員からのフィードバック -採択事例を元にした意見交換 2. 支援事務局振り返り -協働加速化事業と同時解決支援事業との伴走支援の相違点 -年度末報告会（ギャザリング）の企画
11 月 19 日	第 2 回 同時解決事業形成会議	1. 成果の取りまとめと成果報告会について 2. 進捗状況の共有 3. 意見交換
2 月 23 日	全国ギャザリング	・同時解決事業の概要説明 ・UNU よりプレゼンテーション ・企画①アピールタイム ・企画②コミュニケーションタイム導入 ・コミュニケーションタイム ・企画③全体ディスカッション ・採択団体コメント ・アドバイザリー委員コメント

【作成した全国ギャザリング発表用資料（GEOC 提示フォーマットによる作成）】



⑦SDGsをどう意識したか、活用したか（EPO記入）

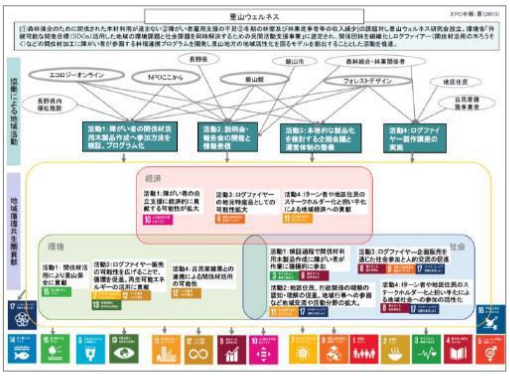


協議会のディスカッション内容をSDGsで振り返り

協議会（2019年度は4回開催）では、毎回最後に、ディスカッションの内容とSDGsとの相関性の振り返りを実施。

EPO中部「活動見える化プログラム」を活用したとりまめ

2年間の取組の成果や事業の要素、そしてSDGsとのつながりについて整理。



取組の中で既に関わっている／これから関わるSDGsのゴールは何かを改めてメンバーが認識すると共に、まだ触れていないゴールも明確化し、今後の取組の新しいアイデアのヒントを探るディスカッションにつなげている。

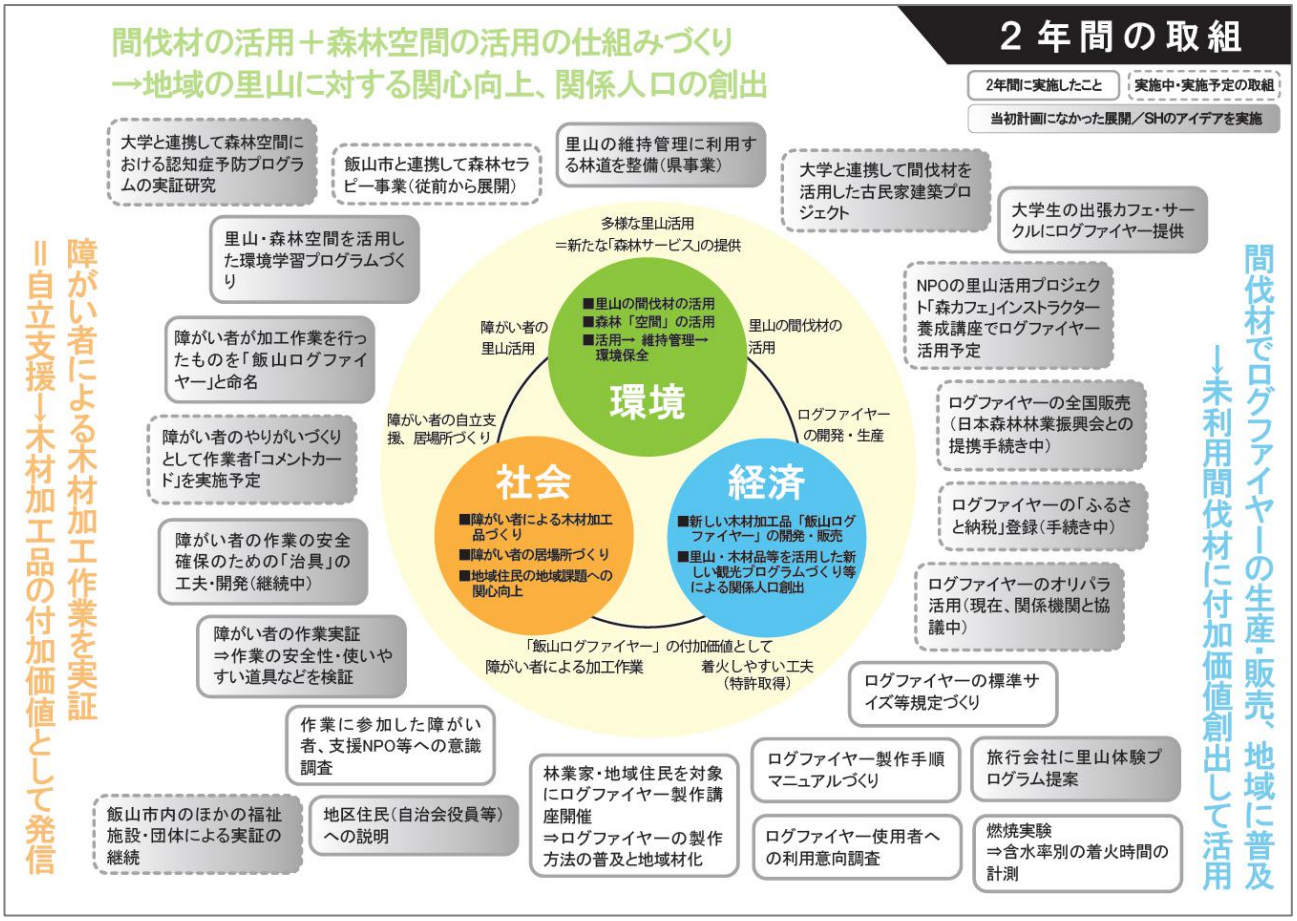
ローカルSDGsギャザリング2020（2020.2.23）

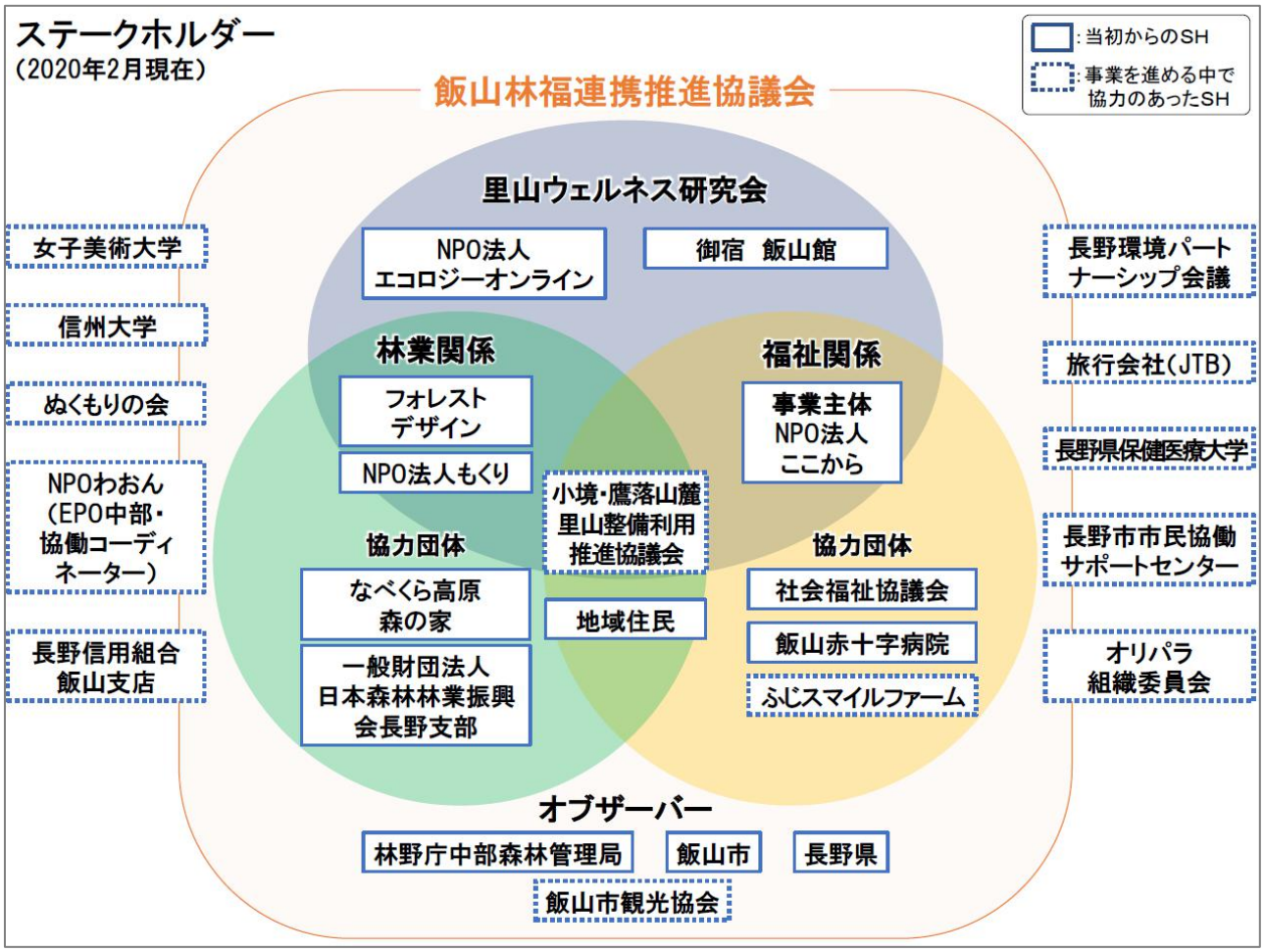
⑧伴走支援の内容、留意したこと（EPO記入）

主な支援	実施事項	留意事項
事業の進捗管理	①環境省事業としての業務管理 ②事業の進展、SH・地域の状況確認 ③上記①②の関係者間の共有	● 採択団体、REO、EPOの3者連絡会を適宜、実施。 ● 連絡会では、EPOの「業務の進捗状況表」をもとに取組状況、及び事業周辺含めた現地動向等の採択団体からヒアリングし、「進捗状況表」に反映の上、3者で共有。 ● 各取組の展開の仕方については、採択団体に一任。
協議会のディスカッションの進行	ワークショップ方式で取組アイデアを抽出するディスカッションを実施。	● 拡散してよい（お互いの考えを共有する）ディスカッションと、事業を前進させるディスカッションを実施。 ● 後者では、本事業のカギとなる「ログファイヤー販売」「障がい者による作業」の軸がぶれないディスカッションとなるようワーキング用シートなどを工夫。 ● 例えば、取組のアイデア出しでは、「時間軸」をシート上に予め設定するなど。
主催フォーラムでのPRの場づくり	2018年度、2019年度のEPO主催フォーラムを長野市、飯山市で開催。 採択団体が登壇して事業PRを行うプログラムを盛り込む。	● 2019年度フォーラムでは、ログファイヤーを活用した「森カフェ」を実施。（これをきっかけに「森カフェ」主宰者とログファイヤーを活用した森カフェ講座のプロジェクトが進行中。） ● 講演として、採択団体による新たな地域ビジネス・プラットフォームの展開を念頭に、地域活動を事業へシフトする際に重要な考え方を提示する内容を依頼。（早稲田大学教授・島岡未来子先生による講演「多様な協働による事業創造に向けて」を実施。）

ローカルSDGsギャザリング2020（2020.2.23）

【作成した全国ギャザリングのブース掲示用資料】


2年間の取組
間伐材の活用＋森林空間の活用の仕組みづくり
→地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出
2年間に実施したこと
実施中・実施予定の取組
当初計画になかった展開／SHのアイデアを実施
大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究
飯山市と連携して森林セラピー事業（従前から展開）
里山の維持管理に利用する林道を整備（県事業）
大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト
大学生の出張カフェ・サークルにログファイヤー提供
里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり
障がい者による木材加工作業を実証
＝自立支援→木材加工品の付加価値として発信
多様な里山活用
＝新たな「森林サービス」の提供
■里山の間伐材の活用
■森林「空間」の活用
■活用→ 維持管理→ 環境保全
環境
障がい者の里山活用
里山の間伐材の活用
障がい者の自立支援、居場所づくり
ログファイヤーの開発・生産
社会
■障がい者による木材加工品づくり
■障がい者の居場所づくり
■地域住民の地域課題への関心向上
経済
■新しい木材加工品「飯山ログファイヤー」の開発・販売
■里山・木材品等を活用した新しい観光プログラムづくり等による関係人口創出
「飯山ログファイヤー」の付加価値として
障がい者による加工作業
着火しやすい工夫（特許取得）
障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名
障がい者のやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定
障がい者の作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発（継続中）
障がい者の作業実証
⇒作業の安全性・使いやすい道具などを検証
作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査
飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続
地区住民（自治会役員等）への説明
林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催
⇒ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化
ログファイヤー製作手順マニュアルづくり
ログファイヤー使用者への利用意向調査
旅行会社に里山体験プログラム提案
燃焼実験
⇒含水率別の着火時間の計測
NPOの里山活用プロジェクト「森カフェ」インストラクター養成講座でログファイヤー活用予定
ログファイヤーの全国販売（日本森林林業振興会との提携手続き中）
ログファイヤーの「ふるさと納税」登録（手続き中）
ログファイヤーのオリパラ活用（現在、関係機関と協議中）
ログファイヤーの標準サイズ等規定づくり
間伐材でログファイヤーの生産・販売、地域に普及
→未利用間伐材に付加価値創出して活用


ステークホルダー
（2020年2月現在）
：当初からのSH
：事業を進める中で協力のあったSH
飯山林福連携推進協議会
里山ウェルネス研究会
NPO法人 エコロジーオンライン
御宿 飯山館
女子美術大学
信州大学
ぬくもりの会
NPOわおん（EPO中部・協働コーディネーター）
長野信用組合 飯山支店
長野環境パートナーシップ会議
旅行会社（JTB）
長野県保健医療大学
長野市市民協働サポートセンター
オリパラ組織委員会
林業関係
フォレストデザイン
NPO法人もくり
協力団体
なべくら高原森の家
一般財団法人 日本森林林業振興会長野支部
小境・鷹落山麓里山整備利用推進協議会
地域住民
福祉関係
事業主体 NPO法人 ここから
協力団体
社会福祉協議会
飯山赤十字病院
ふじスマイルファーム
オブザーバー
林野庁中部森林管理局
飯山市
長野県
飯山市観光協会

飯山林福連携事業の主な活動

2018年度	2019年度
3月 「里山ウェルネス研究会」設立	4月 旅行会社(JTB中部)を訪問して事業説明とログファイヤー活用に関する意見交換を実施
6月 環境省事業「SDGsを活用した同時解決事業」に里山ウェルネス研究会の「飯山林福連携事業」が採択	5月 市担当者の異動等に伴う担当部署・担当者等への事業説明を実施 NPO法人ここからの施設利用者によるログファイヤーの皮むき作業の実証 地元信用金庫を訪問して事業の説明と協力依頼 第5回目の協議会(昨年度振り返り、ログファイヤー着火実験、課題解決ワーキング)を開催
8月 同時解決・全国キックオフ(全国8採択団体が集結)で事業の取組内容をプレゼン 飯山林福連携推進協議会プレ会議を開催	
9月 長野県副知事への表敬訪問で同時解決事業採択を報告、飯山市長への表敬訪問で飯山林福連携事業を報告 第1回目の協議会(事業内容の共有)を開催	6月 旅行会社(JTB長野支店)と事業活用ツアープログラムの開発や企業向けツアーパッケージに関する意見交換を実施 7月 第6回目の協議会(障がい者による作業視察と作業向上のためのワーキング)を開催 地域の林業家・住民等への普及を目的としたログファイヤー製作講習会を開催、ログファイヤーの含水率別の燃焼実験を実施 大分県日田市議会の視察を受入
10月 第2回目の協議会(委員との意見交換会)を開催 第3回目の協議会(製品企画会議)を開催 中部森林管理局との情報共有・意見交換を実施	
11月 拠点地区となる境地区住民総会で事業説明 ログファイヤーの製作準備に着手 「市報いいやま」にて市重点政策の一つとして「障がい者雇用と里山保全とをマッチングした連携事業(林福連携)」推進が明記	8月 市担当部署との取組状況報告と意見交換を実施 飯山市のケーブルテレビ(iネット飯山)を訪問してPR協力依頼 9月 NPO法人ここからの施設利用者による作業実証 地区のお祭りで大型ログファイヤー1本を奉納 宿泊予約サイト運営企業を訪問してログファイヤー活用プランを提案、意見交換を実施
12月 障がい者施設を運営する「NPOここから」の入所者によるログファイヤー製造における皮むき作業の実証を開始	
1月 ログファイヤーが間伐・間伐材利用推進ネットワーク主催の間伐・間伐材利用コンクール受賞で審査委員長奨励賞を受賞	10月 NPO法人ここからの施設利用者による作業実証 長野市産業フェアにログファイヤーを出展 11月 中部森林管理局局長、オリパラ事務局、林野庁木材利用課とログファイヤー活用展開の意見交換
2月 障がい者雇用・支援を行う県内事業者に障がい者雇用方法の現状・課題等をヒアリング	
3月 第4回目の協議会(2018年度事業の報告と意見交換)を開催	12月 第7回目の協議会を開催 NPO法人ここからの施設利用者による作業実証
協議会の開催(主にアイデア抽出、情報交換) 関係者等への事業の説明・打合せ・PR等 作業実証や実験・調査等	1月 日本森林林業振興会長野支部によるログファイヤー販売手続を実施 セミナー報告会で事業の2年間の取組・成果を発表 第8回目の協議会(事業の振り返り、まとめ、今後についての確認)を開催 2月 同時解決成果共有会「ローカルSDGsギャザリング2020」で飯山林福連携事業の取組・成果を報告

(4)加速化事業採択案件に対する照会等対応

- 今期、中部地域の過去の加速化事業採択案件に対する照会や問合せ等は、特に寄せられなかった。

7 EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理

(1)EPO 中部関連の過去報告書の整理

- 第 4 期までに EPO 中部が集積してきた中間支援組織の関わる事例等を各主体（中間支援組織、活動主体、行政）の観点からノウハウ・業務などを中部地方の取組事例として整理し、翌年度の公表に向け PR ツール（ウェブサイト含む）の検討を行った。
- 検討の結果、EPO 中部関連の公開可能な全ての過去報告書のリスト整理と、報告書に掲載されている主催イベントの抽出、データ化を行った。

【イベント／登壇者リストの一部】

No.	CD整理No.	年度(西暦)	報告書名	イベント名	登壇者氏名	登壇者／肩書き	登壇形式:講演/PD	登壇タイトル	備考
1	EPO-02	2005	平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書(10-12月期)	東邦ガス株式会社「環境レポート2005」を読む	磯村　隆英	東邦ガス株式会社 環境部環境推進グループ係長	講演	「企業からの情報提供に市民はどう応えるか～双方向のコミュニケーション、対話の場の視点から～」	
2	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	稲垣　隆司	愛知県環境部長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくりーEPO中部に期待すること」	
3	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	千頭　聡	日本福祉大学情報社会科学部助教授 中部環境パートナーシップオフィス運営検討会座長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくりーEPO中部に期待すること」	
4	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	筒井　信之	株式会社創建代表取締役社長 社団法人環境情報科学センター評議員	PD	「地域からの環境パートナーシップづくりーEPO中部に期待すること」	
5	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	村上　千里	特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議事務局長	PD	「地域からの環境パートナーシップづくりーEPO中部に期待すること」	
6	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	奥山　哲也	みえ環境創造リーグ　環境県民運動推進委員	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク	
7	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	真田　俊子	特定非営利活動法人エコプラザさばえ事務局長	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク	
8	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	戸田　修史郎	社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議事務局長	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク	
9	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	辻　英之	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター事務局長	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク	
10	EPO-02	2005	オープンフォーラム第1部報告書最終	環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス 「パートナーシップがつくる持続可能な地域社会」オープン記念フォーラム	萩原　喜之	特定非営利活動法人地域の未来・志援センター代表理事	PD	中部7県パートナーシップ・ラウンドトーク	

(2)アーカイブとしての活用・公開に向けて

- 第 1 回 EPO 中部運営会議、中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の委員、及び EPO 中部・協働コーディネーターに過去報告書の活用方法について諮ったところ、アーカイブとして活用できるよう公開する提案があった。
- そのため、全ての過去報告書に掲載されている（過去に EPO が主催等した）セミナー・フォーラム等イベントの抽出を行い、登壇者と登壇タイトル等をリスト化する整理を行った。
- EPO 中部ウェブサイトに過去の全報告書のリスト及び閲覧ファイルを掲載・公開できるよう、登壇者・登壇タイトル等の検索可能なリストとして作成し、EPO ネットワーク人材リストとしての活用・公開が可能になるよう整理を行った。

8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

(1)実施概要

ア　多様な主体との連携 / ワークショップの実施

① 内容（インプット）

前年度の環境基本計画に沿った環境教育支援業務において開催した、SDGs 理解インプット・セミナーを経て構築できた 11 団体とのネットワークを基盤に、今年度は新たなステークホルダーの巻き込みも図りながら、地域主体の SDGs 普及促進の深化、及び地域のネットワーク構築を目指し、富山県南砺市と黒部市にて、地域ステークホルダーと連携し、「地域循環共生圏」と「同時解決事業」をテーマとした実践セミナーを実施した。

協働実施パートナー

（ア）南砺市セミナー：南砺市、北酸株式会社

（イ）黒部市セミナー：黒部社会福祉協議会、大高建設株式会社、NPO 法人 明日育、（一社）でんき宇奈月

② 結果（アウトプット）

企業や大学等、多様な主体 26 団体（昨年度の団体からは 6 団体）、延べ 75 名の参加があった。内容については、アンケートに協力いただいた方々の 100%から「良かった」「大変良かった」との評価を得た。また「事後の取組へのヒントが得られたか」との問いにも 80%以上の方々から「得られた」「大いに得られた」との回答を得た。

イ　事後の変化（アウトカム）

事後、参加者への電話や直接会ってのヒアリングから、本セミナーを経て協働事業化が進んだり、自団体での SDGs 実践体制に取り入れるなどの、具体的な変化が生じている例を複数確認した。

ウ　考察及び今後について

この 2 年で、富山県を中心とした主に自治体・企業・団体間で、互いにコンタクトを取りあえる継続的なネットワークの基礎を築くことができた。また、研修に参加したステークホルダーは、研修で取り上げたキーワード「パートナーシップ」「同時解決」「地域循環共生圏」を取り入れた具体的な活動を展開しつつあるため、教育支援の面でも効果を上げていると言える。

3 年目となる次年度は、これら事例の発信と共に、現段階では関係性の薄かった教育分野との連携を主軸とし、地域における自発的・継続的・相乗的な SDGs 普及促進体制（ネットワーク）の構築（完成）を目指した事業を行いたい。

(2) 多様な主体との連携 / ワークショップの実施

ア　南砺市

（ア）開催概要

- 日時：2019 年 8 月 26 日（月）13:30～16:30（10:00～12:00 見学会）
- 場所：南砺市クリエイタープラザ（多目的ホール/カフェトリアン）
- テーマ：地域循環共生圏
- 講師：渡部厚志 氏（公益財団法人　地球環境戦略研究機関ＩＧＥＳ　持続可能な消費と生産領域　主任研究員／リサーチマネージャー　）
- 共催：南砺市　/　協力　：北酸株式会社
- 参加者：37 名 12 団体（※前年度参加団体）

所属団体	参加者数
南砺市※	9
北酸株式会社※	12
大高建設株式会社※	2
wood studio 株式会社	2
YKK（個人参加）	1
クリア家具合同会社	1
とうざわ印刷工芸株式会社	1
となみ青年会議所	4
なんと未来支援センター	1
株式会社島田木材	1
千代田オフセット株式会社	1
北陸電力	1

（イ）内容

【見学会（10:00~12:00)】

セミナーのオプションとして実施。南砺市エコビレッジ推進課の引率の下、20 名が参加。南砺市ペレット工場、桜ヶ池クアガーデン（ペレットボイラー）、古民家移築コミュニティースペース「かず良」の 3 カ所を巡り、地域循環共生圏の基盤について知見を深めた。

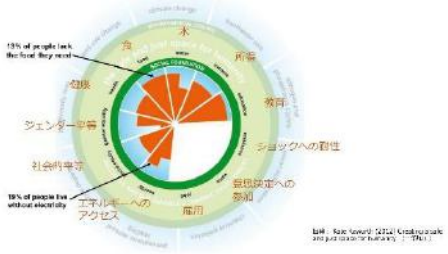
① 基調講演「SDGs と地域循環共生圏」

公益財団法人　地球環境戦略研究機関ＩＧＥＳ　主任研究員　渡部厚志氏

要旨）SDGs は地域を元気にするために活用できる。ずっと先の、社会全体のことまでを最初から考えなくてもいい。地域循環共生圏は、地域の大事なものを活かし、地域の社会と経済を元気にする。具体的な実践方法は、SDGs のゴール同士の関係性・相乗効果を考えながら、エントリーポイントを見つけ、動きながら学んでいくこと。そうすることで、やっていることが地域のどこに効くのかが見えてきたり、次第にやりたいことや仲間が広がっていく。

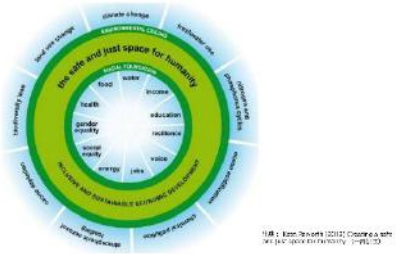
【発表スライド】

SDGs: 持続可能な世界の社会的基盤



⑦

SDGs: 地球の容量内での社会的基盤の確保



⑧

SDGs: 持続可能な開発目標

- 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」
  2015年9月の国連総会全会一致で採択
- 持続可能な開発目標（SDGs）
  - 2030アジェンダの中核にある17ゴールと169ターゲット
  - 持続可能な開発の三側面（経済、社会、環境）を含む
  - ゴールおよび ターゲットは、統合的で、分割不可で、相互に連関
  - ターゲットは地球レベルの目標
  - 法的拘束力はなく各国が自主的に取組む
  - 各国政府は自国のターゲットを設定可能
  - 全てのステークホルダーによる実施

⑨

SDGs: 持続可能な開発目標

- あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- すべての人々への包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う
- すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 包摂的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進

⑩

SDGs: 持続可能な開発目標

- 各国内及び各国間の不平等を是正する
- 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する
- 持続可能な消費生産形態を確保する
- 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

⑪

SDGs: 日本の現状

- 一人親家庭（大人1名＋子ども）の貧困50.8%
- 相対的貧困率15.7%
- 子どもの貧困率13.9%
- 食料自給率 37%
- 2060年には人口の4割が65歳以上に
- 医師・看護師不足
- 世帯収入や地域による進学率格差
- 女性の社会参加率OECD29国中28位
- 2035年には男性の3割、女性の2割が生涯未婚
- 平均年間労働時間、先進国中2位の長さ
- 非正規雇用の増加
- 中小企業、農林漁業の後継者不足
- インフラ老朽化
- 高い障害者の増加
- 食品廃棄600万トン／年
- ヒートアイランド・ゲリラ豪雨対策…

⑫

SDGsとMDGs

- SDGs：MDGs（ミレニアム開発目標、2005-15）の継承

	MDGs	SDGs
誰の目標？	国連・政府（開発専門機関）	国連、政府、企業、NGO、市民（すべての人々）
何を示す目標？	貧困解決のために「何をすべきか」	世界が持続するには2030年の世界は「どうなっていなければいけないか」→「バックキャスティング」
どの分野？	貧困・飢餓・健康・教育	貧困・飢餓・教育・仕事・気候変動・生態系・インフラ・政治と社会への参加…→「統合的アプローチ」

⑬

SDGs: バックキャスティング

⑭

SDGs: 統合的アプローチ

⑮

SDGs: どこから手を付ける？

- バックキャスティング
  …15年、35年先の「ありたい姿」？？？
- 統合的アプローチ
  …そんなに複雑なこと、一度に考えられない
  …行政の計画に書かれて終わりなのでは？

⑯

地域循環共生圏

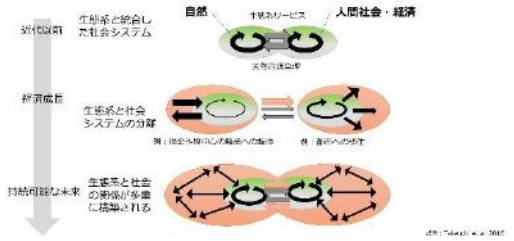
SDGsのローカルな実現に向けて

⑰

地域循環共生圏：相互連関する複雑な課題

⑱

地域循環共生圏：自然と社会・経済



⑲

地域循環共生圏

- 経済・社会・環境の課題への同時対応
- 低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の統合
- 各地の強みを生かし自立的でショックに強い経済・社会作り

→近隣地域・都市と補い合う関係

⑳

21

地域循環共生圏：どこから手を付ける？

- SDGsと同じく
  …ずっと先の、自然・経済・社会のこと
  全部を考えて動くなんて…

22

地域循環共生圏：事例

コウノトリと共に生きる（兵庫県豊岡市）

- 生態環境悪化による絶滅危機
- 人工孵化・放鳥
- コウノトリの生息環境を確保するため、農薬・化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」
  →慣行農法の1.3-1.5倍の価格で農家の所得増
- コウノトリツーリズム
- 小中学校のふるさと教育

ホップ和紙開発（岩手県立遠野緑峰高等学校）

- ホップ生産者の高齢化・後継者不足
- 従来は収穫（ビール原料）以外ほとんど廃棄
- ホップの葉から繊維を抽出、ホップ廃棄100%・新産業の創造つくりに成功。
- 農家・職人・木材加工の協力で商品開発
- 卒業証書など教育に活用

23

全体・個別ではなく関係と入り口を考える

考え方1
ネガティブループを考える

地域の課題を個別でなく関係で考える

24

全体・個別ではなく関係と入り口を考える

考え方2
ポジティブループへ変えるための
エントリーポイント
を見つける

地域全体を少しずつ元気にしていく発想

25

全体・個別ではなく関係と入り口を考える

考え方3
今あるものを
エントリーポイント
だと考えてみる

1)何に効く?
2)誰が仲間になる?
3)他のものとつながる?

26

27

動きながら学ぶ

アルメニア高地の太陽光活用にみるエントリーポイントの活用

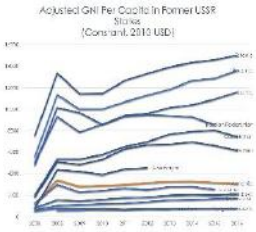
28

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

アルメニア
- 旧ソビエト連邦から独立
- 人口約300万人
  （世界のアルメニア系
  人口1000万）
- ソビエト時代は化学工業で繁栄
- 独立後、経済停滞・人口流出
- エネルギーはロシアの天然ガスに依存

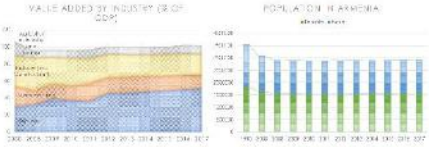
29

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用



30

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用



31

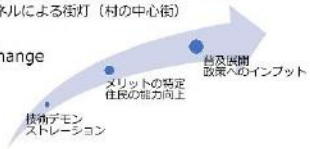
動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

- 高地・農村地域の課題
  - 経済停滞　→　限られた仕事・収入
  - 高い燃料代　→　学校・幼稚園・コミュニティ活動の制限
  - 豊富だが使われていない太陽光

32

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

- 太陽光を活用したコミュニティ開発
  - 太陽光によるドライフルーツ製造（家庭）
  - ソーラー調理器による燃料代削減（家庭）
  - ソーラー温水器による燃料代削減（学校・幼稚園）
  - ソーラーパネルによる街灯（村の中心街）
- Theory of Change



33

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

- やってみてわかったこと（計画通りにはいかない…）
  - 行政（村長・村役場）の非協力的態度（女性蔑視）
  - 技術的な課題：ソーラー調理器は冬場に使えない
  - 実施面の問題：ドライフルーツ製造の全面着手前に冬が到来

34

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

- 走りながらの学習・チーム構築
  - 活動の再検討

原案	実施
ソーラー調理器	中止
家庭のドライフルーツ製造	家庭＋女性センター
学校（調理・皿洗い）のために温水器を利用	幼稚園（調理・皿洗い＋プール）に設置
街灯	公共施設のある地区への街灯

- 村行政との話し合い継続

35

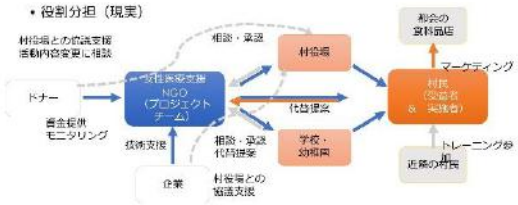
動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

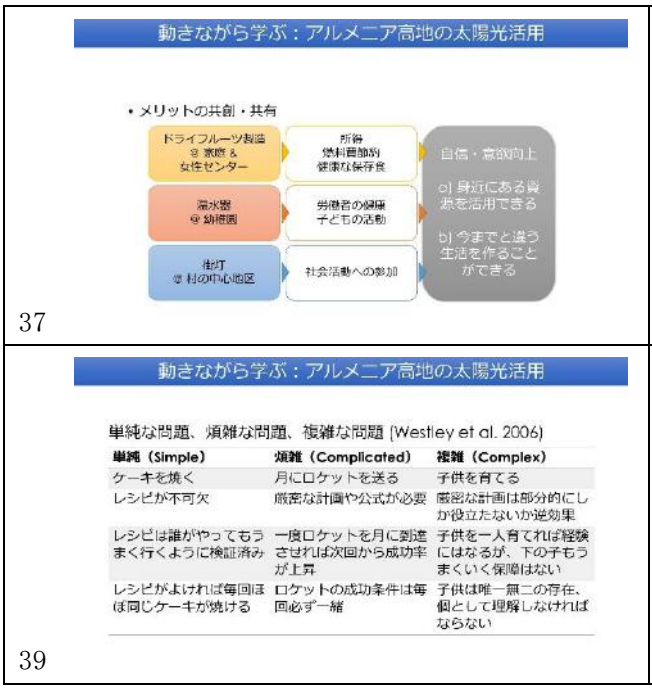
- 役割分担（計画）

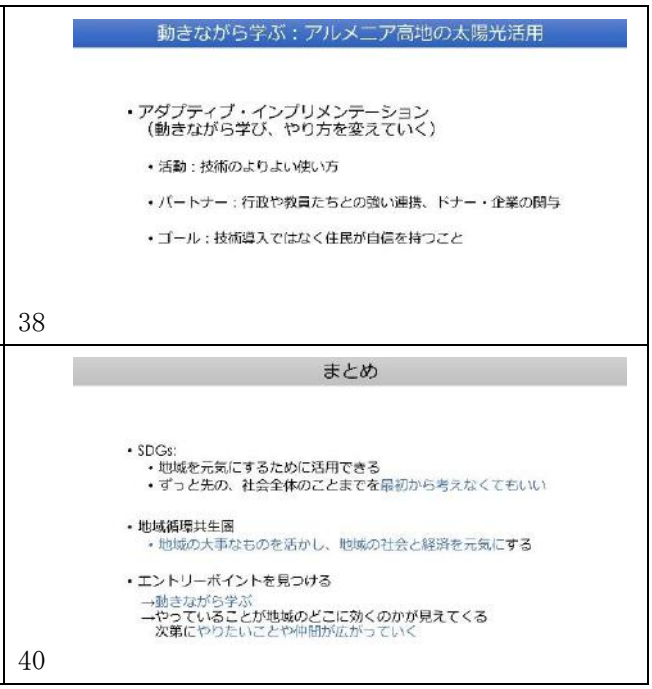
36

動きながら学ぶ：アルメニア高地の太陽光活用

- 役割分担（現実）







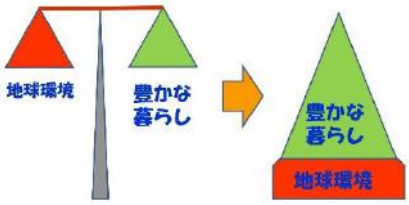
② 事例紹介「南砺市エコビレッジ構想について」

南砺市ブランド戦略部　企業誘致推進室長　久保剛志氏

要旨）南砺市エコビレッジ構想は、南砺市に伝わる「土徳文化」を次世代に継承する取り組みや支え合いによるまちづくりの取組を通じて、地域資源の循環や相互補完が可能となる人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、これらを基金運営等により支えることで、SDGs も併せて更に進化させ「一流の田舎」を実現しようとするもの。【６つの基本方針】①再生可能エネルギーの創出　②農林業の再生　③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成　⑤ソーシャルビジネスの推進　⑥新しい暮らし方の提案

【発表スライド】

地球環境と豊かな暮らしを天秤にかけるのではなく
地球環境という規模の制約の上に心豊かな暮らしの形をつくる



③

エコビレッジ構想は、
南砺市が、地域が、人類が、地球が
50年後も生き残るために今すべきことを提案しています

一人一人が「かけがえのない大切なものとは何か」
ということを考えながら

ひとつひとつの選択を変えていくことが必要

「便利」+「思いやり(自然、人、地域、未来)」
＝50年後の未来へと繋がる選択

④

「南砺市エコビレッジ構想」 H25.3策定

【基本理念】 小さな循環による地域デザイン

【基本方針】
1. 再生可能エネルギーによる
地域内エネルギーの自給と技術の育成
2. 農林業の再生と商工観光業との連携
3. 健康医療・介護福祉の充実と連携
4. 未来を創る教育・次世代の育成
5. ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスによる
エコビレッジ事業の推進
6. 森や里山の活用とと懐かしい暮らし方の再評価による
集落の活性化

⑤

⑥

再生可能エネルギー推進事業

太陽光発電設備整備（ヨッテカーレ、桜ヶ池クアガーデン、南砺中央病院）

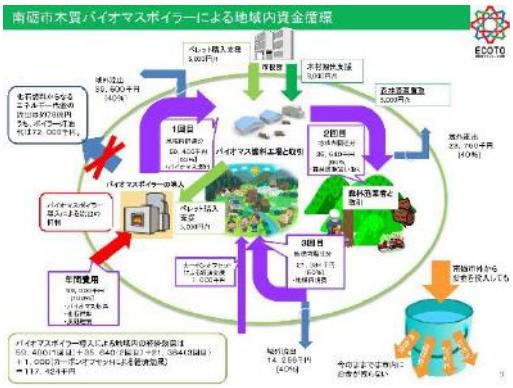
木質ペレットボイラー整備（桜ヶ池クアガーデン、福光プールほか３施設）

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約2,000ｔのCO2削減を見込む。
計画中の木質ペレット燃料工場が稼動すると、市内でのエネルギー自給が実現する。

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約47ｔのCO2削減を見込む。
蓄電池も設備し、災害時における電力が確保され、避難所として自立した施設運営が可能。

⑦

⑧



⑨

⑩

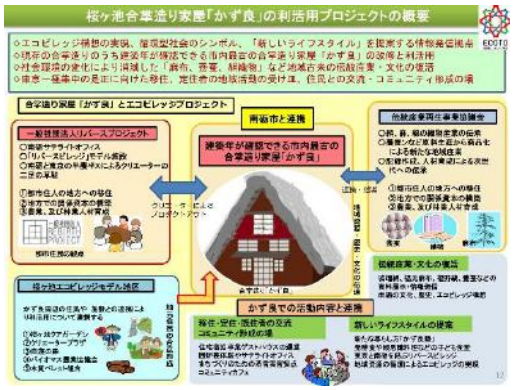
⑪

南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業
「発酵バイオマス農業」
桜ヶ池バイオマス農業推進協議会

廃棄される木の皮を発酵させると、発酵による熱とCO2等のガスが発生する。その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期でも気温１５度以上維持することができ、一年を通した温室栽培が可能となる。

発酵ガスに含まれるCO2には成長を促進させる作用があり、短期間での収穫や収穫回数が増加するなどの効果があった。また、作物が活性化されたことにより、腐りにくく、食味の良い作物が収穫できた。

⑫



⑬

⑭

⑮

持続可能な開発目標（SDGｓ）とは？

SDGｓ＝Sustainable Development Goals
持続可能な開発目標

将来世代のニーズを損なわずに、現役世代のニーズを満たす開発を進める

目標

世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴールと169のターゲット
（＋230～240の指標）

⑯

SDGｓ成立の経緯

２０００年９月
国連ミレニアムサミットで主に開発途上国に対する目標としてミレニアム開発目標（MDGｓ）を採択

→対象が発展途上国など限られていたため思うような成果があげられなかった。

２０１５年９月
国連サミットでSDGｓがすべての政府によって合意。前身となるMDGｓと違ってすべての国、企業、人が取り組むべき目標として設定

⑰

持続可能な開発の3つの側面

- 持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義
- 持続可能な開発を達成するためには、**経済**成長、**社会**的包摂、**環境**保護という3つの主要素を調和させることが不可欠

⑱

SDGsのもうひとつの捉え方－5つのP

自治体がSDGsに取組む意味は？

1．日ごろの活動が世界の目標に通じている/世界に先んじていることを認識できる
⇒市民の「誇り」「やる気」につながる
⇒活動の正当性や公共性（への貢献）を示すことができる

2．SDGｓは共通言語
⇒異なるステークホルダーとの協働・連携につながる
⇒多様な国や姉妹都市等で、発展に持続的に貢献出来ることを示せる（開発途上国の開発戦略への結びつけもやりやすくなり、市場開拓にもつながる）
⇒目標によるタグ付け（同じ目標への活動を集める）、ベストプラクティスや課題の共有で、課題解決のスケールアップや連携を可能にする

⑲

自治体がSDGｓに取組む意味は？

3．サスティナブルな方向に政策で誘導できる
⇒財政支出の効率化につながる
→タテ割りに横ぐしをさすことで、効率化を図れる
→重点施策（例えば健康増進）と他の施策との関連を可視化しやすい
⇒国際目標と結びつけることで、従来やりにくかった施策がやりやすくなる/可視化しやすくなる
→ジェンダー平等、再生可能エネルギーの増大、食料廃棄物削減等
⇒「誰一人取り残さない」コンセプトで、人口減をストップし地方創生を行える

⑳

自治体がSDGｓに取組む意味は？

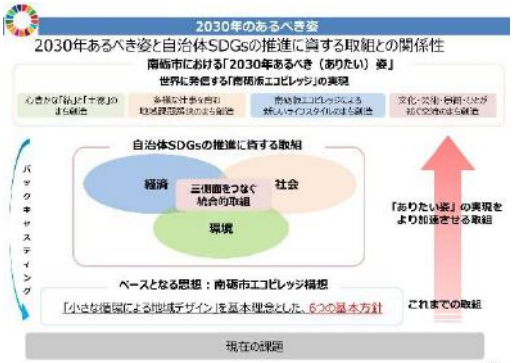
4．企業のサスティナブルな取り組みやESG投資拡大の支援
⇒認証の活用やSDGｓへのコミット表明企業に対してSDGｓ調達を促進したり、投資を誘導
→中小企業のサスティナビィリティを応援

5．将来のあり方から創った活動が可能に
⇒変化の多い時代のよりどころに
例：ガソリン車からEV車へシフト→中小企業の事業がシフトを余儀なくされる
⇒総合計画に盛り込むことで誤りのない自治へ

イノベーションとコラボレーションのたから箱

21

22



23

24

25

26

27

28

29

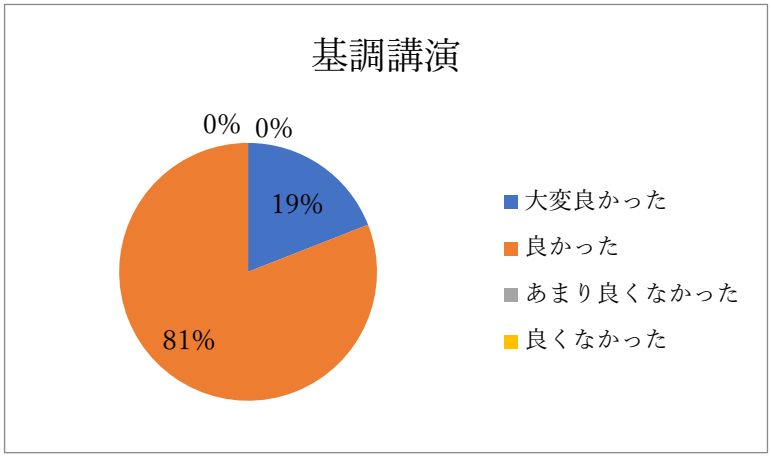
30

③ グループワーク

渡部氏の主導の下、グループごとに解決したい地域課題を考え、それに対するプロジェクトを SDGs ホイールのワークシートを用いて、それぞれのゴールの関係性を考えながら（線で結びながら）検討し、発表して全体共有した。

（ウ）当日アンケート結果

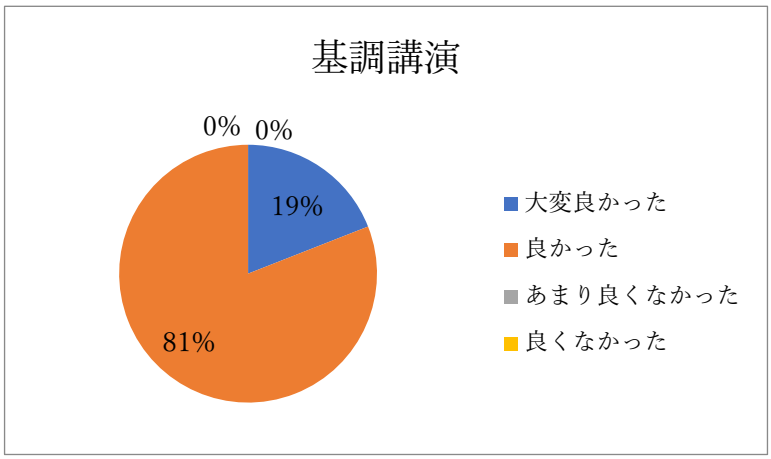
① 見学会



(n=19)

- エコビレッジペレット工場等すごいと思った。
- ペレット工場初めて見ました。自分の仕事と直結しない分野でしたがそれが逆に刺激になりました。
- 具体例を知ることができた。弁当が美味でした。
- 資源の有効利用を直接見ることができてよかった。
- 森･林業の問題地産地消の良さを目で見ることができよく理解できた。

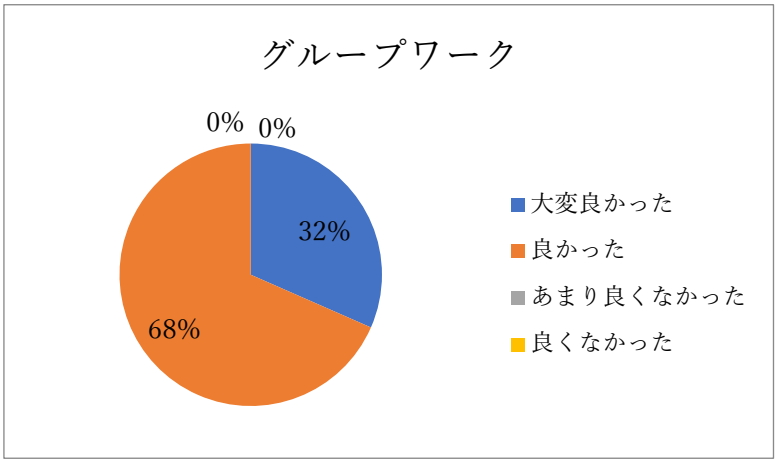
② 基調講演



(n=25)

- SDGｓが分かりやすく自分ごととして考えるきっかけとなった。
- SDGｓの目標はとても大きな課題で取り組みのスタートが難しいと感じていたが、身近なところから入り口を考えたら良いと思った。
- アルメニアの例、あまり考えすぎずにできるものと知ることができた。
- 固いイメージのSDGｓでしたが考え方を見方を学んだ。
- 身近に感じることができた。
- 分かりやすく説明されました。ありがとうございました。

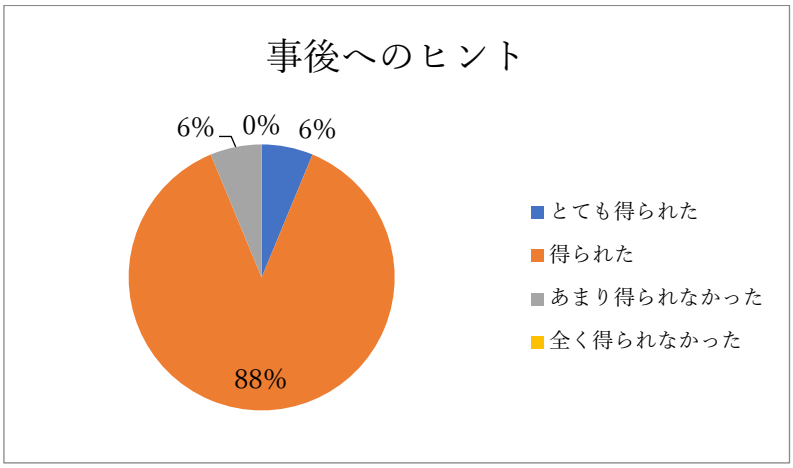
③ グループワーク



(n=25)

- いろんな職種と話ができてよかった。
- グループで話し合いをすることにより様々な発想が生まれることを感じた。
- グループワークを通して一人ひとりがどのような意見を持っているか知ることができ新しい考え方などが分かった。
- たくさんの方々の貴重な意見が聞けた。
- ワークシートの記入が難しかった。項目が難しい。
- 関連付けるといろいろつながっていると感じた。
- 考え方１～３のやり方がとてもわかりやすく、社内教育でもやってみようと思いました。
- 少し難しかった。
- 地域事例を聞いた。
- 民間の方と話すことで今までと違った目線でものを見ることができた。考え方が変わった。
- 民間事業者の方のアイデアを伺えてよかった。

④ 事後へのヒント



(n=25)

- 「これ」という決まりは無く自由な発想でグループワークをしました。
- いろいろお話が聞けてよかったです。
- グループワークでの意見交換を通して視点が少し広がったような気がする。
- グループワークを通して南砺市の問題点を考えることができた。自社の SDGs 目標を考えるきっかけとしたい！
- ヒント、考え方が得られました。よく考えて仕事につなげたいと思います。
- 今あるものからできることから動いていこうと思いました。

- 今後自分のできることを考えていきたい。
- 市外の方の目線で南砺市の優れた点、産業、モノを教えてもらった。
- 他の企業等いろんな方の考え方を知った。

⑤ 全体を通じて

- ありがとうございました
- とても貴重な時間でした。ありがとうございます。
- 移動時にややスムーズに行かない部分があったように思いました。全体にはすばらしいセミナーでした。
- 一日多くを学べました。また、南砺市の魅力を存分に感じました。ありがとうございました。
- 回数を増やしてほしい。

イ　黒部市

（ア）開催概要

- 日時：2019 年 11 月 28 日（木）13:30～16:30
- 場所：立山黒部ジオパーク交流施設　わくわく広場うなジオ
- テーマ：同時解決事業
- 講師：長井一浩 氏（一般社団法人　Green Dawn Project※　理事長／NPO 法人　明日育　常務理事・事務局長）
- NPO 法人　明日育／　協力　：大高建設株式会社、一般社団法人でんき宇奈月、宇奈月自立塾
- 参加者：38 名 18 団体（※前年度参加団体、★南砺市セミナー参加団体）

団体名	参加者数
富山県※	1
南砺市※★	1
北酸株式会社※★	2
大高建設株式会社※★	2
黒部市社会福祉協議会※	1
一般社団法人　立山黒部ジオパーク協会※	1
YKK（個人参加）	1
とうざわ印刷工芸株式会社	1
でんき宇奈月	3
宇奈月自立塾	12
株式会社　延楽	2
森のエネルギー研究所	2
日本林業技術協会	1
富山県立大学	4
有限会社　西部トラベル	1
JICA 北陸	1
お酒のお宿「喜泉」	1
NPO 法人　明日育	1

（イ）内容：

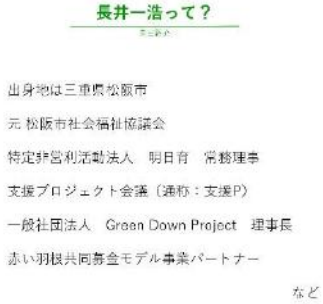
① 基調講演「Green Down Project と SDGs」

一般社団法人　Green Dawn Project　理事長　長井一浩氏

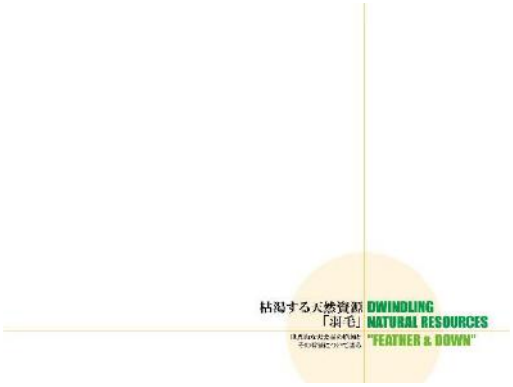
要旨）Green Down Project は羽毛を扱う企業や関係者と協力してリサイクル可能な羽毛製品の回収と製品化・流通を進めているプロジェクト。障がい者を雇用する仕組みで、環境課題と経済課題、福祉課題の同時解決が可能。繋がり合うことで新たな価値が生み出される。そのためには、相手を自分を「知る」「考える」ことから始める。利害で、参加型で繋がり、常識にとらわれない発想で、小さなモデルから始め、役割を分担しながら共創。何よりも「楽しい」ことが一番。

【発表スライド】

①



②



③

④

年率４～５割の増加ペース
ネット販売の急速な普及が市場拡大を後押ししている。
2013/9/26 日本経済新聞 電子版より

⑤

グリーンダウンプロジェクトって何？
WHAT A GREEN DOWN PROJECT ?
グリーンダウンプロジェクトの設立とその経緯や目的について語る

⑥

理事紹介
長井一浩 代表理事
長澤 恵美子 理事
橋本 廣吾 理事
川本 健太郎 理事
竹村 伊央 理事

⑦

Green Down Project
平成２７年４月３日 設立
設立の背景

⑧

理念・ビジョン
日本国内で羽毛を循環させるしくみを確立し、その普及をめざしています。
ミッション
Green Downは清潔で、安心して使用できる素材であることを広く生活者に知ってもらい、羽毛の回収と再利用への取り組みを会員企業や団体などと協働し社会に浸透させることをミッションとしています。

⑨

羽毛回収の仕組み、技術と生産体制について
～羽毛回収のシステム～
私たちが回収し、「Green Down」を作ります。あなたのチカラが必要です。
（羽毛循環サイクル社会）
回収
逆流
解体
洗浄
製品
販売
使用
提供
Green Down Project

⑩

世界が変わる？
「羽毛循環サイクル」の実現は、豊かな社会を生み出します。
障がい者就労支援・地域貢献
環境保全
羽毛の安定供給

⑪

Green Down Project for SDGs

⑫

⑬

Ⅰ．ＳＤＧｓとは？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

⑭

持続可能な開発のための ２０３０アジェンダ

- ２０１５年９月の国連サミットで１９３の国連全加盟国の賛同を得て採択された、持続可能な社会を目指すマスタープラン（基本計画）、世界の共通言語
- 持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を提示
  １７目標、１６９ターゲット、２３０指標の三層構造
- 進捗状況のモニタリングと評価（法的拘束力なし）
- ＳＤＧｓへの取り組みやフォローアップを行う主たる責任は各国の政府にある（含　国内評価指標の開発）
- 民間セクターには、創造力とイノベーションの発揮を期待

⑮

「誰一人取り残さない」

⑯

Ⅱ．Green Down Project for SDGs

Green Down Project

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Green Down Project は ＳＤＧｓを支援しています。

⑰

⑱

持続可能な生産と消費のパターンです。

12 つくる責任 つかう責任

羽毛サイクルは、持続可能な生産と消費のパターンです。
Green Down Projectは、「使わなくなった羽毛製品を捨てない」という消費者の行動から始まる、バリューチェーン全体におけるしくみです。明確な基準や統一の表示を通じて、消費者に誠実な情報提供を行っています。

⑲

羽毛回収の仕組み、技術と生産体制について

（羽毛循環サイクル社会）

羽毛循環サイクル社会の実現には、あなたのチカラが必要です。

⑳

捨てないで！モッタイナイ！

いま、ダウン（羽毛）の供給量が減っています。
ダウン（羽毛）は限りある資源です。

21

22

Green Downとして生まれ変わった羽毛は、さまざまな製品として
再び生活者の方々のもとへお届けしています。

Green Downの製品に、
Official Name Tag（ドスネーム）と
Green Down Tag（マーク）がついています。

23

環境を守ることができます。

13 気候変動に具体的な対策を

羽毛サイクルは環境を守ることができます。
Green Down Projectは、羽毛循環サイクルを構築することを通じて、CO2の排出を抑制することを目指しています。温室効果ガスの排出量を抑えることで、気候変動の具体的な対策となります。

24

3,200,000

25

国内での新規羽毛布団の販売枚数
320万枚
（日本羽毛製品協同組合）

26

940,000

27

東京２３区だけで年間９４万枚
全国だと何枚になるのか？
この中の何％が羽毛布団？

⬇

ほとんどが焼却されている

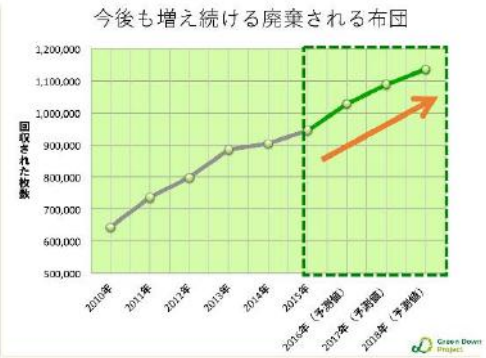
28

東京23区で廃棄される布団の推移
（清掃事業年報（東京２３区）より）

年度	2012	2013	2014	2015
枚数	799, 144	865, 385	904, 733	944, 529

粗大ごみとして処理される量

3年で約15万枚、約18％の増加



29

副産物として
新毛で利用できる**羽毛の量は減少**
羽毛の**需要は年々上昇**

廃棄される羽毛布団は**年々増加**
リサイクルされている羽毛は**まだまだ僅か**

まだまだ**極めて高いポテンシャル**がある

30

31

32

33

34

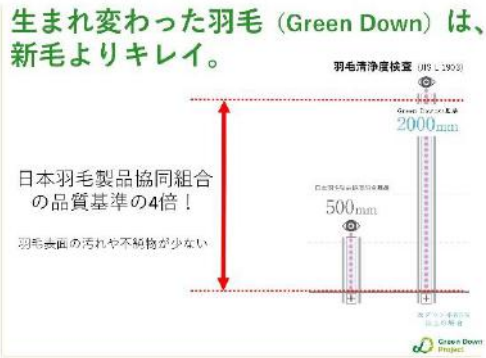
35

36

37

38

39



40

41

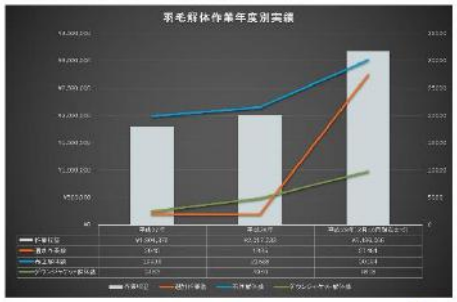
42

43

44

45

解体作業コスト（成果）



46

解体作業能力（成果と課題）

1日あたりの解体能力	300枚
1日あたりの解体実数	191.44枚
100%能率比	63.80%
1か月あたりの解体能力	6000枚
1か月あたりの解体実数	3637.36枚
100%能率比	60.62%
1年あたりの解体能力	72000枚
1年あたりの解体実数	40012枚
100%能率比	55.57%
平成29年度布団解体実数	30194枚
平成29年度ＤＪ解体実数	9818枚

47

仕事を続ける為の仕組み作り（思い描く5年後）

引きこもっていたＴさんが…
多重債務者のＯさんが…

羽毛解体作業を通して、地域貢献できる
社会を構築する。
そんな地域社会を作る為に、皆さんと共に
その仕組み作りを考えていきたい。

48

「ユニバーサル・ワーク」の実現を目指して

自然環境しかり労働環境の改善・強化

●企業の障害者雇用率を高める取り組み

⇩

●就労困難な人々の労働による社会参加の促進

＊都市部：派遣型作業所の創設⇨本来業での障害者雇用

＊農村部：自治体ないしは社協・既存法人との協働

49

「仕事おこし」として（研究レベル）

○製品から羽毛を取り出す作業所
・流通・運搬システムをもつ企業との連携
・アパレル・寝具メーカーから流通

○防災関連商品の製造
・Green Down を使用した製品の製造
・被災地の障害者就労支援事業所（生活困窮者含む）とアウトドアメーカーとの協働事業
・毛布などともに各自治体でプール（災害備蓄品）
・使用後再度リサイクルシステムへとのせていく。

50

羽毛回収実績とGreen Down使用実績

羽毛回収実績及び予測	2014年	・・・	㊟5,000Kg
	2015年	・・・	㊟10,000Kg
	2016年	・・・	㊟15,000Kg
	2017年	・・・	㊟25,000Kg
	2018年	・・・	㊟30,000Kg
	2019年	・・・	㊟60,000Kg
Green Down 使用量実績及び予測	2015年	・・・	㊟5,800Kg
	2016年	・・・	㊟4,300Kg
	2017年	・・・	㊟6,200Kg
	2018年	・・・	㊟28,000Kg
	2019年	・・・	㊟30,000Kg （4年で約5倍）

51

各地に拠点を。

52

協働で付加価値を創造するプラットフォームです。

羽毛サイクルは、協働で付加価値を創造するプラットフォームです。
Green Down Projectは、羽毛に関わる多様な企業、地域社会、そして生活者一人ひとりの理解と協力により羽毛循環サイクルのしくみがつくられます。
多様な組織や人々が関わるからこそ生まれる創造力とイノベーションを発揮していきます。

53

今日のCSRにおいて重要な要素

★Sustainability　持続可能な社会の実現
持続可能な事業
持続可能な生産と消費

★Accountability　説明責任
透明性の確保
相互の監視

★Human Rights　人権の尊重
誰一人取り残さない
（動物福祉）

★Partnership　マルチ・ステークホルダーによる
課題解決

54

今後の方向性：企業の関心

1．ＣＳＲ・社会貢献活動・ＣＳＶの整理・役割分担

●ＣＳＲとは
- 企業活動全体に統合されるもの

●社会貢献活動とは
- 本業だけでは解決できない社会課題へのアプローチ

●ＣＳＶとは
- Creating Shared Value（共有価値創造）
- ステークホルダーとの共有価値創造を事業活動に位置づけること
- 社会課題の解決策の規模を、市場メカニズムを活用して拡大すること

55

サステナビリティを追求する価値創造

CSV ✖ SDGs

•社会価値と経済価値の同時実現を目指す
•ビジネスモデルの革新的な転換が必要

・新たな連携の可能性が拡大

・ソリューション重視の連携が必要

56

競業から共業へ

競争から共創へ

持続可能で包摂的な社会の実現
に向けて

循環資源、共有価値創造という考え方は
今の時代に不可欠です。
循環型社会の実現が、
環境にもモノにも人にも優しい社会を創ります。

57

第3回グッドライフアワード

58

エコプロアワード

59

参加企業団体

@100の企業や団体が参加

60

繋がり合うことによって

新たな価値が創出される。

61

それって難しいの？

62

確かに難しさもあります。

しかし、

63

課題解決には “つながる” が効果的

64

どのようにつながり、

つなげればいいのか…

65

その多くは 「知る」 ところから

66

つまり…

67

知ろうとする意識

68

とにかく知ることで、

アプローチがかけやすい

69

でも相手を知る前に、

ちゃんと自己紹介できますか？

70

自分のことを知らないと、

自己紹介はできない。

※知らない人のことを紹介できない。

71

連携と協働って、

自分と相手のことを

「考える（想像する）」作業。

72

そして、

73

モデルを創る

コツ！
・新しいチャレンジ
・小さな成功体験！

74

参加型で創る

コツ！
縦割りではなく、
横への広がる意識

75

利害で組む

コツ！
・テーマで組む
・関係者で組む
・解決型で組む

76

既存の仕組みにとらわれない

コツ！
・2つの"想像"と"創造"

77

78

79

80

② 事例紹介：「地域内エコシステム@宇奈月温泉」

一般社団法人　でんき宇奈月　理事　堺　勇人氏
大高建設株式会社　山本 健太郎氏
一般社団法人　日本森林技術協会　川井 祐介氏

要旨）地域材を薪として活用し、温泉施設等の熱エネルギーに活用する仕組みを、生活自立支援団体「宇奈月自立塾」と連携して構築していこうとするプロジェクト。現状は実証試験段階ではあるが、取組を通じて互いに学び気付き合い、各主体が主体的・自立的になりつつある。

【発表スライド】

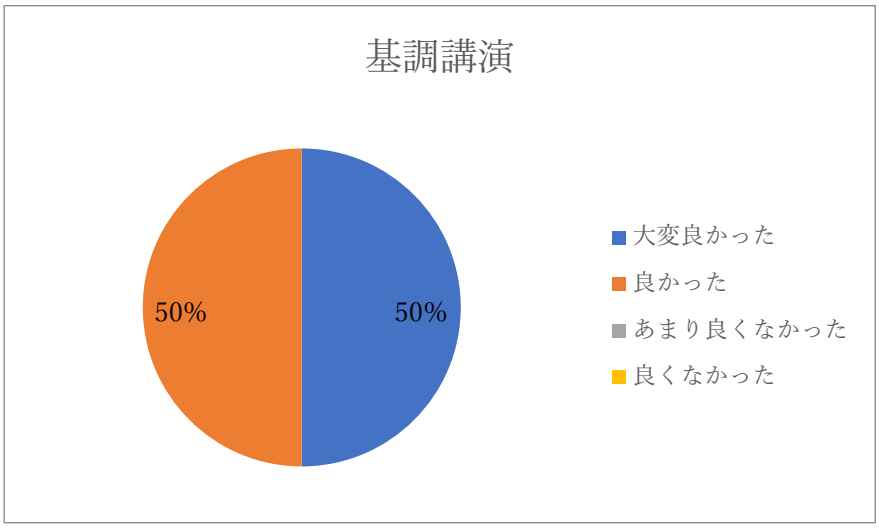
③ グループワーク

地元の NPO 法人「明日育」及び黒部市社会福祉協議会の小柴徳明氏と基調講演講師の長井氏がファシリテートし、同時解決事業を展開するのに必要なワークショップを行った。同時解決事業は多様なステークホルダーとの協働となるため、協働に必要な「自己」「他者」を知ることをテーマとして下記のワークを実施した。

- フラフープをみんなで支える：グループで人差し指で一定の高さで支えるワーどうしても上がってしまうことを体験し、協働の難しさを実感。
- 「自分は〇〇」：付箋に自分がどういうことが得意かを書いて貼り、互いにコミュケーションを取り合った。限られた時間で多くの人と楽しくコミュニケーションができることが分かった。
- 違う者同士でのコミュニケーション：腕の組み方などから「判断」と「表現」の特性を 4 つの類型にして、それぞれに分かれ、異なる類型になった者同士でのコミュニケーションを体験。他者は必ずしも自分と同じ判断・表現をしていないことを実感。

（ウ）当日アンケート結果

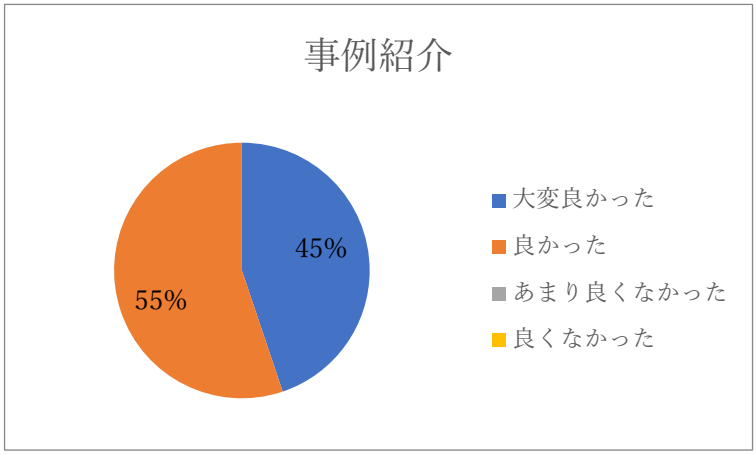
① 基調講演



(n=21)

- SDGｓの「同時解決」の事例と分かりやすく、学ぶことができた。
- たくさんメモを取りました。ホントに勉強になった！
- 意義が分かった
- 羽リサイクルははじめて聞きました。でも知ってよかったと思います。
- 映像があり視覚的にわかりやすかった
- 薪のイメージ暖かいやさしいイメージがしっかり宇奈月に発展しているところが良かった

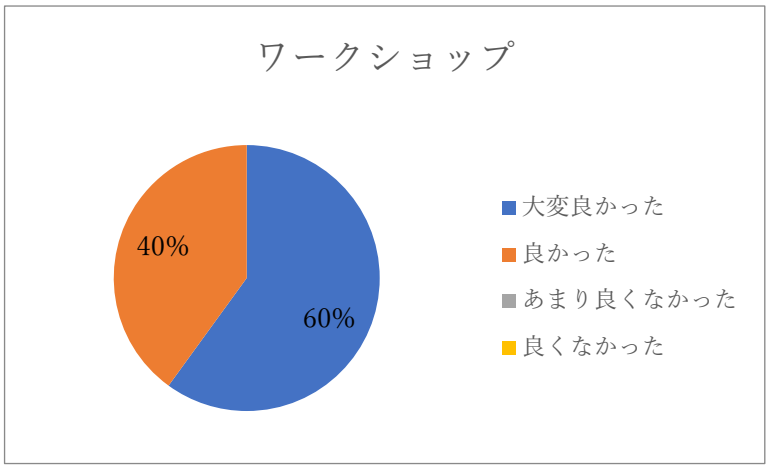
② 事例紹介



(n=21)

- 自立塾以外の人たちと会話できた
- 身近なところでこんなサスティブルな事業があるとは！！
- 地元の活動が良く分かった。ストーブがほしくなった。
- 本質資源のポテンシャルの高さを改めて感じた。

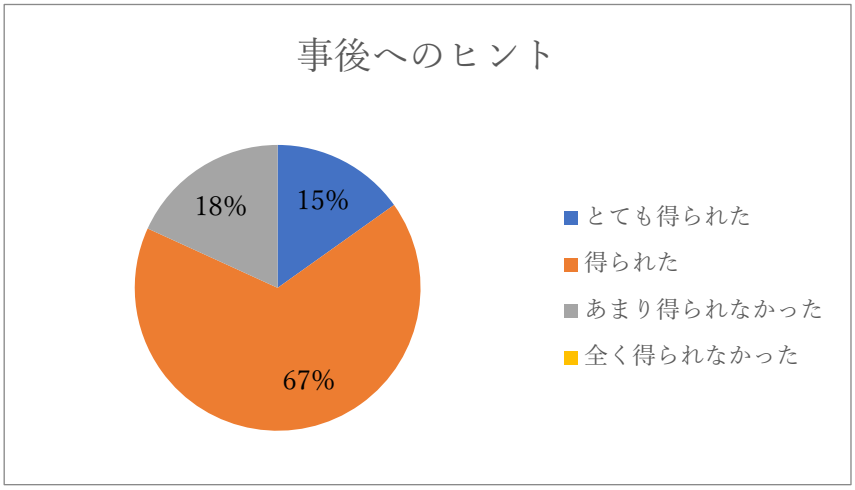
③ ワークショップ



(n=20)

- アイスブレークの楽しさわかった。すばらしい。漫才を見ているようだった。
- コミュニケーションを取るためにはまず自分のことを語れるようにしなければいけないのが痛感。
- とにかくワクワクした！！コミュニケーションの本質がわかった！！！
- 右脳と左脳で性格を診断するのが面白かった。
- 楽しくて面白かったです。
- 最近一番笑ったと思うくらい面白かった！！です。

④ 事後へのヒント



(n=18)

- コミュニケーションをとることの重要性と改めて学ぶことができた。
- ちょっと違ったが、アイスブレークの重要性を体験できてよかった。
- 伝える伝わるの違い

⑤ 今後取り上げてほしいテーマ

- ゴールへのプロセス、人を巻き込む方法
- ステークホルダーとの連携と深めるための情報収集
- 各地域での進展取り組み。各個人へのメリット
- 具体的な事例を教えていただきたいです
- 現在の目標と達成への展望について
- 伝わるような行事を行う

⑥ 全体を通じて

- とてもよかった。とくに自分事の大切について
- とても楽しかった

(3)事後の変化

セミナー終了後から 2 月初旬にかけて、参加者数名に電話や直接の聞き取り等により、事後の主体的な学びの発信、実践、パートナーシップの構築につながった例の確認を行った。その結果、下記の 13 例が確認できた。

【SDGs の主体的な発信・学び、パートナシップの構築につながった例】

宇奈月自立塾、(一社) でんき宇奈月、旅館「喜泉」

- 今年度、林野庁の「地域内エコシステム」事業で、地域材を用いた薪ボイラースキームの実証実験に取り組む。その一環として黒部のセミナーに３者共に参加。参加後に、下記のような活動につながった。
- 薪製造担当の「宇奈月自立塾」は、自主性・主体性が増し、軽トラックを購入するなど、薪ビジネスを本格化し始めた。
- 旅館「喜泉」は、セミナーを経てこのスキームの社会的意義も実感し、薪ボイラー導入を決意。実証実験パートナーの森のエネルギー研究所、日本林業技術協会と具体的な導入について検討を始めている。
- 「でんき宇奈月」は本プロジェクトのとりまとめ役として、本件を林野庁の成果発表会（2 月 12 日東京麹町）にて事例発表し、事後、参加者から同様のスキームを検討したいとの相談要請を受けた。

（「地域内エコシステム」の成果発表会資料）

有限会社　西部トラベル

- 黒部セミナーに参加後、自社ホームページにて SDGs 発信開始。
- セミナー参加団体を中心とした実践現場をめぐるツアー（ローカル SDGs ツアー）を企画。3 月 19 日に第 1 回目を実施予定。

（西部トラベル Web サイトより）

（ローカル SDGs ツアー行程表）

北酸株式会社
● 南砺セミナーを経て、社内で SDGs ワーキンググループを部署横断的に立ち上げ、南砺研修で学んだフレームワーク（SDGs ホイールをつかってゴールの相互作用を確認する手法）を導入。 ● 富山県立大学と福祉分野を絡めた事業（同時解決事業）を検討中。
大高建設株式会社
● 地域で SDGs 企業として認知されつつあり、講演・研修の依頼を受けるようになった。 ● 地域から受けた SDGs 研修案件を、黒部セミナーでつながりのできた NPO 法人「明日育」に依頼。
黒部市社会福祉協議会
● 昨年度発表した SDGs を地域用に 5 つのゴールにまとめた「５goals くろべ」を実装し、普及展開中。 ● 広報誌「社協だより」にて大高建設を取り上げ、SDGs を紹介した。

（黒部市社会福祉協議会 Web サイトより）

（大高建設を紹介する「福祉くろべ」1 月号）

南砺市（エコビレッジ推進課）

- 昨年のセミナーを経て今年度 SDGs 未来都市に選定。
- EPO 中部の「活動見える化プログラム」に協力（次項「(4)EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析」を参照）。

株式会社　延楽

- 独自事業として 2 年前から行っている社会課題映画上映会「宇奈月温泉ソーシャルシネマトリップ」がセミナー参加者に知られ、集客の拡大につながった。
- PEC とやまの SNS でも情報発信サポート。

宇奈月ソーシャルシネマトリップ Web サイト（左）、PEC とやま Facebook での告知協力（右）

クリア家具合同会社

- 自社ホームページにて研修会の内容を発信。

（クリア家具 Web サイトより）

個人参加の方
● 南砺と黒部両方のセミナーに参加後、PEC とやま主催の SDGs コーディネーター養成講座を受講・修了し、SDGs 促進推進役を主体的に担い始めている。
千代田オフセット株式会社
● 南砺セミナーに参加後、地元東京で開催されたビジネスフェアにて SDGs をテーマにした展示を実施。研修で得た知識を使い、普及啓発用のリーフレットを作成・配布した。

（ビジネスフェアの展示ブースの様子）

（様々な製品を SDGs アイコンで紹介）

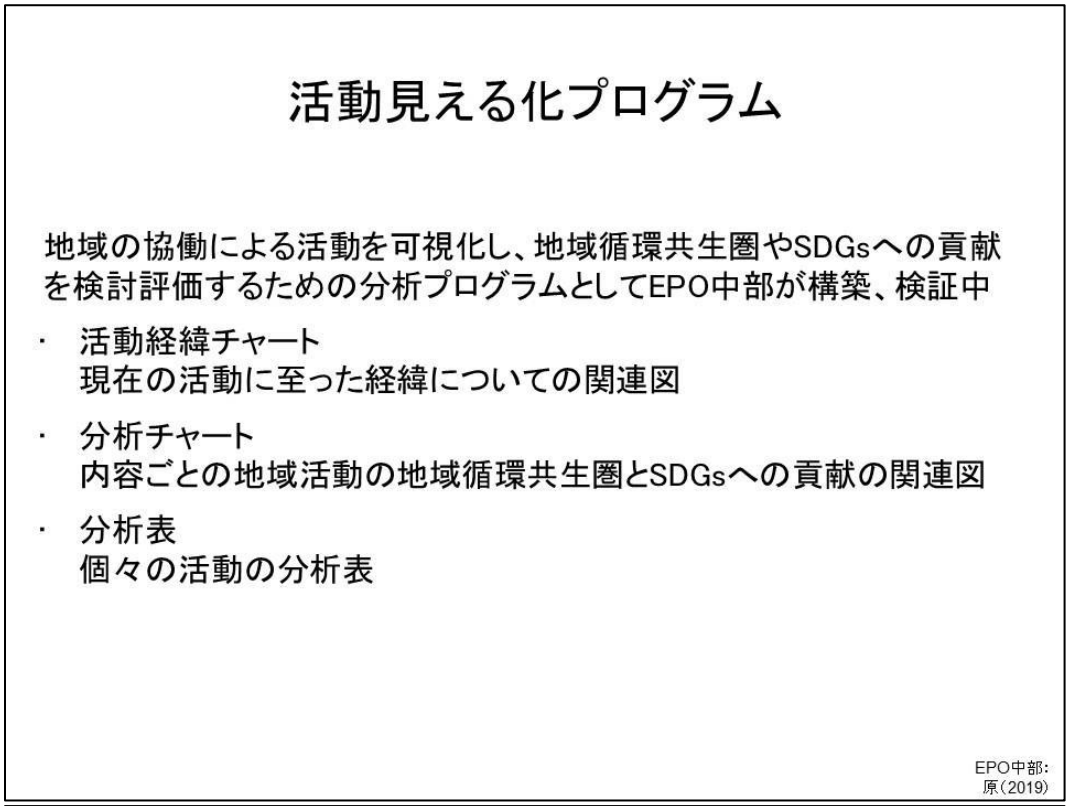
（独自に作成・配布した SDGs 普及啓発小冊子）

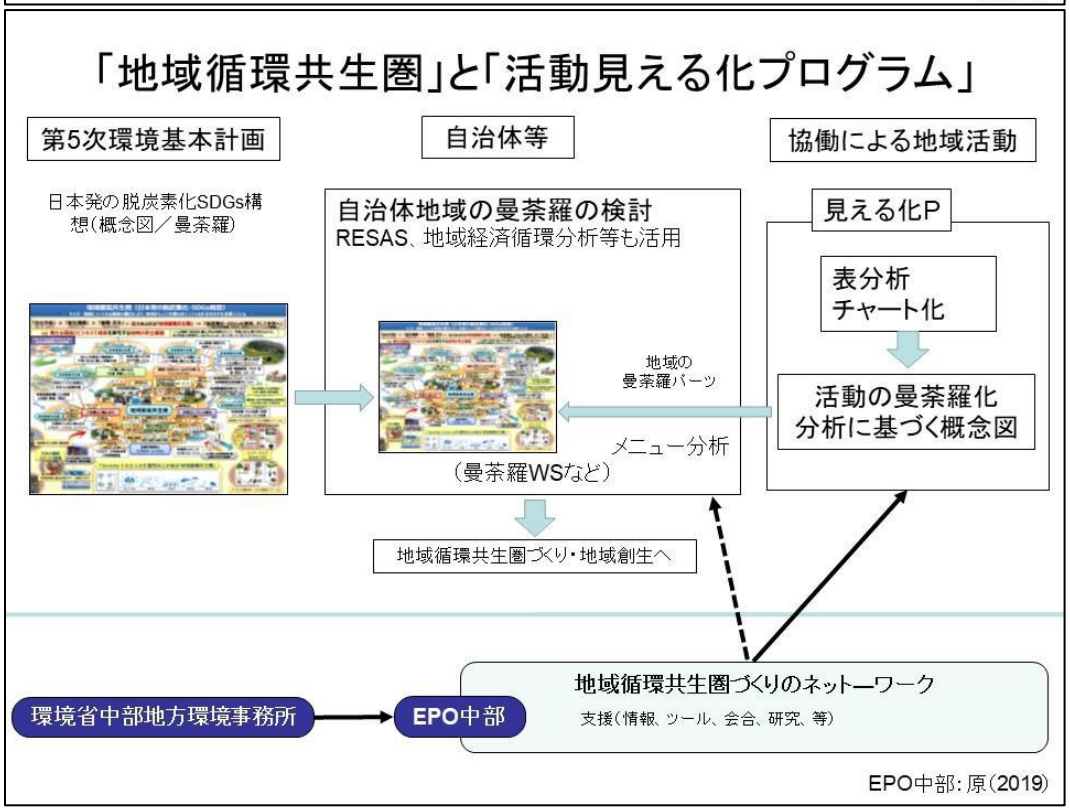
とうざわ印刷工芸株式会社
● 各参加者から仕事の依頼を複数件受ける（北酸、富山市、南砺市他）。
富山市（環境政策課）
● 昨年からのパートナーシップにより、次年度 PEC とやまとの協働事業を検討中。
北陸電力株式会社
● 南砺セミナーに参加後、社内研修を PEC とやまに依頼（次年度実施）。

(4)EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析

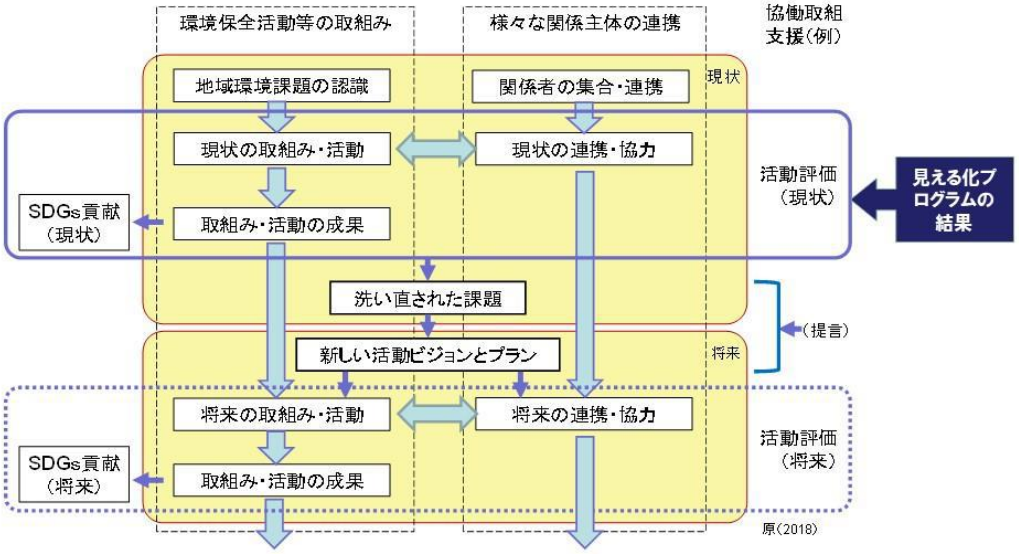
今回の南砺市、黒部市の 2 カ所での協働取組について、EPO 中部で構築中の「活動見える化プログラム」による分析を試みた。以下に本プログラムの概要と南砺市、黒部市の分析結果を示す。

ア　活動見える化プログラムの概要





分析結果の位置づけ



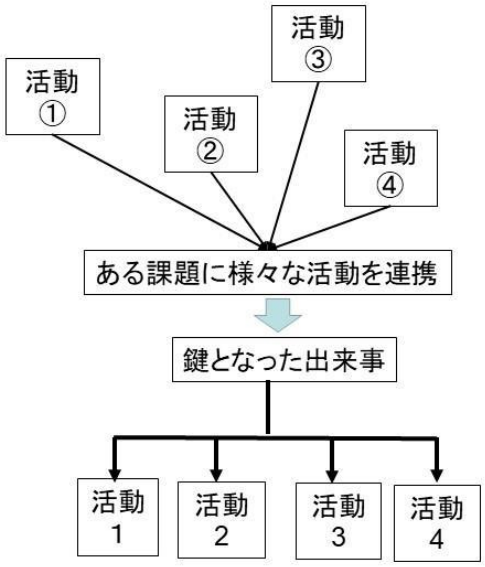
経緯の考え方：鍵となった出来事

鍵となった出来事に至る経緯と、含まれる活動要素を「見える化」することで、活動内容のイメージを理解しやすく示す。

問題意識を具体化した活動、及び関連する様々な課題に対する取組み。

例）
・アブラギリの活用
・間伐材木ろうそく制作に伴う林福連携
・エコビレッジ構想の策定

鍵となった出来事に至る経緯と、内容としての複数の活動を大きな流れとして「ものがたり」を見えやすくする。



EPO中部：原（2019）

イ　分析結果

① 南砺市：南砺市エコビレッジプロジェクト（桜ヶ池モデル地区）

活動の経緯チャート

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進（桜ヶ池モデル地区）

南砺市エコビレッジ推進課

活動№	活動①	活動②
名称	南砺市エコビレッジ構想策定	モデル地区としての「桜ヶ池エコビレッジ宣言」
対象課題	「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考え、思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要	エコビレッジ構想を具体的に推進するためにモデル地区が必要。 モデル地区の関係者の心構えと協力が必要。
活動内容	2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。	エコビレッジ構想の中で、ポテンシャルの高い「桜が池地区」をモデル対象地区として選定、関係者と合意形成を図る。
活動成果	南砺市の意図する「「便利」＋「思いやり」（自然、人、地域、未来）」による50年後の未来へと繋がる選択」の指針を示すとともに「桜が池地区」を重点モデル地区とした。	エコビレッジを実現する際の「心構え」として、今後、孫子の代にわたる取り組みを進める際に、立ち戻れる拠り所として、「桜ヶ池エコビレッジ宣言」を志民会議の総意として定めた。
連携先		
経緯	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要と考え、その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。	

カギとなった出来事：南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築　【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案

南砺市エコビレッジ推進課

活動№	活動1	活動2	活動3
名称	森林利活用による再生可能エネルギー利用推進	「発酵バイオマス農業」の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、繭織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働（桜ヶ池クアガーデン等）による資源循環枠組みの構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期の暖房を行い一年を通した温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を実証。発酵ガスのCO2により作物が活性化され、腐りにくく、食味の良い作物を収穫。	ゲストハウスの運営、囲炉裏体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営 城端絹、福光麻布、福野織、養蚕などの資料展示・情報発信 「かず良塾」、発酵食や韓恩講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバースビレッジなどライフスタイル提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ケ丘クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバースプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題			

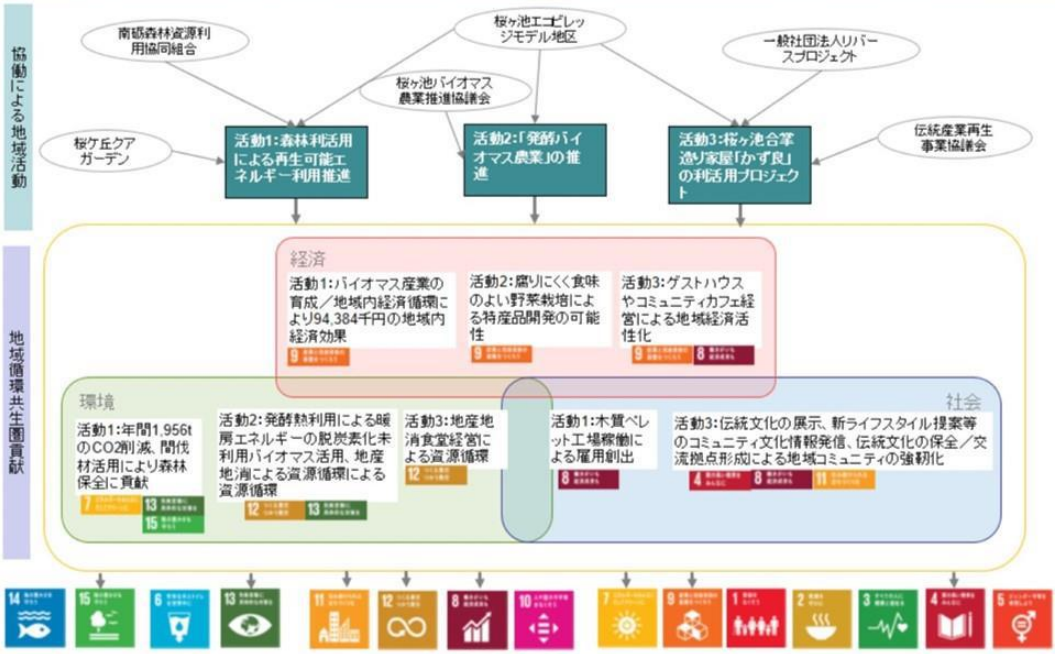
活動の意義（評価）
分析チャート（～2019）

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進（桜ヶ池モデル地区）

EPO中部：原（2019）

南砺市エコビレッジ推進課

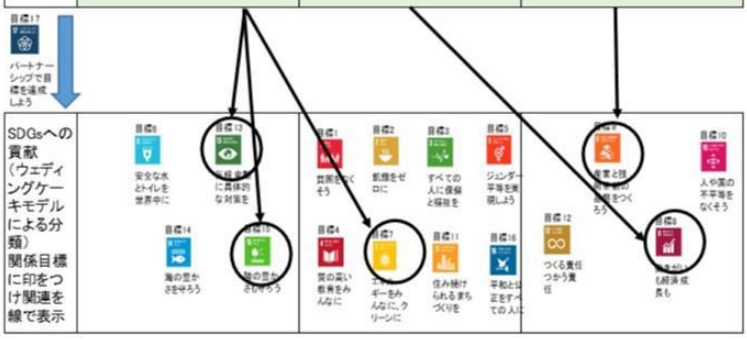
南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案



活動1分析表
森林利活用による再生可能エネルギー利用推進

対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働（桜ヶ池クアガーデン等）による資源循環枠組みの構築
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ケ丘クアガーデン
現状の評価と課題	_

地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 （環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など）	【社会への貢献】 （人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など）	【経済への貢献】 （新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など）
	・年間1,956tのCO2削減 ・間伐材活用により森林保全に貢献	木質ペレット工場稼働による雇用創出	・バイオマス産業の育成 ・地域内経済循環により94,384千円の地域内経済効果



EPO中部: 原(2019)

活動2分析表
「発酵バイオマス農業」の推進

対象課題	木の皮などのバイオマスの発酵活用
活動内容	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期の暖房を行い一年を通した温室栽培を可能とする。
活動成果	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を実証。発酵ガスのCO2ににより作物が活性化され、腐りにくく、食味の良い作物を収穫。
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会
現状の評価と課題	_

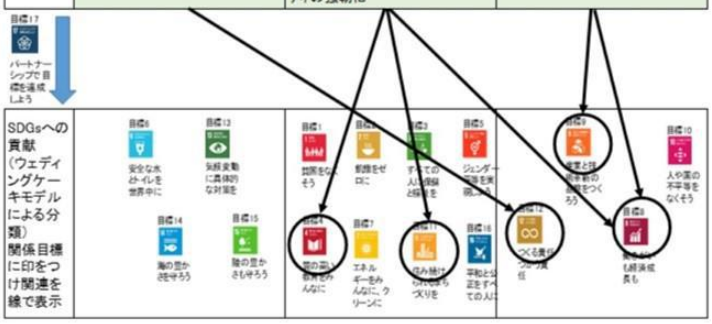
地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 （環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など）	【社会への貢献】 （人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など）	【経済への貢献】 （新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など）
	発酵熱利用による暖房エネルギーの脱炭素化 未利用バイオマス活用、地産地消による資源循環による資源循環		腐りにくく食味のよい野菜栽培による特産品開発の可能性

EPO中部: 原(2019)

活動3分析表
桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト

対象課題	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	ゲストハウスの運営、囲炉裏体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営 城端絹、福光麻布、福野繭、養蚕などの資料展示・情報発信 「かず良塾」、発酵食や報恩講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバースビレッジなどライフスタイル提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバースプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題	-

	【環境への貢献】 （環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など）	【社会への貢献】 （人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など）	【経済への貢献】 （新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など）
地域循環共生圏への貢献	地産地消食堂経営による資源循環	伝統文化の展示、新ライフスタイル提案等のコミュニティ文化情報発信、伝統文化の保全 交流拠点形成による地域コミュニティの強靭化	ゲストハウスやコミュニティカフェ経営による地域経済活性化



EPO中部：原（2019）

② 黒部市：地域内エコシステム@宇奈月

活動の経緯チャート

地域内エコシステム@宇奈月

一般社団法人でんき宇奈月

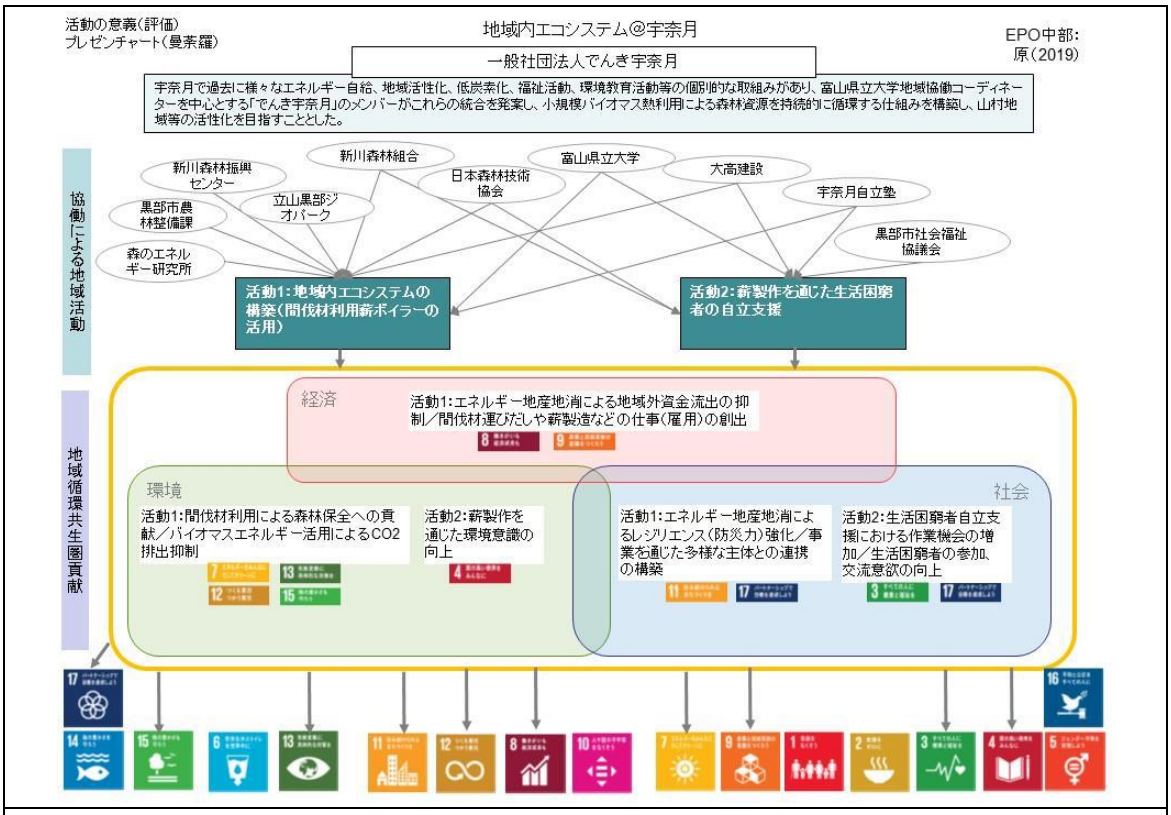
以前の活動	活動①	活動②	活動③	活動④
名称	秘湯に行くにも電気自動車で：電気自動車レンタル	温泉街での低速電気バスの運行	小水力発電の導入	温泉街パークアンドライド
対象課題	秘湯を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	温泉を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	CO2排出の抑制	道路の混雑の緩和／CO2排出の抑制
背景				
活動内容	電気自動車のレンタル事業	温泉街における低速電気バスの導入・運行事業	らせん水車による小水力発電の導入	
活動成果		観光シーズンに電気バスを運行し、温泉街の目玉の一つとなっている		
連携先				
経緯	一般社団法人でんき宇奈月は地域にあるエネルギー資源を活用して地域を元気にしようとている団体として宇奈月温泉を拠点に活動中。			

鍵となった出来事：
宇奈月で過去に様々なエネルギー自給、地域活性化、低炭素化、福祉活動、環境教育活動等の個別的な取組みがあり、富山県立大学地域協働コーディネーターを中心とする「でんき宇奈月」のメンバーがこれらの統合を発案し、小規模バイオマス熱利用による森林資源を持続的に循環する仕組みを構築し、山村地域等の活性化を目指すこととした。

一般社団法人でんき宇奈月

現在の活動	活動1	活動2
名称	地域内エコシステムの構築（間伐材利用薪ボイラーの活用）	薪製作を通じた生活困窮者の自立支援
対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない	・生活困窮者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	地域の方々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材 ・林地残間伐材を森林組案の協力を得て運搬し、生活困窮者の協力を得た作業により玉切り薪割りを行い、乾燥、運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をボイラーにくべる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に生活困窮者が協力いただく作業、牧ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。

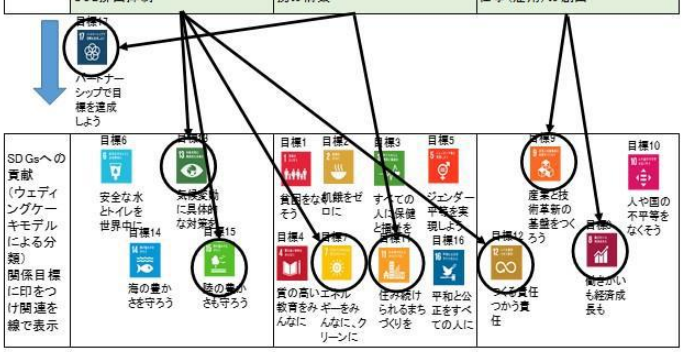
EPO中部：原（2019）



活動1分析表
地域内エコシステムの構築（間伐材利用薪ボイラーの活用）

対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない
活動内容	地域の方々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材・林地残間伐材を森林組案の協力を得て運搬し、障がい者の協力を得た作業により玉切り薪割りを行い、乾燥、運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に障がい者が協力いただく作業、牧ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。
連携先	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク
現状の評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。

地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 （環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など） ・間伐材利用による森林保全への貢献 ・バイオマスエネルギー活用によるCO2排出抑制	【社会への貢献】 （人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など） ・エネルギー地産地消によるレジリエンス（防災力）強化 ・事業を通じた多様な主体との連携の構築	【経済への貢献】 （新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など） ・エネルギー地産地消による地域外資金流出の抑制 ・間伐材運びだしや薪製造などの仕事（雇用）の創出

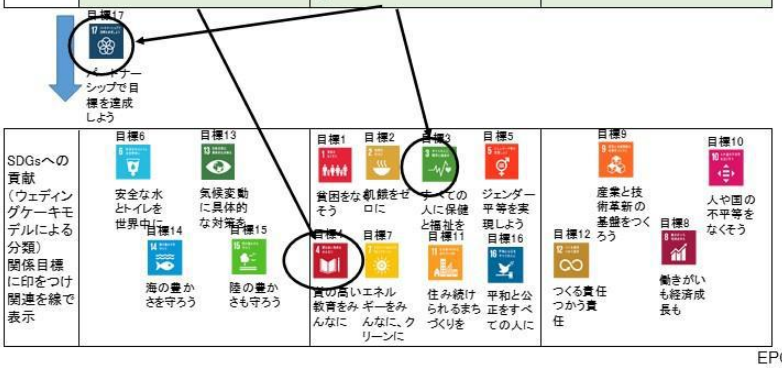


EPO中部：
原（2019）

活動2分析表
薪製作を通じた生活困窮者の自立支援

対象課題	・障がい者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をボイラーにくべる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
現状の評価と課題	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。

地域循環共生圏への貢献	【環境への貢献】 （環境負荷の減少、資源循環への貢献、自然環境保全、脱炭素貢献、など）	【社会への貢献】 （人のつながり、地域教育、文化の向上、人口流出の抑制、QOL増大、など）	【経済への貢献】 （新規産業の育成、資金流出の防止、地域内経済循環、地域内雇用創出など）
	・薪製作を通じた環境意識の向上	・生活困窮者自立支援における作業機会の増加 ・生活困窮者の参加、交流意欲の向上	



EPO中部：
原（2019）

(5)参考資料

【募集告知チラシ】

【報道関係】

（2019 年 8 月 26 日　北日本新聞 Web ニュース）

SDGs達成へどう行動

環境省・市民団体がセミナー

グループ討議で意見交換

南砺　環境省中部環境パートナーシップオフィスと環境市民プラットフォームとやまは26日、南砺市クリエイタープラザ桜クリエで、国連が掲げる「持続可能な開発目標」（SDGs）のセミナーを開いた。参加者はSDGsの意義や地域での実践方法について理解を深めた。

地球環境戦略研究機関（東京）の主任研究員・リサーチマネジャーの渡部厚志さんが「地域循環共生圏」をテーマに講演した。SDGsは途上国への支援だけで達成できる目標ではなく、日本を含む全世界の政府や市民が連携して取り組まなければならないとした。

南砺市の担当者が、循環型社会構築を目指す同市のエコビレッジ構想について事例紹介した。

参加者はグループ討議を行い、SDGs達成へ各自が担う役割や行動について意見を交わした。セミナーに先立ち田中幹夫市長があいさつした。

次回セミナーは11月28日に黒部市で開く。

セミナーで講演する渡部さん

（2019 年 8 月 27 日　北日本新聞）

「間伐材での暖房 実践」

宇奈月でセミナー　地元取り組み報告

ほくりく SDGs 最前線

地域でできるSDGs（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）の実践セミナーが二十八日、黒部市宇奈月温泉の立山黒部ジオパーク交流施設「わくわく広場うなジオ」であった。

地方からの主体的なSDGs普及促進のため、環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）と一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）が主催、NPO法人明日育が共催した。近隣の自治体、企業、団体、県立大学生ら約四十人が参加した。

セミナーではダウンジャケットなどに使われる羽毛のリサイクル活動「グリーンダウンプロジェクト」を進める一般社団法人「Green Down Project」の長井一浩理事長が活動内容を基調講演。間伐材などを使ったまきボイラーで会場のうなジオの暖房の一部をまかなっているなど、地元でのSDGsの取り組みの実践報告があった。

異業種間の新たな連携でSDGsにつながる事業をつくり出すため、参加者一人一人が自分の長所、短所を明らかにして、何ができるか、どうしたらよいかを考えるグループワークも実施した。（松本芳孝）

グループワークでフラフープの輪を指で支え、下におろそうとする参加者。なぜか、上に持ち上がってしまい、連携の難しさを実感した＝黒部市宇奈月温泉で

（2019 年 11 月 29 日　北陸中日新聞）

9 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア　定期打合せと日々の業務報告の提出

（ア）定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月 1 回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4 月 22 日	１．業務実施計画等について ・業務計画書：業務内容、業務スケジュール、達成目標の確認 ・開催イベント・会議等の展開案 ２．同時解決事業 4/24 打合せについて ・事業計画（GEOC フォーマットで里山ウェルネスが作成）の確認 ・業務実施状況確認用フォーマットでの業務スケジュールの確認 ・打合せでの確認事項：第 1 回協議会に向けた確認事項 ３．EPO/ESD 運営会議について ・委員メンバーの確認→新規メンバー（加藤先生）の委嘱手続き ・運営会議要綱の修正 ・次第案と会議資料 ・スケジュール（座長打合せの設定等） ４．その他
第2回	5 月 9 日	１．業務実施計画等について ・業務スケジュール（前回修正）の確認 ・開催イベントの展開案　→ESD ダイアログ（福井）等に関する報告 ２．EPO/ESD 運営会議について ・次第案と会議資料 ・スケジュール（座長打合せの設定等） ３．その他
第3回	6 月 6 日	１．EPO/ESD 運営会議について ２．ダイアログ・フォーラム等の企画案について （１）6/13ESD ダイアログ福井の申込状況の報告と「ダイアログ」の進行案の確認 （２）8/7 協働フォーラム金沢の調整状況等の報告 （３）11/23 協働フォーラム飯山の企画案の確認 （４）ESD ネットワーク地域フォーラム（ユース参加）の企画案・日程についての相談 （５）そのほか催事の日程についての相談・確認 ３．地域循環共生圏づくり研究会の開催について （１）全３回の開催日程についての相談 （２）研究会の内容（要綱・要件、研修内容、講師等）についての協議 ４．その他 （１）インターフェース会議について （２）次回打合せ （３）四半期報告書の提出について （４）その他 ・業務項目「ネットワーク・ノウハウの整理」の報告書データの受け渡し
－	6 月 12 日	・「地域循環共生圏」に関連する EPO 中部の業務等を紹介・説明
第4回	7 月 11 日	１．EPO/ESD 運営会議の内容確認 ２．ダイアログ・フォーラム等について （１）8/7 協働フォーラム金沢 （２）8/8ESD ダイアログ金沢 （３）10/12ESD ネットワークフォーラム　→開催日変更 11/4（月・祝） （４）11/23 協働フォーラム飯山の企画案の確認 （５）そのほか催事の日程についての相談・確認 ３．地域循環共生圏づくり研究会の開催について ４．四半期報告書について ５．その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第５回	8 月 8 日	１．8/23 地域循環共生圏づくり研究会（第 1 回）の資料について ２．ダイアログ・フォーラム等について （１）8/29SDGs 検証ワークショップ （２）11/4ESD ネットワークフォーラム （３）11/16ESD ダイアログ飯田 （４）11/23 協働フォーラム飯山 （５）そのほか催事について ３．その他
第６回	9 月 3 日	１．ダイアログ・フォーラム等について （１）10/15 基金説明会 （２）11/4ESD ネットワークフォーラム （３）11/16ESD ダイアログ飯田（8/28 飯田市との協議結果について） （４）11/23 協働フォーラム飯山 （５）12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃） （６）そのほか催事について ２．地域循環共生圏づくり研究会／協働コーディネーターの展開について ３．同時解決事業について ４．地域 ESD 拠点へのヒアリング結果について ５．その他
第７回	10 月 9 日	１．業務全体の進捗状況について ２．ダイアログ・フォーラム等について （１）地域循環共生圏ワーキング （２）その他イベントに関する報告・確認等 ３．地域循環共生圏づくり研究会の今後の展開について ４．活動見える化プログラムについて ５．同時解決事業について ６．地域循環共生圏関連ヒアリングの進め方について ７．第 2 四半期報告書について ８．その他
第８回	11 月 20 日	１．セミナー関係の報告・確認について （１）11/16 ダイアログ飯田の開催報告 （２）11/22-23 地域循環共生圏づくり研究会（第 2 回）と協働フォーラムの進め方 （３）12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃） （４）1/31 地域循環共生圏ワーキングのチラシ原稿案（タイトル検討） ２．活動見える化プログラムのケーススタディ実施状況について ３．地域循環共生圏関連ヒアリングについて （１）ＰＦ事業の意見交換会の状況報告 （２）その他ヒアリング事例の候補 ４．同時解決事業について （１）11/1 連絡会の協議結果の確認 （２）11/19 事業形成会議の報告） ５．12/20-21 全国 ESD フォーラム出展ポスター原稿案について ６．インターフェース会議の試行 ７．その他
第９回	12 月 13 日	１．同時解決事業について ２．セミナー関係の報告・確認について （１）12/14SDGs 検証ワークショップ（西濃） （２）1/31 地域循環共生圏ワーキング　※協働コーディネーターの参加 （３）2/7 第 3 回地域循環共生圏づくり研究会 ３．活動見える化プログラムのケーススタディ実施状況について ４．作成した SDGs チェックリストの公開について ５．地域 ESD 拠点登録団体へのヒアリングについて ６．地域循環共生圏関連ヒアリングについて （１）ＰＦ事業のヒアリング結果報告 （２）その他ヒアリング事例の実施予定 ７．ウェブサイトのリニューアル方法について ８．「出展可能イベント」リスト公開に向けた作業と 　過去報告書（登壇者）タグ付け作業について ９．1/30 外部評価会議、EPO・ESD 運営会議について 10．その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第10回	1月21日	１．来年度の再委託について ２．EPO・ESD運営会議の資料、座長打合せ（1/30千頭先生、2/14伊藤先生）について ３．イベント等について （１）1/31地域循環共生圏セミナー　：参加者、ワーキング内容など （２）2/7第3回地域循環共生圏づくり研究会　：出席者、千頭先生の参加、議題等 ４．協働パンフレットの原稿 ５．地域循環共生圏の事例ヒアリングについて ６．1/30外部評価会議について ７．第3四半期報告書の納品 ８．その他
第11回	2月26日	１．仕様書補足事項について ２．次年度「追加業務」、協働コーディネーターからの連携（イベント）提案等の回答について ３．EPO・ESD運営会議について ４．地域循環共生圏の事例ヒアリング結果について ５．今後の予定について ６．その他
第12回	3月12日	１．年間報告書について ２．EPO中部運営会議の委員の意見（記入票への回答）について

（イ）日々の業務報告提出

- 日々の業務について、毎月、所定の書式による報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

イ　中部地方環境事務所が開催する会議への出席、企画作成支援、必要な資料の作成等

- 中部地方環境事務所が開催する会議（本業務の外部評価委員会を含む）について、事務所担当官の要望に応じて、出席、企画作成支援、必要な資料の作成等を行った。

実施日	実施内容
7/24	第16回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
10/3	第17回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1/9	第18回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
1/30	外部評価委員会に出席（及び2019年度業務の説明用資料、自己評価シート、前年度課題対応状況資料等の作成）
3/12	第19回地球温暖化に関する中部カンファレンス 【開催中止】※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

ウ　記者発表対応の実施

（ア）リリース資料の作成・投げ込み

- 11月4日開催・ESDネットワーク地域フォーラムについては、記者発表資料の投げ込みを行うことになり、リリース資料を作成（作成はCSOラーニング制度※で受け入れたインターン学生でフォーラムの司会も担当）し、10月2日に投げ込みを行った。

※　CSOラーニング制度：損保ジャパン日本興亜環境財団が主宰する、大学生・大学院生が環境問題に取り組むCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含する概念）で8カ月間のインターンシップを経験する制度で、2019年度はEPO中部／中部地方ESD活動支援センターがCSOとなり、学生1名を受け入れている。

【作成したリリース資料】

中部地方環境事務所

ユースと社会人のための SDGs／ESD 推進ネットワーク地域フォーラム開催
（お知らせ）

令和元年 10 月 1 日（火） 環境省中部地方環境事務所 環境対策課　課長：萩ノ脇 裕司 主査：西田 清紀 （電　話）052-955-2134 （ＦＡＸ）052-951-8889	令和元年 10 月 1 日（火） 環境省中部地方 ESD 活動支援センター （環境省 EPO 中部内） 責任者：原　理史 担当：富田 夏子 武田 莉奈 （電　話）052-218-9073 （ＦＡＸ）052-218-8606

環境省中部地方 ESD 活動支援センターでは、ユースと社会人のための SDGs／ESD 推進ネットワーク地域フォーラム「世代間交流による SDGs 貢献のための人づくり」を開催します。今年 7 月、SDGs 未来都市に名古屋市、愛知県等が選定され SDGs への注目が高まっています。
本フォーラムでは、企業と高校生が SDGs／ESD の活動の発表を行うほか、SDGs の活動が連携し、広く発信されるために何をすべきかについて、登壇する企業人、高校生、参加者が世代・立場を超えて一緒に考えるワークショップを実施します。

1．開催目的

SDGs のための「人づくり」（ESD；Education for Sustainable Development／持続可能な開発のための教育）には、地球を俯瞰した持続可能性を重視した意識改革が不可欠です。
特に現在 SDGs を推進しようとする企業にとって、経営者はもちろん従業員の意識改革は簡単ではありません。その中で思考力の柔軟な若者はすでに、無意識のうちに SDGs に貢献する活動をしている事例もあります。このフォーラムでは SDGs に取り組む企業や ESD 活動を行う高校生の交流を通じて、ユースを受け入れる社会のあり方を ESD の視点から問いかけます。

2．開催のお知らせ

環境省中部地方 ESD 活動支援センター主催により、フォーラムを以下の日程で開催いたします。

（1）日時：2019 年 11 月 4 日（月・祝）13:30～16:30（会場 13：00 受付開始）

（2）場所：ウインクあいち 会議室 1103　https://www.winc-aichi.jp/access/
（〒450-0002　愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）

（3）プログラム（予定）：
✧ 話題提供
・世代間協力で実現する SDGs
伊藤　恭彦（名古屋市立大学副学長）
✧ 企業による SDGs の取組紹介
・2030 年も元気な組織であるために～小さな会社が取り組む SDGs
鳥原久資氏（株式会社マルワ代表取締役社長）
・カンガルー出勤で変わった社内環境
寺田有希実氏（三承工業株式会社ダイバーシティ推進室室長
女性活躍・働き方改革担当）
✧ 高校生による活動発表
・人力発電機の製作～若いエネルギーを電気エネルギーに～
愛知県立刈谷工業高等学校 自動車部
・ボランティアから始まった環境保護活動
名古屋経済大学高蔵高等学校 理科部
・命をつなぐ！弥富の手乗り文鳥よ再び！
愛知県立佐屋高等学校 文鳥プロジェクトチーム
・未利用資源を活用した 6 次産業化への取組
愛知県立渥美農業高等学校 農業機械部
✧ グループワーク
・高校生による ESD 活動の社会への発信連携を考える
－高校生、企業、参加者混合グループによるワークショップ－

（4）参加者：
どなたでもご参加できます。以下のウェブサイトから申し込みください。
https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/chubuesdnetworkforum2019

※ 定員を超過した場合は、先着順とさせていただき、落選者のみに連絡いたします。

（5）取材：
・ マスコミ関係者の方は、取材登録をお願いします。①お名前、②申込人数、③連絡先（電話番号、メール、所属先の組織名・部署名）を事前にメール、電話等で開催日前日まで送付してください。
※ メールの場合は件名欄に「1104ESD フォーラム」と記載してください。

（6）申込先、問合せ先：
環境省中部地方 ESD 活動支援センター
（環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）内）
担当　　富田（とみだ）、武田（たけだ）
TEL: 052-218-9073
FAX: 052-218-8606
Email: office@chubuesdcenter.jp

（イ）ローカルメディアへのチラシ送付

- 11 月 23 日開催・協働フォーラム（飯山市で開催）の広報展開に際し、開催案内チラシを下記の地元メディア 4 社に送付した。
- その結果、開催日当日に北信濃新聞の記者が会場を訪れ、取材を行った。（しかし、記事にはならなかった。）

No.	名称	郵便番号	住所
1	iネット飯山	389-2253	長野県飯山市大字飯山1095-1
2	北信濃新聞社	389-2254	長野県飯山市南町24-1
3	信濃毎日新聞　飯山支局	389-2253	長野県飯山市飯山1114-10
4	北信ローカル	383-0025	長野県中野市三好町1-3-6

エ　プラットフォーム構築事業の採択団体の支援等

（ア）採択団体へのヒアリング

① ヒアリング概要

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の採択団体（5 団体）に対し、ヒアリングを次の通り実施した。

採択団体	実施日	ヒアリング方法
七尾街づくりセンター株式会社（石川県七尾市）	11 月 12 日	視察中、意見交換会での意見を聴取
国立大学法人富山大学（富山県富山市）	11 月 13 日	視察中、意見交換会での意見を聴取
スマート・テロワール協会（長野県北信エリア／小布施町）	11 月 24 日	意見交換会の実施後に聴取
おわせＳＥＡモデル協議会（三重県尾鷲市）	11 月 28 日	意見交換会の実施後に聴取
長野県根羽村（矢作川流域／根羽村）	12 月 3 日	意見交換会の後日に電話で聴取

② ヒアリング結果のとりまとめ

【団体の成果】

七尾街づくりセンター株式会社	・ 七尾街づくりセンターは多彩なイベントを既に企画、開催等しているほか、鉈打地区の農事組合法人なたうち、まちづくり共助団体のＮプランニングなどはしっかりとしたポリシーで取組を展開してきている。 ・ 11/22 には、市内中島地区の住民が地域課題について考える「中島 100 人会議」が開催され、地元紙にも掲載された。 ・ 本事業を、地域活性化に取り組む意義を地域住民に浸透させるきっかけとしても活用していきたいと考えている。
国立大学法人富山大学	・ 協議会で 2 回のワークショップを開催しており、にぎやかにディスカッションを進める素地がつくられつつある。 ・ 11/28-29 の 2 日間､かつての賑わいを取り戻したいと考えている富山市のアーケード街の一角で、地域の課題・未来を公開の場で考える「サテライトキャンパス」を開設し、当地域にＩターンした単館映画主催者を講師にした講座等を実施する。 ・ ステークホルダーは積極的に参加しようとする姿勢、意識がみられ、関係者、市（行政）などから高く評価され、期待もされている。
スマート・テロワール協会	・ 地域の中で、個別に展開されてきた活動や取組が多々あったが、それらにつながりはなかった。本事業に採択されたことをきっかけに、環境、地域資源などのキーワードでつながりを持たせることができ、さらにそれらを具体化する取組に着手するきっかけにもなったといえる。地域の中の多様で個別な事業の流れを本事業のキーワードのもとで具体化できたと考えている。
おわせＳＥＡモデル協議会	・ 当初（プラットフォーム構築前）までは、中部電力、尾鷲市の 2 者で協定を結び、地域活性化を目指した取組を展開していた。しかし、今回のプラットフォーム事業をきっかけに、中部電力、市に加えて商工会議所の 3 者が協定を結ぶことになった。3 者それぞれの強みを活かしつつ、中部電力や商工会議所等の民間のネットワークを活用して、それぞれの持ち場で取組を進めつつ、連携・協力ができるようになった。
長野県根羽村	・ 地域課題の抽出、整理を行うことができた。 ・ 先日の意見交換会などの様子、結果を見て、思った以上の成果を得られるのではと期待をしている。 ・ 本事業をきっかけに、矢作川下流域の安城市へも改めて事業説明をしたことによって、源流である根羽村の取組そのものが安城市における環境保全という目標にもつながっていると市側が捉えていること、村の取組にも全面的に協力いただけることなどを改めて確認することができた。

【『地域プラットフォーム』をつくるにあたっての阻害要因】

七尾街づくりセンター株式会社	・ 地域の人に諦め感がある。 ・ 七尾街づくりセンターによる企画力・実行力について、「街づくりセンターは多彩な企画を展開している」と評価されているが、本事業を「街づくりセンターが取り組むもの」として認識するステークホルダーがいた。その一方で、本事業をきっかけに、様々なステークホルダーが連携・協力していく必要があることに気付いたと述べるステークホルダーもいた。
国立大学法人富山大学	・ ステークホルダーが積極的に参画・発言等する一方で、ワークショップなどの議論の場では、我の強さが表出する発言も少なくないため、プラットフォームとしてのまとまりに欠け、ワークショップを運営する事務局は不安を抱く場面もある。
スマート・テロワール協会	・ 共有するビジョンの構築が難しい。これまではプロジェクトの中での即応的なビジョンを描くのみで良く、それぞれが自由に描いていたが、プラットフォームとしてステークホルダーそれぞれのビジョンをどのようにして包括していくことができるか、明確にはなっていない。色々と工夫をしていく必要があると考えている。 ・ 既に地域の中で色々なプロデュースが展開されているが、既存のそれらの取組は、スケール感等もまちまちであるため、プラットフォームを構築するために、既存の取組を活かしながら何をどのようにしていけば良いかがまだ見えない。
おわせＳＥＡモデル協議会	・ 事業がスタートしたばかりで、各ステークホルダーにも順次接触をしている段階であり、ステークホルダーとして確定している主体がまだない状況にある。そうした接触中のステークホルダーと、どこまで情報共有などを行っていくべきかがわからない。

	・ 既に協定を結んでいる3者（中部電力、商工会議所、市）についても、それぞれに考え方があり、おわせSEAモデル事業に対する認識の差などもあり、その差をどのようにして埋めていくべきか、想いを一つにできるかわからない。しかし、今回の意見交換会のように外部の人が加わることも一つのきっかけになるのではと感じた。
長野県根羽村	・ これまで、地域全体で地域課題に取り組むための体制、特に人的な体制を整備することが全くなかったため、それが大きな課題になっている。本事業に採択されたこの機を活かし、体制を整えていきたい。 ・ これからステークホルダーに関わる様々な事項を把握して、本事業の実行に向け、進め方の整理を行っていくところであり、その進め方の整理をどのように行っていけるかがまだ見えず、課題といえる。

【『地域プラットフォーム』をつくるにあたっての必要な支援】

七尾街づくりセンター株式会社	・ ステークホルダーとして参画する人たちがどのような人たちであるべきかをまず考えた上で、本事業やプラットフォーム構築の意義、地域の将来像について共有し、ディスカッションを行う場を改めて設定する必要がある。
国立大学法人富山大学	・ 様々なアイデアや資源、主体が既に地域に存在しているが、それらをつなげるコーディネーターが不在となっている。
スマート・テロワール協会	・ ステークホルダーそれぞれが「自分でやる」という意識を持っているが、その意識が強く、自分たちのやりたいことのみに偏りがちとなる。そのため「外部者の視点」がほしい。今回の意見交換会でも、外部の方の意見が独り善がりな方向性を正す役目も果たしてくれた。自分達の「小布施ファースト」の展開を大切にしているが、このファーストは小布施が良ければよいという意味ではなく、「ファースト・ペンギン」のファーストである。このファースト精神を大切にしていくためにも、「外部者の目」を入れるための支援を期待したい。
おわせSEAモデル協議会	・ 「潤滑油」が必要である。決して評論家にはならずに、3者やステークホルダーの利害がぶつかっても、それを調整してくれるコーディネーターの必要性を感じている。
長野県根羽村	・ 先日の意見交換会のような機会を提供いただけると助かる。また、外部の視点も重要と考えている。 ・ 本事業の採択時・スタート時にはまだ事業のあり方・進め方を抽象的にしか捉えていなかったが、おおよそ理解ができてきた現在、改めて事業に採択されて良かったと感じている。しかし、まだ本事業について勉強不足の面もあり、その点についても引き続き、支援いただけるとありがたい。

（イ）情報収集（その他関連組織等の情報収集、ヒアリング）

① 情報収集の方法

- 地域循環共生圏構築に発展可能性を有する組織についての情報収集、ヒアリングを下記の通り、実施した。

対象団体	実施日	ヒアリング方法
南砺市（富山県南砺市）	8月26日	担当者に面談して聴取
NPO法人泉京・垂井（岐阜県垂井町／揖斐川流域）	1月21日	
株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ（富山県上市町）	2月7日	

② ヒアリング結果のとりまとめ

No.1	
対象	久保　剛志　氏 （南砺市市民協働部エコビレッジ推進課長）
実施日	2019 年 8 月 26 日

【ヒアリング結果】

①取組の概要	(1)取組・活動・事業の概要	・　木質バイオマスによるエネルギー自給率の向上（2 千 t の能力に対し需要は 1600t、400t 移出の可能性あり）
	(2)取組事例の地域	・　富山県南砺市（桜ヶ池モデル地区）
	(3)主な関係主体／ステークホルダー　等	・　（南砺市役所以外）桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、伝統産業再生事業協議会、一般社団法人リバースプロジェクト、桜ケ丘クアガーデン。
②地域循環共生圏づくり事例としての「概要」（循環要素）	(1)地域内に循環するもの・こと	・　森林管理による建築材循環、林業振興と災害抑制 ・　発酵熱農業による資源循環（安全安心の農産物：ブランド化）の拡大（10 軒から） ・　次世代の郷土の誇り教育による定住促進（人材循環）
	(2)対象となる主な地域資源	・　もともとある自然資本文化遺産に対するエコビレッジ構想、SDGs 未来都市が成功要因
	(3)対象となる主な地域課題	・　木質：公共施設の需要が主、ペレットストーブの民間普及が課題 ・　木材：人件費の問題、事業者が少ない。補助金の投入には限界 ・　農業：手間と経費が増加。JA のローコストに対抗するためには、付加価値化の PR が必要、安心健康の増進による健康寿命を延ばすことに使われるといい。 ・　人材：家庭教育の価値転換が必要（郷土の誇り、戻ってくる価値観の醸成）
	(4)地域の自立促進のための取組	・　これまでの取組を踏まえ 2019 年「SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030 年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指している ①心豊かな「結」と「土徳」のまち創造 ②多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造 ③南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造 ④文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
	(5)経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	・　地域の課題解決と魅力の向上のための資金支援の不足の課題に対応するためコミュニティファンド・南砺幸せ未来基金を構築。 ・　企業や市民の寄付金・遺贈金、クラウドファンディング、休眠預金等を活用して資金を調達し地域課題解決などの事業支援に充てる。
③ステークホルダーとの関係づくりの状況		・　木材：林業事業者、木彫関係者、バット製作関係者、等による資源利用協同組合 ・　農業：桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、(株)つなぐ南砺 ・　人材：今のところ弱い。親世代のネットワークが必要か。未来支援センターなどを活用か。
④プラットフォーム構築の可能性		
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）		・　地域経済循環分析（10 年前のもの）の更新と精密化 ・　土徳文化醸成のための普及啓発支援
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）		・　情報発信のために「実践地域」への登録をしたい。 ・　啓発事業に使いたい（土徳文化）。調査ものには助成規模が足りない。

No.2	
対象	河合良太氏 （NPO 泉京・垂井理事、NPO 地域の未来・志援センター地域コーディネーター）
実施日	2020 年 1 月 21 日

【ヒアリング結果】

①取組の概要	(1)取組・活動・事業の概要	・ 揖斐川流域における流域フェアトレードの仕組みづくりに取り組んでいる。 ・ NPO 法人泉京・垂井は、流域における循環型社会の構築、「穏豊（おんぽう）」社会の実現を目指しており、地域が広域的につながりを持ちながら豊かになることを呼びかけている。 ・ 具体的には住民主体による持続可能な社会づくりとして、フェアトレードの促進、発信、地域資源を活かした小さな生業づくり、ESD、SDGs 活用の行政・企業の活動支援などを展開している。
	(2)取組事例の地域	・ 揖斐川流域が対象地域となっている。 ・ 現時点での取組は岐阜県垂井町での展開が中心となっている。
	(3)主な関係主体／ステークホルダー 等	・ フェアトレードタウン推進委員会がある。 ・ 構成員は、商工会、垂井町の担当課、飲食店、地域住民（個人）などとなっている。 ・ NPO 法人泉京・垂井は事務局を担っている。 ・ 今後、できれば商工会が中心となった展開にできればと考えている。 ・ その他委員会には所属していないが、学校（高校）、社協、和菓子屋さんなど商店などとの連携もある。
②地域循環共生圏づくり事例としての「概要」（循環要素）	(1)地域内に循環するもの・こと	・ 地域で何を循環させるかの打ち出しは、検討課題となっている。
	(2)対象となる主な地域資源	・ 地域資源は多彩にある。
	(3)対象となる主な地域課題	・ 地域の解決したいこととして、垂井町には工場が立地しており、働く場があるため住民の意識に危機感がない。 ・ また、名古屋のベッドタウンになっているため、都市部に依存した地域ともいえる。
	(4)地域の自立促進のための取組	・ 地域の自立をどのように実現していくかも課題となっている。
	(5)経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	・ 地域には地銀が 2 行ある。うち 1 行が設立したシンクタンクの研究員とつながりはあるが、事業への協力連携などは展開されていない。 ・ 企業との協働を目的に、NPO が地域の SDGs コンサルティングとしての展開ができないかと検討している。
	(6)その他の特徴など	・ 「地域ガバナンス調査」として、移住者の多い旧春日村など一部エリアを対象に、移住者を寄せ付ける要因について調査する取組を展開している。2019 年度にはそのプレ調査を実施した。 ・ 過去に起業塾を実施しており、その参加者を対象に融資の獲得方法や課題などを共有するコミュニティづくりも展開している。 ・ 関係イベント出展者（主に起業家）が集まって情報共有等のできる会合の設置にも取り組みはじめたところである。
③ステークホルダーとの関係づくりの状況		・ 民間は志が同じであるため集まりやすいが、行政とのつながりが弱いといえる。
④プラットフォーム構築の可能性		
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）		・ 流通の仕組みづくりに取り組むうえで、専門家などを呼んで勉強会を実施できればと考えている。その際、専門家の招聘、地域への参加呼びかけの際に環境省や EPO との共催になると、信頼度が向上し、説明しやすくなる。 ・ 地域の人間は地域にのみ目を向けがちであるが、広域的な視点からの情報提供を環境省、EPO から得られることも期待したい。

⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）	・ 次年度も応募したいと考えている。（※2019 年度ＰＦ事業にも応募したが採択はされなかった。） ・ 応募にあたっての課題としては、事業のシンボル的な事象がないこと、広範囲にわたる取組となっているため、どのような取組であるかについての整理がしきれていない点があげられる。

No.3	
対象	**茶木勝氏** **（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役）**
実施日	2020 年 2 月 7 日

【ヒアリング結果】

①取組の概要	(1) 取組・活動・事業の概要	・ 富山県上市町で農作物の生産者とその加工品の製造者をつなぐ架け橋となり、地域資源の循環を目指す「上市アグリパーク構想」。
	(2) 取組事例の地域	・ 富山県上市町エリア（拠点は町内の立山山麓・中山間地域）
	(3) 主な関係主体／ステークホルダー等	・ ティー・ツリー・コミュニケーションズ以外の主な関係者は、農業者（一次産業経営者）、農産品の加工業者・製造業者、町役場、商工会、観光協会、森林組合、県薬用植物指導センターなどがあげられる。
②地域循環共生圏づくり事例としての「概要」（循環要素）	(1) 地域内に循環するもの・こと	・ 畜産農家が飼育する牛（A5 ランクの牛肉）は町の中で消費されるため、地産地消につながっているほか、牛糞は農家の土づくりに役立てられている。牛の餌にはその農家が生産する藁が用いられている。同様に養鶏業も農家との間で資源循環が維持されている。 ・ そのほか、森林組合が行った森での下草刈りの植物・木材を活用してアロマオイルが生産されているほか、農家の土づくりに活用されている。 ・ 町内には県の薬用植物指導センターがあり、その知識を活かした特産品づくりも可能である。
	(2) 対象となる主な地域資源	・ 活用される主な地域資源には、農産物（里芋、養鶏、畜産、森林）のほか、獣害対策で捕獲されるイノシシ肉、未利用木材などがあげられる。 ・ 歴史文化資源も多彩であり、それら資源と農業とを組み合わせたエコツーリズムの展開も可能と考えている。
	(3) 対象となる主な地域課題	・ 解決すべき課題として、まず過疎化、人口減少があげられる。また農産品加工業者等の事業者が現時点では町内に確保できているが、後継者不足のため事業継承が難しくなっている。 ・ そのほか、空家問題、休耕地の増加なども地域課題としてあげられる。
	(4) 地域の自立促進のための取組	・ 農業と加工業者の連携展開、エコツーリズムなどの取組があげられる。 ・ エコツーリズムでは地域のガイド養成など人材育成が必要とされている。古民家を活用して地域の農産品を食べてもらう店づくりができないかと検討されている。 ・ 広報活動や景観づくりなどの取組と共に、立山山麓に立地する特性を活かした地域の付加価値づくりにも今後取り組んでいく必要があると考えている。
	(5) 経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）	・ 農産品等の販売で、内部：地産地消、外部：観光・ネット販売等の両方面への展開が必要と考えている。 ・ 金融機関については、既に地銀等との協力・連携の取組（生産したお茶商品の窓口景品としての取り扱いなど）があり、事業への巻き込みのためのハードルは低いと考えている。
	(6) その他の特徴など	・ アグリパーク構想というよりも、薬膳文化、健康のまちづくりをテーマとした方が全町的な取組になりえやすいと考えている。
③ステークホルダーとの関係づくりの状況		・ 既に農産品を活用した商品開発など、様々な事業、活動が展開されており、ステークホルダーとの連携・協力関係は構築されている。
④プラットフォーム構築の可能性		・ プラットフォーム構築も問題ないと考えているが、実際に改めて構築するとなった際には、必要性を説明することが難しい。 ・ 特に SDGs について認識してもらい、なぜ SDGs に取り組む必要があるかについて学んでもらうステップが必要となる。

⑤環境省･EPO 中部に対する支援ニーズ（連携イベント、勉強会等に対するニーズ）	・ SDGs についての啓発（ワークショップ実施等）では、EPO のツールやプログラムを活用したい。 ・ 他の関連分野の事例や先進的な事例などを紹介してほしい。
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性（応募の障壁となるもの）	・ 応募したいと考えており、取組内容の整理等においては EPO に相談したい。

（ウ）関連する会議への出席

- 環境省が主催する会議等に出席し、プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング結果の発表、課題の抽出などを行った。

開催日	名称	次第項目
7 月 30 日･31 日	地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業キックオフ	・プラットフォーム事業採択 35 団体の地域課題・現状、今後の取組等の発表
12 月 19 日	地域循環共生圏 PF 事業支援取りまとめ会合	1. 地域循環共生圏プラットフォームの現状共有 -有識者会合やプラットフォームあり方検討 WG の内容について 2. 情報交換会等におけるヒアリング結果の共有 3. 意見交換（下記の論点を想定） -35 団体の進捗状況について傾向分析（促進要因や課題等） -地域循環共生圏づくりのプロセスに応じた EPO の支援可能性 -地域循環共生圏プラットフォーム事業へのフィードバック
3 月 9 日･10 日	【ウェブ会議】 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業情報交換会	（※新型コロナ感染拡大防止のため会合形式からウェブ会議形式に変更された。） ・各活動団体からの活動報告の発表、情報交換等

(2) 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等は次の通りであり、いずれについても出席した。

【関連会議】

開催日	会議	参加状況	備考
4 月 26 日	EPO 統括会議	出席	
5 月 15 日	EPO 統括会議	出席	
5 月 16 日	第 1 回 ESD 活動支援センター(全国･地方)連絡会	出席	
6 月 21 日	第 1 回同時解決事業形成会議	出席	
6 月 25 日～27 日	第 1 回全国 EPO 連絡会	2･3 日目に出席	1 日目は ESD 企画運営会議開催のため欠席。
7 月 30 日･31 日	地域循環共生圏プラットフォーム事業キックオフ	出席	
7 月 31 日	地域循環共生圏全国ネットワーク構築検討業務 第 1 回ブロック会議研究会	出席	
7 月 31 日	Green Gift 次期プログラムの説明会	出席	
8 月 1 日	地球環境基金 EPO 連絡会	出席	
10 月 16 日	ESD 推進ネットワークの成果の取りまとめに関する意見交換会	出席	
	EPO 統括会議	出席	
10 月 17 日	第 2 回 ESD 活動支援センター(全国･地方)連絡会議	出席	

開催日	会議	参加状況	備考
11 月 19 日	第 2 回 同時解決事業事業形成会議	出席	
12 月 19 日	共生圏 PF 事業支援の取りまとめ会合	出席	
12 月 20 日	EPO 統括会議	出席	
1 月 15 日	第 3 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会議	出席	
1 月 16 日	第 2 回 EPO 連絡会議	出席	
2 月 23 日	同時解決事業・全国ギャザリング	出席	
3 月 9 日・10 日	地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業　情報交換会	参加	新型コロナ感染拡大防止のため会合形式からウェブ会議形式に変更
3 月 11 日	地域循環共生圏全国ネットワーク構築検討業務　第 2 回ブロック会議研究会	参加	

※　同時解決事業関連の会議、ESD 業務関連会議、地域循圏共生圏づくりプラットフォーム事業関連の会合等については各該当章にも記載。

１０　外部資金を活用した事業

(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 今期予算：900,000 円

【提出された実施報告シート①】

主催団体名	特定非営利活動法人もりの学舎自然学校
イベント タイトル	げんきの森づくり　その６　～こどもの森フェス 2019～
開催日	2019 年 5 月 11 日(土曜日)　10:00~14:00　(活動実施時間数　計 4 時間)
開催場所	愛・地球博記念公園　親林楽園及びもりの学舎
イベント概要 (300 字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。
	「げんきの森づくり　その６」は、これまで手入れや調査を行ってきた森を活用し、自由参加形式で、森のスタンプラリーやクラフト、ハンモック体験などを行った。あわせて、事前申し込み形式で「こども森アート」というワークショップを開催し、森のなかにアート作品を製作し展示した。今回の企画は、手入れを行ってきた森に大勢の人に訪れてもらい、森で過ごす楽しさを体験してもらい、森にまた訪れたいと思ってもらうことを目的とした。 9:30　こども森アート受付開始 10:00　こどもの森フェスオープニングあいさつ 10:05　・スタンプラリー、クラフト、森あそび（ハンモック、自然あそび、生きもの探し）スタート ・こども森アート開始 森の素材を使った森の生きものアートの制作開始 12:20　こども森アート終了 13:55　こどもの森フェスクロージング 14:00　終了
活動内容 (300 字程度)	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど 400 字を目安に記載ください
	今回のげんきの森づくりでは、これまでの森づくりのまとめとして、手入れ、調査を行った森での遊び体験を行った。手入れをした森を巡るスタンプラリー、森でとれる木の実を使ったクラフト、森でのんびり過ごしたい人むけのハンモック体験、インタープリターといっしょに遊ぶ自然あそびや生きもの探しを、自由参加で行った。スタンプラリーでは１ｋｍほどの距離を頑張って歩いてまわっていた。 事前募集の「こども森アート」では、森の手入れで出た木材を使用して、森の生きものを作る活動を行った。こどもたちがグループに分かれ、アイデアを出し合って進めていた。参加者の大人が、こどもたちでは切れない太い木や硬い木への釘打ちなどを行い、こどもたちに負けないぐらい集中して、作品の製作を行った。製作した作品は、森に展示し、来場者の目を楽しませている。 ■成果 こども森アートで製作した作品　５体
参加者 からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、５つ以上の感想をご紹介ください。
	こども ・いろいろなものをみんなで話して工夫して作ったことが面白かった ・木の枝でいろんなことをしたいです！ ・松ぼっくりの人形を探すのが楽しかった

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">・ハンモック手作りで！家でもやってみたい
・スタンプラリーが楽しかった
保護者
・思っていたより、たくさんの動物が生息しているとのことでおどろきました
・木と触れ合うのは気持ちが落ち着いた
・普段じっくり見ないもの、触れないものに注目しながら、参加でき楽しかったです</td></tr>
<tr><td rowspan="2">プログラムを振り返って

（500 字程度）</td><td colspan="3">下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。</td></tr>
<tr><td colspan="3">1.子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。
こどもの森フェスでは、スタンプラリーで森を歩く楽しさに、ハンモックで森でのんびりすることの良さに気づいてもらえた。こども森アートでは、材料が限られていても、自然のものの形や色を活かして、製作できることに気づけた。作る過程で、樹種によって木の硬さなどが違うことに気づいた。また大人と協力して活動することにも楽しさを感じていたようだ。

2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。
一緒に体験内容を考えていくことで、専門的すぎる内容ではない体験が作れたので、ボランティアのみなさんも、参加者、スタッフとよくコミュニケーションをとり、参加してもらえた。

3.その他の感想。
子どもたちだけでなく、大人も森や自然に関わるが必要だ。保護者のかたも自然のものを使って、製作をすることに集中し、自然に触れる感覚を得ることで癒やされていた。</td></tr>
<tr><td rowspan="14">参加人数</td><td>一般参加者</td><td>人数</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>子ども(乳幼児から中学生まで)</td><td>100＋12 名</td><td rowspan="3">295 名</td></tr>
<tr><td>子どものご家族または保護者など</td><td>161＋12 名</td></tr>
<tr><td>その他の参加者(学生、地域住民など)</td><td>１０名</td></tr>
<tr><td>協働関係者</td><td>人数</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>実施 NPO のスタッフ数</td><td>８名</td><td rowspan="3">16 名</td></tr>
<tr><td>東京海上日動 「社員」ボランティア数</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>その他のスタッフ数（協力者・協働先を含む）</td><td>４名</td></tr>
<tr><td colspan="3">イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">東京海上日動 「代理店」ボランティアの有無</td><td>なかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">東京海上日動 「代理店」一般参加者の有無</td><td>なかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)</td><td>あった</td></tr>
<tr><td colspan="3">公益財団法人愛知県都市整備協会：フィールドの使用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度</td><td>企画シートで立てた成果目標</td><td colspan="2">参加者に森に関わりたいという気持ちが芽生える</td></tr>
<tr><td>企画シートで立てた成果指標</td><td colspan="2">アンケートでの次回への参加希望の数　80 パーセント</td></tr>
<tr><td>目 標 ・ 指標からどんなことが達成できたか</td><td colspan="2">指標は、アンケートの７では、75%が他の人を誘う気持ち、８では 93%が参加意欲を持ってくれている。森や自然に関わることに関しての意欲を高めることができた。単発の関わりではなく、機会があれば森に関わりたいと思ってくれた。</td></tr>
<tr><td>より成果を上げるための工夫点</td><td colspan="2">単発ではなく継続して関わる場所を作ること。</td></tr>
</table>

【提出された実施報告シート②】

主催団体名	NPO 法人やまぼうし自然学校
イベント タイトル	初夏の森を楽しむデイキャンプ～菅平の夏の始まりを探そう・楽しもう～
開催日	２０１９年６月８日(土曜日) 9:30~15:00 (活動実施時間数 計５時間)
開催場所	菅平高原ファミリーオートキャンプ場
イベント概要 (300 字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。 少し夏の気配を感じる高原の森で、デイキャンプを楽しもう。 火をおこして、自然のエネルギーでご飯を作ろう。 ※雨天のため会場変更し、予定の内容と変更あり ８：００ スタッフ集合、準備 ９：１５ 受付開始 ９：３０ 開始、主催者あいさつ、協賛者あいさつ 関係団体紹介 アイスブレイクゲーム １０：００ 火おこし／お昼作り 途中お花摘み散策 お昼、片付け １３：００ 色々な緑探し １３：３０ クラフト作り開始 竹パン作り 集合写真 あいさつ アンケート １４：３０ 解散
活動内容 (300 字程度)	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど 400 字を目安に記載ください ※ 「です、ます」調でお書きいただけますと幸いです。 心配していた程雨は降らないものの、濃霧や寒さでお住まいの地域との差に驚かれていました。新緑の清々しいフィールドで、ご参加された皆さまとは有意義な時間を共有することができました。 じゃんけんゲームからスタートし、初めてのお友だちとも徐々に仲良しになりました。続いてマイギリ式の火おこしを行いました。苦労しながらもお昼作りの火を無事に付けることに成功しました。お昼のメニューは炊き込み御飯カレー味＆トマト味、特製味噌汁、お花畑寒天とみんなで協力して美味しく作ることができました。途中、デザートのお花畑寒天に入れるお花探しに出かけ、食べられるお花を５種類程採集しました。 食後はつかの間の晴れ間を使って、「緑いろ色探し」色々な緑色を探しました。最後にお土産フォトフレーム作りで素敵な作品に仕上がりました。どんな写真を飾るのでしょうか？
参加者 からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、５つ以上の感想をご紹介ください。 ・ 山がみどりだった。 ・ 嫌いなキノコを残さず食べました。 ・ 花が食べられることを知った。 ・ 白樺が燃える木だと改て知った。 ・ ゲームとかしないで過ごす１日を増やしたいです。
プログラムを振り返って (500 字程度)	下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。 1.子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。 このような機会が日常であると良いと思った。 ゆっくりと過ごす時間と場所と仲間が子ども成長には必要。 2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 最終年と言うことも有り、イベントの流れなど熟知して頂けているので、

	当日の準備、実施、片付けがスムーズに行うことができた。 3.その他の感想。 毎回同じですが、もっと多くの方にこのプログラムを届けたい。 そのための工夫と努力が必要と感じています。 子どもの活動には親の理解が必要で、親の理解を得られるような PR が必要と　思います。 新たな価値の創出「野外活動や自然活動」に必要なお金を出す文化を。 今回までは無料で提供できるが、お金を払ってでもすべき活動へとレベルアップをし、新たな価値を生み出して行きたい。

参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	１４名	２５名
	子どものご家族または保護者など	１１名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	０名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO のスタッフ数	９名	１３名
	東京海上日動 「社員」ボランティア数	４名	
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。		
	東京海上日動 「代理店」ボランティアの有無	なかった	
	東京海上日動 「代理店」一般参加者の有無	なかった	
	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	あった	
	日本 NPO センター１名、コ・クリエーションデザイン１名、 中部 EPO２名、一期会１名		

企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度	企画シートで立てた成果目標	参加者が、自然や生きものと自分のつながりを知る
	企画シートで立てた成果指標	探した生物の数　５個
	目標・指標からどんなことが達成できたか	工作作品を持ち帰ってもらう事ができた。 森に興味をもってもらうことができた。
	より成果を上げるための工夫点	伝える技術 エンターテイメント 参加者に興味深く聞いてもらう工夫

【提出された実施報告シート③】

主催団体名	NPO 法人やまぼうし自然学校
イベントタイトル	秋の森を楽しむデイキャンプ　～秋の気配を探そう、感しよう～
開催日	２０１９年９月２８日(土曜日) 9:30~15:00 (活動実施時間数 計５時間)
開催場所	菅平高原ファミリーオートキャンプ場
イベント概要 (300 字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。
	秋の高原で、秋探しとデイキャンプを楽しもう。 火をおこして、自然のエネルギーでご飯を作ろう。 ８：００　スタッフ集合、準備 ９：１５　受付開始 ９：３０　開始、主催者あいさつ、協賛者あいさつ

	関係団体紹介 アイスブレイクゲーム、参加者自己紹介、集合写真 １０：００　秋のつながり探し １０：３０　火おこし／お昼作り お昼、片付け １３：３０　クラフト作り開始 １４：３０　終わりの会 あいさつ ふりかえり アンケート １５：００　解散
活動内容 (300 字程度)	夏の会場と同じキャンプ場で実施しました。前回ご参加頂いた方には季節の変化を感じて頂けたのではないでしょうか。じゃんけんゲームからスタートし、初めてのお友だちとも徐々に仲良しになりました。続いて「秋」と思うものを１つ各々で探して発表してもらいました。続いてグループになって「秋の森のつながり探し」を実施しました。色々なつながりを探して来てくれました。続いてマイギリ式の火おこしを行いました。苦労しながらもお昼作りの火を無事に付けることに成功しました。お昼のメニューは鶏肉とたっぷり野菜のダッチオーブン焼き味噌ソース、野菜たっぷりスープパスタ、焼きリンゴと焼きカボチャのデザートでした。みんなで協力して美味しく作ることができました。 最後に竹とんぼと小枝の鉛筆ペンダントを作りました。みんな素敵な作品に仕上がりました。
参加者 からの声	・　また来たい！！とすぐでてくるコトが楽しかった証拠ですね！ ・　子どもが山で楽しく遊べることがわかりました。 ・　知らないお花が沢山あって楽しかった。 ・　子どもが普段嫌がって食べないものを沢山食べてくれたのでまたダッチオーブンで料理をしてみたいです。 ・　山にはいろいろなものがあることが分かった。
プログラムを振り返って (500 字程度)	1.子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。 このような機会が日常であると良いと思った。 ゆっくりと過ごす時間と場所と仲間が子ども成長には必要。 2.様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 最終年と言うことも有り、イベントの流れなど熟知して頂けているので、 当日の準備、実施、片付けがスムーズに行うことができた。 3.その他の感想。 毎回同じですが、もっと多くの方にこのプログラムを届けたい。 そのための工夫と努力が必要と感じています。 子どもの活動には親の理解が必要で、親の理解を得られるような PR が必要と　思います。 新たな価値の創出「野外活動や自然活動」に必要なお金を出す文化を。 今回までは無料で提供できるが、お金を払ってでもすべき活動へとレベルアップをし、新たな価値を生み出して行きたい。

参加人数			
	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	１０名	１６名
	子どものご家族または保護者など	６名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	０名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO のスタッフ数	３名	７名
	東京海上日動 「社員」ボランティア数	４名	
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。		
	東京海上日動 「代理店」ボランティアの有無	なかった	
	東京海上日動 「代理店」一般参加者の有無	なかった	

	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)		あった
	中部 EPO２名、一期会１名		
企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度	企画シートで立てた成果目標	参加者が、自然や生きものと自分のつながりを知る つながり探しで実感してもらえた	
	企画シートで立てた成果指標	探した生物の数　５個 キノコや木の実、花や葉っぱ、バッタ	
	目標・指標からどんなことが達成できたか	工作作品を持ち帰ってもらう事ができた。 森に興味をもってもらうことができた。	
	より成果を上げるための工夫点	伝える技術 エンターテイメント 参加者に興味深く聞いてもらう工夫	

【提出された実施報告シート④】

主催団体名	小原ＥＣＯプロジェクト
イベントタイトル	小さな山里の「夏・探検隊」
開催日	2019 年７月１３日(土曜日) 10:00~15:00 (活動実施時間数 計５時間)
開催場所	福井県勝山市北谷町小原
イベント概要 (300 字程度)	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。
	親子で楽しむ自然体験（川遊び（生物調査）、アウトドアクッキング、自然の豊かさ・恵み、命の大切さを感じてもらう） １０：００　スケジュール説明、連絡等　着替え １０：３０１４：４５　プログラム終了　（着替え・片付け）
活動内容 (300 字程度)	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど 400 字を目安に記載ください
	自然体験活動：　川遊び（川辺の生物観察）、魚つかみ（命の学習） 薪割り（昼食づくり燃料のカーボン・オフセット）、ドラム缶風呂 どれも良い経験を得た様子 ・生き物を飼いたい。写真を撮って調べたい ・いっぱい自然の中で遊びたい ・自然ではすごく癒されて頭を使うことで暮らしていける 昼食（アウトドアクッキング）：　ピザづくり　羽釜ご飯　イワナの塩焼き　なめこ汁 こちらで準備したものもあったが　ピザづくり、いわなの塩焼きは体験として実施した。 ピザ、羽釜ご飯は好評でした。（エンドウご飯、白米） 薪づくりでのカーボン・オフセット　５０キログラム（炭・薪の使用量） 生物調査結果（別添）　相関指標から水質は良好である
参加者からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、５つ以上の感想をご紹介ください。
	・イワナを捕まえ自分でさばき、櫛をさし「かわいそう」と言いながら姿をみて命をいただく大切さを知ってもらうことができました。 ・虫遊び環境教育面について指導者がキチンと準備され有効であった。スタッフの知識が十分であり申分ない。 ・いろんな人が集まることによって大きな活動のエネルギーになることを再確認できた。 ・普段の生活では体験できない場所、虫をたくさん見つけることができた。自然や命の大切さに

	気づかされました。 ・自然の豊かさ（厳しさ）、命の大切さを感じられるような活動を今後もさせたい。 ・友達に自然がどれだけ面白いか伝えたい。 ・ピザづくり楽しかった。釜で炊いたごはんを初めて食べた。川がきれいでまた来たい。
プログラムを振り返って （500 字程度）	下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。 1. 子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。 たくさんのプログラムを用意し、そのうちの何れかでも興味を持ってもらえればと思っていたが すべてにおいて子供たちはどれも満足したように感じられた。 予想以上に現代っ子は野生的だった。親が大人たちが危ないという理由だけで自然から遠ざけていたのか？ 2. 様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 体験指導での外部講師との連携：今後の地域活動やイベントでの連携や活動内容の幅が広がる可能性を感じる 地域鉄道会社との連携：参加者募集（人集め）、地域への移動手段の確保 3.その他の感想。 今後の地域活動での幅が広がった、連携を維持・継続していきたい。

参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	２５名	４９名
	子どものご家族または保護者など	２４名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO のスタッフ数	６名	２２名
	東京海上日動 「社員」ボランティア数	１０名	
	その他のスタッフ数（協力者・協働先を含む）	６名	
	イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。		
	東京海上日動 「代理店」ボランティアの有無	(あった) なかった	
	東京海上日動 「代理店」一般参加者の有無	(あった) なかった	
	上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)	(あった) なかった	
	えちぜん鉄道㈱ 自然観察指導員の会		

企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度	企画シートで立てた成果目標	子ども達の 自然への理解が深まっている。生きる力が備わっている。
	企画シートで立てた成果指標	アンケートでのプログラム満足度が７０%以上
	目 標・指標からどんなことが達成できたか	プログラム満足度は 80%を超えていた。またアンケート結果からも子供たちの自然への理解や生きる力の備わりは十分に図られたことが推測できる。
	より成果を上げるための工夫点	プログラムの中で子供たちが興味を示すものについては可能な限り、時間のしばりを設けない点や子供自身にさせる（とことん）。

【提出された実施報告シート⑤】

主催団体名	小原ＥＣＯプロジェクト
イベント タイトル	小さな山里の「夏・探検隊」（みんなで守ろう赤兎山の生態系）
開催日	2019 年９月７日(土曜日) ８：３０～15:３０（活動実施時間数 計７時間)
開催場所	福井県勝山市北谷町小原
イベント概要 （300 字程度）	今回の企画の概要(イベントの目的・ねらい、タイムテーブルなど)をお書きください。 白山国立公園に属する赤兎山周辺では近年の登山ブームにより低地に繁殖するオオバコが高山域に持ち込まれ繁殖し始めている状況がある。貴重な環境を維持回復するため今回の活動を実施しました。
活動内容 （300 字程度）	当日の活動内容、子どもの様子・言葉・エピソードなど 400 字を目安に記載ください 赤兎山登山及び赤兎山避難小屋周辺での外来植物除去活動 ・登山中：植物や歩道周辺でのガイド ・登山（山登りの）という非日常の空間・体験を通じての自然とのふれあい。 ・外来植物の定義や除去方法の説明（紙芝居）、除去活動 天候に恵まれたことが幸いして思いのほか登山（山登り）初心者が多く山登り体験自体が好評でした。 ・白山国立公園（生態系）、ユネスコエコパークの貴重さ自然への理解が深まった。 ・高山域での外来植物（オオバコ）の知識が増えた ・山登りを始めたいと思った（環境に配慮して） 外来植物（オオバコ）の除去量＝17 キログラム（目標：１５キログラム）
参加者 からの声	アンケートの内容などから、拾い出してください。箇条書きでも結構です。文字制限はありませんが、５つ以上の感想をご紹介ください。 ・外来種除去のボランティアに参加できて良かった。外来種を持ち込まないように足マットで靴をきれいにしよう！ ・適度な難易度で子供も大人も楽しめ、学べる内容でした。 ・外来植物の除去・駆除の理由など、紙芝居形式で分かりやすかった。 ・外来植物の除去だけでなく、久々に自然の中を歩くことができてよい経験になりました。 ・オオバコ茶がおいしかった。
プログラムを振り返って （500 字程度）	下記項目に触れていただき、プラスの結果や前向きなコメントを中心にお願いします。 3. 子どもたちの様子（どのような気づきが得られたか等）。 高山域での生態系や「外来植物」という言葉に気づいた様子。 外来植物の除去・駆除の理由に気づいた様子。（除去方法には精細さを欠く） 4. 様々な関係者との連携・協働により得られた成果。 体験指導での外部講師との連携：今後の地域活動での連携や活動内容が広がる可能性を感じる。 地域鉄道会社との連携：参加者募集（人集め）、移動手段の確保 3.その他の感想。 今後の地域活動での幅が広がった、連携を維持・継続していきたい。

参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	３名	１５名
	子どものご家族または保護者など	３名	
	その他の参加者(学生、地域住民など)	９名	

<table>
<tr><td rowspan="9"></td><td colspan="2">協働関係者</td><td>人数</td><td>合計</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施 NPO のスタッフ数</td><td>３名</td><td rowspan="3">１８名</td></tr>
<tr><td colspan="2">東京海上日動 「社員」ボランティア数</td><td>１２名</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他のスタッフ数（協力者・協働先を含む）</td><td>３名</td></tr>
<tr><td colspan="4">イベント協力に以下のような存在があったか、なかったか教えてください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">東京海上日動 「代理店」ボランティアの有無</td><td colspan="2">(あった) なかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">東京海上日動 「代理店」一般参加者の有無</td><td colspan="2">(あった) なかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記以外の関係者(あれば、具体的名称を下欄に記載)</td><td colspan="2">(あった) なかった</td></tr>
<tr><td colspan="4">えちぜん鉄道㈱ 福井県自然保護センター、白山保護利用管理協会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">企画シート作成時に立てた成果目標・指標の達成度</td><td>企画シートで立てた成果目標</td><td colspan="3">白山生態系の貴重さや自然への理解が深まっている。</td></tr>
<tr><td>企画シートで立てた成果指標</td><td colspan="3">（オオバコ）外来植物除去量＝１５キログラム</td></tr>
<tr><td>目 標・指標からどんなことが達成できたか</td><td colspan="3">アンケート結果からも自然への理解や白山生態系の貴重さが伝わったと感じる。また、除去量についても１７キログラムの成果を上げることができた。(目標 15 キログラム)</td></tr>
<tr><td>より成果を上げるための工夫点</td><td colspan="3">案内チラシ等に登山知識、情報の詳細な記載</td></tr>
</table>

(2) 地球環境基金

- 年間予算：150,000 円

（ア）地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 7 月 31 日に地球環境基金 EPO 連絡会に出席し、説明会やユース環境活動発表大会についての EPO の業務説明をうけた。

（イ）「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会への協力

- 中部地方大会の審査委員として、EPO 中部・協働コーディネーターである、寺田卓二氏（一般社団法人ネクストステップ研究会代表）を推薦した。
- また、中部地方大会（12 月 8 日開催）に EPO 中部から 1 名が参加した。

（ウ）説明会の開催

- 基金担当者と調整し、「2020 年度地球環境基金説明会」の中部エリア説明会を 10 月 15 日に開催することが決定し、企画検討を行った。
- 説明会では、基金に関する説明と併せて、中部地方環境事務所の担当官による地域循環共生圏と SDGs の概論、EPO 中部スタッフによる SDGs ミニワークショップを実施した。
- また、開催案内チラシを作成し、8 月下旬から参加募集広報を展開した。

① 開催概要

【行事名】　地球環境基金助成金説明会 in 中部
【日　時】　2019 年 10 月 15 日（火）18:00～20:30
【場　所】　ウインクあいち　会議室９０５
（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
【参加者】　7 名（5 団体）

② プログラム

話題提供：SDGs と地域循環共生圏
西田 清紀（環境省中部地方環境事務所環境対策課主査）

SDGs ミニ・ワークショップ
原　理史（EPO 中部／中部大学中部高等学術研究所）

2020年度地球環境基金助成金の説明
質疑応答・個別相談
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部　小林　大　氏
傅　嘉琪 氏

(3)愛知県コーディネート業務

- 年間予算：1,029,000 円

No.	受付日	依頼先	区分	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
					No.	No.	実施日	講師等
1	前年度	名城大学付属高等学校	高校	川の見方、水質調査の方法、分析手法の講義および実習の授業		①	4月27日	㈱日水コン清水康生氏
2	前年度	一宮市環境部環境保全課	行政	市民を対象とした環境に関わる体験講座ができる講座（4回のうちの2回分）の開催		②	5月11日	NIED伊沢令子氏
3	4月1日	(有)アイシープラス	民間	講師登録希望	①			－
4	4月1日	名古屋市立東港中学校	中学校	中学生にもわかりやすく、ゴミの処理について説明してほしい	②			（中部リサイクル㈱大西氏を紹介）
5	5月22日	一宮市環境部環境保全課	行政	子ども体験学習講座の講師の紹介	③			（則竹昌幸氏、浜島鐘利氏を紹介）
6	6月13日	小牧市市民安全課	行政	消費者知識の向上を図る市民講座の講師の紹介		③	8月23日	名古屋産業大学大学院非常勤講師・児玉剛則氏
7	6月18日	㈱青山製作所（大口町）	民間	海岸での清掃活動とプラスチックごみについての講師の紹介		④	9月22日	大須賀哲夫氏（ウミガメの専門家）
8	6月26日	愛知県立横須賀高等学校	高校	総合学習の枠で環境学習に興味を持っている生徒を対象に授業を行ってほしい		⑤	9月18日	EPO中部・原理史氏
9	7月9日	パルスイミング西尾	民間	小学生を対象に行う、生きものの観察や森の基地づくりといった野外学習の講師の紹介	④		9月15日	（長久手のもりの学舎自然学校を紹介）
10	7月9日	パルスイミング西尾	民間	小学生を対象に行う、生きものの観察や森の基地づくりといった野外学習の講師の紹介	⑤		9月22日	（長久手のもりの学舎自然学校を紹介）
11	8月7日	豊橋市立南陵中学校	中学校	梅田川の水質や干潟に関連した話のできる講師を紹介してほしい		⑥	9月9日	㈱日水コン清水康生氏
12	8月7日	日進市立東小学校	小学校	地球温暖化と生物多様性に関わる講師の紹介		⑦	10月3日	県自然環境課　清水美登里氏
13	8月7日	日進市立東小学校	小学校	地球温暖化に関わる講師の紹介		⑧	10月24・25日	富士通㈱村瀬政彦氏
14	8月7日	日進市立東小学校	小学校	ESD/SDGsに関わる講師の紹介		⑨	11月21日	EPO中部・原理史氏
15	8月26日	村瀬政彦氏（個人）	民間	講師登録希望	⑥			－

No.	受付日	依頼先	区分	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
					No.	No.	実施日	講師等
16	9月19日	大府市環境パートナーシップ会議	行政	昆虫や植物等の生き物の観察会の講師の紹介	⑦			(長久手もりの学舎自然学校を紹介)
17	10月18日	一宮市環境部清掃対策課	行政	講師の紹介	⑧			(則竹昌幸氏、山田厚志氏を紹介)
18	11月21日	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課	行政	高齢者が身近な環境問題について知り、興味をもつための講義の講師の紹介	⑨			(杉山範子氏を紹介)
19	1月6日	半谷美野子氏(個人)	民間	講師登録希望	⑩			－
20	1月14日	USA Girl Scouts Overseas Nagoya	民間	大気汚染に関する実験・測定(自動車の排気ガス)等を伴う学習の講師の紹介	⑪			(岩坂泰信氏を紹介)
21	1月14日	小牧市市民生活部環境対策課	行政	クイズや実験等を通して今地球で起きている気候変動について学び、自分たちに何ができるかを学ぶ授業の講師の紹介	⑫			(村瀬政彦氏、原理史氏を紹介)
22	1月17日	日進アシスト㈱	民間	放課後教室の児童に向けた「水の大切さ」についての講座の講師の紹介(「テーマ君は水なしで生きられるか？」)		⑩	2月20日	エコティーチャー
23	1月22日	岩倉市環境保全課	行政	緑のカーテン講座の講師の紹介	⑬			(堀田英夫氏を紹介)
24	2月3日	一宮市環境部環境保全課	行政	次年度の環境学習講座の企画内容の相談と講師の紹介	⑭			(愛知服育研究会、苔むす会、Bio Garden With等を紹介)
25	2月3日	一宮市環境部環境保全課	行政	次年度の環境学習講座の企画内容の相談と講師の紹介	⑮			(浅野智恵美氏、愛知県地球温暖化防止活動推進センター、河川財団等を紹介)
26	2月4日	東海市環境経済部生活環境課(船島小学校)	行政	小学校での環境学習講座の講師の紹介	⑯			(小野正雄氏、星野智司氏を紹介)
27	3月6日	豊田市藤岡南中学校	中学校	1年生のESD学習(環境)の講師の紹介と学習内容の企画	⑰			(原理史氏を紹介)
合　計					17	10		

１１　今後に向けて

(1)課題の整理

ア　基本業務について

① EPO 施設利用・相談対応

- EPO 中部における年間の相談件数、来館者数などが伸び悩んでおり、全般的な利用向上を図る必要がある。
- 特に EPO の利用可能な機能（配架資料の設置、広報協力、打合せスペースの外来者利用、環境関連・ESD 関連の照会・相談対応など）についての周知がまだ充分とはいえない。

② ウェブサイト等による情報発信

- 現在の EPO 中部ウェブサイトはコンテンツの掲載の仕方などに制約があり、業務やイベントを発信するのみのサイトとなっていることから、「見える化プログラム」や「SDGs チェックリスト」の活用促進も念頭に置いたサイトづくりを含めた、情報の受発信のあり方を検討する必要がある。
- 特に「EPO とは」や、その内容に連動したページづくりなど、サイト構成全般の改良が必要との指摘もある。
- 今年度立ち上げた Facebook ページをまだ十分に活用しているとはいえないため、ウェブサイトとの連携や投稿のシェア協力の拡がりなど、SNS をより活かした情報発信・広報を展開する必要がある。

イ　EPO 業務について

① 協働コーディネーターの活用展開

- 今年度の協働コーディネーターの会合「地域循環共生圏づくり研究会」において、今後の研究会を会議体ではなく地域循環共生圏に取り組む主体のネットワークとして展開する結論に至っており、EPO 中部・協働コーディネーターの協力を得ながらどのように構築・展開するかネットワークのあり方が検討課題になっている。

②「活動見える化プログラム」の構築

- 昨年度に構築した「活動見える化プログラム」は複雑なチャート図であったため、わかりやすさ、活用しやすさを重視し、活動分析結果の要点を取捨選択して整理し、さらに地域循環共生圏や SDGs とのつながりを「見える化」する資料として改めて構築した。これを地域循環共生圏づくりや地域活動の活用ツールとして位置づけた上で広く広報・発信し、また、活用した事例・実績をどのように収集・確保していくか検討する必要がある。

③ 協働フォーラム等イベント開催

- 「協働の促進」を目的としたフォーラムを開催しているが、申込者数が毎回 30 人前後と参加者がそれほど多くなく、テーマや対象者の明確化が課題になっている。
- さらに今後は、地域循環共生圏づくりを念頭においた企画検討が重要であり、関連する情報・事例等の受発信の場づくり、取り組む地域（主体）側のニーズの拾い上げ等を行う必要がある。

ウ　ESD 業務について

①「SDGs チェックリスト」の作成

- 今年度完成した「SDGs チェックリスト」について、SDGs ツールとしての活用促進を図ることと、活用方法等について広報し、同時に活用事例・実績の収集、改良ニーズを把握する方法を確保する必要がある。

② ESD ダイアログ等イベント開催

- SDGs、ESD をテーマにしたイベントは参加者も多く好評ではあるが、類似イベントが多くなっていることへの留意が必要である。
- 一方で地域側からの勉強会・ワークショップ開催などのニーズが寄せられており、地域の活動支援センターとして、地域主体と連携した開催も求められている。

③ 地域 ESD 拠点との連携（地域 ESD 拠点への支援）

- 今年度新たに 7 団体が加わり、計 16 団体が地域 ESD 拠点として登録されたが、中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）と連携実績のある団体とない団体があり、今後の各団体との関わり方や、センターによる支援のあり方などは検討課題となっている。
- また、団体の活動内容や、得意分野、弱みなどをセンターとして把握していくことも必要である。

(2) 今後の展開

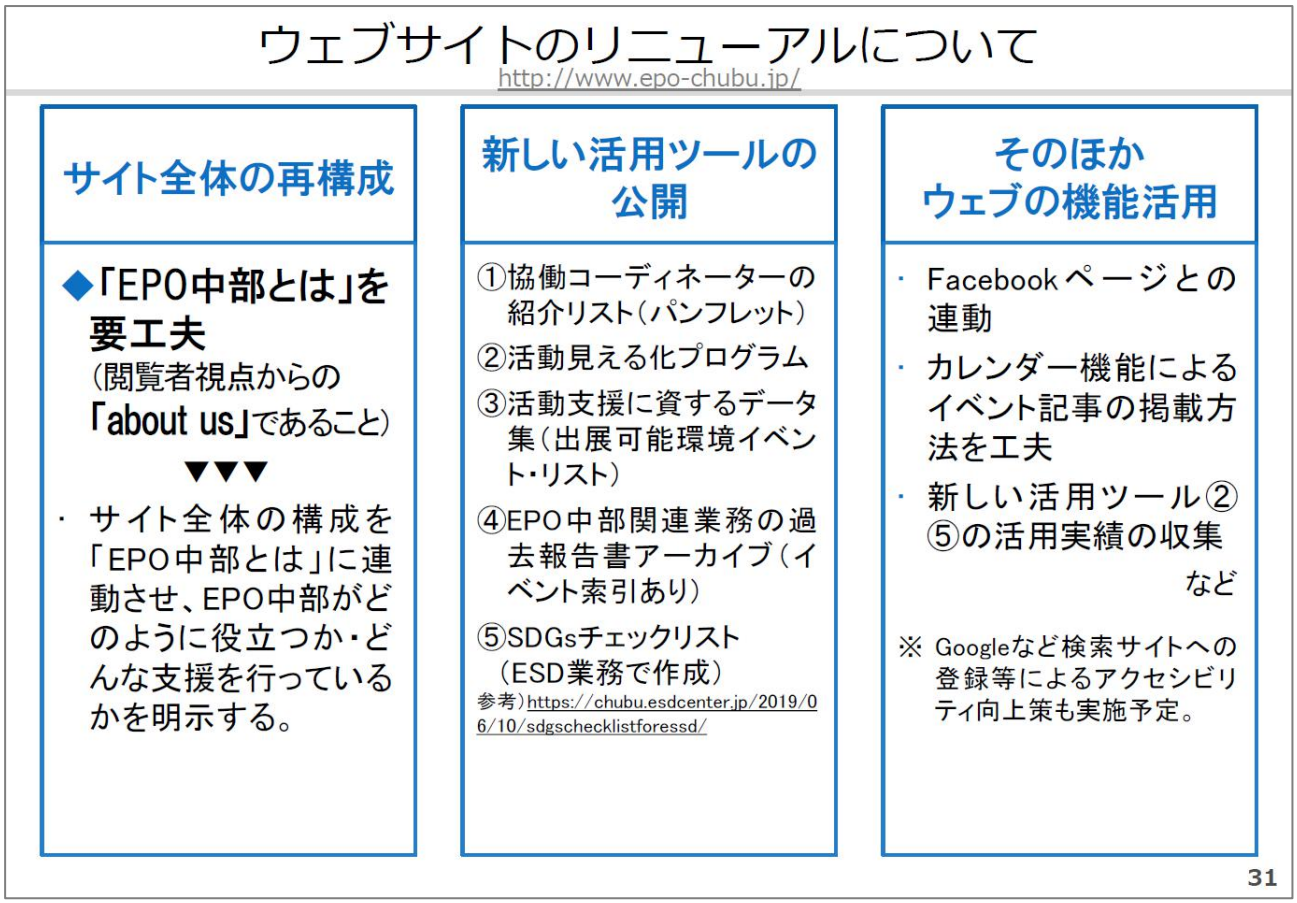
ア　基本業務について

① EPO 施設利用・相談対応の向上

- EPO の存在や機能などが十分に認知されていないため、イベント開催時には EPO のリーフレットを配布するのみでなく、EPO の紹介もプログラムの一つとして設けるなど、PR の場や機会を積極的に活用していく必要がある。
- また、EPO 施設を会場にしたミニ・イベント等を開催し、EPO へ足を運んでもらい、資料の取り揃え状況や、利用可能なスペースなどを実際に見てもらう工夫などを行うことも考えられる。

② ウェブサイト等による情報発信

- EPO 中部ウェブサイトは、2021 年度に前回のリニューアルから 5 年目を迎えること、また、「地域循環共生圏」や「SDGs」といった新たな発信すべき理念（キーワード）を得たタイミングにあることなどから、ウェブサイトや SNS などを現在求められている機能性に合致した媒体へと強化していく必要がある。
- 特に、地域づくり主体が「EPO は地域循環共生圏づくりや SDGs 活用の支援を行う」という情報に接する入口として、EPO 中部ウェブサイトの再構築が求められる。
- 具体的には、次のスライド資料（EPO 中部運営会議委員への提示資料）で整理したウェブサイトの要リニューアル事項の実践や、活用すべきツール（今年度、EPO や ESD センターが新たに作成したツール）の公開、さらには協働コーディネーターの活用展開などを図り、ウェブサイトの充実化に取り組む必要がある。



イ　EPO 業務について

① 協働コーディネーターの活用展開

- 今年度作成した「協働パンフレット」により、EPO 中部・協働コーディネーター全員の活動内容等が掲載されたため、「協働パンフレット」を活用しつつ、地域循環共生圏づくりや SDGs に関わる地域への支援展開の際は、協働コーディネーターの存在もアピールを図る。
- また、「地域循環共生圏づくりネットワーク」を構築・展開する際には、活動者としての視点とコーディネーターとしての視点の両方をあわせ持った人材として、協働コーディネーターにも都度、参加を呼びかけ、EPO への地域ニーズや課題のアンテナとしての機能を求めていくことが考えられる。

② 地域循環共生圏づくりネットワークの展開

- 「地域循環共生圏づくりネットワーク」の構築・展開では、協働コーディネーターや地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の採択団体、そのほか金融機関、経済団体等との関係構築業務の会合等も含めたネットワークの構築を図っていくことが考えられる。
- 現時点では地域循環共生圏づくりの支援の方向性は未分化のものであるといえるため、ゆるやかなつながりを意味するネットワークとして展開し、その利点を活かし、地域側の取組方や事例の進化などに合わせ、その時節時節で必要とされているニーズ等を EPO がネットワークを通して拾い上げていく仕組みづくりを図る。

③ 地域循圏共生圏づくり支援

- 「地域循環共生圏づくりネットワーク」により、中部ブロックのプラットフォーム等の取組主体が集い、全国ブロックの会合ではできない情報（事例や課題等）共有の場を設営していくことが考えられる。
- また、EPO 中部ウェブサイトでは、EPO が地域循環共生圏づくり支援を行っていることをサイト内の「about us（EPO 中部とは)」ページで明示するなど、地域循環共生圏や SDGs の支援を求める地域がコンタクトを取りやすくなるよう工夫していく必要がある。（場合によってはリーフレットにもその旨を記載する。）
- 活動見える化プログラムについては、地域循環共生圏づくり支援ツールとして位置づけることが可能であり、プラットフォーム等の主体に活動見える化プログラムやその具体の分析チャート（今年度のケーススタディ等の分析チャート）を紹介し、必要に応じて主体に対しプログラムを実施し、分析チャートを関係機関やステークホルダー等への説明ツールとして活用してもらうことが考えられる。

地域循環共生圏づくり支援

■ 活動見える化プログラムの活用

- 次年度・地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業採択団体など地域循環共生圏の取組主体／取り組みたい主体を対象に実施。

▼▼▼

見える化事例・地域循環共生圏PF事例として公開

（事例として蓄積・掘り起こし→実施希望地域・団体の募集）

■ 地域循環共生圏づくりネットワークの展開

- 2019年度に実施した地域循環共生圏づくり研究会でのワーキングを協働コーディネーターのみでなくPF採択団体ほか、地域循環共生圏づくりに関心のある主体に参加を呼びかけて勉強会を実施。

※ 同様の趣旨の本年度1/31開催セミナー（事務所にて開催）への北陸・信州の参加者が少ないため、北陸・信州でもそれぞれ開催するなど。

■ 地域「循環」のための基盤整備

- 従来の環境活動・地域づくり活動からシフトのために経済・経営の要素をどのように取り入れるかが課題になっている。
- 地域の自立、地域・事業の持続可能性、取組による経済性の確保に向けた環境整備がEPOの役割として求められている。

30

④ 「活動見える化プログラム」の活用

- EPO 中部が支援等する事業・業務を対象に、引き続き、活動見える化プログラムの分析・チャートの作成を実施し、それらを事例としてウェブサイトやイベント等で紹介・公開すると同時に、見える化プログラムの実施を希望する主体を募集することが考えらえる。
- そのため、EPO 中部ウェブサイトにおいて、活動見える化プログラムの事例チャートを掲載し、分析を希望する取組主体を募集するページを新たに設ける必要がある。

⑤ 協働フォーラム等イベント開催

- 地域循環共生圏づくりに資するイベントの開催として、地域循環共生圏を普及・啓発するイベント（取組地域の掘り起こしにつながるイベント）と、既に取り組んでいる主体（取り組みたいと考えている主体）を対象にしたセミナーなど取組の支援につながる勉強会の開催が考えられる。

ウ　ESD 業務について

①「SDGs チェックリスト」の作成

- チェックリストについては、完成した基本段階版、事業所活用版のほか、ワークショップ用ツール・パッケージを今年度末に ESD センターウェブサイトに公開したところであり、次年度はそれらの活用促進と共に、中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）主催イベント等で活用していくことが考えられる。
- 今年度の検証ワークショップでは、EPO 中部・協働コーディネーターがファシリテーターとして参加しており、各ツールの使い方やワークショップの進め方をコーディネーターは既に知っている。そのため、EPO 施設内等でチェックリスト等を活用したミニ・ワークショップを開催し、協働コーディネーター：進行役の実践、参加者：チェックリストの活用体験（及びファシリテートの方法を学ぶ）などを試行することが考えられる。

SDGsチェックリストの活用展開について

SDGsチェックリストパッケージツールによるESD実践への展開

今後の活用展開（事務局イメージ）

基本段階版

STEP 1
・パッケージツールのWeb公開
（Webアンケートフィードバック）
・使用ガイドの作成（Web掲載）
・使用方法の体験説明会の開催

STEP 2 （その先）
・WS実践者育成支援
・子ども版パッケージの開発
・関係者による実践研究会支援

事業所SDGs版

STEP 1
・チェックリスト使用による検証
・使用ガイドの作成

STEP 2 （その先）
・実践ワークショップの開催
・ターゲットに合わせた評価法開発

19

② ESD ダイアログ等イベント開催

- ESD 及び SDGs をテーマにしたイベントは、地域主体などからの次年度開催ニーズが既に寄せられており、地域側の求めに応えた形での開催が可能となっている。
- また、昨年度・一昨年度とユネスコエコパークをテーマに開催してきており、中部ブロックはエコパーク登録地域が 5 か所あり、ブロック最多であることが特色となっていることから、引き続き、ユネスコエコパークにおける ESD をテーマにした企画開催も考えられる。

③ 地域 ESD 拠点との連携（地域 ESD 拠点への支援）

- 今年度、地域 ESD 拠点 3 団体にヒアリングを行い、中部地方 ESD 活動支援センターとの連携や支援のニーズの把握を行った。その結果、次スライド資料（中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議提示資料）の支援展開が考えられる。

地域ESD拠点登録団体との連携、団体への支援について

地域ESD拠点とのネットワーク強化に向けて
現場ターゲット別のESD活動と支援の在り方（地域ESD拠点との連携の強化を見据えて）

〇ESDの拠点となりうる団体は？
　様々な活動団体のESD拠点機能化、登録は後回しでも機能を発揮してもらえればいい。
〇その活動団体の得意分野は何か？
　どんな対象に何をしているのか。
〇その得意分野にとってのニーズは何か？
　弱みは何か、何を支援すればよいか。
〇その団体が他の主体と連携することで何か生み出せるか？

（事務局イメージ）

案1：拠点メンバーをメイン対象者とした「身近なESD問題ワークショップ」

案2：最新情報のメール配信（全国センターからの配信、既存メルマガと重複しない情報）

案3：登録拠点と連携したESDダイアログ、SDGsセミナー等の開催

21

付．その他

※地域のニーズに対応するため実施した事項等

■　EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが招聘等された会合・イベント

	区分	主体		会議名	開催日	職名	招聘元・事務局
1	愛知	自治体	名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会	4/17	委員	名古屋市環境局環境企画課
2	愛知	自治体	愛知県	ユネスコスクール支援会議	①6/5 ②12/20	委員	愛知県教育委員会生涯学習課
3	愛知	自治体	名古屋市	あいち・なごや生物多様性 EXPO（仮称）運営業務委託事業者評価委員	7/26	選定委員	名古屋市環境局環境企画部
4	三重	ユネスコ協会	津ユネスコ協会	総会後の講演（ESD/SDGs/ユネスコスクール）	05/20	講師	津市教育委員会生涯学習課内津ユネスコ協会事務局
5	愛知	生活協同組合	コープあいち	組合員交流会環境分科会話題提供	06/12	講師	コープ愛知事務局
6	愛知	自治体	日進市環境課	日進市職員 ESD 基礎研修	05/28	講師	日進市　市民生活部　環境課　環境政策・ESD推進係
7	岐阜	一般財団	岐阜県公衆衛生検査センター	岐阜県地球温暖化防止活動推進員研修会	06/15	講師	岐阜県地球温暖化防止活動推進センター
8	愛知	株式会社	アイサク	安全大会における省エネ活動推進の意義についての話題提供	07/30	講師	株式会社アイサク省エネ推進会
9	長野	大学	信州大学	信州 ESD コンソーシアム　令和元年度通常総会	08/24	構成員	信州 ESD コンソーシアム事務局（信州大学教育学部会計係）
10	愛知	一般社団	日本体験学習研究所	未来を創る人の「輪」プロジェクト講座第 3 回	8/31	講師	一般社団　日本体験学習研究所（JIEL）
11	愛知	高校	横須賀高校	地球温暖化問題に関する講義と WS	09/18	講師	横須賀高校
12	愛知	企業	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	中部パナソニック連合会	11/19	講師	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社
13	愛知	自治体	日進市環境課	日進市職員 ESD 研修	11/25	講師	日進市　市民生活部　環境課　環境政策・ESD推進係
14	愛知	企業	パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	愛知パナソニックショップ連合会新年会議	1/9	講師	パナソニック コンシューマーマーケティング（株）LE中部社　愛知支社営業推進課
15	愛知	自治体、一般社団	愛知県、環境創造研究センター	地球温暖化防止活動推進員と行政の交流フォーラム	1/14、23	講師等	愛知県地球温暖化防止活動推進センター
16	愛知	自治体	愛知県環境活動推進課	あいち eco ティーチャー　交流会	3/8	講師	愛知県環境活動推進課
17	愛知	任意団体	日進消費生活研究グループ	定例学習会	3/9	講師	日進消費生活研究グループ

※16, 17：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

■　関係構築のため意見交換会や業務に関わる説明打合せ等

	区分	実施日	主体	主体の部署・担当者等	EPO 中部以外の同席者等	実施内容
1	愛知	5/28	日進市	市民生活部	中部地方環境事務所	意見交換、情報交換
2	長野	5/23	長野県	林務部信州の木活用課、林務課	中部地方環境事務所	同時解決事業についての説明、今後の協力依頼
3	福井	6/13	福井県	安全環境部	中部地方環境事務所	意見交換、情報交換
4	長野	7/03	飯山市	市長、副市長、経済部農林課、民生部保健福祉課、総務部企画財政課	中部地方環境事務所	同時解決事業、地域循環共生圏についての説明、今後の協力依頼
5	愛知	7/09	なごや環境大学	なごや環境大学実行委員会事務局		「環境白書から実践へ」特別公開講座

	区分	実施日	主体	主体の部署・担当者等	EPO 中部以外の同席者等	実施内容
6	愛知	7/18	中部 ESD 拠点協議会	中部大学国際 ESD・SDGs センター		サステナ政策塾第 2 回参加
7	愛知	7/7	コミュニティ政策学会	第 18 回　学会大会（犬山）事務局		シンポジウム参加
8	中部	7/24	中部地方環境事務所	環境対策課		第 16 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
9	石川	8/9	金沢青年会議所	（金沢大学・河内氏）	中部地方環境事務所	SDGs キャンプで EPO の紹介
10	長野	8/28	飯田市	企画課林補佐、環境課福澤係長、教育委員会、信州大学水谷先生		意見交換、ダイアログ企画
11	愛知	8/30	中部 ESD 拠点協議会	中部大学国際 ESD・SDGs センター		サステナ政策塾第 3 回参加
12	中部	10/3	中部地方環境事務所	環境対策課		第 17 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
13	長野	11/16	飯田市	市長、総合政策部企画課	11/16 開催 ESD ダイアログ登壇者	意見交換、情報交換
14	長野	11/29	根羽村森林組合	総務課		地域 ESD 拠点登録に関する情報提供
15	中部	1/9	中部地方環境事務所	環境対策課		第 18 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
16	中部	3/12	中部地方環境事務所	環境対策課		第 19 回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加

※16：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

■　SDGs チェックリストを活用したワークショップの実施

第 1 回検証 WS	5 月 28 日	日進市役所職員向け ESD 基礎研修にて実施 （10:00～12:00 日進市役所第 5 会議室）
番外	6 月 15 日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施 （12:45～15:45JR 岐阜駅ハートフルスクエア G 中研修室）
第 2 回検証 WS	8 月 29 日	名古屋青年会議所 SDGs 実践委員、山本屋と連携して実施（大久手山本屋 15:00～16:30　90 分） （対象はうどん店の店主、業界関係者、一般市民）
番外	8 月 31 日	日本体験学習研究所(JIEL)★　講演に合わせて実施 （名古屋市内 13:15～14:15　60 分）
番外	11 月 4 日	ESD ネットワーク地域フォーラム …後半グループワーキングでワーキング用シートを活用
番外	11 月 25 日	日進市役所職員向け ESD 基礎研修にて実施 （日進市役所第 5 会議室 10:00～12:00　120 分） （第 1 回とは別メンバー）
第 3 回検証 WS	12 月 14 日	西濃環境 NPO ネットワーク★ （大垣市内 16:00～18:00　120 分）

■　ケーススタディ以外で作成した「活動見える化プログラム」チャート

【ケーススタディ２の同時解決事業・前年度取組のチャート（今年度と比較のため作成）】

活動の経緯チャート　　里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティーネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中への体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやま里の家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			

鍵となった出来事：[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした。

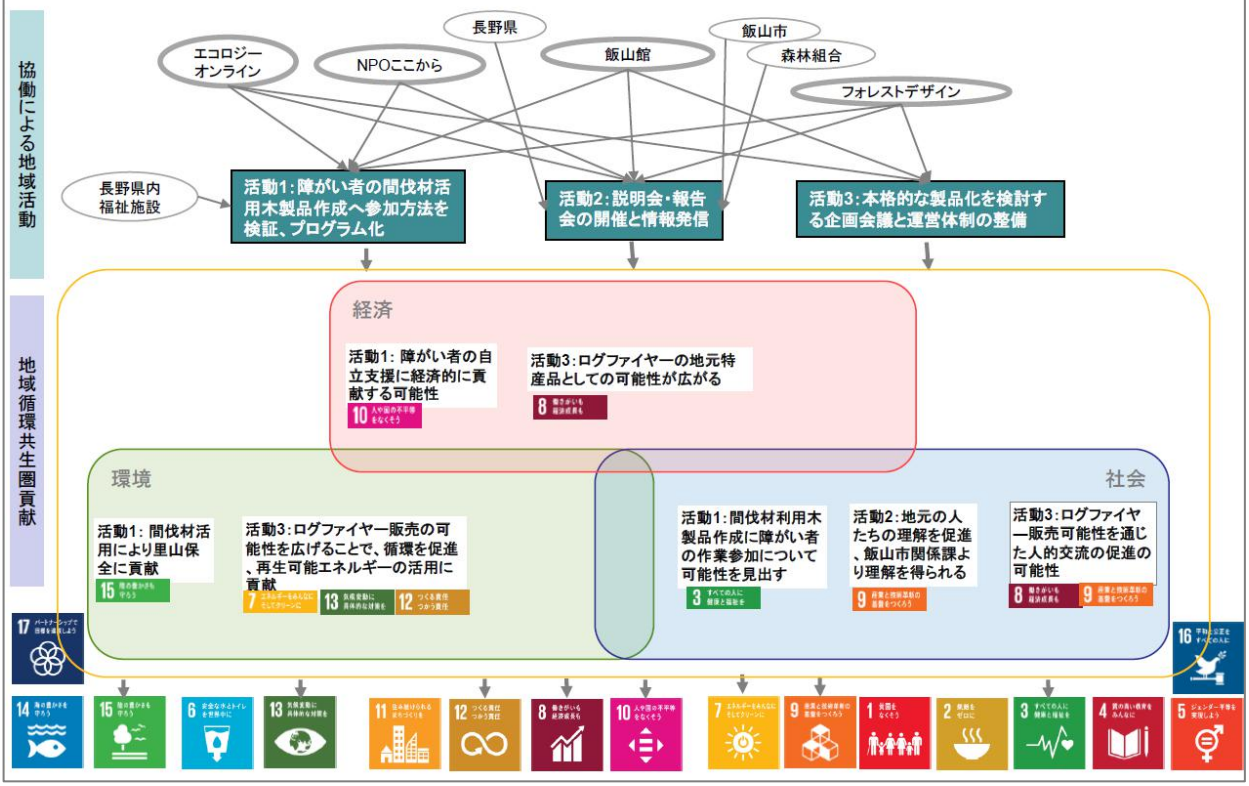
2018年4月～2019年3月　　里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3
名称	事例調査と実証事業の実施（プログラム開発）	説明会・報告会の開催と情報発信	本格的な製品化を検討する企画会議と運営体制の整備
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法を検証、プログラム化	地域活動としての理解協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイヤー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業によるついて障がい者の作業プログラム立案、実証	・市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催 ・専門家によるセミナー開催 ・本事業内容やプログラムをとりまとめて公表	・ログファイヤーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討 ・教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を実施
活動成果	事例調査（ヒヤリング）を実施、障がい者参加による実証作業を実施し作業可能性を検証	地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知	ログファイヤー説明コンテンツ案を作成
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館
評価と課題	障がい者参加の検証が十分ではない。プログラムとして確立させる作業を深化させる必要がある。	情報発信が十分とは言えない。関係者の理解協力が十分とは言えない	自立した経済活動としては未だ不十分。運営組織体制も未整備。

活動の意義（評価）分析チャート　　里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業　　2018年4月～2019年3月

里山ウェルネス

[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした。



【ケーススタディ３の南砺市からの依頼で今後の展開をチャート化】

活動の経緯チャート「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

（～2019）

南砺市　エコビレッジ構想・エコビレッジ推進事業

活動№	活動①	活動②	活動③	活動④	活動⑤
名称	森林利活用による再生可能エネルギー利用推進	「発酵バイオマス農業」の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト	エコビレッジ部活動	エコビレッジ住宅ゾーン
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出量削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成	次世代の人材育成	新しい暮らし方の提案
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働（桜ヶ池クアガーデン等）による資源循環枠組みの構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期の暖房を行い一年を通した温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成	市内高校生・中学生の活動への支援：循環農業、共学農園、世代交流、地域文化	南砺産材による自然共生住宅と南砺の風土にあった住宅ゾーン・新らしい暮らし方の提案
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を実証。発酵ガスのCO2ににより作物が活性化され、腐りにくく、食味の良い作物を収穫。	ゲストハウスの運営、囲炉裏体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営、城端絹福光麻布、福野縞、養蚕などの資料展示・情報発信、「かず良塾」発酵食や報恩講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリバースビレッジなどライフスタイル提案		
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ケ丘クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リバースプロジェクト、伝統産業再生事業協議会	市内高校生	
経緯	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン（構想）を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要と考え、その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源（人・自然・経済・情報）の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。				

2019年「SDGs未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。
南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指し、「心豊かな「結」と「土徳」のまち創造／多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造／南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造／文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造」のビジョン実現を加速する取組みを推進する。
そのためこれまでのSDGs貢献事業を継続拡大し深化、加速する「環境・社会・経済」の3側面を統合する3つの基盤となる取組みを実施

（2019～）

南砺市エコビレッジ推進課：SDGs三側面（経済、社会、環境）の取組

活動№	活動1	活動2	活動3
名称	土徳文化により目指す一流の田舎	新たな住民自治・小規模多機能自治	コミュニティファンド・南砺幸せ未来基金
対象課題	次世代につなぐ地域の誇りの不足	急激な人口減少や高齢化、および依存型住民自治による機能の低下	地域の課題解決と魅力の向上のための資金支援の不足
活動内容	「もったいない」、「おかげさま」から一流の田舎、地域の誇り・本物の「土徳文化」を醸成するため非認知スキルを高める教育を推進する。 【活動】 ・次世代育成プログラム ・SDGsワークショップ	全ての住民参加による真の住民自治を再構築する。なんと未来支援センターが行政とともに地域づくり協議会の運営を支援する。 【活動】 ・住民自治のための人材育成 ・各地区の取組発表会	地域課題や魅力向上のための資金の支援 企業や市民の寄付金・遺贈金、クラウドファンディング、休眠預金等を活用して資金を調達をする。 【活動】 ・地域課題解決などの事業支援 ・資金の調達
活動成果	SDGs、エコビレッジの更なる深化、次世代に伝承、交流人口の増加や土徳文化の発信など	住民自治組織の自立向上、地域一体化による縦割り組織の解消、地域課題の解決、地域住民の意識改革など	住みよい地域の実現、まちづくり人材の育成、定住促進など
連携先	小中学校、高等学校、大学、PTA	なんと未来支援センター、地域づくり協議会	なんと未来支援センター、南砺幸せ未来基金、企業
評価と課題	家庭教育の不足	従来の住民自治の概念の克服	自立的資金概念理解の促進

EPO中部：原（2019）

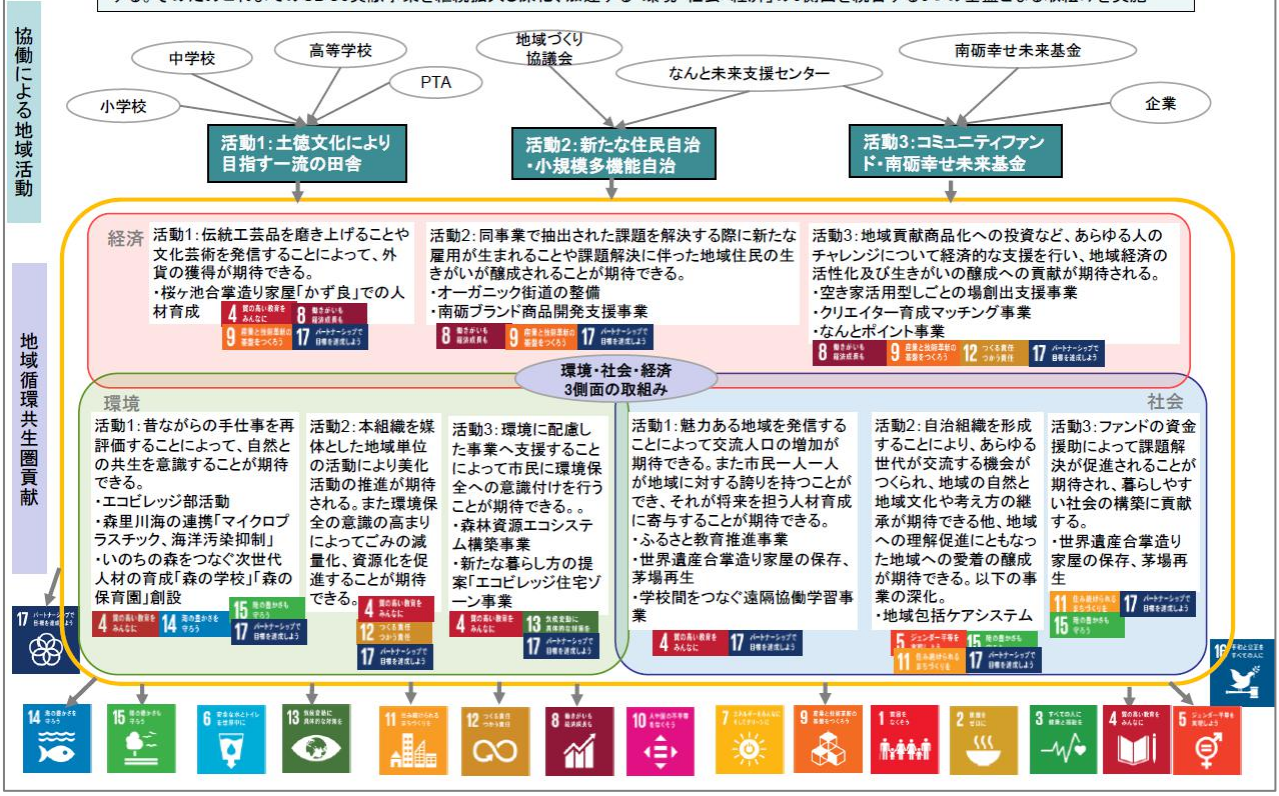
活動の意義
分析チャート（2019～）

「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

EPO中部：原（2019）

南砺市SDGs未来都市の取組み

2019年「SDGs未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に下記内容で採択される。南砺市エコビレッジ構想をベースとし、2030年にありたい姿となる世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現を目指し、「心豊かな「結」と「土徳」のまち創造／多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造／南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造／文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造」のビジョン実現を加速する取組みを推進する。そのためこれまでのSDGs貢献事業を継続拡大し深化、加速する「環境・社会・経済」の3側面を統合する3つの基盤となる取組みを実施



【「8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の連携取組をチャート化】

活動の経緯チャート

地域内エコシステム@宇奈月

一般社団法人でんき宇奈月

以前の活動	活動①	活動②	活動③	活動④
名称	秘湯に行くにも電気自動車で：電気自動車レンタル	温泉街での低速電気バスの運行	小水力発電の導入	温泉街パークアンドライド
対象課題	秘湯を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	温泉を観光資源とした地域活性化／CO2排出の抑制	CO2排出の抑制	道路の混雑の緩和／CO2排出の抑制
背景				
活動内容	電気自動車のレンタル事業	温泉街における低速電気バスの導入・運行事業	らせん水車による小水力発電の導入	
活動成果		観光シーズンに電気バスを運行し、温泉街の目玉の一つとなっている		
連携先				
経緯	一般社団法人でんき宇奈月は地域にあるエネルギー資源を活用して地域を元気にしようとている団体として宇奈月温泉を拠点に活動中。			

鍵となった出来事：
宇奈月で過去に様々なエネルギー自給、地域活性化、低炭素化、福祉活動、環境教育活動等の個別的な取組みがあり、富山県立大学地域協働コーディネーターを中心とする「でんき宇奈月」のメンバーがこれらの統合を発案し、小規模バイオマス熱利用による森林資源を持続的に循環する仕組みを構築し、山村地域等の活性化を目指すこととした。

一般社団法人でんき宇奈月

現在の活動	活動1	活動2
名称	地域内エコシステムの構築（間伐材利用薪ボイラーの活用）	薪製作を通じた障がい者の自立支援
対象課題	・間伐材、林地間伐材が活用されない ・地域の木質バイオマスの活用がされない	・障がい者の自立支援としての外部での作業する機会が少ない
活動内容	地域の方々と協力して、木材を薪に地域の暖房・給湯に活用する仕組みを作り、地域経済を回す取組みを構築し実験的に実施した。具体的には、朝日町の林の間伐材 ・林地残間伐材を森林組案の協力を得て運搬し、障がい者の協力を得た作業により玉切り薪割りを行い、乾燥、運搬し、「立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオ」に設置した薪ボイラーの燃料とする実験を行った。	間伐材を薪に加工する作業に取組むとともに、その薪をボイラーにくべる作業を行うことにより自らの作業の社会への貢献を体感した。
活動成果	間伐材の運び出し、薪への加工に障がい者が協力いただく作業、牧ボイラーの燃焼は順調であり、地域協働事業として運用できることが実証された。	力の必要な作業や細かい作業などの特性に応じてそれぞれ分担ができた。他の人との接触や作業を通じてモチベーション向上が見られた。
連携先	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、森のエネルギー研究所、黒部市社会福祉協議会、黒部市農林整備課、新川森林振興センター、立山黒部ジオパーク	新川森林組合 、大高建設、富山県立大学、宇奈月自立塾、日本森林技術協会、黒部市社会福祉協議会
評価と課題	小規模バイオマス循環の仕組みは実証された。今後薪ボイラーの導入や間伐材運び出し量など、バイオマスエネルギー量の拡大が課題。	継続して作業が実施できるか、阻害要因がないかを検証することが課題。

EPO中部：原（2019）

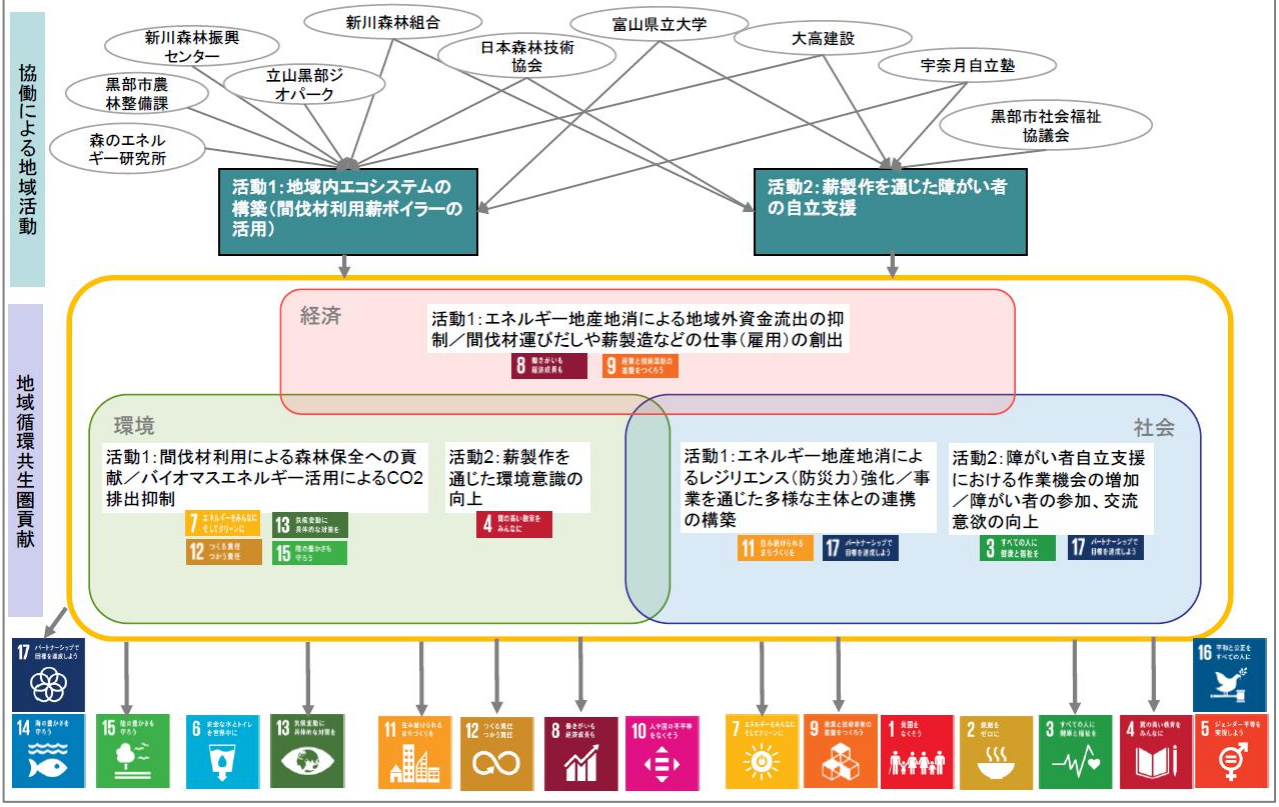
活動の意義（評価）
プレゼンチャート（曼荼羅）

地域内エコシステム@宇奈月

EPO中部：
原（2019）

一般社団法人でんき宇奈月

宇奈月で過去に様々なエネルギー自給、地域活性化、低炭素化、福祉活動、環境教育活動等の個別的な取組みがあり、富山県立大学地域協働コーディネーターを中心とする「でんき宇奈月」のメンバーがこれらの統合を発案し、小規模バイオマス熱利用による森林資源を持続的に循環する仕組みを構築し、山村地域等の活性化を目指すこととした。



平成 31（2019）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書
（2020 年 3 月）

発行：　環境省中部地方環境事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：http://chubu.env.go.jp

作成：　中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）
〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4F
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：http://www.epo-chubu.jp

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料［Aランク］のみを用いて作製しています。